

# 官報

号 外  
国会会議録

令和七年五月二十三日

## ○第二百十七回 参議院会議録第二十一号

令和七年五月二十三日(金曜日)

午前十時一分開議

○議事日程 第二十二号

令和七年五月二十三日

午前十時開議

第一 海洋法に関する国際連合条約に基づき  
ずれの国の管轄にも属さない区域における海  
洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用  
に関する協定の締結について承認を求めるの  
件(衆議院送付)

第二 職業上の安全及び健康並びに作業環境に  
関する条約(第百五十五号)の締結について承  
認を求めるの件(衆議院送付)

第三 千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格  
証明並びに当直の基準に関する国際条約の締  
結について承認を求めるの件(衆議院送付)

第四 森林経営管理法及び森林法の一部を改正  
する法律案(内閣提出、衆議院送付)

第五 民事裁判情報の活用に関する法律  
案(内閣提出、衆議院送付)

第六 老朽化マンション等の管理及び再生の円  
滑化等を図るための建物の区分所有等に関す  
る法律等の一部を改正する法律案(内閣提  
出、衆議院送付)

○本日の会議に付した案件

議事日程のとおり

○議長(関口昌一君) これより会議を開きます。

日程第一 海洋法に関する国際連合条約に基づ  
きずれの国の管轄にも属さない区域における海  
洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に  
関する協定の締結について承認を求めるの件

日程第二 職業上の安全及び健康並びに作業環  
境に関する条約(第百五十五号)の締結について承  
認を求めるの件

日程第三 千九百九十五年の漁船員の訓練及び  
資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締  
結について承認を求めるの件  
(いずれも衆議院送付)

以上三件を一括して議題といたします。

まず、委員長の報告を求めます。 外交防衛委員  
長滝沢求君。

〔審査報告書及び議案は本号末尾に掲載〕

〔滝沢求君登壇、拍手〕

○滝沢求君 ただいま議題となりました条約三件  
につきまして、外交防衛委員会における審査の経  
過と結果を御報告申し上げます。

まず、国連公海等生物多様性協定、BBNJ協

定は、公海及び深海底における海洋遺伝資源の利  
用等について定めるものであります。

次に、職業安全衛生条約は、作業に関連した事  
故及び健康に対する危害の防止を目的とする措置  
について定めるものであります。

最後に、漁船員に関する条約、いわゆるF条約  
は、漁船員の訓練及び資格証明並びに当直に関  
する国際的な基準について定めるものであります。

委員会におきましては、三件を一括して議題と  
し、BBNJ協定の運用における我が国の方針、  
職業安全衛生条約の国会提出に至った経緯、F条  
約附属書改正の背景等について質疑が行われまし  
たが、詳細は会議録によつて御承知願います。

質疑を終局し、順次採決の結果、三件はいずれ  
も全会一致をもつて承認すべきものと決定いたし  
ました。

以上、御報告申し上げます。(拍手)

○議長(関口昌一君) これより三件を一括して採  
決いたします。

三件の賛否について、投票ボタンをお押し願ひ  
ます。

〔投票開始〕

○議長(関口昌一君) 間もなく投票を終了いたし  
ます。——これにて投票を終了いたします。

〔投票終了〕

○議長(関口昌一君) 投票の結果を報告いたしま  
す。

投票総数

賛成

反対

二百三十四

二百三十四

よつて、三件は全会一致をもつて承認すること  
に決しました。(拍手)

〔投票者氏名は本号末尾に掲載〕

○議長(関口昌一君) 日程第四 森林経営管理法  
及び森林法の一部を改正する法律案(内閣提出、  
衆議院送付)を議題といたします。

まず、委員長の報告を求めます。 農林水産委員  
長舞立昇治君。

〔審査報告書及び議案は本号末尾に掲載〕

〔舞立昇治君登壇、拍手〕

○舞立昇治君 ただいま議題となりました法律案  
につきまして、農林水産委員会における審査の経  
過と結果を御報告申し上げます。

本法律案は、林業経営体への森林の集積・集約  
化を迅速に進める新たな仕組みを創設するととも  
に、市町村の負担軽減を図るための措置を講じよ  
うとするものであります。

委員会におきましては、森林経営管理制度の成  
果と本改正の意義、市町村の事務負担軽減策、林  
業人材確保の取組等について質疑が行われまし  
た。

質疑を終局し、討論に入りましたところ、日本  
共産党を代表して紙委員より反対する旨の意見が  
述べられました。

採決の結果、本法律案は多数をもつて原案どお  
り可決すべきものと決定いたしました。  
なお、附帯決議が付されております。  
以上、御報告申し上げます。(拍手)

○議長(関口昌一君) これより採決をいたしま  
す。

本案の賛否について、投票ボタンをお押し願ひ  
ます。

〔投票開始〕

○議長(関口昌一君) 間もなく投票を終了いたし  
ます。——これにて投票を終了いたします。

〔投票終了〕

令和七年五月二十三日 参議院会議録第二十一号

海洋法に関する国際連合条約に基づきずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する協定の締結について承認を求めるの件外二件 森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律案

○議長(関口昌一君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数 二百三十七  
賛成 二百二十  
反対 十七  
よつて、本案は可決されました。(拍手)

〔投票者氏名は本号末尾に掲載〕

○議長(関口昌一君) 日程第五 民事裁判情報の活用促進に関する法律案(内閣提出、衆議院送付)を議題といたします。

まず、委員長の報告を求めます。法務委員長若松謙維君。

〔審査報告書及び議案は本号末尾に掲載〕

〔若松謙維君登壇、拍手〕

○若松謙維君 ただいま議題となりました法律案につきまして、法務委員会における審査の経過と結果を御報告申し上げます。

本法律案は、民事裁判情報の適正かつ効果的な活用の促進を図るため、国の責務及び法務大臣による基本方針の策定について定めるとともに、民事裁判情報を加工して第三者に提供する業務等を行う法人の指定に関する制度を創設する等の措置を講じようとするものであります。

委員会におきましては、データベース化される裁判情報の対象範囲、民事裁判情報における個人情報保護の必要性、指定法人や業務の委託先等に対する監督の在り方等について質疑が行われましたが、その詳細は会議録によって御承知願います。

質疑を終局し、採決の結果、本法律案は全会一致をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、本法律案に対し附帯決議が付されております。

以上、御報告申し上げます。(拍手)

○議長(関口昌一君) これより採決をいたします。

本案の賛否について、投票ボタンをお押し願います。

〔投票開始〕

○議長(関口昌一君) 間もなく投票を終了いたします。——これにて投票を終了いたします。

〔投票終了〕

○議長(関口昌一君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数 二百三十七  
賛成 二百三十六  
反対 一  
よつて、本案は可決されました。(拍手)

〔投票者氏名は本号末尾に掲載〕

○議長(関口昌一君) 日程第六 老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案(内閣提出、衆議院送付)を議題といたします。

まず、委員長の報告を求めます。国土交通委員長小西洋之君。

〔審査報告書及び議案は本号末尾に掲載〕

〔小西洋之君登壇、拍手〕

○小西洋之君 ただいま議題となりました法律案につきまして、国土交通委員会における審査の経過と結果を御報告申し上げます。

本法律案は、マンションその他の区分所有建物

の管理及び再生の円滑化等を図るため、区分所有建物の再生等の実施の円滑化、集会の決議要件の合理化、共用部分に係る損害賠償請求権等の行使の円滑化、所有者不明専有部分管理命令の制度の創設、敷地共有者等集会制度の対象範囲の拡大、マンション管理適正化支援法人の登録制度の創設等の措置を講じようとするものであります。

なお、衆議院において、共用部分の補修等に係る管理者による請求権の行使についての検討事項を追加する修正が行われております。

委員会におきましては、共用部分の瑕疵に対する損害賠償請求の在り方、マンション建て替え等により転出する区分所有者等の居住の安定確保に関する取組、法改正に伴い業務増加が見込まれる地方公共団体への支援強化の必要性等について質疑が行われましたが、その詳細は会議録によって御承知願います。

質疑を終局し、討論に入りましたところ、日本共産党を代表して大門実紀史委員より本法律案に反対する旨の意見が述べられました。

次いで、採決の結果、本法律案は多数をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

なお、本法律案に対し附帯決議が付されております。

以上、御報告申し上げます。(拍手)

○議長(関口昌一君) これより採決をいたします。

本案の賛否について、投票ボタンをお押し願います。

〔投票開始〕

○議長(関口昌一君) 間もなく投票を終了いたします。——これにて投票を終了いたします。

〔投票終了〕

○議長(関口昌一君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数 二百三十七

賛成 二百十九  
反対 十八  
よつて、本案は可決されました。(拍手)

〔投票者氏名は本号末尾に掲載〕

○議長(関口昌一君) 本日はこれにて散会いたします。

午前十時十三分散会

出席者は左のとおり。

議長 関口昌一君  
副議長 長浜博行君

|        |         |
|--------|---------|
| 伊藤 岳君  | 吉良よし子君  |
| 仁比 聡平君 | 青島 健太君  |
| 大門実紀史君 | 柳ヶ瀬裕文君  |
| 岩渕 友君  | 山添 拓君   |
| 串田 誠一君 | 紙 智子君   |
| 井上 哲士君 | 倉林 明子君  |
| 高木かおり君 | 山下 芳生君  |
| 小池 晃君  | 猪瀬 直樹君  |
| 山口 和之君 | 石井 苗子君  |
| 柴田 巧君  | 金子 道仁君  |
| 竹内 真二君 | 松野 明美君  |
| 高橋 次郎君 | 窪田 哲也君  |
| 中条きよし君 | 安江 伸夫君  |
| 高橋 光男君 | 嘉田由紀子君  |
| 下野 六太君 | 塩田 博昭君  |
| 藤巻 健史君 | 三浦 信祐君  |
| 宮崎 勝君  | 佐々木さやか君 |
| 片山 大介君 | 河野 義博君  |
| 杉 久武君  | 矢倉 克夫君  |
| 石井 章君  | 平木 大作君  |
| 新妻 秀規君 | 豊田 俊郎君  |
| 浅田 均君  | 上田 勇君   |

|        |         |
|--------|---------|
| 若松 謙維君 | 横山 信一君  |
| 松沢 成文君 | 山本 博司君  |
| 里見 隆治君 | 伊藤 孝江君  |
| 秋野 公造君 | 滝波 宏文君  |
| 竹谷とし子君 | 石川 博崇君  |
| 谷合 正明君 | 西田 実仁君  |
| 山口那津男君 | 青木 一彦君  |
| 山本佐知子君 | 吉井 章君   |
| 友納 理緒君 | 長谷川英晴君  |
| 寺田 静君  | 生稲 晃子君  |
| 加藤 明良君 | 小林 一大君  |
| 今井絵理子君 | 赤松 健君   |
| 白坂 亜紀君 | 小川 克巳君  |
| 三浦 靖君  | 岩本 剛人君  |
| 加田 裕之君 | 船橋 利実君  |
| 比嘉奈津美君 | 山田 太郎君  |
| 松川 るい君 | 長峯 誠君   |
| 羽生田 俊君 | 堀井 巖君   |
| 舞立 昇治君 | 堂故 茂君   |
| 柘植 芳文君 | 滝沢 求君   |
| 酒井 庸行君 | 阿達 雅志君  |
| 松下 新平君 | 野村 哲郎君  |
| 猪口 邦子君 | 佐藤 信秋君  |
| 長谷川 岳君 | 高橋 克法君  |
| 古賀友一郎君 | 中田 宏君   |
| 山谷えり子君 | 野上浩太郎君  |
| 尾辻 秀久君 | 三原じゅん子君 |
| 浅尾慶一郎君 | 神谷 宗幣君  |
| 大島九州男君 | 梅村みづほ君  |
| 宮口 治子君 | 山本 太郎君  |
| 鈴木 宗男君 | 大野 泰正君  |
| ながえ孝子君 | 田中 昌史君  |
| 若林 洋平君 | 山本 啓介君  |
| 清水 真人君 | 高橋はるみ君  |
| 本田 顕子君 | 宮崎 雅夫君  |
| 藤木 眞也君 | 星 北斗君   |
| 進藤金日子君 | 自見はなこ君  |

|        |        |
|--------|--------|
| 三宅 伸吾君 | こやり隆史君 |
| 宮本 周司君 | 森屋 宏君  |
| 上月 良祐君 | 馬場 成志君 |
| 北村 経夫君 | 大家 敏志君 |
| 佐藤 正久君 | 牧野たかお君 |
| 石井 準一君 | 磯崎 仁彦君 |
| 藤川 政人君 | 古川 俊治君 |
| 岡田 直樹君 | 松山 政司君 |
| 武見 敬三君 | 山本 順三君 |
| 末松 信介君 | 高良 鉄美君 |
| 齊藤健一郎君 | 伊波 洋一君 |
| 浜田 聡君  | 平山佐知子君 |
| 藤井 一博君 | 永井 学君  |
| 古庄 玄知君 | 白井 正一君 |
| 越智 俊之君 | 梶原 大介君 |
| 神谷 政幸君 | 佐藤 啓君  |
| 小野田紀美君 | 朝日健太郎君 |
| 青山 繁晴君 | 山下 雄平君 |
| 吉川ゆうみ君 | 山田 宏君  |
| 和田 政宗君 | 石田 昌宏君 |
| 石井 正弘君 | 赤池 誠章君 |
| 江島 潔君  | 片山さつき君 |
| 西田 昌司君 | 森 まさこ君 |
| 山田 俊男君 | 石井 浩郎君 |
| 上野 通子君 | 松村 祥史君 |
| 宮沢 洋一君 | 有村 治子君 |
| 櫻井 充君  | 鶴保 庸介君 |
| 衛藤 晟一君 | 山崎 正昭君 |
| 中曽根弘文君 | 山東 昭子君 |
| 奥村 政佳君 | 大椿ゆうこ君 |
| 村田 享子君 | 三上 えり君 |
| 水野 素子君 | 高木 真理君 |
| 古賀 千景君 | 柴 愼一君  |
| 横沢 高德君 | 塩村あやか君 |
| 羽田 次郎君 | 田島麻衣子君 |
| 岸 真紀子君 | 石垣のりこ君 |
| 石川 大我君 | 井上 義行君 |

|        |        |
|--------|--------|
| 小沢 雅仁君 | 勝部 賢志君 |
| 木戸口英司君 | 小西 洋之君 |
| 杉尾 秀哉君 | 熊谷 裕人君 |
| 徳永 エリ君 | 渡辺 猛之君 |
| 吉川 沙織君 | 斎藤 嘉隆君 |
| 石橋 通宏君 | 中西 祐介君 |
| 川田 龍平君 | 牧山ひろえ君 |
| 田名部匡代君 | 水岡 俊一君 |
| 木村 英子君 | 橋本 聖子君 |
| 青木 愛君  | 辻元 清美君 |
| 福山 哲郎君 | 福島みずほ君 |
| 堂込麻紀子君 | 竹詰 仁君  |
| 鬼木 誠君  | 田村 まみ君 |
| 芳賀 道也君 | 小沼 巧君  |
| 磯崎 哲史君 | 浜口 誠君  |
| 打越さく良君 | 森屋 隆君  |
| 浜野 喜史君 | 上田 清司君 |
| 古賀 之士君 | 森本 真治君 |
| 川合 孝典君 | 伊藤 孝恵君 |
| 野田 国義君 | 広田 一君  |
| 榛葉賀津也君 | 舟山 康江君 |
| 天畠 大輔君 | 船後 靖彦君 |

|          |        |
|----------|--------|
| 総務委員     | 森 まさこ君 |
| 法務委員     | 斎藤 嘉隆君 |
| 外交防衛委員   | 藤井 一博君 |
| 財政金融委員   | 伊藤 孝江君 |
| 文教科科学委員  | 倉林 明子君 |
| 厚生労働委員   | 古賀 千景君 |
| 農林水産委員   | 倉林 明子君 |
| 環境委員     | 河野 義博君 |
| 国家基本政策委員 | 山口那津男君 |
| 総務委員     | 補欠     |
| 法務委員     | 補欠     |
| 外交防衛委員   | 補欠     |
| 財政金融委員   | 補欠     |
| 文教科科学委員  | 補欠     |
| 厚生労働委員   | 補欠     |
| 農林水産委員   | 補欠     |
| 環境委員     | 補欠     |
| 国家基本政策委員 | 補欠     |

同日議長において、次のとおり憲法審査会委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。

辞任 補欠

太田 房江君 衛藤 晟一君  
高橋はるみ君 赤池 誠章君  
青島 健太君 柴田 巧君

同日委員会において選任した理事は次のとおりである。

議院運営委員会

理事 浜野 喜史君 (浜野喜史君の補欠)

同日議長は、次の議員提出案を厚生労働委員会に付託した。

労働安全衛生法及び特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律の一部を改正する法律案(石橋通宏君外二名発議)(参第七号)

同日議長は、衆議院送付の次の内閣提出案を委員会に付託した。

公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律案(閣法第九号) 文教科科学委員会に付託

労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律等の一部を改正する法律案(閣法第五〇号) 厚生労働委員会に付託

同日本院は、衆議院送付の次の内閣提出案を可決した旨衆議院に通知した。

電気通信事業法及び日本電信電話株式会社等に関する法律の一部を改正する法律案

防衛省設置法等の一部を改正する法律案

同日政治資金規正法の一部を改正する法律案(衆第四号)は、「小泉進次郎君外五名提出」が「大野敬太郎君外四名提出」に訂正された。

同日政治資金規正法の一部を改正する法律案(衆第五号)は、「小泉進次郎君外五名提出」が「大野敬太郎君外四名提出」に訂正された。

同日議員から次の質問主意書が提出された。  
大阪・関西万博の海外パビリオン建設費の未払に関する質問主意書(石垣のりこ君提出)(第一二五号)

同日次の質問主意書を内閣に転送した。  
元中国大使が中国の法律事務所の特別顧問である可能性に関する質問主意書(浜田聡君提出)(第一一九号)

伊豆・小笠原諸島の医療・介護や物価高騰対策に関する質問主意書(吉良よし子君提出)(第一二〇号)

同日本院は、人事官に川本裕子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、原子力委員会委員に吉橋幸子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、個人情報保護委員会委員長に手塚悟君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、公認会計士・監査審査会委員に宮本佐知子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、預金保険機構理事に田口紀子君及び島村英君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、公害等調整委員会委員に中村也寸志君及び大瀧敦子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、日本放送協会経営委員会委員に榊原一夫君、大草透君、岡田美弥子君、藤本雅彦君及び田淵正朗君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、日本銀行政策委員会審議委員に増一行君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、労働保険審査会委員に菅野淑子君及び齋藤育子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、中央社会保険医療協議会公益委員に飯塚敏晃君及び本田文子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、社会保険審査会委員に浦野真美子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日本院は、原子力規制委員会委員に杉山智之君及び神田玲子君を任命することに同意した旨内閣に通知した。

同日次の法律の公布を奏上し、その旨衆議院に通知した。

電気通信事業法及び日本電信電話株式会社等に関する法律の一部を改正する法律

防衛省設置法等の一部を改正する法律

昨二十二日議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。

内閣委員

辞任 補欠  
三上 えり君 奥村 政佳君  
窪田 哲也君 河野 義博君

総務委員  
辞任 補欠  
森 まさこ君 衛藤 晟一君  
斎藤 嘉隆君 古賀 千景君

法務委員  
辞任 補欠  
福岡 資麿君 梶原 大介君  
藤井 一博君 森 まさこ君  
嘉田由紀子君 青島 健太君

外交防衛委員  
辞任 補欠  
堀井 巖君 進藤金日子君  
伊藤 孝江君 山口那津男君

文教科科学委員  
辞任 補欠  
赤池 誠章君 藤木 眞也君  
古賀 千景君 斎藤 嘉隆君  
金子 道仁君 松野 明美君

厚生労働委員  
辞任 補欠  
衛藤 晟一君 藤井 一博君  
山口 和之君 串田 誠一君

農林水産委員  
辞任 補欠  
進藤金日子君 堀井 巖君  
藤木 眞也君 赤池 誠章君  
河野 義博君 窪田 哲也君  
松野 明美君 金子 道仁君

国土交通委員  
辞任 補欠  
佐々木さやか君 高橋 次郎君  
青島 健太君 嘉田由紀子君

環境委員  
辞任 補欠  
梶原 大介君 福岡 資麿君  
奥村 政佳君 三上 えり君  
高橋 次郎君 佐々木さやか君  
山口那津男君 伊藤 孝江君  
串田 誠一君 山口 和之君

国家基本政策委員  
辞任 補欠  
天畠 大輔君 木村 英子君

同日議長において、次のとおり特別委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。

災害対策特別委員  
辞任 補欠  
古庄 玄知君 吉井 章君

政府開発援助等及び沖縄・北方問題に関する特別委員  
辞任 補欠  
松山 政司君 猪口 邦子君  
三宅 伸吾君 小林 一大君  
森屋 宏君 永井 学君  
勝部 賢志君 三上 えり君  
福山 哲郎君 石垣のりこ君

水野 素子君 石橋 通宏君  
河野 義博君 伊藤 孝江君  
猪瀬 直樹君 中条きよし君

政治改革に関する特別委員

補欠

石橋 通宏君 水野 素子君  
矢倉 克夫君 宮崎 勝君

消費者問題に関する特別委員

補欠

比嘉奈津美君 山本佐知子君  
宮本 周司君 友納 理緒君  
佐々木さやか君 若松 謙維君

同日衆議院から次の内閣提出案を受領した。

譲渡担保契約及び所有権留保契約に関する法律  
案(閣法第四三三号)

譲渡担保契約及び所有権留保契約に関する法律  
の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律案  
(閣法第四四号)

同日衆議院から予備審査のため次の議案が送付さ  
れた。

自動車盗難対策等の推進に関する法律案(田中  
健君外一名提出)(衆第三二一号)

組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関  
する法律及び刑事訴訟法の一部を改正する法律  
案(田より子君提出)(衆第三二二号)

同日委員長から次の報告書が提出された。

民事裁判情報活用の促進に関する法律案(閣  
法第四二二号) 審査報告書

海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれの  
国の管轄にも属さない区域における海洋の生物  
の多様性の保全及び持続可能な利用に関する協  
定の締結について承認を求めるの件(閣条第一  
一号) 審査報告書

令和七年五月二十三日 参議院会議録第二十一号

職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する  
条約(第百五十五号)の締結について承認を求め  
るの件(閣条第二二二号) 審査報告書

千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並  
びに当直の基準に関する国際条約の締結につい  
て承認を求めるの件(閣条第一三三三号) 審査報告書  
老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等  
を図るための建物の区分所有等に関する法律等  
の一部を改正する法律案(閣法第三四四号) 審査報  
告書

同日議長は、内閣総理大臣から申出のあつた次の  
者を、第二百十七回国会政府特別補佐人として承  
認した。

公正取引委員会委員長 茶谷 栄治君

#### 審査報告書

海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれの  
国の管轄にも属さない区域における海洋の  
生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関  
する協定の締結について承認を求めるの件  
右は全会一致をもって承認すべきものと議決し  
た。よつて要領書を添えて報告する。

令和七年五月二十二日

参議院議長 関口 昌一殿 滝沢 求

#### 要領書

一、委員会の決定の理由

この協定は、公海及び深海底における海洋遺  
伝資源の利用及びその利益配分、区域に基づく  
管理手段の設定、環境影響評価の実施、能力の  
開発及び海洋技術の移転等について定めるもの  
である。我が国がこの協定を締結することは、  
公海及び深海底において、海洋の生物の多様性  
を保全し、及び持続可能な利用を確保する見地  
から有意義であると考えられるので、適切な措  
置と認める。

一、費用  
この協定の締結により、分担金及び年次拠出  
金を支払う義務を負う。

海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれ  
の国の管轄にも属さない区域における海洋の  
生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関  
する協定の締結について承認を求めるの件  
右は本院において承認することを議決した。  
よつて国会法第八十三条により送付する。

令和七年四月二十四日

衆議院議長 額賀福志郎  
参議院議長 関口 昌一殿

海洋法に関する国際連合条約に基づくいづ  
れの国の管轄にも属さない区域における海  
洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利  
用に関する協定の締結について承認を求め  
るの件

海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれの  
国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の  
多様性の保全及び持続可能な利用に関する協定の  
締結について、日本国憲法第七十三条第三号た  
し書の規定に基づき、国会の承認を求める。

海洋法に関する国際連合条約に基づくいづ  
れの国の管轄にも属さない区域における海  
洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利  
用に関する協定

#### 前文

この協定の締結国は、  
千九百八十二年十二月十日の海洋法に関する国  
際連合条約の関連規定(海洋環境を保護し、及び  
保全する義務を含む。)を想起し、  
条約に定める権利、義務及び利益の均衡を尊重  
する必要性を強調し、

特に、海洋生態系に及ぼす気候変動の影響(例  
えば、温暖化及び海洋の溶存酸素量の減少)、海  
洋の酸性化、プラスチックによる汚染を含む汚染  
及び持続可能な利用に起因する海洋の生物の  
多様性の喪失及び生態系の劣化に一貫した、か  
つ、協力的な方法で対処する必要性を認識し、  
いづれの国の管轄にも属さない区域における海  
洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に一  
層取り組むための条約に基づく包括的かつ世界的  
な制度の必要性を意識し、  
人類全体の利益及びニーズ、特に開発途上国  
(沿岸国であるか内陸国であるかを問わない)の  
特別の利益及びニーズを考慮した公正かつ衡平な  
国際経済秩序の実現に貢献することの重要性を認  
識し、

また、能力の開発並びに海洋技術の発展及び移  
転を通じた開発途上国である締結国に対する支援  
が、いづれの国の管轄にも属さない区域における  
海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用と  
いう目的を達成するための不可欠の要素であるこ  
とを認識し、  
先住民族の権利に関する国際連合宣言を想起  
し、

この協定のいかなる規定も、先住民の既存の権  
利(先住民族の権利に関する国際連合宣言に掲げ  
る権利を含む。)又は適当な場合には地域社会の既  
存の権利を減じ、又は消滅させるものと解しては  
ならないことを確認し、  
いづれの国も、自国の管轄又は管理の下にある  
活動が実質的な海洋環境の汚染又は海洋環境に対  
する重大かつ有害な変化をもたらすおそれがある  
と信ずるに足りる合理的な理由がある場合には、  
当該活動が海洋環境に及ぼす潜在的な影響を実行  
可能な限り評価するという条約に定める義務を認  
識し、

事件又は活動から生ずる汚染が条約に従つて主  
権的権利が行使される区域を越えて拡大しないこ  
とを認識し、

とを確保するために全ての必要な措置をとるとい  
う条約に定める義務に留意し、

海洋環境を保護し、海洋環境に配慮し、及び海  
洋環境の責任ある利用を確保し、海洋生態系を本  
来のままの状態において維持し、並びにいづれの  
国の管轄にも属さない区域における生物の多様性  
の固有の価値を保全することにより、現在及び将  
来の世代のためにいづれの国の管轄にも属さない  
区域における海洋を管理する者として行動するこ  
とを希望し、

いづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝  
資源に係るデジタル配列情報の生成、取得の機会  
及び利用が、当該デジタル配列情報の利用から生  
ずる利益の公正かつ衡平な配分とあいまって、研  
究及びイノベーション並びにこの協定の一般的な  
目的に貢献することを認め、

全ての国の主権、領土保全及び政治的独立を尊  
重し、

条約又は他の関連する国際約束の非締約国の法  
的地位が条約法の規則により規律されることを想  
起し、

また、条約に規定するように、いづれの国も、  
海洋環境の保護及び保全に関する自国の国際的義  
務を履行する責任を有し、並びに国際法に基づい  
て責任を負うことがあることを想起し、

持続可能な開発を達成することを約束し、  
普遍的な参加を確保することを希求して、  
次のとおり協定した。

第一部 一般規定

第一条 用語

この協定の適用上、  
1 「区域に基づく管理手段」とは、この協定に基  
づく保全及び持続可能な利用に係る特定の目的  
を達成するため、地理的に特定された区域にお  
いて一又は二以上の分野又は活動を管理する手  
段（海洋保護区を含む。）をいう。

2 「いづれの国の管轄にも属さない区域」とは、  
公海及び深海底をいう。

3 「バイオテクノロジー」とは、物又は方法を特  
定の用途のために作り出し、又は改変するた  
め、生物システム、生物又はその派生物を利用  
する応用技術をいう。

4 海洋遺伝資源に関して「生息域内での採取と  
は、いづれの国の管轄にも属さない区域におけ  
る海洋遺伝資源の採取又は標本抽出をいう。

5 「条約」とは、千九百八十二年十二月十日の海  
洋法に関する国際連合条約をいう。

6 「累積的な影響」とは、様々な活動（知られて  
いる過去及び現在の活動並びに合理的に予見可  
能な活動を含む。）又は長期的に繰り返される類  
似の活動から生ずる複合的かつ漸増的な影響並  
びに気候変動、海洋の酸性化及び関連する影響  
の結果をいう。

7 「環境影響評価」とは、意思決定の根拠を提供  
するために活動の潜在的な影響を特定し、及び  
評価する過程をいう。

8 「海洋遺伝資源」とは、遺伝の機能的な単位を  
有する海洋の植物、動物、微生物その他に由来  
する素材であって、現実の又は潜在的な価値を  
有するものをいう。

9 「海洋保護区」とは、生物の多様性の長期的な  
保全に係る特定の目的を達成するために指定さ  
れ、及び管理される地理的に特定された海域で  
あつて、適当な場合には、保全に係る目的に適  
合する限りにおいて、持続可能な利用を認める  
ことができるものをいう。

10 「海洋技術」には、特に次のものを含む。  
海洋科学並びに関連する海洋に係る活動及  
び役務に関する情報及びデータであつて、利  
用しやすい様式で提供されるもの  
手引、指針、基準、規格及び参考資料  
標本抽出の方法及び設備  
生息域内及び実験室における観測、分析及

び実験のための観測施設及び設備

コンピュータ及びコンピュータ・ソフト  
ウェア（モデル及びモデル化技術を含む。）  
関連するバイオテクノロジー

海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な  
利用に関する専門知識、知見、技能並びに技  
術的、科学的及び法律的なノウハウ及び分析  
方法

11 「締約国」とは、この協定に拘束されることに  
同意し、かつ、自己についてこの協定の効力が  
生じている国又は地域的な経済統合のための機  
関をいう。

12 「地域的な経済統合のための機関」とは、特定  
の地域の主権国家によつて構成される機関で  
あつて、その構成国からこの協定が規律する事  
項に関し権限の委譲を受け、かつ、その内部手  
続に従ひこの協定の署名、批准、承認若しくは  
受諾又はこの協定への加入について正当な委任  
を受けたものをいう。

13 「持続可能な利用」とは、生物の多様性の長期  
的な減少をもたらさない方法及び速度で生物の  
多様性の構成要素を利用し、もつて、現在及び  
将来の世代のニーズ及び願望を満たすように生  
物の多様性の可能性を維持することをいう。

14 「海洋遺伝資源の利用」とは、海洋遺伝資源の  
遺伝的又は生化学的な構成に関する研究及び開  
発（3に定義するバイオテクノロジーを用いる  
ものを含む。）を行うことをいう。

第二条 一般的な目的

この協定は、条約の関連規定の効果的な実施並  
びに一層の国際的な協力及び協調を通じて、いづ  
れの国の管轄にも属さない区域における海洋の生  
物の多様性の保全及び持続可能な利用を現在にお  
いて及び長期的に確保することを目的とする。

第三条 適用範囲

この協定は、いづれの国の管轄にも属さない区  
域について適用する。

第四条 除外

この協定は、軍艦、軍用航空機又は軍の支援船  
については、適用しない。第二部の規定を除くほ  
か、この協定は、締約国が所有し、又は運航する  
他の船舶又は航空機で政府の非商業的役務にのみ  
使用しているものについては、適用しない。た  
だし、いづれの締約国も、自国が所有し、又は運航  
するこれらの船舶又は航空機の運航又は運航能力  
を阻害しないような適当な措置をとることに  
よる、これらの船舶又は航空機が合理的かつ実行可  
能である限りこの協定に即して行動することを確  
保する。

第五条 この協定と条約、関連する法的

文書及び法的枠組み並びに関連  
する世界的な、地域的な、小地  
域的な及び分野別の機関との間  
の関係

1 この協定については、条約の範囲内で、か  
つ、条約に適合するように解釈し、及び適用す  
る。この協定のいかなる規定も、条約に基づく  
各国の権利、管轄権及び義務（排他的経済水域  
及び大陸棚（二百海里の内外を問わない。）に関  
するものを含む。）に影響を及ぼすものではない。

2 この協定については、関連する法的文書及び  
法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的  
な、小地域的な及び分野別の機関の権限を損な  
うことなく、また、当該法的文書、当該法的枠  
組み及び当該機関との整合性及び協調を促進す  
る態様で解釈し、及び適用する。

3 条約又は他の関連する国際約束の非締約国の  
法的地位は、これらの文書との関係において  
は、この協定によつて影響を受けない。

第六条 主権、主権的権利又は管轄権への影響

この協定（締約国会議又はその補助機関の決定  
又は勧告及びそれらに基づいて実施される行為、

措置又は活動を含む。は、主権、主権的権利又は管轄権（これらに関連する紛争に関するものを含む。）に影響を及ぼすものではなく、及びこれらに対する主張を行い、又は否定するための根拠としてはならない。

第七条 一般的な原則及び取組方法

締約国は、この協定の目的を達成するため、次の原則及び取組方法を指針とする。

- (a) 汚染者負担の原則
- (b) 条約に規定する人類の共同の財産の原則
- (c) 海洋の科学的調査の自由その他の公海の自由
- (d) 衡平の原則及び利益の公正かつ衡平な配分
- (e) 適当な場合には、予防の原則又は予防的な取組方法
- (f) 生態系を重視する取組方法
- (g) 海洋の管理のための総合的な取組方法
- (h) 生態系の強靱性（気候変動の悪影響及び海洋の酸性化に対するものを含む。）を構築し、並びに生態系を本来のままの状態（気候に関する海洋の役割を支える炭素循環機能を含む。）において維持し、及びそのような状態に回復する取組方法
- (i) 入手可能な最良の科学及び科学的な情報の利用
- (j) 可能な場合には、先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識の利用
- (k) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に取り組むための行動をとるに当たり、該当する場合には、先住民の権利又は適当なときは地域社会の権利に関するそれぞれの義務を尊重し、促進し、及び考慮すること。

(1) 海洋環境の汚染を防止し、軽減し、又は規制するための措置をとるに当たり、損害又は危険を一の区域から他の区域へ直接又は間接に移転させないこと及び一の類型の汚染を他の類型の汚染に変えないこと。

(m) 開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を十分に認識すること。

(n) 内陸国である開発途上国の特別の利益及び二一ズを認識すること。

第八条 国際協力

1 締約国は、この協定の目的を達成するに当たり、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関との協力を強化し、及び向上させ、並びにそれらの間の協力を促進することを通じて行うことを含め、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用のため、この協定に基づいて協力する。

2 締約国は、他の関連する法的文書若しくは法的枠組み又は世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関における意思決定に参加する場合において、適当なときは、この協定の目的の普及を促進するよう努める。

3 締約国は、この協定の目的の達成を支えるため、条約に適合する海洋の科学的調査並びに海洋技術の発展及び移転における国際協力を促進する。

第二部 海洋遺伝資源（利益の公正かつ衡平な配分を含む。）

第九条 目的

この部の規定は、次の事項を目的とする。

(a) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用のため、いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること。

(b) 締約国、特に開発途上国である締約国ととりわけ、後発開発途上国、内陸国である開発途上国、地理的不利国、開発途上にある島嶼

国、沿岸国であるアフリカ諸国、群島国及び開発途上にある中所得国がいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動を行うための能力の開発及び向上

(c) この協定の実施への基本的な貢献としての知見、科学的な知識及び技術革新の創造（海洋の科学的調査の発展及び実施を通じて行われるものを含む。）

(d) この協定に基づく海洋技術の発展及び移転

第十条 適用

1 この協定の規定は、それぞれの締約国についてこの協定が効力を生じた後に採取され、及び生成されたいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動について適用する。この協定の規定は、締約国がこの協定の署名、批准、承認若しくは受諾又はこの協定への加入の際に第七十条の規定に従って書面により除外を設ける場合を除くほか、この協定が効力を生ずる前に採取され、又は生成されたいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源の利用及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用についても適用する。

2 この部の規定は、次のものについては、適用しない。

(a) 関連する国際法に基づいて規制される漁獲及び漁獲関連活動

(b) 漁獲及び漁獲関連活動においていずれの国の管轄にも属さない区域から採捕されたことが知られている魚類その他の海洋生物資源（当該魚類その他の海洋生物資源がこの部の規定に基づく利用であるとして規制される場合を除く。）

3 この部に定める義務は、締約国の軍事的活動（非商業的役務に従事する政府の船舶及び航空機による軍事的活動を含む。）については、適用しない。いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源の利用及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用に関するこの部に定める義務は、締約国の非軍事的活動について適用する。

第十一条

いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源に関する活動

1 全ての締約国（地理的位置のいかんを問わない。）並びに締約国の管轄の下にある自然人及び法人は、いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動を行うことができる。当該活動は、この協定に従って行う。

2 締約国は、いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する全ての活動について協力を促進する。

3 いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋遺伝資源の生息域内での採取は、条約に従い、沿岸国の管轄の下にある区域における当該沿岸国の権利及び正当な利益に妥当な考慮を払い、並びにいずれの国の管轄にも属さない区域における他の国の利益に妥当な考慮を払って行う。このため、締約国は、この協定を実施するため、適当な場合には、第五十一条の規定に従って決定される情報交換の仕組みの具体的な運用方法を通じて行うことを含め、協力するよう努める。

4 いずれの国も、いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源について主権又は主権的権利を主張し、又は行使してはならない。このような主権又は主権的権利の主張又は行使は、認められない。

5 いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋遺伝資源の生息域内での採取は、海洋環境又はその資源のいずれの部分に対するいかなる

権利の主張の法的根拠も構成するものではない。

6 いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動は、全ての国の利益であり、かつ、全人類の利益のためのもの、特に、開発途上国の利益及び二一三に特別の考慮を払って、人類の科学的な知見を進展させ、並びに海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用を促進するためのものである。

7 いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動は、専ら平和的目的のために行う。

#### 第十二条

いづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動についての通報

1 締約国は、情報がこの部の規定に従い情報交換の仕組みに通報されることを確保するため、必要な立法上、行政上又は政策上の措置をとる。

2 次の情報については、いづれの国の管轄にも属さない区域における海洋遺伝資源の生息域内での採取の六箇月前に、又は当該生息域内での採取の前に可能な限り速やかに、情報交換の仕組みに通報する。

(a) 採取の性質及び目的(適当な場合には、当該採取が含まれている計画を含む。)

(b) 研究の対象となる事項又は判明している場合には、対象とし、若しくは採取する海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源を採取する目的

(c) 採取を行う地理的区域

(d) 採取のために使用する方法及び手段の概要(船舶の名称、トン数、種類及び船級、科学的機材又は用いられる調査方法を含む。)

(e) 提案された主要な計画へのその他の貢献に関する情報

(f) 調査船の最初の到着予定日及び最終的な出発予定日又は適当な場合には、機材の設置及び撤去の予定日

(g) 責任を有する機関の名称及び事業の担当者の氏名

(h) 全ての国の科学者(特に開発途上国からの科学者)が事業に関与し、又はそれと連携するための機会

(i) 技術支援を必要とし、及び要請することのある国(特に開発途上国)が事業に参加し、又は代表を派遣することができると考えられる程度

(j) 現行の国際慣行を考慮した上で、開かれた及び責任あるデータ・ガバナンスに従って作成されたデータ管理計画

3 情報交換の仕組みは、2に規定する通報があった場合には、B B N J 標準バッチ識別記号を自動的に生成するものとする。

4 情報交換の仕組みに提供された情報が、予定された採取を行う前に実質的に変更された場合において、実行可能なときは、更新された情報、合理的な期間内に、かつ、生息域内での採取の開始までに、情報交換の仕組みに通報される。

5 締約国は、次の情報が、B B N J 標準バッチ識別記号とともに、入手したときに直ちに、遅くともいづれの国の管轄にも属さない区域における海洋遺伝資源の生息域内での採取から一年以内に、情報交換の仕組みに通報されることを確保する。

(a) 海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報を保管し、又は保管することとなる保管場所又はデータベース

(b) 生息域内で採取された全ての海洋遺伝資源を保管し、若しくは保持し、又は保管するこ

ととなり、若しくは保持することとなる場所

(c) 海洋遺伝資源を採取した地理的区域(採取の緯度、経度及び深度に関する情報を含む。)

及び入手可能な範囲内で、行われた活動から得られた所見を詳述する報告

(d) 2 (j) の規定に従って提供されるデータ管理計画の必要な更新

6 締約国は、自国の管轄の下にある保管場所又はデータベースに保管されたいづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源の標本及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報が、現行の国際慣行に従い、かつ、実行可能な範囲において、いづれの国の管轄にも属さない区域に起源を有するものとして特定できることを確保する。

7 締約国は、自国の管轄の下にあるデータベース及び実行可能な範囲において保管場所について、B B N J 標準バッチ識別記号と結び付いた海洋遺伝資源及びデジタル配列情報の取得の機会についてまとめた報告書を二年ごとに作成すること並びに第十五条の規定に基づいて設置される取得の機会・利益配分委員会に対して当該報告書を利用可能なものとすることを確保する。

8 締約国は、いづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び実行可能なときは当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報が自国の管轄の下にある自然人又は法人による利用(商業化を含む)の対象となる場合において、可能なときは、次の情報(B B N J 標準バッチ識別記号を含む)を入手したときに直ちに、これが情報交換の仕組みに通報されることを確保する。

(a) 利用の成果(出版物、与えられた特許(可能な場合かつ可能な範囲に限る。)、開発された製品等)を見つけることができる場所

(b) 可能な場合には、利用の対象となった海洋遺伝資源に関する情報交換の仕組みへの採取

後の通報の詳細

(c) 利用の対象となる標本の原本が保管されている場所

(d) 利用される海洋遺伝資源及び海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の取得の機会について定める方法並びに当該取得の機会に関するデータ管理計画

(e) 製品が販売された場合において、入手可能なときは、関連する製品の販売及び更なる開発についての情報

#### 第十三条

いづれの国の管轄にも属さない区域における海洋遺伝資源に関する先住民及び地域社会の伝統的な知識

締約国は、関連し、かつ、適当な場合には、いづれの国の管轄にも属さない区域における海洋遺伝資源に関連する伝統的な知識であって先住民及び地域社会が有するものが当該先住民及び地域社会の自由意思による情報に基づく事前の同意又は当該先住民及び地域社会の承認及び関与を得た上でのみ取得されることを確保するため、立法上、行政上又は政策上の措置をとる。情報交換の仕組みは、当該伝統的な知識の取得の機会を促進することができる。当該伝統的な知識の取得の機会及び利用は、相互に合意する条件で与えられる。

#### 第十四条

利益の公正かつ衡平な配分

1 いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動から生ずる利益は、この部の規定に従って公正かつ衡平に配分し、並びにいづれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に貢献するものとする。

2 非金銭的な利益は、この協定に従って、特に次の形式で配分する。

(a) 現行の国際慣行に基づく標本及び標本集の取得の機会

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(b) 現行の国際慣行に基づくデジタル配列情報の取得の機会</p> <p>(c) 見つけることができ、アクセスすることができ、相互に運用することができ、及び再利用することができる(FAIR)科学的データの開かれた取得の機会であって、現行の国際慣行並びに開かれた及び責任あるデータ・ガバナンスに基づくもの</p> <p>(d) BBNJ標準バッチ識別記号とともに、第十二条の規定に従って提供される通報に含まれる情報であって、公に検索可能及び利用可能な形式によるもの</p> <p>(e) 第五部の規定に従って提供される関連する方法に沿った海洋技術の移転</p> <p>(f) 開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮した、能力の開発(研究計画への資金供与によるものを含む)、研究事業における科学者及び研究者のための連携の機会(特に、直接関連する及び実質的な機会)並びに専用の取組(特に開発途上国のために行うもの)</p> <p>(g) 強化された技術的及び科学的な協力(特に、開発途上国からの科学者及び開発途上国の科学研究機関と行うもの)</p> <p>(h) 次条の規定に基づいて設置される取得の機会・利益配分委員会の勧告を考慮して締約国会議が決定するその他の利益の形式</p> <p>3 締約国は、現行の国際慣行を考慮して、自国の管轄の下にある自然人又は法人による利用の対象となるいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報が、BBNJ標準バッチ識別記号とともに、当該利用の開始から三年以内に、又は利用可能となったときは速やかに、国内で又は国際的に維持される公に利用可能な保管場所及びデータベースに保管されることを確保するため、必要な立法上、行政上又は政策上の措置をとる。</p> | <p>4 締約国の管轄の下にある保管場所及びデータベースに保管されたいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の取得の機会については、次の合理的な条件を課することができるものとし、また、公正かつ最も有利な条件(緩和された、かつ、特恵的な条件を含む)で開発途上国からの研究者及び研究機関に提供することができる。</p> <p>(a) 海洋遺伝資源を物理的に本来のままの状態において保全する必要性</p> <p>(b) 標本、データ又は情報を保管している関連するジーンバンク、生物保管場所又はデータベースの維持に関連する合理的な費用</p> <p>(c) 海洋遺伝資源、データ又は情報の取得の機会の提供に関連する合理的な費用</p> <p>(d) この協定の目的に沿ったその他の合理的な条件</p> <p>5 いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源の利用(商業化を含む)及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用(商業化を含む)から生ずる金銭的な利益は、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用のため、第五十二条の規定に基づいて設置される資金供与の制度を通じて、公正かつ衡平に配分する。</p> <p>6 先進締約国は、この協定の効力発生の後、第五十二条に規定する特別基金に年次拠出金を支払う。締約国の拠出の額は、締約国会議が第四十七条6(e)の規定に従って採択する予算に対する当該締約国の分担金の五十パーセントの額とする。その支払は、7の規定に従って締約国会議が決定を行うまで継続する。</p> <p>7 締約国会議は、いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源の利用及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用から生ずる</p> | <p>金銭的な利益の配分の方法について、次条の規定に基づいて設置される取得の機会・利益配分委員会の勧告を考慮して、決定する。コンセンサスに達するためのあらゆる努力が払われた場合には、決定は、出席しかつ投票する締約国の四分の三以上の多数による議決で採択する。支払は、第五十二条の規定に基づいて設置される特別基金を通じて行う。当該方法には、次のものを含めることができる。</p> <p>(a) 段階ごとの支払</p> <p>(b) 製品の商業化に関する支払又は拠出(製品の販売からの収入の一定の割合を支払うことを含む)</p> <p>(c) 締約国による活動の合計量を測定する多様な一連の指標に基づいて定期的に支払われる階層化された料金</p> <p>(d) 締約国会議が取得の機会・利益配分委員会の勧告を考慮して決定するその他の形式</p> <p>8 締約国は、締約国会議が7に規定する方法を採択する時に、実施に必要な期間を与えるため、最長四年の期間、当該方法が当該締約国について効力を生じない旨の宣言を行うことができる。このような宣言を行う締約国は、新たな方法が効力を生ずるまで6に規定する支払を継続する。</p> <p>9 締約国会議は、7の規定に従っていずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用から生ずる金銭的な利益の配分の方法について決定するに当たり、当該方法が取得の機会及び利益の配分に関する他の枠組みと相互に補完的であり、かつ、当該他の枠組みに適合し得るべきであることを認識しつつ、取得の機会・利益配分委員会の勧告を考慮する。</p> <p>10 締約国会議は、いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源の利用及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用から生ずる</p> | <p>金銭的な利益について、次条の規定に基づいて設置される取得の機会・利益配分委員会の勧告を考慮して、二年ごとに検討し、及び評価する。一回目の検討は、この協定の効力発生の後五年以内に行う。検討には、6に規定する年次拠出金の検討を含める。</p> <p>11 締約国は、適当な場合には、自国の管轄の下にある自然人又は法人によるいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動から生ずる利益がこの協定に従って配分されることを確保するため、必要な立法上、行政上又は政策上の措置をとる。</p> <p>第十五条 取得の機会・利益配分委員会</p> <p>1 この協定により取得の機会・利益配分委員会を設置する。同委員会は、特に、前条の規定に従って利益の配分のための指針を作成し、透明性を与え、並びに金銭的な利益及び非金銭的な利益双方の公正かつ衡平な配分を確保するため媒体としての役割を果たす。</p> <p>2 取得の機会・利益配分委員会は、同委員会の任務の効率的な遂行を確保するため、関係分野の適当な資格を有する十五人の委員で構成される。委員は、ジェンダーの均衡及び衡平な地理的配分を考慮し、並びに同委員会において開発途上国(後発開発途上国、開発途上にある島嶼国及び内陸国である開発途上国を含む)からの委員が代表することについて定めた上で、締約国が指名し、締約国会議が選出する。締約国会議は、同委員会の運営のための付託事項及び方法を決定する。</p> <p>3 取得の機会・利益配分委員会は、この部の規定に関連する事項(次の事項を含む。)について、締約国会議に勧告を行うことができる。</p> <p>(a) この部の規定に従って行われるいずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動のための指針又は行動規範</p> <p>(b) この部の規定に従って行われる決定を実施するための措置</p> <p>(c) 前条の規定に基づく金銭的な利益の配分の割合又は仕組み</p> <p>(d) この部の規定に関連する事項であつて情報交換の仕組みに関するもの</p> <p>(e) この部の規定に関連する事項であつて第五十二条の規定に基づいて設置される資金供与の制度に関するもの</p> <p>(f) この部の規定に関連するその他の事項であつて、締約国会議が取得の機会・利益配分委員会に対処を要請するもの</p> <p>4 締約国は、情報交換の仕組みを通じて、この協定によって必要とされる情報を取得の機会・利益配分委員会に対して利用可能なものとする。当該情報には、次のものを含める。</p> <p>(a) 取得の機会及び利益の配分に関する立法上、行政上及び政策上の措置</p> <p>(b) 中央連絡先に関する連絡先の詳細その他関連する情報</p> <p>(c) 締約国会議による決定に基づいて必要とされるその他の情報</p> <p>5 取得の機会・利益配分委員会は、その権限に基づく活動(利益の配分、海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報の利用、最良の慣行、手段及び方法、データの管理並びに得られた教訓を含む。)について、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関との協議を行い、及び情報交換を促進することができる。</p> <p>6 取得の機会・利益配分委員会は、5の規定に基づいて得られた情報に関し、締約国会議に勧告を行うことができる。</p> <p>第十六条 監視及び透明性</p> <p>いづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺</p> | <p>伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動の監視及び透明性については、情報交換の仕組みへの通報及びこの部の規定に基づくBBNJ標準バッチ識別記号の利用を通じ、並びに取得の機会・利益配分委員会による勧告に基づき締約国会議が採択する手続に従つて、確保する。</p> <p>2 締約国は、この部の規定に従い、いづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動並びに当該活動から生ずる利益の配分に関する当該締約国によるこの部の規定の実施について、取得の機会・利益配分委員会に対し定期的に報告書を提出する。</p> <p>3 取得の機会・利益配分委員会は、情報交換の仕組みを通じて受領した情報に基づき報告書を作成し、及び締約国に対して当該報告書を利用可能なものとする。締約国は、当該報告書についての意見を提出することができる。同委員会は、当該報告書(受領した意見を含む。)を締約国会議の審議のために提出する。締約国会議は、同委員会の勧告を考慮して、この条の規定の実施のための適当な指針を決定することができる。この場合には、締約国の能力及び事情を考慮する。</p> <p>第三部 区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)等の措置</p> <p>第十七条 目的</p> <p>この部の規定は、次のことを目的とする。</p> <p>(a) 保護を必要とする区域を保全し、及び持続可能であるように利用すること(海洋保護区の中の生態学的に代表的であり、かつ、十分に連結した関係を伴う区域に基づく管理手段の包括的な体系を確立することを通じたものを含む。)</p> <p>(b) 国、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な</p> | <p>及び分野別の機関の間における区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)の利用についての協力及び協調を強化すること。</p> <p>(c) 生物の多様性及び生態系を保護し、保全し、回復させ、及び維持すること(それらの生産力及び健全性を向上させることを目的とするものを含む。)並びにストレスの要因(気候変動、海洋の酸性化及び海洋汚染に関連するものを含む。)に対する強韌性を強化すること。</p> <p>(d) 食料安全保障その他の社会経済的な目的(文化的価値の保護を含む。)を支援すること。</p> <p>(e) 区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)を策定し、実施し、監視し、管理し、及び執行するに当たり能力の開発並びに海洋技術の発展及び移転を行うことを通じ、開発途上にある島嶼国の特別の事情を考慮して、開発途上国である締約国(特に、後発開発途上国、内陸国である開発途上国、地理的不利国、開発途上にある島嶼国、沿岸国であるアフリカ諸国、群島国及び開発途上にある中所得国)を支援すること。</p> <p>第十八条 適用区域</p> <p>区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)の設定は、国の管轄の下にあるいかなる区域も含んではならず、及び主権、主権の権利又は管轄権に対する主張(これらに関連する紛争に関するものを含む。)を行い、又は否定するための根拠としてはならない。締約国会議は、そのような区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)の設定に関する提案を決定のために審議してはならず、及びいかなる場合にも、そのような提案を主権、主権の権利又は管轄権に対する主張を承認し、又は否認するものと解してはならない。</p> <p>第十九条 提案</p> <p>1 この部の規定に基づく区域に基づく管理手段</p> | <p>(海洋保護区を含む。)の設定に関する提案は、締約国が単独で又は共同して事務局に提出する。</p> <p>2 締約国は、この部の規定に従い、提案の策定のため、適当な場合には、関連する利害関係者(国、世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関、市民社会、科学界、民間部門、先住民並びに地域社会を含む。)と協力し、及び協議を行う。</p> <p>3 提案は、予防的な取組方法及び生態系を重視する取組方法を考慮して、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基づいて作成する。</p> <p>4 区域の特定に関する提案には、次の主要な要素を含める。</p> <p>(a) 提案の対象となる区域に関する地理的又は空間的な説明であつて、附属書Iに定める例示的な基準を用いたもの</p> <p>(b) 附属書Iに定めるいずれかの基準に関する情報並びに区域の特定に当たつて適用する基準であつて、5の規定に従つて追加的に作成され、及び修正され得るものに関する情報</p> <p>(c) 該当する場合には、その区域における人間活動(先住民及び地域社会による利用を含む。)及び当該人間活動が及ぼすおそれのある影響</p> <p>(d) 特定された区域における海洋環境及び生物の多様性の状態に関する説明</p> <p>(e) その区域に適用される保全及び適当な場合には持続可能な利用の目的に関する説明</p> <p>(f) 特定の目的を達成するための管理計画案であつて、提案する措置を網羅し、かつ、監視、調査及び検討に係る活動の概要を示すものの</p> <p>(g) 該当する場合には、提案する区域及び措置の期間</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(h) 該当する場合には、各国(隣接する沿岸国並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関を含む。)と行った協議に関する情報</p> <p>(i) 関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関の下で実施する区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)に関する情報</p> <p>(j) 関連する科学的な意見並びに可能な場合には、先住民及び地域社会の伝統的な知識</p> <p>5 区域の特定のための例示的な基準については、該当する場合には、附属書Iに定める例示的な基準を含めるものとし、締約国会議による審議及び採択のため、科学技術機関が必要に応じて追加的に作成し、及び修正することができ</p> <p>6 科学技術機関は、必要に応じ、締約国会議による審議及び採択のため、提案の内容に関する追加的な要件(5に規定する例示的な基準の適用の方法を含む。)及び4(b)に規定する提案に関する指針を定める。</p> <p>第二十条 提案の公表及び予備的な検討</p> <p>事務局は、書面による提案を受領した場合に、当該提案を公に利用可能なものとし、及び予備的な検討のため科学技術機関に送付する。当該予備的な検討は、前条の規定に基づいて必要とされる情報(この部及び附属書Iに定める例示的な基準を含む。)が当該提案に含まれていることを確認することを目的とする。事務局は、当該予備的な検討の結果を、公に利用可能なものとし、及び提案国に伝達する。提案国は、科学技術機関による当該予備的な検討を考慮した上で、当該提案を事務局に再送付する。事務局は、締約国に通報し、及び再送付された提案を公に利用可能なものとし、並びに次条の規定に従って協議を促進する。</p> | <p>第二十一条 提案に関する協議及び評価</p> <p>1 第十九条の規定に従って提出された提案に関する協議は、包括的で透明性のある、かつ、全ての関連する利害関係者(国、世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関、市民社会、科学界、先住民並びに地域社会を含む。)に開かれたものとする。</p> <p>2 事務局は、次のとおり協議を促進し、及び情報を収集する。</p> <p>(a) 各国(特に隣接する沿岸国)に対し、通報し、及び特に次の事項を提出するよう要請する。</p> <p>(i) 提案の利点及び地理的範囲に関する見解</p> <p>(ii) その他の関連する科学的な意見</p> <p>(iii) 国の管轄の下にある区域の内外にある隣接する区域又は関連する区域における既存の措置又は活動に関する情報</p> <p>(iv) 提案が国の管轄の下にある区域に及ぼす潜在的な影響に関する見解</p> <p>(v) その他の関連する情報</p> <p>(b) 関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関に対し、通報し、及び特に次の事項を提出するよう要請する。</p> <p>(i) 提案の利点に関する見解</p> <p>(ii) その他の関連する科学的な意見</p> <p>(iii) 関連する区域又は隣接する区域につき当該法的文書、当該法的枠組み又は当該機関が採択した既存の措置に関する情報</p> <p>(iv) 管理計画案のための措置その他要素であって、提案において特定され、当該法的文書、当該法的枠組み又は当該機関の権限の範囲内にあるものについてのあらゆる側面に関する見解</p> <p>(v) 関連する追加的な措置であって、当該法的文書、当該法的枠組み又は当該機関の権</p> | <p>限の範囲内にあるものに関する見解</p> <p>(vi) その他の関連する情報</p> <p>(c) 関連する伝統的な知識を有する先住民及び地域社会、科学界、市民社会その他の関連する利害関係者に対し、特に次の事項を提出するよう要請する。</p> <p>(i) 提案の利点に関する見解</p> <p>(ii) その他の関連する科学的な意見</p> <p>(iii) 先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識</p> <p>(iv) その他の関連する情報</p> <p>3 事務局は、2の規定に従って受領した提出物を公に利用可能なものとする。</p> <p>4 提案国は、提案する措置が国の排他的経済水域によって完全に囲まれた区域に影響を及ぼす場合には、次のことを行う。</p> <p>(a) 当該国と対象を特定した積極的な協議(事前通報を含む。)を行うこと。</p> <p>(b) 提案する措置に関する当該国の見解及び意見を検討し、当該見解及び意見に明示的に対処する書面による回答を行い、並びに適当な場合には、これに応じて当該措置を修正すること。</p> <p>5 提案国は、協議の期間中に受領した提出物並びに科学技術機関からの見解及び情報を検討し、並びに適当な場合には、これに応じて提案を修正し、又は提案に反映しなかった実体的な内容を含む提出物に対して回答する。</p> <p>6 協議は、定められた期限までに行う。</p> <p>7 修正された提案は、科学技術機関に提出するものとし、科学技術機関は、当該提案を評価し、及び締約国会議に勧告を行う。</p> <p>8 協議及び評価に係る手続の方法(期間を含む。)については、開発途上にある島嶼国の特別の事情を考慮して、締約国会議による審議及び採択のため、必要に応じ、科学技術機関がその第一回会合において追加的に定める。</p> | <p>第二十二条 区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)の設定</p> <p>1 締約国会議は、この部の規定に従って定める協議の手続の間に受領した提出物及び科学的な意見を考慮した最終的な提案及び管理計画案並びに科学技術機関の科学的な助言及び勧告に基づき、</p> <p>(a) 区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)の設定及び関連する措置について決定を行う。</p> <p>(b) 関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関との協力及び協調の上、当該法的文書、当該法的枠組み及び当該機関が採択した措置と両立する措置について決定を行うことができる。</p> <p>(c) 提案された措置が他の世界的な、地域的な、小地域のな又は分野別の機関の権限の範囲内のものである場合には、この協定の締約国並びに世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関に対し、それぞれの権限に従って、それらの法的文書、法的枠組み及び機関を通じて関連する措置の採択を促進するよう勧告を行うことができる。</p> <p>2 締約国会議は、この条の規定に従って決定を行うに当たり、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関の権限を尊重するものとし、また、当該法的文書、当該法的枠組み及び当該機関の権限を損なってはならない。</p> <p>3 締約国会議は、区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)について、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関との協力及び協調並びにそれらの間の協力及び協調を促進するため、並びに当該法的文書及び当該法的枠組みの下で、並びに当該機関によって採択された</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

関連する措置についての協調を促進するため、定期的な協議を準備する。

4 締約国会議は、この部の規定の目的の達成及び実施に必要な場合には、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用についての国際的な協力及び協調を促進するため、関連する法的文書及び法的枠組み又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関によって採択された既存の区域に基づく管理手段（海洋保護区を含む。）に係る仕組みを設けることについて、審議し、並びに1及び2の規定に従うことを条件として、適当なときは、決定することができる。

5 締約国会議がこの部の規定に従って採択する決定及び勧告は、国の管轄の下にある区域について採用する措置の実効性を損なってはならず、並びに条約に従い、全ての国の権利及び義務に妥当な考慮を払って行う。この部の規定に従って提案された措置が、条約に基づき沿岸国が主権的権利を行使する海面下の区域の海底及びその下に係る上部水域に影響を及ぼし、又は影響を及ぼすことが合理的に予測される場合には、当該措置は、当該沿岸国の主権的権利に妥当な考慮を払うものとする。この目的のための協議は、この部の規定に従って実施する。

6 この部の規定に従って設定された区域に基づく管理手段（海洋保護区を含む。）の全部又は一部がその後に沿岸国の管轄に含まれることとなった場合には、その沿岸国の管轄の下にある部分については、直ちに効力を失う。引き続きいずれの国の管轄にも属さない区域にある部分については、締約国会議がその次の会合において、必要に応じ、区域に基づく管理手段（海洋保護区を含む。）を変更するか否か又は廃止するか否かを検討し、かつ、決定するまでの間、引き続き効力を有する。

7 締約国会議がこの部の規定に従って採択した区域に基づく管理手段（海洋保護区を含む。）又は関連する措置であって、関連する法的文書若しくは法的枠組み若しくは関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関が定められ、若しくは設置され、又はこれらの権限について変更が行われたことにより、その全部又は一部がその後に当該法的文書、当該法的枠組み又は当該機関の権限の範囲に含まれることとなったものについては、締約国会議が、適当な場合には、当該法的文書、当該法的枠組み又は当該機関との緊密な協力及び協調を通じて、当該区域に基づく管理手段（海洋保護区を含む。）又は当該関連する措置を維持し、変更し、又は廃止することを検討し、かつ、決定するまでの間、引き続き効力を有する。

#### 第二十三条 意思決定

1 この部の規定に基づく決定及び勧告は、原則として、コンセンサス方式によって行う。

2 コンセンサスに達しない場合には、この部の規定に基づく決定及び勧告は、出席しかつ投票する締約国の三分の二以上の多数による議決でコンセンサスに達するためのあらゆる努力が払われたことを締約国会議が決定した後、出席しかつ投票する締約国の四分の三以上の多数による議決で行う。

3 この部の規定に従って行われた決定は、当該決定が行われた締約国会議の会合の後百二十日で効力を生じ、全ての締約国を拘束する。

4 いずれの締約国も、3に定める百二十日間の期間内に事務局への書面による通告を行うことにより、この部の規定に従って採択された決定について異議を申し立てることができる。異議を申し立てた締約国は、当該決定に拘束されない。決定に対する異議は、事務局に対して書面で通告することにより、いつでも撤回することができる。この場合において、当該決定は、当

該異議を撤回する旨の通告の日の後九十日で当該締約国を拘束する。

5 4の規定に従って異議を申し立てる締約国は、異議を申し立てる時に、次の一又は二以上の理由に基づく当該異議の理由についての説明を書面により事務局に提供する。

(a) 決定が、この協定に反し、又は当該異議を申し立てる締約国の条約に基づく権利及び義務に反するものであること。

(b) 決定が、当該異議を申し立てる締約国に対して法律上又は事実上不当に差別を行うものであること。

(c) 当該締約国が、決定を遵守するためのあらゆる合理的な努力を払った後において、当該異議を申し立てる時に、実行可能性の観点から当該決定を遵守することができないこと。

6 4の規定に従って異議を申し立てる締約国は、実行可能な範囲において、自己が異議を申し立てた決定と同等の効果を有する代替的な措置又は取組方法を採用するものとし、また、自己が異議を申し立てた決定の実効性を損なうような措置を採用してはならず、又はそのような行動をとってはならない。ただし、当該措置又は当該行動が、異議を申し立てた締約国が条約に基づく権利を行使し、及び義務を履行するために不可欠である場合は、この限りでない。

7 異議を申し立てた締約国は、第二十六条の規定に基づく監視及び検討の根拠を提供するため、4の規定に基づく通告の後に行われる締約国会議の次の通常会合に、及びその後は定期的に、6の規定の実施について報告する。

8 4の規定に従って申し立てた決定に対する異議については、異議を申し立てた締約国が引き続き必要であると認める場合に限り、事務局に対して書面による通告を行うことにより、当該決定の効力発生の後三年ごとに更新することができる。当該書面による通告には、最初の異議

の申立ての際に提供した理由についての説明を含める。

9 8の規定に基づく更新の通告が受領されない場合には、異議は、自動的に撤回されたものとし、この場合において、決定は、当該異議が自動的に撤回された後百二十日で異議を申し立てた締約国を拘束する。事務局は、当該異議が自動的に撤回される日の六十日前に当該異議を申し立てた締約国に通報する。

10 事務局は、この部の規定に従って採択された締約国会議の決定及び当該決定に対する異議を公に利用可能なものとし、並びに全ての国、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関に送付する。

#### 第二十四条 緊急措置

1 締約国会議は、自然現象又は人為的な災害がいずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性に深刻又は回復不可能な害をもたらし、又はもたらすおそれがある場合には、その害が増幅しないことを確保するため、必要となるときは、いずれの国の管轄にも属さない区域に緊急に適用される措置を採択するための決定を行う。

2 この条の規定に従って採択される措置は、関連する法的文書若しくは法的枠組み又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関との協議の後、この協定の他の条の規定の適用を通じて、又は関連する法的文書若しくは法的枠組み若しくは関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関によって、深刻又は回復不可能な害を適時に管理することができない場合にのみ、必要であると認められる。

3 緊急に採択される措置は、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基

づくものとし、並びに予防的な取組方法を考慮する。当該措置については、締約国が提案することができ、又は科学技術機関が勧告を行うことができ、及び締約国会議の会合と会合との間において採択することができる。当該措置は、暫定的なものとし、当該措置の採択の後、締約国会議の次回会合で決定について再検討しなければならない。

4 緊急に採択される措置は、その効力発生の後二年で終了する。ただし、この部の規定に従って設定する区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)及び関連する措置により、若しくは関連する法的文書若しくは法的枠組み若しくは関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関が採択した措置により代替される場合には締約国会議によって、又は当該緊急に採択される措置を必要としていた状況が存在しなくなった場合には締約国会議の決定によって、それ以前に終了する。

5 緊急措置を定めるための手続及び指針(協議手続を含む)は、必要に応じ、最も早い機会における締約国会議による審議及び採択のため、科学技術機関が作成する。当該手続は、包摂的で透明性のあるものとする。

第二十五条 実施

1 締約国は、いずれの国の管轄にも属さない区域で行われる自国の管轄又は管理の下にある活動が、この部の規定に従って採択された決定と整合的に行われることを確保する。

2 この協定のいかなる規定も、国際法に従い、この協定の目的の達成を支えるため、締約国が自国の国民及び船舶又は自国の管轄若しくは管理の下にある活動に関して、この部の規定に従って採択された措置に加えて、一層厳しい措置を採用することを妨げるものではない。

3 この部の規定に従って採択された措置の実施に当たっては、開発途上にある島嶼国又は後発

開発途上国である締約国に直接又は間接に不均衡な負担を課すべきでない。

4 締約国は、この部の規定に従って締約国会議が行う決定及び勧告の実施を支援するため、適当な場合には、自国が構成国となっている関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関における措置の採択を促進する。

5 締約国は、この協定の締約国となる資格を有する国、特に、設定された区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)の対象となる区域において活動を行い、又は自国の船舶若しくは国民が活動する国に対し、この部の規定に従って設定された区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)に関する措置を採用するよう奨励する。

6 関連する法的文書若しくは法的枠組みの非締約国若しくは非参加国又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の非構成国である締約国であって、当該法的文書及び当該法的枠組みの下で、並びに当該機関によって定められた措置を適用することに別段の合意をしないものは、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関し、条約及びこの協定に従って協力する義務を免除されない。

第二十六条 監視及び検討

1 締約国は、この部の規定に従って設定された区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)及び関連する措置の実施に関し、単独又は共同して締約国会議に報告する。事務局は、その報告並びに2及び3に規定する情報及び検討を公に利用可能なものとする。

2 関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関は、この部の規定に従って設定された区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)の

目的を達成するために自らが採択した措置の実施に関する情報を締約国会議に提供するように要請される。

3 科学技術機関は、1及び2に規定する報告及び情報を考慮して、この部の規定に従って設定された区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)及び関連する措置を監視し、及び定期的に検討する。

4 科学技術機関は、3に規定する検討において、この部の規定に従って設定された区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)及び関連する措置の実効性並びにそれらの目的の達成に向けた進捗状況について評価し、並びに締約国会議に助言及び勧告を与える。

5 締約国会議は、検討の後、予防的な取組方法及び生態系を重視する取組方法を考慮して、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基づき、締約国会議が採択した区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む)及び関連する措置の変更、延長又は廃止について、必要に応じ、決定又は勧告を行う。

第四部 環境影響評価

第二十七条 目的

この部の規定は、次のことを目的とする。

(a) 締約国が評価を実施し、及び報告するための手続、基準その他要件を定めることにより、いずれの国の管轄にも属さない区域について環境影響評価に関する条約の規定を運用すること。

(b) 海洋環境を保護し、及び保全するため、著しい悪影響を防止し、緩和し、及び管理するようこの部の規定の対象となる活動が評価され、及び実施されることを確保すること。

(c) 累積的な影響及び国の管轄の下にある区域における影響についての検討を支援すること。

(d) 戦略的環境評価を定めること。

(e) いずれの国の管轄にも属さない区域における活動について一貫した環境影響評価の枠組みを実現すること。

(f) この協定の目的の達成を支えるため、締約国、特に開発途上国である締約国(とりわけ、後発開発途上国、内陸国である開発途上国、地理的不利国、開発途上にある島嶼国、沿岸国であるアフリカ諸国、群島国及び開発途上にある中所得国)が環境影響評価及び戦略的環境評価を準備し、実施し、及び評価するための能力を構築し、及び強化すること。

第二十八条 環境影響評価を実施する義務

1 締約国は、いずれの国の管轄にも属さない区域で実施される自国の管轄又は管理の下にある計画された活動を許可する前に、当該活動が海洋環境に及ぼす潜在的な影響がこの部の規定に従って評価されることを確保する。

2 国の管轄の下にある海域で実施される計画された活動を管轄し、又は管理する締約国は、当該活動がいずれの国の管轄にも属さない区域において実質的な海洋環境の汚染又は海洋環境に対する重大かつ有害な変化をもたらすおそれがあると判断する場合には、当該活動の環境影響評価がこの部の規定に従って実施され、又は環境影響評価が自国の国内手続に従って実施されることを確保する。自国の国内手続に従って環境影響評価を実施する締約国は、次のことを行う。

(a) 国内手続の期間中、適時に情報交換の仕組みを通じて関連情報を利用可能なものとする。

(b) 自国の国内手続に定める要件に適合する方法で当該活動が監視されることを確保すること。

|                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(c) この協定に規定する情報交換の仕組みを通じて環境影響評価報告書及び関連する監視報告書を利用可能なものとすることを確保すること。</p> <p>3 科学技術機関は、2(a)に規定する情報を受領した場合には、計画された活動を管轄し、又は管理する締約国に対して意見を提出することができる。</p> <p>第二十九条 この協定と関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関の下で行われる環境影響評価の系統との関係</p> | <p>4 いずれの国の管轄にも属さない区域における計画された活動について、当該活動を管轄し、又は管理する締約国が次の要件を満たしているとは判断する場合には、選別又は環境影響評価を実施する必要はない。</p> <p>(a) 計画された活動又は活動の区分の潜在的な影響が、他の関連する法的文書若しくは法的枠組み又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の定める要件に従って評価されていること。</p> <p>(b)(i) 計画された活動に対して既に行われた評価がこの部の規定に基づいて要求される評価と同等のものであり、かつ、その評価の結果が考慮されているか、又は、</p> <p>(ii) 評価に基づいて作成された関連する法的文書若しくは法的枠組み又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の規制又は規格が、この部の規定に基づく環境影響評価のための基準を下回る形で潜在的な影響を防止し、緩和し、又は管理するために設計され、かつ、当該規制又は規格が遵守されていること。</p> | <p>1 締約国は、自国が構成国となっている関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関において、環境影響評価の利用並びに第三十八条の規定に従って作成される規格又は指針の採択及び実施を促進する。</p> <p>2 締約国会議は、科学技術機関が、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関であつていづれの国の管轄にも属さない区域における活動を規制し、又は海洋環境を保護するものと協力するための仕組みをこの部の規定の下で設ける。</p> <p>3 科学技術機関は、第三十八条の規定に従い、この協定の締約国がいづれの国の管轄にも属さない区域における活動について環境影響評価を実施するための規格又は指針を作成し、又は更新する場合において、適当なときは、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関と協力する。</p> | <p>5 いずれの国の管轄にも属さない区域における計画された活動の環境影響評価が関連する法的文書若しくは法的枠組み又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の下で実施された場合には、関係する締約国は、環境影響評価報告書が情報交換の仕組みを通じて公表されることを確保する。</p> <p>6 4(b)(i)に規定する基準を満たす計画された活動が、関連する法的文書若しくは法的枠組み又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の下で監視及び検討の対象となる場合を除くほか、締約国は、当該活動を監視し、及び検討し、並びにその監視及び検討に関する報告書が情報交換の仕組みを通じて公表されることを確保する。</p> | <p>30 環境影響評価を実施するための基準及び要素</p> <p>1 計画された活動の海洋環境に及ぼす影響が軽微若しくは一時的な影響を上回るおそれがある場合又は当該活動の影響が不明であるか若しくは十分に理解されていない場合には、当該活動を管轄し、又は管理する締約国は、当該活動に従って選別を実施するものとし、かつ、次の要件が満たされなければならない。</p> <p>(a) 当該選別は、当該活動が実質的な海洋環境の汚染又は海洋環境に対する重大かつ有害な変化をもたらすおそれがあると信ずるに足りる合理的な理由があるか否かを締約国が評価するために十分に詳細なものとし、次の事項を含める。</p> <p>(i) 当該活動についての説明(目的、場所、期間及び程度を含む)。</p> <p>(ii) 潜在的な影響に関する初期の分析、累積的な影響の検討及び適当な場合には当該活動の代替案についての検討を含む。</p> <p>(b) 当該選別に基つき、当該活動が実質的な海洋環境の汚染又は海洋環境に対する重大かつ有害な変化をもたらすおそれがあると信ずるに足りる合理的な理由が締約国にあると判断される場合には、この部の規定に従って環境影響評価を実施する。</p> <p>2 締約国は、自国の管轄又は管理の下にある計画された活動が1に規定する基準を満たすか否かを判断するに当たり、次の要素(全てを網羅したものではない。)を検討する。</p> <p>(a) 当該活動の種類、当該活動に使用する技術及び当該活動の実施方法</p> <p>(b) 当該活動の期間</p> <p>(c) 当該活動の場所</p> <p>(d) 1(c)に規定する場所(特に生態学的又は生物学的な重要性又は脆弱性を有する区域を含む)</p> | <p>31 環境影響評価の過程</p> <p>1 締約国は、この部の規定に基づく環境影響評価の実施の過程において、次の手順が含まれることを確保する。</p> <p>(a) 選別</p> <p>締約国は、前条の規定に従い、自国の管轄又は管理の下にある計画された活動について環境影響評価が必要としない旨を決定する場合には、関連する情報(前条1(a)に掲げるものを含む。)をこの協定に規定する情報交換の仕組みを通じて公に利用可能なものとする。</p> <p>(i) 締約国は、自国の管轄又は管理の下にある計画された活動について環境影響評価を必要としない旨を決定する場合には、関連する情報(前条1(a)に掲げるものを含む。)をこの協定に規定する情報交換の仕組みを通じて公に利用可能なものとする。</p> <p>(ii) 締約国は、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基づき、(i)の規定に従って行われた決定の公表から四十日以内に、当該決定を行った締約国及び科学技術機関に対し、当該決定に係る計画された活動の潜在的な影響に関する自国の見解を登録することができる。</p> <p>(iii) 自国の見解を登録した締約国が、決定が行われた計画された活動の潜在的な影響について懸念を表明した場合には、当該決定を行った締約国は、当該懸念を考慮するものとし、及び当該決定について再検討することができる。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(iv) 科学技術機関は、(ii)の規定に従って締約国が登録した懸念を考慮するに当たり、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基づき、計画された活動の潜在的な影響を検討するものとし、及び評価することができるとし、並びに適当な場合には、決定を行った締約国に対し登録された懸念について回答する機会を与え、及びその回答を考慮した後で、当該締約国に勧告を行うことができる。</p> <p>(v) (i)の規定に従って決定を行った締約国は、科学技術機関のいかなる勧告も考慮する。</p> <p>(vi) 登録された見解及び科学技術機関の勧告は、公に利用可能なものとする(情報交換の仕組みを通じて公に利用可能なものとする場合を含む)。</p> | <p>(d) 潜在的な悪影響の防止、緩和及び管理<br/>締約国は、次のことが行われることを確保する。</p> <p>(i) 著しい悪影響を回避するため、自国の管轄又は管理の下にある計画された活動の潜在的な悪影響を防止し、緩和し、及び管理するための措置を特定し、及び分析すること。当該措置には、自国の管轄又は管理の下にある計画された活動の代替案についての検討を含めることができる。</p> <p>(ii) 適当な場合には、(i)に規定する措置を環境管理計画に組み込むこと。</p> <p>(e) 締約国は、次条の規定に従って公の通報及び協議が行われることを確保する。</p> <p>(f) 締約国は、第三十三条の規定に従って環境影響評価報告書が作成され、及び公表されることを確保する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>ること及び事務局を通じて公表することを含む)、並びに実行可能な限り、期限を定めて計画的及び効果的な参加の機会を設けることを確保する。締約国は、当該活動を許可するか否かを決定する前に、環境影響評価の過程を通じて(適当な場合には、前条1(b)の規定に従い環境影響評価の範囲を選定するとき及び次条の規定に従い環境影響評価報告書の案が作成されたときを含む)、公の通報を行い、及び参加の機会(意見の提出を通じてのものを含む)を設ける。</p> <p>2 潜在的に最も影響を受ける可能性のある国については、計画された活動の性質及び当該活動が海洋環境に及ぼす潜在的な影響を考慮して決定されるものとし、次の国を含む。</p> <p>(a) 天然資源を探索し、開発し、保存し、又は管理するための自国の主権的権利の行使が当該活動によって影響を受けると合理的に信ずるに足りる沿岸国</p> <p>(b) 当該活動が行われる区域において、影響を受けること合理的に信ずるに足りる人間活動(経済活動を含む)を実施する国</p> <p>3 環境影響評価の過程における利害関係者には、関連する伝統的な知識を有する先住民及び地域社会、関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関、市民社会、科学界並びに公衆を含む。</p> <p>4 公の通報及び協議は、第四十八条3の規定に従い、包括的で透明性のある、かつ、適時に行われるものとし、及び開発途上にある島嶼国が関与する場合には、対象を特定した積極的なものとする。</p> <p>5 締約国は、協議の手続において受領した実質的な意見隣接する沿岸国その他計画された活動に隣接する国であって潜在的に最も影響を受ける可能性のあるものからの意見を含む。)について検討し、回答を行い、又は対処する。締約国は、国の管轄の下にある区域における潜在的な影響に関する意見を特に考慮し、及び適当な場合には、当該意見に明示的に対処する書面による回答当該潜在的な影響に対処することを意図した追加的な措置に関する回答を含む)を行う。締約国は、受領した意見及び当該意見に対する回答又は当該意見に対処した方法についての説明を公表する。</p> <p>6 締約国は、計画された活動が国の排他的経済水域によって完全に囲まれた公海区域に影響を及ぼす場合には、次のことを行う。</p> <p>(a) そのような周囲の国と対象を特定した積極的な協議事前通報を含む)を行うこと。</p> <p>(b) 当該活動に関するそれらの周囲の国の見解及び意見を検討し、当該見解及び意見に明示的に対処する書面による回答を行い、並びに適当な場合には、これに応じて当該活動を修正すること。</p> <p>7 締約国は、この協定の規定に基づく環境影響評価の過程に関連する情報へのアクセスを確保する。この7の規定にかかわらず、締約国は、秘密の又は専有する情報の開示を要求されない。秘密の又は専有する情報が編集された事実については、公の文書に明示するものとする。</p> <p>第三十三条 環境影響評価報告書</p> <p>1 締約国は、この部の規定に従って実施されるいかなる環境影響評価についても、環境影響評価報告書が作成されることを確保する。</p> <p>2 環境影響評価報告書には、少なくとも次の情報を含める。</p> <p>計画された活動(その場所を含む)についての説明</p> <p>範囲の選定の実施の結果についての説明</p> <p>影響を受けるおそれのある海洋環境の基本評価</p> <p>潜在的な影響 潜在的な累積的な影響及び国の管轄の下にある区域におけるあらゆる影響を含む)についての説明</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>(vii) 締約国は、計画された活動の影響(累積的な影響及び国の管轄の下にある区域における影響を含む)が、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識を用いて定める。</p> <p>(c) 影響の評価</p> <p>締約国は、計画された活動の影響(累積的な影響及び国の管轄の下にある区域における影響を含む)が、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識を用いて評価されることを確保する。</p>                                                                                                | <p>1 締約国は、環境影響評価の過程における全ての国(特に、隣接する沿岸国その他計画された活動に隣接する国であって潜在的に最も影響を受ける可能性のあるもの)及び利害関係者の参加のため、計画された活動に関し、適時に公の通報を行い(情報交換の仕組みを通じて公表すること及び事務局を通じて公表することを含む)、並びに実行可能な限り、期限を定めて計画的及び効果的な参加の機会を設けることを確保する。締約国は、当該活動を許可するか否かを決定する前に、環境影響評価の過程を通じて(適当な場合には、前条1(b)の規定に従い環境影響評価の範囲を選定するとき及び次条の規定に従い環境影響評価報告書の案が作成されたときを含む)、公の通報を行い、及び参加の機会(意見の提出を通じてのものを含む)を設ける。</p> <p>2 潜在的に最も影響を受ける可能性のある国については、計画された活動の性質及び当該活動が海洋環境に及ぼす潜在的な影響を考慮して決定されるものとし、次の国を含む。</p> <p>(a) 天然資源を探索し、開発し、保存し、又は管理するための自国の主権的権利の行使が当該活動によって影響を受けると合理的に信ずるに足りる沿岸国</p> <p>(b) 当該活動が行われる区域において、影響を受けること合理的に信ずるに足りる人間活動(経済活動を含む)を実施する国</p> <p>3 環境影響評価の過程における利害関係者には、関連する伝統的な知識を有する先住民及び地域社会、関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関、市民社会、科学界並びに公衆を含む。</p> <p>4 公の通報及び協議は、第四十八条3の規定に従い、包括的で透明性のある、かつ、適時に行われるものとし、及び開発途上にある島嶼国が関与する場合には、対象を特定した積極的なものとする。</p> <p>5 締約国は、協議の手続において受領した実質的な意見隣接する沿岸国その他計画された活動に隣接する国であって潜在的に最も影響を受ける可能性のあるものからの意見を含む。)について検討し、回答を行い、又は対処する。締約国は、国の管轄の下にある区域における潜在的な影響に関する意見を特に考慮し、及び適当な場合には、当該意見に明示的に対処する書面による回答当該潜在的な影響に対処することを意図した追加的な措置に関する回答を含む)を行う。締約国は、受領した意見及び当該意見に対する回答又は当該意見に対処した方法についての説明を公表する。</p> <p>6 締約国は、計画された活動が国の排他的経済水域によって完全に囲まれた公海区域に影響を及ぼす場合には、次のことを行う。</p> <p>(a) そのような周囲の国と対象を特定した積極的な協議事前通報を含む)を行うこと。</p> <p>(b) 当該活動に関するそれらの周囲の国の見解及び意見を検討し、当該見解及び意見に明示的に対処する書面による回答を行い、並びに適当な場合には、これに応じて当該活動を修正すること。</p> <p>7 締約国は、この協定の規定に基づく環境影響評価の過程に関連する情報へのアクセスを確保する。この7の規定にかかわらず、締約国は、秘密の又は専有する情報の開示を要求されない。秘密の又は専有する情報が編集された事実については、公の文書に明示するものとする。</p> <p>第三十三条 環境影響評価報告書</p> <p>1 締約国は、この部の規定に従って実施されるいかなる環境影響評価についても、環境影響評価報告書が作成されることを確保する。</p> <p>2 環境影響評価報告書には、少なくとも次の情報を含める。</p> <p>計画された活動(その場所を含む)についての説明</p> <p>範囲の選定の実施の結果についての説明</p> <p>影響を受けるおそれのある海洋環境の基本評価</p> <p>潜在的な影響 潜在的な累積的な影響及び国の管轄の下にある区域におけるあらゆる影響を含む)についての説明</p> | <p>3 科学技術機関は、専門家の名簿を作成すること。能力に制約がある締約国は、自国の管轄又は管理の下にある計画された活動について選別及び環境影響評価を実施し、及び評価するため、当該専門家に助言及び支援を要請することができる。当該専門家は、同一の活動の環境影響評価の過程の他の部分における専門家として任命することができない。当該助言及び支援を要請した締約国は、検討及び意思決定のため当該環境影響評価が自国に提出されることを確保する。</p> <p>第三十二条 公の通報及び協議</p> <p>1 締約国は、環境影響評価の過程における全ての国(特に、隣接する沿岸国その他計画された活動に隣接する国であって潜在的に最も影響を受ける可能性のあるもの)及び利害関係者の参加のため、計画された活動に関し、適時に公の通報を行い(情報交換の仕組みを通じて公表すること及び事務局を通じて公表することを含む)、並びに実行可能な限り、期限を定めて計画的及び効果的な参加の機会を設けることを確保する。締約国は、当該活動を許可するか否かを決定する前に、環境影響評価の過程を通じて(適当な場合には、前条1(b)の規定に従い環境影響評価の範囲を選定するとき及び次条の規定に従い環境影響評価報告書の案が作成されたときを含む)、公の通報を行い、及び参加の機会(意見の提出を通じてのものを含む)を設ける。</p> <p>2 潜在的に最も影響を受ける可能性のある国については、計画された活動の性質及び当該活動が海洋環境に及ぼす潜在的な影響を考慮して決定されるものとし、次の国を含む。</p> <p>(a) 天然資源を探索し、開発し、保存し、又は管理するための自国の主権的権利の行使が当該活動によって影響を受けると合理的に信ずるに足りる沿岸国</p> <p>(b) 当該活動が行われる区域において、影響を受けること合理的に信ずるに足りる人間活動(経済活動を含む)を実施する国</p> <p>3 環境影響評価の過程における利害関係者には、関連する伝統的な知識を有する先住民及び地域社会、関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関、市民社会、科学界並びに公衆を含む。</p> <p>4 公の通報及び協議は、第四十八条3の規定に従い、包括的で透明性のある、かつ、適時に行われるものとし、及び開発途上にある島嶼国が関与する場合には、対象を特定した積極的なものとする。</p> <p>5 締約国は、協議の手続において受領した実質的な意見隣接する沿岸国その他計画された活動に隣接する国であって潜在的に最も影響を受ける可能性のあるものからの意見を含む。)について検討し、回答を行い、又は対処する。締約国は、国の管轄の下にある区域における潜在的な影響に関する意見を特に考慮し、及び適当な場合には、当該意見に明示的に対処する書面による回答当該潜在的な影響に対処することを意図した追加的な措置に関する回答を含む)を行う。締約国は、受領した意見及び当該意見に対する回答又は当該意見に対処した方法についての説明を公表する。</p> <p>6 締約国は、計画された活動が国の排他的経済水域によって完全に囲まれた公海区域に影響を及ぼす場合には、次のことを行う。</p> <p>(a) そのような周囲の国と対象を特定した積極的な協議事前通報を含む)を行うこと。</p> <p>(b) 当該活動に関するそれらの周囲の国の見解及び意見を検討し、当該見解及び意見に明示的に対処する書面による回答を行い、並びに適当な場合には、これに応じて当該活動を修正すること。</p> <p>7 締約国は、この協定の規定に基づく環境影響評価の過程に関連する情報へのアクセスを確保する。この7の規定にかかわらず、締約国は、秘密の又は専有する情報の開示を要求されない。秘密の又は専有する情報が編集された事実については、公の文書に明示するものとする。</p> <p>第三十三条 環境影響評価報告書</p> <p>1 締約国は、この部の規定に従って実施されるいかなる環境影響評価についても、環境影響評価報告書が作成されることを確保する。</p> <p>2 環境影響評価報告書には、少なくとも次の情報を含める。</p> <p>計画された活動(その場所を含む)についての説明</p> <p>範囲の選定の実施の結果についての説明</p> <p>影響を受けるおそれのある海洋環境の基本評価</p> <p>潜在的な影響 潜在的な累積的な影響及び国の管轄の下にある区域におけるあらゆる影響を含む)についての説明</p> |

|                                                                                                                                                                 |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>防止、緩和及び管理のための潜在的な措置についての説明</p> <p>不確実性及び知識の欠如についての説明</p> <p>公の協議の手續についての情報</p> <p>計画された活動の合理的な代替案の検討についての説明</p> <p>事後の措置（環境管理計画を含む。）についての説明</p> <p>平易な要約</p> | <p>3 締約国は、科学技術機関が環境影響評価報告書を検討し、及び評価する機会を提供するため、公の協議の手續において情報交換の仕組みを通じて当該報告書の案を利用可能なものとする。</p> | <p>4 科学技術機関は、適当な場合には、適時に、締約国に対し環境影響評価報告書の案について意見を述べることができる。当該締約国は、科学技術機関によるいかなる意見も考慮する。</p> <p>5 締約国は、環境影響評価報告書を公表する（情報交換の仕組みを通じて公表する場合を含む。）事務局は、情報交換の仕組みを通じて当該報告書が公表される場合には、全ての締約国に対して適時に通報することを確保する。</p> | <p>6 科学技術機関は、指針の作成（最良の慣行の特定を含む。）のため、この協定に基づく関連する慣行、手続及び知見に基づき、最終的な環境影響評価報告書を考慮する。</p> <p>7 科学技術機関は、指針の作成（最良の慣行の特定を含む。）のため、この協定に基づく関連する慣行、手続及び知見に基づき、第三十条及び第三十一条の規定に従って環境影響評価を実施するか否かを決定するための選別の手續において使用した公表された情報の選定について考慮し、及び検討する。</p> <p>第三十四条 意思決定</p> | <p>1 計画された活動が自国の管轄又は管理の下にある締約国は、当該活動を実施することができ</p> | <p>るか否かを決定する責任を負う。</p> <p>2 この部の規定に従って計画された活動を実施することができるか否かを決定する場合には、この部の規定に従って実施された環境影響評価を十分に考慮する。締約国の管轄又は管理の下にある計画された活動を許可するための決定は、当該締約国が、緩和又は管理のための措置を考慮して、海洋環境に及ぼす著しい悪影響の防止に適合する方法で当該活動を実施することができ、これを確保するためのあらゆる合理的な努力を払ったと判断した場合にのみ、行う。</p> <p>3 決定に係る文書は、緩和のための措置及び事後の要件に関する承認の条件を明確に規定する。決定に係る文書は、公表される（情報交換の仕組みを通じて公表される場合を含む。）。</p> <p>4 締約国会議は、締約国の要請に基づき、当該締約国が自国の管轄又は管理の下にある計画された活動を実施することができるか否かを決定するに際し、当該締約国に対して助言及び支援を与えることができる。</p> <p>第三十五条 許可された活動の影響の監視</p> | <p>締約国は、いづれの国の管轄にも属さない区域における活動であつて自国が許可し、又は従事するものが、海洋環境を汚染し、又は海洋環境に悪影響を及ぼすおそれがあるかを判断するため、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識を用いて、当該活動の影響を監視する。特に、締約国は、自国の管轄又は管理の下にある活動の承認に当たって定める条件に従い、許可された活動に係る環境上の影響その他関連する影響（例えば、経済的な、社会的な、文化的な及び人の健康に対する影響）を監視する。</p> <p>第三十六条 許可された活動の影響に関する報告</p> <p>1 締約国は、単独で行動するか共同して行動す</p> | <p>るか否かを問わず、許可された活動の影響及び前条の規定に基づいて要求される監視の結果を定期的に報告する。</p> <p>2 監視報告書は、公表される（情報交換の仕組みを通じて公表される場合を含む。）ものとし、科学技術機関は、当該監視報告書を検討し、及び評価することができる。</p> <p>3 科学技術機関は、許可された活動の影響の監視に関する指針の作成（最良の慣行の特定を含む。）のため、この協定に基づく関連する慣行、手続及び知見に基づき、監視報告書を考慮する。</p> <p>第三十七条 許可された活動及びその影響の検討</p> <p>1 締約国は、第三十五条の規定に従って監視される許可された活動の影響が検討されることを確保する。</p> <p>2 活動を管轄し、又は管理する締約国は、環境影響評価において予見されなかった性質上の若しくは重大性における著しい悪影響又は活動の承認に当たって定める条件の違反から生ずる著しい悪影響を特定する場合には、当該活動の許可に係る決定を再検討し、締約国会議、他の締約国及び公衆に通報し（情報交換の仕組みを通じて通報する場合を含む）、並びに次のことを行う。</p> <p>(a) それらの悪影響を防止し、緩和し、若しくは管理するための措置を提案し、及び実施することを要求し、若しくは他の必要な行動をとり、又は適当な場合には、当該活動を停止すること。</p> <p>(b) (a)の規定に従ってとった措置又は行動を適時に評価すること。</p> <p>3 科学技術機関は、前条の規定に従って受領した報告書に基づき、許可された活動が環境影響評価において予見されなかった著しい悪影響又は許可された活動に係る承認の条件の違反からは許可された活動に係る承認の条件の違反から</p> | <p>生ずる著しい悪影響を及ぼすおそれがあると認める場合には、当該活動を許可した締約国に通報し、及び適当なときは、当該締約国に勧告を行うことができる。</p> <p>4 (a) 締約国は、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基づき、活動を許可した締約国及び科学技術機関に対して予見されなかった性質上の若しくは重大性における著しい悪影響又は許可された活動に係る承認の条件の違反から生ずる著しい悪影響を及ぼすおそれがあるとの懸念を登録することができる。</p> <p>(b) 活動を許可した締約国は、(a)に規定する懸念を考慮する。</p> <p>(c) 科学技術機関は、締約国が登録した懸念を考慮するに当たり、入手可能な最良の科学及び科学的な情報並びに可能な場合には先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に基づき、その事項を検討するものとし、及び評価することができるものとし、また、許可された活動が環境影響評価において予見されなかった著しい悪影響又は許可された活動に係る承認の条件の違反から生ずる著しい悪影響を及ぼすおそれがあると認める場合には、当該活動を許可した締約国に通報することができ、懸念について回答する機会を与え、及びその回答を考慮した後で、適当な場合には、当該締約国に勧告を行うことができる。</p> <p>(d) 登録された懸念並びに科学技術機関が行った通報及び勧告は、公に利用可能なものとする（情報交換の仕組みを通じて公に利用可能なものとする場合を含む。）。</p> <p>(e) 活動を許可した締約国は、科学技術機関によるいかなる通報及び勧告も考慮する。</p> | <p>3 締約国は、前条の規定に従って受領した報告書に基づき、許可された活動が環境影響評価において予見されなかった著しい悪影響又は許可された活動に係る承認の条件の違反から</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>5 全ての国(特に、隣接する沿岸国その他活動に隣接する国であつて潜在的に最も影響を受ける可能性のあるもの)及び利害関係者は、情報交換の仕組みを通じて随時通報を受けるものとし、この協定に従つて許可された活動に係る監視、報告及び検討の手続において協議を受けることができる。</p> <p>6 締約国は、次の事項を公表する(情報交換の仕組みを通じて公表する場合を含む。)</p> <p>(a) 許可された活動の影響の検討に関する報告書</p> <p>(b) 決定に係る文書(締約国が活動の許可に係る決定を変更した場合には、当該締約国による決定の理由を記録したものを含む。)</p> | <p>第三十八條 科学技術機関が作成する環境影響評価に関連する規格又は指針</p> <p>1 科学技術機関は、締約国会議による審議及び採択のため、次の事項に関する規格又は指針を作成する。</p> <p>(a) 計画された活動について第三十條の規定に基づく選別又は環境影響評価の実施のための基準を満たしているか否か又は超えているか否かの判断(同条2に規定する要素(全てを網羅したものではない。)に基づくものを含む。)</p> <p>(b) いずれの国の管轄にも属さない区域における累積的な影響の評価及び環境影響評価の過程において当該累積的な影響をどのように考慮すべきか。</p> <p>(c) いずれの国の管轄にも属さない区域における計画された活動による国の管轄の下にある区域における影響の評価及び環境影響評価の過程において当該影響をどのように考慮すべきか。</p> <p>(d) 第三十二條の規定に基づく公の通報及び協議の手続(何が秘密の又は専有する情報を構成するかを判断を含む。)</p> | <p>第三十三條の規定に基づく環境影響評価報告書及び選別の手続において使用した公表された情報について必要とされる内容(最良の慣行を含む。)</p> <p>(f) 第三十五條及び第三十六條に規定する許可された活動の影響に係る監視及び報告(最良の慣行の特定を含む。)</p> <p>(g) 戦略的環境評価の実施</p> <p>2 科学技術機関は、また、締約国会議による審議及び採択のため、規格及び指針(次の事項に関するものを含む。)を作成することができる。</p> <p>(a) 環境影響評価を必要とする活動又は必要としない活動の一覧(例示的なものであつて全てを網羅するものではない。)</p> <p>(b) 保護又は特別の注意を必要とするものとして特定された区域におけるこの協定の締約国による環境影響評価の実施</p> <p>3 いかなる規格についても、第七十四條の規定に従つて、この協定の附属書に定める。</p> <p>第三十九條 戦略的環境評価</p> <p>1 締約国は、自国の管轄又は管理の下にある活動に関連する計画であつていずれの国の管轄にも属さない区域で実施されるものについて、当該計画及びその代替案が海洋環境に及ぼす潜在的な影響を評価するため、単独で又は他の締約国と協力して、戦略的環境評価の実施を検討する。</p> <p>2 締約国会議は、区域又は地域に関する入手可能な最良の情報を取りまとめ、及び統合し、現在の及び将来における潜在的な影響を評価し、並びにデータの欠如及び研究の優先度を特定するため、当該区域又は地域の戦略的環境評価を実施することができる。</p> <p>3 締約国は、この部の規定に従つて環境影響評価を実施する場合において、可能なときは、1</p> | <p>及び2の規定に従つて実施された関連する戦略的環境評価の結果を考慮する。</p> <p>4 締約国会議は、この条に規定する戦略的環境評価の各区分の実施に関する指針を作成する。</p> <p>第五部 能力の開発及び海洋技術の移転</p> <p>第四十條 目的</p> <p>この部の規定は、次のことを目的とする。</p> <p>(a) この協定の目的を達成するため、この協定の規定の実施について締約国(特に開発途上国である締約国)を支援すること。</p> <p>(b) この協定に基づいて行われる活動において、包摂的、公平及び効果的な協力及び参加を可能とすること。</p> <p>(c) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する海洋科学及び海洋技術の分野における締約国(特に開発途上国である締約国)の能力(研究に関する能力を含む。)を向上させること(開発途上国である締約国による海洋技術へのアクセス及び開発途上国である締約国に対する海洋技術の移転を通じたものを含む。)</p> <p>(d) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する知見を増進し、普及し、及び共有すること。</p> <p>(e) とりわけ、次の事項に関する目的を達成するため、この協定に基づく能力の開発並びに海洋技術の発展及び移転を通じて、開発途上国である締約国(特に、後発開発途上国、内陸国である開発途上国、地理的不利国、開発途上にある島嶼国、沿岸国であるアフリカ諸国、群島国及び開発途上にある中所得国)を支援すること。</p> <p>(i) 第九条の規定に反映されている海洋遺伝資源利益の配分を含む。</p> <p>(ii) 第十七条の規定に反映されている区域に</p> | <p>に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)等の措置</p> <p>(iii) 第二十七條の規定に反映されている環境影響評価</p> <p>第四十一條 能力の開発及び海洋技術の移転における協力</p> <p>1 締約国は、能力の開発並びに海洋科学及び海洋技術の発展及び移転を通じてこの協定の目的を達成するため、直接に、又は関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関を通じて、締約国(特に開発途上国である締約国)を支援するために協力する。</p> <p>2 締約国は、この協定に基づいて能力の開発及び海洋技術の移転を行うに当たり、全ての段階及びあらゆる形態で協力する。そのような協力には、全ての関連する利害関係者(適当な場合には、民間部門、市民社会、伝統的な知識を有する者としての先住民及び地域社会等)と連携し、及び当該利害関係者を関与させ、並びに関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関の間の協力及び協調を強化することを通じて協力する場合を含む。</p> <p>3 締約国は、この部の規定の実施に当たり、開発途上国である締約国(特に、後発開発途上国、内陸国である開発途上国、地理的不利国、開発途上にある島嶼国、沿岸国であるアフリカ諸国、群島国及び開発途上にある中所得国)の特別の要請を十分に認識する。締約国は、能力の開発及び海洋技術の移転の提供につき重い報告の義務を条件としないことを確保する。</p> <p>第四十二條 能力の開発及び海洋技術の移転の方法</p> <p>1 締約国は、その能力の範囲内で、この協定の規定に従い、開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、開発途上国</p> | <p>海洋法に関する国際連合条約に基づきいずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する協定の締結について承認を求めるの件</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|

である締約国の能力の開発を確保し、並びに特に海洋技術の移転を必要とし、及び要請する開発途上国である締約国に対して海洋技術の移転を行うために協力する。

2 締約国は、その能力の範囲内で、自国の政策、優先度及び計画を考慮して、1に規定する能力の開発並びに海洋技術の発展及び移転を支援し、並びに他の支援の提供元へのアクセスを容易にするための資源を提供する。

3 能力の開発及び海洋技術の移転は、各国主導の、透明性のある、効果的な及び反復的な過程であって、参加型の、横断的な及びジェンダーに配慮したものとするべきである。能力の開発及び海洋技術の移転は、適当な場合には既存の計画に立脚したものとし、及び既存の計画と重複して行わないものとし、並びに得られた教訓（関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域のな及び分野別の機関の下での能力の開発及び海洋技術の移転に関する活動から得られたものを含む）を指針とする。能力の開発及び海洋技術の移転に当たっては、効率及び成果を最大にするため、できる限り当該活動を考慮する。

4 能力の開発及び海洋技術の移転は、開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、個々の場合に応じた、小地域的な又は地域的なニーズの評価を通じて特定された開発途上国である締約国のニーズ及び優先度に基づいたものとし、及び対応したものとする。当該ニーズ及び優先度については、自ら評価し、又は能力開発・海洋技術移転委員会及び情報交換の仕組みを通じて促進することができ

1 締約国は、この協定に基づいて、及びこの協定の目的を十分に達成するために行われる活動

第四十三条 海洋技術の移転に関する追加的な方法

への包摂的、衡平及び効果的な協力及び参加のため、技術の発展及び移転を十分に実現することについての重要性に関する長期的な展望を共有する。

2 この協定に基づいて行われる海洋技術の移転は、公正かつ最も有利な条件（緩和された、かつ、特惠的な条件を含む。）で、並びに相互に合意する条件及びこの協定の目的に従って、実施される。

3 締約国は、開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、開発途上国である締約国に対する海洋技術の移転のための経済的及び法的な条件を促進し、及び奨励する。これには、企業及び機関に奨励措置を提供することを含めることができる。

4 海洋技術の移転は、当該海洋技術についての全ての権利を考慮し、全ての正当な利益（特に、海洋技術の所有者、提供者及び受領者の権利及び義務を含む。）に妥当な考慮を払い、並びにこの協定の目的を達成するための開発途上国の利益及びニーズに特別の考慮を払って、実施する。

5 この部の規定に基づいて移転される海洋技術は、開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、開発途上国である締約国にとって適切な及び関連性を有するものであつて、可能な限り、信頼性のある、負担しやすき費用の、最新の、環境上適正な及び利用可能な形式によるものとする。

第四十四条 能力の開発及び海洋技術の移転の種類

1 第四十条に規定する目的の達成を支えるため、能力の開発及び海洋技術の移転の種類には、次のような人的な、財務管理上の、科学的な、技術的な、組織上の及び制度的な資源その他の資源に係る締約国の能力の創出又は向上のための支援を含めることができるが、これらに

限定されない。

(a) 関連するデータ、情報、知見及び研究成果の共有及び利用

(b) 情報の普及及び啓発（先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に関するものであつて、当該先住民及び適当な場合には当該地域社会の自由意思による情報に基づく事前の同意によるものを含む。）

(c) 関連する基盤（設備並びにその利用及び維持のための要員の能力を含む。）の構築及び強化

(d) 制度的能力及び国の規制の枠組み又は仕組みの構築及び強化

(e) 交流、研究協力、技術的な支援、教育及び訓練並びに海洋技術の移転を通じた人的な及び財務管理上の資源に係る能力並びに技術的な専門知識の構築及び強化

(f) 手引、指針及び規格の作成及び共有

(g) 技術的な、科学的な及び研究開発に関する計画の策定

(h) この協定の対象となる活動の効果的な監視、管理及び監督のための能力及び技術的手段の構築及び強化

2 この条の規定において特定される能力の開発及び海洋技術の移転の種類に関する更なる細目は、附属書IIに定める。

3 締約国会議は、能力開発・海洋技術移転委員会の勧告を考慮して、技術の進歩及び技術革新を反映し、並びに国、小地域及び地域の発展するニーズに対応し、及び適応するため、附属書IIに詳細を定める能力の開発及び海洋技術の移転の種類の一覧（例示的なものであつて全てを網羅するものではない。）に関する指針を必要に応じて定期的に検討し、評価し、更に発展させ、及び提供する。

第四十五条 監視及び検討

1 この部の規定に従って行われる能力の開発及

び海洋技術の移転は、定期的に監視され、及び検討される。

2 能力開発・海洋技術移転委員会は、締約国会議の権限の下で、次のことを目的として、1に規定する監視及び検討を行う。

(a) 第四十二条4の規定に従い、開発途上国である締約国の特別の要請並びに開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情に特別の考慮を払って、能力の開発及び海洋技術の移転に関する開発途上国である締約国のニーズ及び優先度を評価し、及び検討すること。

(b) 必要とされ、提供され、及び動員された支援並びに開発途上国である締約国のこの協定に関連する評価されたニーズを満たす上での隔たりを検討すること。

(c) 第五十二条の規定に基づいて設置される資金供与の制度に基づく資金であつて、能力の開発及び海洋技術の移転を推進し、及び実施するためのもの（ニーズの評価の実施のためのものを含む。）を特定し、及び動員すること。

(d) 合意された指標に基づいて実施状況を測定し、及び結果に基づく分析（この協定に基づく能力の開発及び海洋技術の移転の結果、成果、進捗状況及び実効性並びに成功及び課題に関するものを含む。）を検討すること。

(e) 事後の活動のための勧告（この協定の目的を達成するため、開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、開発途上国である締約国がこの協定の実施を強化することを可能とするために、能力の開発及び海洋技術の移転をいかなる方法で一層強化することができるかについての勧告を含む。）を行うこと。

3 締約国は、能力の開発及び海洋技術の移転の監視及び検討を支援するに当たり、能力開発・

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>海洋技術移転委員会に報告書を提出する。当該報告書は、同委員会の勧告を考慮して、締約国会議が決定する様式及び間隔で提出すべきである。締約国は、報告書の提出に当たり、適当な場合には、地域的及び小地域的な機関からの能力の開発及び海洋技術の移転に関する意見を考慮する。締約国が提出した報告書並びに地域的及び小地域的な機関からの能力の開発及び海洋技術の移転に関する意見は、公に利用可能なものとすべきである。締約国会議は、特に開発途上国である締約国にとって、報告の義務が簡素化されたものであつて重いものでないもの（費用及び時間についての要件に関するものを含む。）とすることを確保する。</p> <p>第四十六条 能力開発・海洋技術移転委員会</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>1 この協定により能力開発・海洋技術移転委員会を設置する。</p> <p>2 能力開発・海洋技術移転委員会は、ジェンダーの均衡及び衡平な地理的配分を考慮し、並びに同委員会において後発開発途上国、開発途上にある島嶼国及び内陸国である開発途上国からの委員が代表することについて定めた上で、この協定の最善の利益のために客観的に職務を遂行するための適当な資格及び専門知識を有する委員であつて、締約国が指名し、締約国会議が選出するもので構成される。同委員会の運営のための付託事項及び方法は、締約国会議がその第一回会合において決定する。</p> <p>3 能力開発・海洋技術移転委員会は、報告書及び勧告を提出する。締約国会議は、当該報告書及び勧告を検討し、並びに適当なときは、当該報告書及び勧告について措置をとる。</p> <p>第六部 制度的な措置</p> <p>第四十七条 締約国会議</p> <p>1 この協定により締約国会議を設置する。</p> <p>2 締約国会議の第一回会合は、国際連合事務総</p> |
| <p>長がこの協定の効力発生の後一年以内に招集する。その後は、締約国会議の通常会合は、締約国会議が決定する一定の間隔で開催する。締約国会議の特別会合は、手続規則に従い、その他の場合において開催することができる。</p> <p>3 締約国会議は、通常、事務局の所在地又は国際連合本部において会合する。</p> <p>4 締約国会議は、その第一回会合において、締約国会議及びその補助機関の手続規則並びに締約国会議の予算並びに事務局及び当該補助機関の予算を規律する財政規則をコンセンサス方式によつて採択するものとし、その後は、締約国会議が新たな補助機関を設置する場合には、その手続規則及び財政規則をコンセンサス方式によつて採択する。手続規則が採択されるまでの間については、海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する法的拘束力のある国際的な文書についての政府間会議の手続規則が適用される。</p> <p>5 締約国会議は、決定及び勧告をコンセンサス方式によつて採択するためにあらゆる努力を払う。この協定に別段の定めがある場合を除くほか、コンセンサスに達するためのあらゆる努力が払われた場合には、実質問題についての締約国会議の決定及び勧告は、出席しかつ投票する締約国の三分の二以上の多数による議決で採択するものとし、手続問題についての決定は、出席しかつ投票する締約国の過半数による議決で採択する。</p> <p>6 締約国会議は、この協定の実施を常に検討し、及び評価し、並びにこの目的のために次のことを行う。</p> <p>(a) この協定の実施に関連する決定及び勧告を採択すること。</p> <p>(b) この協定の実施に関連する締約国間の情報の交換を検討し、及び促進すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>8 締約国会議は、この協定の効力発生から五年</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>(c) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に向けた取組の間の整合性を促進することを目的として、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関との協力及び協調並びにそれらの間の協力及び協調を促進すること（適当な手続を定めることによるものを含む。）。</p> <p>(d) この協定の実施を支援するために必要と認められる補助機関を設置すること。</p> <p>(e) コンセンサスに達するためのあらゆる努力が払われた場合には、出席しかつ投票する締約国の四分の三以上の多数による議決で、締約国会議が決定する頻度で、締約国会議が決定する会計期間に関する予算を採択すること。</p> <p>(f) この協定において特定され、又はこの協定の実施のために必要とされるその他の任務を遂行すること。</p> <p>7 締約国会議は、その権限の範囲内の事項について提出された提案のこの協定との適合性に関する法律問題について勧告的意見を与えるよう国際海洋法裁判所に要請することを決定することができ、他の世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の権限の範囲内の事項又は大陸若しくは島の領土に対する主権その他の権利若しくはこれらに対する主張に関する紛争若しくはある区域の国の管轄の下にある区域としての法的地位についての検討が必要となる事項については、勧告的意見を要請してはならない。要請には、勧告的意見が求められている法律問題の範囲を示すものとする。締約国会議は、勧告的意見の付与について、緊急に処理を要する事項として取り扱われるよう要請することができる。</p> <p>8 締約国会議は、この協定の効力発生から五年以内に、その後は締約国会議が決定する間隔で、この協定の規定の妥当性及び有効性を評価し、及び検討するものとし、必要な場合には、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に一層適切に取り組むため、この協定の規定の実施を強化する方法を提案する。</p> <p>第四十八条 透明性</p> <p>1 締約国会議は、この協定に基づいて行われる意思決定過程その他の活動において透明性を促進する。</p> <p>2 全ての締約国会議の会合及びその補助機関の会合は、締約国会議が別段の決定を行う場合を除くほか、手続規則に従つて参加するオブザーバーに開放される。締約国会議は、その決定の公的な記録を公表し、及び保持する。</p> <p>3 締約国会議は、適当な場合には、この協定の規定に従い、情報を公に周知すること並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関、関連する伝統的な知識を有する先住民及び地域社会、科学界、市民社会その他の関連する利害関係者の代表者であつて、締約国会議に関する事項に利害関係を有するものは、締約国会議の会合及びその補助機関の会合にオブザーバーとして参加することを要請することができる。締約国会議の手続規則は、そのような会合への参加について定めるものとし、これらの会合への参加に関して不当に制限的であつてはならない。手続規則は、また、当該代表者が全ての関連す</p> | <p>海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する協定の締結について承認を求めるの件</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>る情報に適時にアクセスすることができ、ことを定めるものとする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>3 事務局及び接受国は、本部協定を締結することができる。事務局は、接受国の領域内において法的能力を享有し、並びに接受国からその任務の遂行に必要な特権及び免除を与えられる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>3 情報交換の仕組みは、次のことを行う。<br/>(a) 締約国がこの協定の規定に基づいて行われる活動に関する情報にアクセスし、並びに当該情報を提供し、及び周知することを可能とするための単一のプラットフォームとしての役割を果たすこと。当該情報には、次の事項に関するものを含める。<br/>(i) 第二部に規定するいづれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源<br/>(ii) 区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)の設定及び実施<br/>(iii) 環境影響評価<br/>(iv) 能力の開発及び海洋技術の移転に関する要請並びにそれらに関する機会(研究協力及び訓練の機会、海洋技術の移転のための技術的な情報及びデータの情報源及び利用可能性に関する情報、海洋技術への容易なアクセスの機会並びに資金の利用可能性を含む。)</p>         | <p>び小地域的な情報交換の機関を基礎とすること。<br/>(e) 透明性の強化を促進すること(締約国と他の関連する利害関係者との間で、いづれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関連する環境の基本的なデータ及び情報の共有を促進することによるものを含む。)<br/>(f) 国際的な協力及び協調(科学的及び技術的な協力及び協調を含む。)を促進すること。<br/>(g) 締約国会議が決定し、又はこの協定に基づいて与えられるその他の任務を遂行すること。</p> |
| <p>1 この協定により科学技術機関を設置する。<br/>2 科学技術機関は、学際的な専門知識(関連する科学的及び技術的な専門知識並びに先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に関する専門知識を含む。)の必要性、ジェンダーの均衡及び地理的に衡平に代表されることを考慮して、専門家の資格で、及びこの協定の最善の利益のために職務を遂行する適当な資格を有する委員であって、締約国が指名し、締約国会議が選出するもので構成される。科学技術機関の運営のための付託事項及び方法(選出の手續及び委員の任務の期間を含む。)は、締約国会議がその第一回会合において決定する。</p> | <p>4 事務局は、次のことを行う。<br/>(a) 締約国会議及びその補助機関に対し、この協定の実施のための運営上の及び事務的な支援を提供すること。<br/>(b) 締約国会議の会合及びこの協定に基づいて、又は締約国会議によって設置されるその他の機関の会合を準備し、並びにこれらの会合のための役務を提供すること。<br/>(c) この協定の実施に関する情報を適時に送付すること(締約国会議の決定を公に利用可能なものとし、並びに当該決定を全ての締約国並びに関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関に送付することを含む。)<br/>(d) 適当な場合には、他の関連する国際機関の事務局との協力及び協調を促進し、並びに特に、締約国会議の承認を条件として、その目的のため、及びその任務を効果的に遂行するために必要な運営上及び契約上の取決めを行うこと。<br/>(e) この協定に基づく任務の遂行に関する報告書を作成し、及び当該報告書を締約国会議に提出すること。<br/>(f) この協定の実施に係る支援を提供し、及び締約国会議が決定し、又はこの協定に基づいて与えられるその他の任務を遂行すること。</p> | <p>(b) 能力の開発に関するニーズと利用可能な支援及び海洋技術の移転を行う者(海洋技術の移転において提供者として参加することに関心を有する政府機関、非政府機関及び民間団体を含む。)とを結び付けることを容易にし、並びに関連するノウハウ及び専門知識へのアクセスを容易にすること。<br/>(c) 関連する世界的な、地域的な、小地域的な、国及び分野別の情報交換の仕組み並びに他のジーンバンク、保管場所及びデータベース(先住民及び地域社会の関連する伝統的な知識に関するものを含む。)との連結を提供し、並びに可能な場合には、情報の交換のための公に利用可能な民間及び非政府のプラットフォームとの連携を促進すること。<br/>(d) 世界的な情報交換の仕組みの下で地域的及び小地域的な情報交換の仕組みを設ける場合において、適当なときは、世界的、地域的及び</p> | <p>6 この協定に基づいて提供される情報の秘密性及び当該情報に対する権利は、尊重されなければならない。この協定に基づきいかなる規定も、締約国の国内法令又は他の適用可能な法令</p>                                                                                                                                                               |
| <p>3 科学技術機関は、必要に応じ、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関並びに他の科学者及び専門家からの適当な助言を参考とすることができる。<br/>4 科学技術機関は、締約国会議の権限及び指導の下で、2に規定する学際的な専門知識を考慮して、締約国会議に科学的及び技術的な助言を行い、この協定に基づいて与えられる任務及び締約国会議が決定するその他の任務を遂行し、並びにその活動について締約国会議に報告する。</p>                                              | <p>1 この協定により事務局を設置する。締約国会議は、その第一回会合において、事務局の任務の遂行のための措置(事務局の所在地の決定を含む。)をとる。<br/>2 国際連合事務総長は、事務局がその任務を開始するまでの間、国際連合事務局法務部海事・海洋法課を通じて、この協定に基づく事務局の任務を遂行する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>5 情報交換の仕組みの管理に当たっては、開発途上国である締約国の特別の要請及び開発途上にある島嶼国である締約国の特別の事情を十分に認識し、並びにこれらの締約国が不当な障害又は事務的な負担なく利用することができるよう、当該仕組みへのアクセスを容易にする。情報には、これらの締約国の国内において及びこれらの締約国と共に情報の共有、啓発及び普及を促進し、並びにこれらの締約国に具体的な計画を提供するための活動に関するものを含める。</p>                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                           |

に基づいて開示から保護される情報の共有を要求するものと解してはならない。

## 第七部 資金及び資金供与の制度

### 第五十二条 資金供与

1 締約国は、その能力の範囲内で、自国の政策、優先度及び計画を考慮して、この協定の目的を達成するための活動に関する資金を提供する。

2 この協定に基づいて設置される機関は、締約国の分担金によって賄われる。

3 この協定により、この協定に基づく十分な、利用可能な、新規の及び追加的な並びに予測可能な資金の供与のための制度を設置する。資金供与の制度は、この協定の実施に当たり、開発途上国である締約国を支援し（能力の開発及び海洋技術の移転を支援するための資金供与を通じて行うことを含む）、並びに海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用のためにこの条に規定するその他の任務を遂行する。

4 資金供与の制度には、次のものを含める。

(a) 締約国会議によって設置される任意の信託基金であって、開発途上国である締約国（特に、後発開発途上国、内陸国である開発途上国及び開発途上にある島嶼国）の代表者がこの協定に基づいて設置される機関の会合に参加することを促進するためのもの

(b) 次のいずれかの資金源により支弁する特別基金

(i) 第十四条6の規定に基づく年次拠出金

(ii) 第十四条7の規定に基づく支払

(iii) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用を支援するための資金を提供することを希望する締約国及び民間団体からの追加的な拠出金

(c) 地球環境基金の信託基金

5 締約国会議は、いずれの国の管轄にも属さない

い区域における海洋の生物の多様性の修復及び生態学的な復元のための資金を供与するため、資金供与の制度の一部として、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用を支援するための追加的な基金を設置する可能性を検討することができる。

6 特別基金及び地球環境基金の信託基金は、次の目的のために使用する。

(a) この協定に基づく能力の開発のための事業（海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する効果的な事業並びに海洋技術の移転に関する訓練を含む活動及び計画を含む。）に対する資金供与

(b) この協定の実施における開発途上国である締約国に対する支援

(c) 伝統的な知識を有する者としての先住民及び地域社会による保全及び持続可能な利用に係る計画に対する支援

(d) 国、小地域及び地域の段階における公の協議に対する支援

(e) 締約国会議が決定するその他の活動の実施に対する資金供与

7 資金供与の制度については、当該制度の枠内の資金の利用において、重複を避けること並びに補完性及び整合性を促進することを確保するよう努めるべきである。

8 この協定の実施を支えるために動員される資金には、公的な及び民間の資金源（国内的なものであるか国際的なものであるかを問わない。）を通じて提供される資金（国、国際金融機関、世界的及び地域的な枠組みに基づく既存の資金供与の制度、援助機関、政府間機関、非政府機関並びに自然人及び法人からの拠出金を含むが、これらに限定されない。）並びに官民間の連携を通じて提供される資金を含めることができる。

9 この協定の適用上、資金供与の制度は、適当な場合には締約国会議の権限の下に、及びその指導の下に機能し、並びに締約国会議に対して責任を負う。締約国会議は、全般的な戦略、政策及び計画の優先度並びに資金へのアクセス及び資金の利用のための資格に関する指針を提供する。

10 締約国会議及び地球環境基金は、締約国会議の第一回会合において、1から9までの規定を実施するための取決めに付いて合意する。

11 締約国会議は、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に取り組み緊急性に鑑み、特に、特別基金の制度の態様及び能力開発・海洋技術移転委員会を通じて提供される情報を考慮して、全ての資金源からの特別基金への二十三年までの当初の資金の動員に係る目標を決定する。

12 この協定に基づく資金へのアクセスのための資格は、二一ズに基づき開発途上国である締約国に開かれたものとする。特別基金に基づく資金は、特別の要請を有する締約国（特に、後発開発途上国、内陸国である開発途上国、地理的不利国、開発途上にある島嶼国、沿岸国であるアフリカ諸国、群島国及び開発途上にある中所得国）の支援に関する二一ズを考慮し、並びに開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、衡平な配分基準に基づいて配分する。特別基金は、そのような開発途上国である締約国のため、簡素化された申請及び承認の手続並びに強化された支援の受入れ体制により、資金に効率的にアクセスすることを確保することを目的とする。

13 締約国は、能力的な制約に照らし、国際機関に對し、いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用のための適当な資金及び技術支援の割当

て並びに国際機関の専門的な役務の利用に当たり、開発途上にある島嶼国及び後発開発途上国の特別の事情を考慮して、開発途上国である締約国（特に、後発開発途上国、内陸国である開発途上国及び開発途上にある島嶼国）に對し優先的待遇を与え、並びにこれらの締約国の個別の二一ズ及び特別の要請を検討することを奨励する。

14 締約国会議は、資金に関する財政委員会を設置する。同委員会は、ジェンダーの均衡及び衡平な地理的配分を考慮して、適当な資格及び専門知識を有する委員で構成される。同委員会の運営のための付託事項及び方法は、締約国会議が決定する。同委員会は、資金供与の制度に基づく資金の特定及び動員について定期的に報告し、及び勧告を行う。同委員会は、また、この協定の目的の達成のために直接又は間接に貢献する他の制度及び枠組みに基づく資金についても情報を収集し、及び報告する。同委員会は、この条に定める検討事項に加え、特に次の事項について検討する。

(a) 締約国（特に開発途上国である締約国）の二一ズの評価

(b) 資金の利用可能性及び適時の支払

(c) 資金の調達及び配分に関する意思決定及び管理の過程の透明性

(d) 資金の合意された利用に関する受領側の開発途上国である締約国の説明責任

15 締約国会議は、資金に関する財政委員会の報告及び勧告について審議し、並びに適当な措置をとる。

16 締約国会議は、また、特に開発途上国である締約国にとつての資金能力の開発及び海洋技術の移転を実施するための資金を含む。）の妥当性、有効性及び利用可能性を評価するために、資金供与の制度について定期的な検討を行う。

第八部 実施及び遵守

第五十三条 実施

締約国は、この協定の実施を確保するため、適当な場合には、必要な立法上、行政上又は政策上の措置をとる。

第五十四条 履行状況の監視

締約国は、この協定に基づく自国の義務の履行状況を監視し、並びにこの協定を実施するために自国がとった措置につき、締約国会議が決定する形式及び間隔で、締約国会議に報告する。

第五十五条 実施・遵守委員会

1 この協定の規定の実施を促進し、及び検討し、並びにこの協定の規定の遵守を促進するため、この協定により実施・遵守委員会を設置する。同委員会は、促進的な性格を有し、並びに透明性のある、敵対的でない及び懲罰的でない方法によって機能する。

2 実施・遵守委員会は、ジェンダーの均衡及び地理的に衡平に代表されることに妥当な考慮を払った上で、適当な資格及び経験を有する委員であって、締約国が指名し、締約国会議が選出するもので構成される。

3 実施・遵守委員会は、締約国会議がその第一回会合において採択する方法及び手続規則に従って運営される。同委員会は、特に個別の及び組織的な段階における実施及び遵守に関する事項を検討するものとし、並びに締約国会議に対し、定期的に報告し、及び各国の事情を認識した上で、適当な場合には、勧告を行う。

4 実施・遵守委員会は、その活動の過程において、必要な場合には、この協定に基づいて設置される機関、関連する法的文書及び法的枠組み並びに関連する世界的な、地域的な、小地域的な及び分野別の機関からの適当な情報を参考とすることができる。

第九部 紛争の解決

第五十六条 紛争の防止

締約国は、紛争を防止するために協力する。

第五十七条 平和的手段によって紛争を解決する義務

締約国は、この協定の解釈又は適用に関する紛争を交渉、審査、仲介、調停、仲裁、司法的解決、地域的機関若しくは地域的取極の利用又は当該締約国が選択するその他の平和的手段によって解決する義務を負う。

第五十八条 締約国が選択する平和的手段による紛争の解決

この部のいかなる規定も、この協定の解釈又は適用に関するこの協定の締約国の間の紛争を当該締約国が選択する平和的手段によって解決することにつき当該締約国がいつでも合意する権利を害するものではない。

第五十九条 技術的な性質を有する紛争

紛争が技術的な性質を有する事項に係る場合には、関係締約国は、当該関係締約国の間で設置する特別の専門委員会に当該紛争を付託することができる。当該専門委員会は、当該関係締約国と協議し、及び次条に定める紛争解決のための拘束力のある手続によることなく当該紛争を速やかに解決するよう努める。

第六十条 紛争解決手続

1 この協定の解釈又は適用に関する紛争は、条約第十五部に定める紛争解決のための規定に従って解決する。

2 この協定の締約国であって条約の当事国でないものが関係する紛争の解決については、条約第十五部及び条約附属書Vから同附属書VIIIまでの規定をこの協定の規定とみなすものとする。

3 この協定の締約国であって条約の当事国でもあるものが条約第二百八十七条の規定に従って受け入れた手続は、この部に定める紛争解決について適用する。ただし、そのような締約国がこの協定に署名し、この協定を批准し、承認し、若しくは受諾し、若しくはこの協定に加入する時に又はその後いつでも、この部に定める

紛争解決のために同条の規定に従って他の手続を受け入れた場合は、この限りでない。

4 この協定の締約国であって条約の当事国でもあるものが条約第二百九十八条の規定に従って行った宣言は、この部に定める紛争解決について適用する。ただし、そのような締約国がこの協定に署名し、この協定を批准し、承認し、若しくは受諾し、若しくはこの協定に加入する時に又はその後いつでも、この部に定める紛争解決のために同条の規定に従って異なる宣言を行った場合は、この限りでない。

5 2の規定に従い、この協定の締約国であって条約の当事国でないものは、この協定に署名し、この協定を批准し、承認し、若しくは受諾し、若しくはこの協定に加入する時に又はその後いつでも、寄託者に対し書面による宣言を行うことにより、この協定の解釈又は適用に関する紛争の解決のための次の手段のうち一又は二以上の手段を自由に選択することができる。

(a) 国際海洋法裁判所

(b) 国際司法裁判所

(c) 条約附属書VIIに規定する仲裁裁判所

(d) 条約附属書VIIIに規定する一又は二以上の種類の紛争のための特別仲裁裁判所

6 この協定の締約国であって条約の当事国でないもののうち宣言を行っていない締約国については、5(c)に規定する選択肢を受け入れているものとみなされる。紛争当事者が紛争の解決のために同一の手続を受け入れている場合には、当該紛争については、紛争当事者が別段の合意をしない限り、当該手続にのみ付することができ

る。紛争当事者が紛争の解決のために同一の手続を受け入れていない場合には、当該紛争については、紛争当事者が別段の合意をしない限り、条約附属書VIIの規定に基づく仲裁にのみ付することができる。5の規定に従って行われた宣言には、条約第二百八十七条から8までの

規定が適用される。

7 この協定の締約国であって条約の当事国でないものは、この協定に署名し、この協定を批准し、承認し、若しくは受諾し、若しくはこの協定に加入する時に又はその後いつでも、この部の規定に従って生ずる義務に影響を及ぼすことなく、この部の規定に基づく紛争解決のため、条約第二百九十八条に定める種類の紛争のうち一又は二以上の紛争について、条約第十五部第二節に定める手続のうち一又は二以上の手続を受け入れないことを書面によって宣言することができる。その宣言には、同条の規定が適用される。

8 この条の規定は、関連する法的文書若しくは法的枠組みの参加国として、又は関連する世界的な、地域的な、小地域的な若しくは分野別の機関の構成国として締約国が当該法的文書及び当該法的枠組みの解釈又は適用に関して同意した紛争解決手続に影響を及ぼすものではない。

9 この協定のいかなる規定も、ある区域の国の管轄の下にある区域としての法的地位についての検討に係り、若しくは当該法的地位についての検討が必要となる紛争について、又はこの協定の締約国の大陸若しくは島の領土に対する主権その他の権利若しくはこれらに対する主張に関する紛争について、裁判所に管轄権を与えらるものと解してはならない。ただし、この9のいかなる規定も、条約第十五部第二節に規定する裁判所の管轄権を制限するものと解してはならない。

10 この協定のいかなる規定も、陸域又は海域に対する主権、主権的権利又は管轄権に対する主張（これらに関連する紛争に関するものを含む）を行い、又は否定するための根拠としてはならないことが確認される。

第六十一条 暫定的な枠組み

紛争がこの部の規定に従って解決されるまでの

間、紛争当事者は、実質的な性質を有する暫定的な枠組みを設けるためにあらゆる努力を払う。

第十部 この協定の非締約国

第六十二条 この協定の非締約国

締約国は、この協定の非締約国に対し、この協定の締約国となり、かつ、この協定の規定に適合する法令を制定するよう奨励する。

第十一部 信義誠実及び権利の濫用

第六十三条 信義誠実及び権利の濫用

締約国は、この協定により負う義務を誠実に履行するものとし、また、この協定により認められる権利を権利の濫用とならないように行使する。

第十二部 最終規定

第六十四条 投票権

1 この協定の各締約国は、2に規定する場合を除くほか、一の票を有する。

2 この協定の締約国である地域的な経済統合のための機関は、その権限の範囲内の事項について、この協定の締約国であるその構成国の数と同数の票を投ずる権利を行使する。地域的な経済統合のための機関は、その構成国が自国の投票権を行使する場合には、投票権を行使してはならない。その逆の場合も、同様とする。

第六十五条 署名

この協定は、二千二十三年九月二十日から二千二十五年九月二十日までニューヨークにある国際連合本部において、全ての国及び地域的な経済統合のための機関による署名のために開放しておく。

第六十六条 批准、承認、受諾及び加入

この協定は、国及び地域的な経済統合のための機関により批准され、承認され、又は受諾されなければならない。この協定は、この協定の署名のための期間の終了の日の後は、国及び地域的な経済統合のための機関による加入のために開放しておく。批准書、承認書、受諾書及び加入書は、国際連合事務総長に寄託する。

第六十七条 この協定が規律する事項に関する地域的な経済統合のための機関及びその構成国の権限の分担

1 この協定の締約国となる地域的な経済統合のための機関であつてそのいずれの構成国も締約国となっていないものは、この協定に基づく全ての義務を負う。この協定の締約国となる地域的な経済統合のための機関であつてその一又は二以上の構成国がこの協定の締約国であるものについては、当該地域的な経済統合のための機関及びその構成国は、この協定に基づく義務の履行につきそれぞれの責任を決定する。この場合において、当該地域的な経済統合のための機関及びその構成国は、この協定に基づく権利を同時に行使することができない。

2 地域的な経済統合のための機関は、この協定が規律する事項に関する自己の権限の範囲をその批准書、承認書、受諾書又は加入書において宣言する。地域的な経済統合のための機関は、また、その権限の範囲に関連する変更を寄託者に通報し、寄託者は、これを締約国に通報する。

第六十八条 効力発生

1 この協定は、六十番目の批准書、承認書、受諾書又は加入書が寄託された日の後百二十日で効力を生ずる。

2 六十番目の批准書、承認書、受諾書又は加入書が寄託された後にこの協定を批准し、承認し、若しくは受諾し、又はこの協定に加入する国又は地域的な経済統合のための機関については、この協定は、1の規定に従うことを条件として、その批准書、承認書、受諾書又は加入書の寄託の後三十日目の日に効力を生ずる。

3 地域的な経済統合のための機関によつて寄託される文書は、1及び2の規定の適用上、当該地域的な経済統合のための機関の構成国によつて寄託されたものに追加して数えてはならない。

て寄託されたものに追加して数えてはならない。

第六十九条 暫定的な適用

1 この協定は、署名の時又は批准書、承認書、受諾書若しくは加入書の寄託の時に、寄託者に対する書面による通告により暫定的な適用に同意した国又は地域的な経済統合のための機関によつて暫定的に適用することができる。そのような暫定的な適用は、寄託者が当該通告を受領した日から有効となる。

2 国又は地域的な経済統合のための機関による暫定的な適用は、この協定が当該国若しくは地域的な経済統合のための機関について効力を生じた時又は当該国若しくは地域的な経済統合のための機関が暫定的な適用を終了させる意思を寄託者に対して書面により通告した時に終了する。

第七十条 留保及び除外

この協定については、他の条の規定により明示的に認められている場合を除くほか、留保を付することも、また、除外を設けることもできない。

第七十一条 宣言及び声明

前条の規定は、国又は地域的な経済統合のための機関が、この協定の署名、批准、承認若しくは受諾又はこの協定への加入の際に、特にその法令をこの協定の規定に調和させることを目的として、宣言又は声明(用いられる文言及び名称のいかんを問わない。)を行うことを排除しない。ただし、当該宣言又は声明は、これらを行った国又は地域的な経済統合のための機関に対するこの協定の規定の適用において、この協定の規定の法的効力を排除し、又は変更することを意味しない。

第七十二条 改正

1 締約国は、事務局に宛てた書面による通報により、この協定の改正を提案することができる。事務局は、当該通報を全ての締約国に送付する。当該通報の送付の日から六箇月以内に締

約国の二分の一以上がその要請に好意的な回答を行った場合には、締約国会議の次の会合において提案された改正について審議する。

2 第四十七条の規定に従つて採択されたこの協定の改正は、寄託者が全ての締約国に対し批准、承認又は受諾のために送付する。

3 この協定の改正は、当該改正の採択の時におけるこの協定の締約国の三分の二による批准書、承認書又は受諾書の寄託の後三十日目の日に、当該改正を批准し、承認し、又は受諾した締約国について効力を生ずる。その後は、必要とされる数の改正の批准書、承認書又は受諾書が寄託された後に当該改正の批准書、承認書又は受諾書を寄託する締約国については、当該改正は、その批准書、承認書又は受諾書の寄託の後三十日目の日に効力を生ずる。

4 改正については、当該改正を採択する際に、その効力発生のためにこの条に定める数よりも少ない数又は多い数の批准、承認又は受諾を必要とすることを定めることができる。

5 地域的な経済統合のための機関によつて寄託される文書は、3及び4の規定の適用上、当該地域的な経済統合のための機関の構成国によつて寄託されたものに追加して数えてはならない。

6 3の規定により改正が効力を生じた後にこの協定の締約国となる国又は地域的な経済統合のための機関は、別段の意思を表明しない限り、(a) 改正されたこの協定の締約国とされ、かつ、(b) 当該改正によつて拘束されない締約国との関係においては、改正されていないこの協定の締約国とされる。

第七十三条 廃棄

1 締約国は、国際連合事務総長に宛てた書面による通告を行うことによつてこの協定を廃棄することができるものとし、また、その理由を示

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>すことができる。理由を示さないことは、廃棄の効力に影響を及ぼすものではない。廃棄は、一層遅い日が通告に明記されている場合を除くほか、その通告が受領された日の後一年で効力を生ずる。</p> <p>2 廃棄は、この協定との関係を離れた国際法に基づき義務であつてこの協定に具現されているものを締約国が履行する責務に何ら影響を及ぼすものではない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>ことにより、附属書の改正について異議を申し立てることができる。異議は、寄託者に対して書面で通告することにより、いつでも撤回することができるものとし、この場合において、当該附属書の改正は、異議を撤回した日の後三十日目の日に当該締約国について効力を生ずる。</p> <p>第七十五条 寄託者</p> <p>この協定及びその改正の寄託者は、国際連合事務総長とする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>(r) 低い回復力及び復元力</p> <p>(s) 妥当性及び持続性</p> <p>(t) 複製可能性</p> <p>(u) 再生産の持続可能性</p> <p>(v) 保存管理措置の存在</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>(vi) 環境影響評価</p> <p>(c) 関連する基盤設備を含む。の構築及び強化(例えば、次のようなもの)</p> <p>(i) 必要な基盤の構築及び設置</p> <p>(ii) 技術標準抽出の方法及び設備(例えば、水の、地質学的な、生物学的な又は化学的な標本のためのものを含む。の提供</p> <p>(iii) いずれの国の管轄にも属さない区域の海洋遺伝資源及び当該海洋遺伝資源に係るデジタル配列情報に関する活動、区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。等の措置並びに環境影響評価の実施に関連する研究開発能力(データの管理に関する能力を含む。を支援し、及び更に向上させるために必要な設備の取得</p> <p>(d) 制度的能力及び国の規制の枠組み又は仕組みの構築及び強化(次の事項を含む。)</p> <p>(i) 統治の、政策的な及び法的な枠組み及び仕組み</p> <p>(ii) 国の立法上、行政上又は政策上の措置(国の、小地域的な及び地域的な段階における関連する規制上の、科学的な及び技術的な要件を含む。の策定、実施及び執行における支援</p> <p>(iii) この協定の規定の実施のための技術的な支援(データの監視及び報告のための支援を含む。)</p> <p>(iv) 効果的かつ効率的な政策のために情報及びデータを活用する能力(開発途上国である締約国の意思決定を行う者に根拠を提供するために必要な知識へのアクセス及び当該知識の取得を促進することによるものを含む。)</p> <p>(v) 関連する国の及び地域的な機関の制度的能力の確立又は強化</p> |
| <p>1 附属書は、この協定の不可分の一部を成すものとし、また、別段の明示の定めがない限り、この協定といい、又は第一部から第十二部までのいずれかの部を指しているときは、関連する附属書を含めていうものとする。</p> <p>2 この協定の改正に関する第七十二条の規定は、この協定の新たな附属書の提案、採択及び効力発生についても適用する。</p> <p>3 締約国は、締約国会議の次の会合における審議のために、この協定の附属書の改正を提案することができる。締約国会議は、附属書を改正することができる。第七十二条の規定にかかわらず、この協定の附属書の改正に関しては、次の規定を適用する。</p> <p>(a) 改正案は、会合の少なくとも百五十日前に事務局に通報する。事務局は、改正案を受領した場合には、当該改正案を締約国に送付する。事務局は、必要に応じ関連する補助機関と協議を行い、及び会合の三十日前までに改正案に係る回答を全ての締約国に送付する。</p> <p>(b) 会合において採択された改正は、当該会合の終了の後百八十日で、全ての締約国について効力を生ずる。ただし、4の規定に基づいて異議を申し立てた締約国については、この限りでない。</p> <p>4 いずれの締約国も、3(b)に規定する百八十日の期間内に寄託者への書面による通告を行う</p> | <p>第七十六条 正文</p> <p>この協定は、アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語をひとしく正文とする。</p> <p>附属書Ⅰ 区域の特定のための例示的な基準</p> <p>(a) 唯一の性質</p> <p>(b) 希少性</p> <p>(c) 種の生活史における特別な重要性</p> <p>(d) 区域に存在する種の特別な重要性</p> <p>(e) 脅威にさらされており、絶滅のおそれがあり、若しくは減少している種又はそれらの種の生息地にとつての重要性</p> <p>(f) 脆弱性(気候変動及び海洋の酸性化に対するものを含む。)</p> <p>(g) 壊れやすさ</p> <p>(h) 感受性</p> <p>(i) 生物の多様性及び生産力</p> <p>(j) 代表性</p> <p>(k) 依存性</p> <p>(l) 自然のままの度合い</p> <p>(m) 生態学的連結性</p> <p>(n) 区域で生じている重要な生態学的過程</p> <p>(o) 経済的及び社会的要素</p> <p>(p) 文化的要素</p> <p>(q) 境界を越える累積的な影響</p> | <p>この協定に基づき、能力の開発及び海洋技術の移転に関する取組には、次の事項を含めることができるが、これらに限定されない。</p> <p>(a) 利用しやすい様式による関連するデータ、情報、知見及び研究の共有(次の事項を含む。)</p> <p>(i) 海洋科学及び海洋技術に関する知見の共有</p> <p>(ii) いずれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する情報の交換</p> <p>(iii) 研究開発の成果の共有</p> <p>(b) 情報の普及及び啓発(次の事項に関するものを含む。)</p> <p>(i) 海洋の科学的調査、海洋科学並びに関連する海洋に係る活動及び役割</p> <p>(ii) 環境に関する生物学的な情報であつて、いづれの国の管轄にも属さない区域において行われた調査を通じて収集されたもの</p> <p>(iii) 関連する伝統的な知識であつて、当該知識を有する者の自由意思による情報に基づく事前の同意によるもの</p> <p>(iv) 海洋のストレスの要因であつて、いづれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性に影響を及ぼすもの(温暖化、海洋の溶存酸素量の減少等の気候変動の悪影響及び海洋の酸性化を含む。)</p> <p>(v) 区域に基づく管理手段(海洋保護区を含む。)</p> | <p>(v) 関連する国の及び地域的な機関の制度的能力の確立又は強化</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

- (vi) 国及び地域の科学的施設(データの保管場所を含む。)の設置
- (vii) 優れた地域的な施設の発展
- (viii) 技能の向上のための地域的な施設の発展
- (ix) 地域機関の間の協力関係(例えば、南北協力及び南南協力並びに地域的な海洋機関及び地域的な漁業管理のための機関の間の協力)の強化
- (e) 交流、研究協力、技術的な支援、教育及び訓練並びに海洋技術の移転を通じた人的な及び財務管理上の資源に係る能力並びに技術的な専門知識の構築及び強化(例えば、次のようなもの)
- (i) 海洋科学における協調及び協力(データの収集、技術的な交流、科学的調査に係る事業及び計画並びに開発途上国の機関と協力して共同の科学的調査に係る事業を立案することを通じたものを含む。)
- (ii) 次の事項に関する教育及び訓練
- a 科学及び研究に関する能力を向上させるための基礎及び応用双方の自然科学及び社会科学
- b 科学及び研究に関する能力を向上させるための技術並びに海洋科学及び海洋技術の応用
- c 政策及び統治
- d 伝統的な知識の関連性及びその応用
- (iii) 専門家(伝統的な知識に関する専門家を含む。)の交流
- (iv) 人的資源及び技術的な専門知識の構築のための資金供与(次の手段を通じたものを含む。)
- a 開発途上にある島嶼国である締約国の代表者に対する特定の能力の構築のための研修会、訓練計画その他関連する計画における奨学金又は他の援助の提供
- b 特に開発途上にある島嶼国に対する環

- 境影響評価に関する財政的及び技術的な専門知識及び資源の提供
- (v) 訓練された人的資源の間の協力網の形成に係る仕組みの確立
- (f) 手引、指針及び規格(次の事項を含む。)の作成及び共有
- (i) 基準及び参考資料
- (ii) 技術規格及び規則
- (iii) 環境影響評価を実施する方法、得られた教訓及び最良の慣行に関する知見及び能力を共有するための手引及び関連情報の保管場所
- (g) 技術的な、科学的な及び研究開発に関する計画(バイオテクノロジーの研究活動を含む。)の策定
- 審査報告書
- 職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する条約(第百五十五号)の締結について承認を求めるの件
- 右は全会一致をもって承認すべきものと議決した。よって要領書を添えて報告する。
- 令和七年五月二十二日
- 外交防衛委員長 滝沢 求
- 参議院議長 関口 昌一殿
- 要領書
- 一、委員会の決定の理由
- この条約は、作業に関連した事故及び健康に対する危害を防止することを目的として、職業上の安全及び健康並びに作業環境についてこの条約を締結した国が一貫した政策を定めることを規定するとともに、国の段階、企業の段階それぞれにおいてとるべき措置等を定めるものである。我が国がこの条約を締結することは、労働における安全衛生に係る規範の国際的な普及を促進する見地及び国内における労働災害の一

- 層の防止の見地から有意義であると考えられるので、妥当な措置と認める。
- 一、費用
- 別に費用を要しない。
- 職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する条約(第百五十五号)の締結について承認を求めるの件
- 右は本院において承認することを議決した。よって国会法第八十三条により送付する。
- 令和七年四月二十四日
- 衆議院議長 額賀福志郎
- 参議院議長 関口 昌一殿
- 職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する条約(第百五十五号)の締結について承認を求めるの件
- 職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する条約(第百五十五号)の締結について、日本国憲法第七十三条第三号ただし書の規定に基づき、国会の承認を求める。
- 職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する条約(第百五十五号)
- 国際労働機関の総会は、
- 理事会によりジュネーブに招集されて、千九百八十一年六月三日にその第六十七回会期として会合し、
- 前記の会期の議事日程の第六議題である安全及び健康並びに作業環境に関する提案の採択を決定し、
- この提案が国際条約の形式をとるべきであることを決定して、
- 次の条約(引用に際しては、千九百八十一年の職業上の安全及び健康条約と称することができ。を千九百八十一年六月二十二日に採択する。

- 第一部 適用範囲及び定義
- 第一条
- 1 この条約は、全ての経済活動部門について適用する。
- 2 この条約を批准する加盟国は、関係のある代表的な使用者団体及び労働者団体と可能な限り初期の段階において協議した上で、海上運送業、漁業その他の実質的で特殊な問題が生ずる特定の経済活動部門についてこの条約の一部又は全部の適用を除外することができる。
- 3 この条約を批准する加盟国は、国際労働機関憲章第二十二条の規定に従って提出するこの条約の適用に関する第一回の報告において、2の規定に基づいてこの条約の適用を除外することとした部門を、当該除外の理由を付すとともに、除外された部門の労働者に十分な保護を与えるためにとられる措置についての説明を付して記載し、また、その後の報告において一層広範な適用のための進展を明示する。
- 第二条
- 1 この条約は、対象となる経済活動部門の全ての労働者について適用する。
- 2 この条約を批准する加盟国は、関係のある代表的な使用者団体及び労働者団体と可能な限り初期の段階において協議した上で、特別の困難が存在する限られた種類の労働者についてこの条約の一部又は全部の適用を除外することができる。
- 3 この条約を批准する加盟国は、国際労働機関憲章第二十二条の規定に従って提出するこの条約の適用に関する第一回の報告において、2の規定に基づいてこの条約の適用を除外することとした限られた種類の労働者を当該除外の理由を付して記載し、また、その後の報告において一層広範な適用のための進展を明示する。
- 第三条
- この条約の適用上、

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(a) 「経済活動部門」とは、労働者が雇用されている全ての部門(公務を含む。)をいう。</p> <p>(b) 「労働者」とは、全ての被用者(公的機関の被用者を含む。)をいう。</p> <p>(c) 「職場」とは、労働者が作業を理由として所在し、又は行く必要がある場所であつて、使用者の直接的又は間接的な管理の下にある全てのものをいう。</p> <p>(d) 「規則」とは、権限のある機関により法的効力を与えられた全ての規定をいう。</p> <p>(e) 「健康」とは、作業に関連し、単に疾病又は病弱が存在しないことではなく、健康に影響を及ぼす身体的又は精神的な要素であつて作業中の安全及び衛生に直接関連するものを含む。</p>                                                                                              | <p>(b) 作業の物的要素と、作業を遂行し、又は管理する者との関係並びに労働者の身体的及び精神的な能力への機械、設備、作業時間、作業の構成及び作業工程の適合</p> <p>(c) 十分な水準の安全及び健康の達成に何らかの立場で関与する者に対する、訓練(必要な追加の訓練を含む)、資格付与及び動機付け</p> <p>(d) 作業集団及び企業並びにその他全ての適当な段階(国の段階を含む。)における連絡及び協力</p> <p>(e) 前条に規定する政策に従つて労働者及びその代表が適正にとつた行為の結果としての懲戒処分からの、当該労働者及びその代表の保護</p>                                                                                                                                          | <p>2 執行の制度は、法律及び規則の違反に対する適切な制裁を定める。</p> <p>第十条</p> <p>加盟国は、使用者及び労働者が法的義務に従うことを援助するため、これらの者を指導するための措置をとる。</p> <p>第十一条</p> <p>権限のある機関は、第四条に規定する政策を実施するため、次の業務が漸進的に行われることを確保する。</p> <p>(a) 事業に係る設計、構造及び配置に関する条件、事業の開始に関する条件、事業に影響を及ぼす主要な変更及び事業目的の変更に関する条件、作業に使用される技術的設備の安全に関する条件並びに権限のある機関が定める手続の適用に関する条件の決定(危険の性質及び程度により必要とされる場合に限る。)</p> <p>(b) 作業工程の決定並びに権限のある機関による曝露が禁止され、若しくは制限され、又は許可若しくは管理の対象とされる物質及び因子の決定(この場合において、同時に二以上の物質又は因子に曝露することに起因する健康への危険を考慮する。)</p> <p>(c) 使用者又は適当な場合には保険機関若しくはその他の直接関係する機関による職業上の事故及び疾病の届出手続の制定及び適用並びに職業上の事故及び疾病に関する年次統計の作成</p> <p>(d) 作業中に又は作業に関連して生ずる職業上の事故、疾病その他の健康に対する危害であつて重大な事態をもたらすと認められるものの調査の実施</p> <p>(e) 第四条に規定する政策に従つてとられる措置及び作業中に又は作業に関連して生ずる職業上の事故、疾病その他の健康に対する危害</p>                   | <p>(f) に関する情報の毎年の公表</p> <p>(f) 国内事情及び国内の可能性を考慮した上で、労働者の健康への危険に関する化学的、物理的及び生物学的な因子の調査を行う制度の導入又は拡大</p> <p>第十二条</p> <p>加盟国は、職業上の用に供される機械、設備又は物質を設計し、製造し、輸入し、提供し、又は輸送する者が次のことを行うことを確保するため、国内法及び国内慣行に従つて措置をとる。</p> <p>(a) 合理的に実行可能な限り、機械、設備又は物質が、これを正しく使用する者の安全及び健康に危険を引き起こさないことを確保すること。</p> <p>(b) 機械及び設備の正しい取付け及び使用並びに物質の正しい使用に関する情報、機械及び設備の危険並びに化学物質並びに物理的及び生物学的な因子又は製品の危険な特性に関する情報並びに既知の危険を回避する方法に関する指針を利用可能なものとする。</p> <p>(c) 研究及び調査を行うこと又は(a)及び(b)の規定を実施するために必要な科学的及び技術的な知識に常に精通していること。</p> <p>第十三条</p> <p>自己の生命又は健康に対する急迫した重大な危険が存在すると信ずる合理的な理由のある作業状態から自ら退避した労働者は、国内事情及び国内慣行に従い、不当な結果から保護される。</p> <p>第十四条</p> <p>加盟国は、国内事情及び国内慣行に適する方法で、かつ、全ての労働者の訓練に関するニーズを満たす方法により、全ての段階の教育及び訓練(高等技術教育、高等医学教育及び高等専門教育を含む。)において、職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する内容を含めることを促進するための措置をとる。</p> |
| <p>1 加盟国は、国内事情及び国内慣行に照らし、かつ、最も代表的な使用者団体及び労働者団体と協議した上で、職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する一貫した国内政策を定め、実施し、及び定期的に検討する。</p> <p>2 1の政策は、作業環境においてその存在が不可避な危険の原因を合理的に実行可能な限り最小限にすることにより、作業に起因し、若しくは関連し、又は作業中に生ずる事故及び健康に対する危害を防止することを目的とする。</p> <p>第五条</p> <p>前条に規定する政策は、措置に関する主要な分野であつて次に掲げるものを考慮しなければならない。ただし、職業上の安全及び健康並びに作業環境に影響を及ぼす場合に限る。</p> <p>(a) 作業の物的要素(職場、作業環境、器具、機械及び設備、化学的、物理的及び生物学的な物質及び因子並びに作業工程)の設計、試験、選択、代替、取付け、配置、使用及び保守</p> | <p>第四条に規定する政策を定めるに当たつては、公的機関、使用者、労働者その他の者の責任の補完的な性格並びに国内事情及び国内慣行を考慮して、職業上の安全及び健康並びに作業環境に関するこれらの者のそれぞれの職務及び責任を示さなければならない。</p> <p>第七条</p> <p>職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する状況は、主要な問題を特定すること、これらの問題に対処するための効果的な方法及び措置の優先順位を發展させること、並びに結果を評価することを目的として、全般的な又は特定の分野に関する、適当な間隔で検討される。</p> <p>第八条</p> <p>加盟国は、法律若しくは規則又は国内事情及び国内慣行に適合するその他の方法により、関係のある代表的な使用者団体及び労働者団体と協議した上で、第四条の規定を実施するために必要な手段をとる。</p> <p>第九条</p> <p>職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する</p> | <p>加盟国は、使用者及び労働者が法的義務に従うことを援助するため、これらの者を指導するための措置をとる。</p> <p>第十条</p> <p>加盟国は、使用者及び労働者が法的義務に従うことを援助するため、これらの者を指導するための措置をとる。</p> <p>第十一条</p> <p>権限のある機関は、第四条に規定する政策を実施するため、次の業務が漸進的に行われることを確保する。</p> <p>(a) 事業に係る設計、構造及び配置に関する条件、事業の開始に関する条件、事業に影響を及ぼす主要な変更及び事業目的の変更に関する条件、作業に使用される技術的設備の安全に関する条件並びに権限のある機関が定める手続の適用に関する条件の決定(危険の性質及び程度により必要とされる場合に限る。)</p> <p>(b) 作業工程の決定並びに権限のある機関による曝露が禁止され、若しくは制限され、又は許可若しくは管理の対象とされる物質及び因子の決定(この場合において、同時に二以上の物質又は因子に曝露することに起因する健康への危険を考慮する。)</p> <p>(c) 使用者又は適当な場合には保険機関若しくはその他の直接関係する機関による職業上の事故及び疾病の届出手続の制定及び適用並びに職業上の事故及び疾病に関する年次統計の作成</p> <p>(d) 作業中に又は作業に関連して生ずる職業上の事故、疾病その他の健康に対する危害であつて重大な事態をもたらすと認められるものの調査の実施</p> <p>(e) 第四条に規定する政策に従つてとられる措置及び作業中に又は作業に関連して生ずる職業上の事故、疾病その他の健康に対する危害</p> | <p>自己の生命又は健康に対する急迫した重大な危険が存在すると信ずる合理的な理由のある作業状態から自ら退避した労働者は、国内事情及び国内慣行に従い、不当な結果から保護される。</p> <p>第十四条</p> <p>加盟国は、国内事情及び国内慣行に適する方法で、かつ、全ての労働者の訓練に関するニーズを満たす方法により、全ての段階の教育及び訓練(高等技術教育、高等医学教育及び高等専門教育を含む。)において、職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する内容を含めることを促進するための措置をとる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

第十五条

1 加盟国は、第四条に規定する政策及びその政策の適用のための措置の整合性を確保するため、最も代表的な使用者団体及び労働者団体並びに適当な場合にはその他の団体と可能な限り初期の段階において協議した上で、第二部及びこの部の規定の実施を要請される様々な当局と団体との間における必要な調整を確保するために、国内事情及び国内慣行に適する措置をとる。

2 1に規定する措置には、状況が必要とし、かつ、国内事情及び国内慣行が許す場合には、中央機関の設置を含む。

第四部 企業の段階における措置

第十六条

1 使用者は、合理的に実行可能な限り、その管理の下にある職場、機械、設備及び工程が、安全かつ健康に対する危険がないものであることを確保することを要求される。

2 使用者は、合理的に実行可能な限り、適切な保護の措置がとられる場合には、その管理の下にある化学的、物理的及び生物学的な物質及び因子が、健康に対する危険のないものであることを確保することを要求される。

3 使用者は、必要な場合には、事故の危険又は健康に対して悪影響を及ぼす危険を合理的に実行可能な限り防ぐため、適切な保護衣及び保護具を提供することを要求される。

第十七条

二以上の企業が同一の職場において同時に業務に従事する場合には、これらの企業は、この条約の適用に当たり協力する。

第十八条

使用者は、必要な場合には、非常事態及び事故に対処するための措置(適切な応急措置を含む。)をとることを要求される。

第十九条

企業の段階において、次の事項に係る措置がとられなければならない。

(a) 使用者が自らに課された義務を履行することについて、労働者は、作業中において協力すること。

(b) 事業場における労働者代表は、職業上の安全及び健康の分野において使用者と協力すること。

(c) 職業上の安全及び健康を確保するために使用者がとる措置に関する十分な情報が、事業場における労働者代表に対して提供されること、並びに事業場における労働者代表が、商業上の秘密を漏らさないことを条件として、当該労働者代表を代表する団体と当該情報について協議することができること。

(d) 労働者及び事業場における労働者代表は、職業上の安全及び健康について適当な訓練を受けること。

(e) 労働者の作業に関連する職業上の安全及び健康のあらゆる側面について、労働者又は労働者代表及び、場合に応じ、事業場における当該労働者又は労働者代表を代表する団体が、国内法及び国内慣行に従って、調査することができ、及び使用者から協議を受けること。この目的のため、相互の合意により企業の外部から技術顧問を招くことができる。

(f) 労働者は、自己の生命又は健康に対する急迫した重大な危険が存在すると信ずる合理的な理由のある状態を直ちに直接の管理者に報告すること。この場合において、使用者は、必要がある場合には是正措置をとるまでは、労働者に対し、生命又は健康に対する急迫した重大な危険が引き続き存在する作業状態に戻ることを要求することができない。

第二十条

経営者と労働者又は労働者代表との間の企業内における協力は、第十六条から前条までの規定に従ってとられる組織的措置及びその他の措置の基本的要素を成す。

第二十一条

職業上の安全及び健康に係る措置は、労働者に経費を負担させるものであってはならない。

第五部 最終規定

第二十二条

この条約は、いかなる国際労働条約及び国際労働勧告も改正するものではない。

第二十三条

この条約の正式な批准は、登録のため国際労働事務局長に通知する。

第二十四条

1 この条約は、国際労働機関の加盟国であつてその批准が国際労働事務局長に登録されたもののみを拘束する。

2 この条約は、二の加盟国による批准が国際労働事務局長に登録された日の後十二箇月で効力を生ずる。

3 この条約は、この条約が効力を生じた後は、いずれの加盟国についても、自国による批准が登録された日の後十二箇月で効力を生ずる。

第二十五条

1 この条約を批准した加盟国は、この条約が最初に効力を生じた日から十年を経過した後は、登録のため国際労働事務局長に通知する文書によつてこの条約を廃棄することができる。廃棄は、廃棄が登録された日の後一年間は効力を生じない。

2 この条約を批准した加盟国であつて1に規定する十年の期間が満了した後一年以内にこの条に定める廃棄の権利を行使しないものは、更に十年間拘束を受けるものとし、その後は、十年

の期間が満了することに、この条に定める条件に従つてこの条約を廃棄することができる。

第二十六条

1 国際労働事務局長は、加盟国から通知を受けた全ての批准及び廃棄の登録について全ての加盟国に通報する。

2 国際労働事務局長は、通知を受けた二番目の批准の登録について加盟国に通報する際に、この条約が効力を生ずる日につき加盟国の注意を喚起する。

第二十七条

国際労働事務局長は、国際連合憲章第百二条の規定に従い、前諸条の規定に従つて登録した全ての批准及び廃棄の文書の完全な明細を、登録のため国際連合事務総長に通知する。

第二十八条

理事会は、必要と認めるときは、この条約の運用に関する報告を総会に提出するものとし、また、この条約の全部又は一部の改正に関する問題を総会の議事日程に加えることの可否を検討する。

第二十九条

1 総会がこの条約の全部又は一部を改正する新たな条約を採択する場合には、その新たな条約に別段の定めがある場合を除くほか、

(a) 加盟国によるその新たな改正条約の批准は、その新たな改正条約が効力を生じていることを条件として、第二十五条の規定にかかわらず、当然にこの条約の即時の廃棄を伴う。

(b) この条約は、その新たな改正条約が効力を生ずる日に加盟国による批准のための開放を終了する。

2 この条約は、これを批准した加盟国で1の改正条約を批准していないものについては、いかなる場合にも、その現在の形式及び内容により引き続き効力を有する。

第三十条

この条約の英語及びフランス語による本文は、ひとしく正文とする。

以上は、国際労働機関の総会が、ジュネーブで開催されて千九百八十一年六月二十四日に閉会を宣言されたその第六十七回会期において、正当に採択した条約の真正な本文である。

以上の証拠として、我々は、千九百八十一年六月二十五日に署名した。

総会議長

アリウヌ・ディアーニユ

国際労働事務局長

フランシス・ブランシヤール

審査報告書

千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締結について承認を求めるの件  
右は全会一致をもって承認すべきものと議決した。よって要領書を添えて報告する。

令和七年五月二十二日

外交防衛委員長 滝沢 求

参議院議長 関口 昌一殿

要領書

一、委員会の決定の理由

この条約は、漁船員が任務の遂行に必要な能力を備えること等を確保するため、漁船員の訓練及び資格証明並びに当直に関する国際基準を設定することを目的とするものであり、我が国がこの条約を締結することは、海上における人命及び財産の安全の確保並びに海洋環境の保護の見地から有意義であると考えられるので、妥当な措置と認める。

一、費用

別に費用を要しない。

千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締結について承認を求めるの件  
右は本院において承認することを議決した。よって国会法第八十三条により送付する。

令和七年四月二十四日

衆議院議長 額賀福志郎

参議院議長 関口 昌一殿

千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締結について承認を求めるの件  
千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締結について、日本国憲法第七十三条第三号ただし書の規定に基づき、国会の承認を求める。

千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約  
この条約の締結国は、千九百七十八年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約(以下「千九百七十八年のSTCW条約」という。)に留意し、

合意により漁船に雇い入れられる乗組員の訓練及び資格証明並びに当直に関する国際基準を設定することにより、海上における人命及び財産の安全を更に増進すること並びに海洋環境の保護を更に促進することを希望し、

漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約(以下「この条約」という。)の締結によりこの目的を最もよく達成することができることを考慮して、

次のとおり協定した。

第一条 一般的義務

1 締結国は、この条約及びこの条約の不可分の一部を成す附属書を実施することを約束する。「この条約」というときは、附属書を含めていうものとする。

2 締結国は、海上における人命及び財産の安全並びに海洋環境の保護の見地から、海上航行漁船の乗組員が任務を遂行するのに必要な能力及び適性を備えることを確保するため、この条約の十分かつ完全な実施に必要な法令の制定その他の措置をとることを約束する。

第二条 定義

この条約の適用上、別段の明文の規定がない限り、

1.1 「締結国」とは、自国についてこの条約の効力が生じている国をいう。

1.2 「主管庁」とは、漁船の旗国である締結国の政府をいう。

1.3 「証明書」とは、名称のいかんを問わず、この条約の規定に従って発給され、又は承認される有効な文書であつて、受有者に対し当該文書に記載する業務又は国内法令に規定する業務を行うことを認めるものをいう。

1.4 「証明書を与えられた」とは、正当に証明書を受有していることをいう。

1.5 「機関」とは、国際海事機関をいう。

1.6 「事務局長」とは、機関の事務局長をいう。

1.7 「漁船」とは、魚類その他の海洋生物資源を採捕するために商業的に使用する船舶をいう。

1.8 「海上航行漁船」とは、漁船のうち、内陸水域又は外洋の影響から保護されている水域若しくは港湾規則の適用水域若しくはこれらの水域に近接する水域のみを航行する漁船以外のものをいう。

第三条 適用

この条約は、締結国を旗国とする海上航行漁船において業務を行う乗組員に適用する。

第四条 情報の送付

各締結国は、次の情報を事務局長に送付する。  
1.1 この条約を十分かつ完全に実施するためにとった措置に関する報告(この条約の定めるところにより発給される証明書の見本を含む。)

1.2 附属書第一―五規則に規定するその他の情報

第五条 他の条約及び解釈

1 漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する従前の条約及び取極であつて締結国の間において効力を有するものは、その有効期間内は、次のものについて引き続き十分かつ完全な効力を有する。

1.1 この条約が適用されない漁船員

1.2 この条約が適用される漁船員に係る事項であつてこの条約に明文の規定がないもの

2 1に規定する条約又は取極がこの条約に抵触する場合には、締結国は、これらの条約又は取極に基づく約束とこの条約に基づく義務とが抵触しないことを確保するため、これらの約束について再検討する。

3 この条約に明文の規定がない事項については、締結国の法令に従うものとする。

第六条 資格証明

漁船員は、この条約の附属書の規定に従つて証明書を与えられる。

第七条 国内法令

1 各締結国は、自国が発給した証明書又は裏書の受有者による当該証明書に係る任務の遂行に関し、当該受有者の能力の欠如、作為又は不作為であつて、海上における人命若しくは財産の

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>安全又は海洋環境を直接脅かすおそれがあるものの報告があったときに、それら能力の欠如、作為又は不作為に関する公平な調査を行うための手順及び手続を設け、並びにそれら能力の欠如、作為又は不作為を理由とし、及び不正の防止を目的として、当該証明書を撤回し、停止し、及び取り消すための手順及び手続を設ける。</p> <p>2 各締約国は、自国を旗国とする漁船又は自国が正当に証明書を与えた漁船員に関し、この条約を実施するための国内法令が遵守されていない場合における罰又は懲戒処分について定める。</p> <p>3 2に規定する罰又は懲戒処分は、特に次の場合について定められ、及び執行される。</p> <p>3.1 所有者、所有者の代理人又は船長が、この条約によって要求される証明書を受有していない者を従業させた場合</p> <p>3.2 船長が、いずれかの職務区分におけるいずれかの業務細目又は業務であつて、適当な証明書を受有している者が遂行することが附属書の規則によって要求されるものにつき、適当な証明書又は臨時業務許可書を受有していない者が遂行することを容認した場合</p> <p>3.3 ある者が、いずれかの職務区分におけるいずれかの業務細目又は業務であつて、証明書又は臨時業務許可書を受有している者が遂行し、又は満たすことが附属書の規則によって要求されるものを遂行するために、詐欺によって又は偽造された文書によって雇用を得た場合</p> <p>4 締約国は、3に定めるこの条約の明らかな不遵守について責任を有している、又は知っていると明確な根拠により認められる所有者、所有者の代理人又はその他の者が自国の管轄内に所</p> | <p>在する場合において、いずれかの締約国が自国の管轄下において当該所有者、所有者の代理人又はその他の者に対する手続を開始する意思を当該締約国に通知したときは、当該いずれかの締約国に対しあらゆる可能な協力を行う。</p> <p>第八条 監督</p> <p>1 漁船は、他の締約国の港にある間、当該他の締約国から正当に権限を与えられた監督官の行う監督に服する。監督官は、船上で業務を行う者のうちこの条約により証明書を与えられることを要求されている全てのものが、当該証明書を与えられ、又は適当な臨時業務許可書を受有していることを確認する。</p> <p>2 監督を行う締約国は、附属書第一―四規則3に定める要件の不備が是正されていない場合（当該要件の不備のために人命、財産又は環境に対する危険がある場合に限る。）には、当該危険が除去される程度に当該要件の不備が是正されるまでの間、漁船を航行させないための措置をとる。当該措置に係る事実、速やかに事務局長及び主管庁に報告する。</p> <p>3 監督を行うに際しては、次のことを確保する。</p> <p>3.1 漁船を不当に抑留し、又は漁船の出航を不当に遅延させることのないように、あらゆる可能な努力を払う。漁船は、不当に抑留され、又は出航を不当に遅延させられた場合には、被った損失及び損害の賠償を受ける権利を有する。</p> <p>3.2 外国漁船の乗組員の場合に認められる裁量は、寄港国を旗国とする漁船の乗組員に与えられる裁量より小さいものであつてはならない。</p> <p>4 締約国でない国を旗国とする漁船が締約国を旗国とする漁船よりいかなる有利な取扱いも受</p> | <p>けることのないよう、必要な場合にはこの条の規定を準用する。</p> <p>第九条 技術協力の促進</p> <p>1 締約国は、この条約の目的を推進するため、開発途上国の特別の必要性を考慮した上、機関と協議し、及び機関の協力を得て、可能な場合には国、小地域又は地域を単位として、次の事項について技術援助を要請する他の国に対する支援を促進する。</p> <p>1.1 事務職員及び技術職員の訓練</p> <p>1.2 漁船員訓練機関の設立</p> <p>1.3 漁船員訓練機関に対する設備及び施設の供与</p> <p>1.4 適切な訓練計画（海上航行漁船における実習訓練を含む。）の開発</p> <p>1.5 その他漁船員の能力を向上させるための方法及び措置の採用の促進</p> <p>2 機関は、適当な場合には、他の国際機関、特に、国際労働機関及び国際連合食糧農業機関と協議し、又は協力して、1.1から1.5までの事項について技術援助を促進する。</p> <p>第十条 改正</p> <p>1 この条約は、この条に定めるいずれかの手続に従つて改正することができる。</p> <p>2 機関における審議の後の改正</p> <p>2.1 締約国の提案する改正案は、事務局長に提出するものとし、事務局長は、審議の六箇月前までに、当該改正案を機関の全ての加盟国、全ての締約国、国際労働事務局長及び国際連合食糧農業機関事務局長のそれぞれに対し回章に付する。</p> <p>2.2 2.1の規定により提案され、かつ、回章に付された改正案は、審議のため機関の海上安全委員会に付託する。</p> <p>2.3 締約国は、機関の加盟国であるかないかを</p> | <p>問わず、改正案の審議及び採択のため海上安全委員会の審議に参加する権利を有する。</p> <p>2.4 改正案は、2.3の規定により拡大された海上安全委員会（以下「拡大海上安全委員会」という。）に出席し、かつ、投票する締約国の三分の二以上の多数による議決で採択する。ただし、投票の際に締約国の少なくとも三分の一が出席していることを条件とする。</p> <p>2.5 2.4の規定に従つて採択された改正は、事務局長が全ての締約国に送付する。</p> <p>2.6 この条約のいずれかの条の改正は、締約国の三分の二が受諾した日に受諾されたものとみなす。</p> <p>2.7 附属書又は附属書の付録の改正は、次のいずれかの日に受諾されたものとみなす。</p> <p>2.7.1 改正が採択された日から二年を経過した日</p> <p>2.7.2 採択の際に拡大海上安全委員会に出席し、かつ、投票する締約国の三分の二以上の多数による議決で2.1に定める期間以外の期間（二年以上とする。）が決定された場合には、当該期間を経過した日</p> <p>ただし、定められた期間内に三分の一を超える締約国により事務局長に対し改正に反対する旨の通告が行われた場合には、当該改正は、受諾されなかったものとみなす。</p> <p>2.8 この条約のいずれかの条の改正は、受諾した締約国については、当該改正が受諾された日とみなされる日の後六箇月で効力を生ずるものとし、また、その日の後に受諾する締約国については、当該締約国の受諾の日の後六箇月で効力を生ずる。</p> <p>2.9 附属書及び附属書の付録の改正は、2.7の規定により当該改正に反対し、かつ、その反対</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>を撤回しなかつた締約国を除く全ての締約国について、当該改正が受諾されたとみなされる日の後六箇月で効力を生ずる。ただし、当該改正が効力を生ずべき日前においては、締約国は、その効力発生の日から一年以内の期間又は当該改正の採択の際に拡大海上安全委員会に出席し、かつ、投票する締約国の三分の二以上の多数による議決で決定する一層長い期間自国について当該改正の実施を延期する旨を事務局長に通告することができる。</p> <p>3 会議による改正</p> <p>3.1 機関は、いずれかの締約国が締約国の三分の一以上の同意を得て要請する場合には、国際労働事務局長及び国際連合食糧農業機関事務局長のそれぞれと協力し、又は協議して、この条約の改正について審議するため、締約国会議を招集する。</p> <p>3.2 事務局長は、締約国会議において出席し、かつ、投票する締約国の三分の二以上の多数による議決で採択された改正を、受諾のため、全ての締約国に送付する。</p> <p>3.3 改正は、締約国会議において別段の決定が行われない限り、2.6及び2.8又は2.7及び2.9にそれぞれ定める手続に従い、受諾されたものとみなされ、かつ、効力を生ずる。この場合において、2.7及び2.9中「拡大海上安全委員会」とあるのは、「締約国会議」と読み替えるものとする。</p> <p>4 改正の受諾若しくは反対の宣言又は2.9の規定に基づく通告は、事務局長に対し文書で行うものとし、事務局長は、当該文書の提出があったこと及びこれを受領した日を全ての締約国に通報する。</p> <p>5 事務局長は、効力を生ずる改正及びその効力発生の日を全ての締約国に通報する。</p> | <p>第十一條 署名、批准、受諾、承認及び加入</p> <p>1 この条約は、機関の本部において、千九百九十六年一月一日から同年九月三十日まで署名のため開放し、その後は加入のため開放しておく。いずれの国も、次のいずれかの方法によりこの条約の締約国となることができる。</p> <p>1.1 批准、受諾又は承認を条件とすることなく署名すること。</p> <p>1.2 批准、受諾又は承認を条件として署名した後、批准し、受諾し、又は承認すること。</p> <p>1.3 加入すること。</p> <p>2 批准、受諾、承認又は加入は、これらのための文書を事務局長に寄託することによって行う。</p> <p>第十二條 効力発生</p> <p>1 この条約は、十五以上の国が前条に定めるところにより批准、受諾若しくは承認を条件とすることなく署名し、又は批准書、受諾書、承認書若しくは加入書を寄託した日の後十二箇月で効力を生ずる。</p> <p>2 この条約の効力発生のための要件が満たされた後この条約の効力発生の日までにこの条約の批准書、受諾書、承認書又は加入書を寄託した国については、その批准、受諾、承認又は加入は、この条約の効力発生の日又はこれらの文書の寄託の日の後三箇月を経過する日のうちいずれか遅い日に効力を生ずる。</p> <p>3 この条約の効力発生の日の後に批准書、受諾書、承認書又は加入書を寄託した国については、この条約は、これらの文書の寄託の日の後三箇月で効力を生ずる。</p> <p>4 この条約の改正が第十条の規定に従つて受諾されたときとみなされる日の後に寄託される批准書、受諾書、承認書又は加入書は、改正された</p> | <p>この条約に係るものとする。</p> <p>第十三條 廃棄</p> <p>1 締約国は、自国についてこの条約の効力が生ずる日から五年を経過した後は、いつでもこの条約を廃棄することができる。</p> <p>2 廃棄は、事務局長に対する通告書によって行う。</p> <p>3 廃棄は、事務局長が廃棄の通告書を受領した後十二箇月で、又は通告書に明記された十二箇月よりも長い期間を経過した後に、効力を生ずる。</p> <p>第十四條 寄託者</p> <p>1 この条約は、機関の事務局長(以下「寄託者」という。)に寄託する。</p> <p>2 寄託者は、次のことを行う。</p> <p>2.1 この条約に署名し、又は加入している全ての国の政府に対し、次の事項を通報すること。</p> <p>2.1.1 新たに行われた署名又は批准書、受諾書、承認書若しくは加入書の寄託及びその署名又は寄託の日</p> <p>2.1.2 この条約の効力発生の日</p> <p>2.2 この条約の廃棄書の寄託及びその受領の日並びに廃棄が効力を生ずる日</p> <p>2.3 この条約に署名し、又は加入している全ての国の政府に対してこの条約の認証謄本を送付すること。</p> <p>3 この条約が効力を生じたときは、寄託者は、国際連合憲章第百二条の規定により、その認証謄本を登録及び公表のため、速やかに国際連合事務総長に送付する。</p> <p>第十五條 用語</p> <p>この条約は、ひとしく正文であるアラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語により原本一通を作成する。</p> | <p>以上の証拠として、下名は、各自の政府から正當に委任を受けてこの条約に署名した。</p> <p>千九百九十五年七月七日にロンドンで作成した。</p> <p>附属書</p> <p>第一章 一般規定</p> <p>第一一規則 定義</p> <p>1 この附属書の適用上、次の定義を適用する。</p> <p>1.1 「この規則」とは、この附属書の規則をいう。</p> <p>1.2 「承認された」とは、この規則に従つて締約国により承認されたことをいう。</p> <p>1.3 「船長」とは、漁船を指揮する者をいう。</p> <p>1.4 「職員」とは、船長以外の漁船の乗組員であつて、国内法令によりそのように定められているもの又は、国内法令に定めがない場合には、労働協約若しくは慣習によりそのように扱われているものをいう。</p> <p>1.5 「甲板部の当直を担当する職員」とは、第二二規則又は第二四規則に定めるところにより資格を有する職員をいう。</p> <p>1.6 「機関部職員」とは、第二五―二一規則、第二五―一二規則又は第二五―一二規則に定めるところにより資格を有する職員をいう。</p> <p>1.7 「機関長」とは、漁船の推進機関に関し責任を有し、並びに漁船の機械装置及び電気設備の運転及び保守に関し責任を有する首席機関部職員をいう。</p> <p>1.8 「二等機関士」とは、機関長の次の地位にあ</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                           |                                                                     |                                                                    |                                                                        |                                                                                        |                                                                                                                 |                                               |                                                                 |                                                                                      |                                                                          |                                                                                                              |                                      |                                                                                                                                                                                      |                                                           |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                  |                                  |                                                                                                                                                  |                                                                                         |                                                                                               |                                                        |                                                                                                                                                       |                                                                                                       |                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                       |                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>る機関部職員であつて、機関長に事故がある場合に漁船の推進機関に関し責任を有し、並びに漁船の機械装置及び電気設備の運転及び保守に関し責任を有することとなるものをいう。</p> | <p>1.9 「無線通信士」とは、無線通信規則の定めるところにより主管庁が発給し、又は承認する適当な証明書を受有する者をいう。</p> | <p>1.10 「無線通信規則」とは、効力を有する国際電気通信連合憲章及び国際電気通信連合条約を補完する無線通信規則をいう。</p> | <p>1.11 「千九百七十八年のSTCW条約」とは、千九百七十八年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約をいう。</p> | <p>1.12 「千九百九十三年のトレモリノス議定書」とは、千九百七十七年の漁船の安全のためのトレモリノス国際条約に関する千九百九十三年のトレモリノス議定書をいう。</p> | <p>1.13 「千九百九十二年のケープタウン協定」とは、千九百七十七年の漁船の安全のためのトレモリノス国際条約に関する千九百九十三年のトレモリノス議定書の規定の実施に関する千九百九十二年のケープタウン協定をいう。</p> | <p>1.14 「月」とは、一暦月又は一箇月未満の複数の期間から成る三十日をいう。</p> | <p>1.15 「海上航行業務」とは、漁船における業務であつて、証明書又は他の資格の発給又は更新に関連するものをいう。</p> | <p>1.16 「推進出力」とは、漁船の全ての主推進機関のキロワット表示による連続最大出力であつて、漁船登録の証明書その他の公的文書に記載されているものをいう。</p> | <p>1.17 「限定水域」とは、締約国の主管庁が定める締約国の近傍の水域であつて、当該水域内ではある程度の安全が認められており、全ての</p> | <p>漁船員の能力及び資格証明の基準につき、当該水域外における業務のための基準よりも低い水準に設定することが可能であるものをいう。主管庁は、限定水域の範囲を決定するに当たっては、機関が作成する指針を考慮する。</p> | <p>1.18 「無限定水域」とは、限定水域を越える水域をいう。</p> | <p>1.19 「長さ(L)」とは、キール線から測つた最小の型深さの八十五パーセントの位置における喫水線における全長の九十六パーセント又は当該喫水線における船首材の前面からラダー・ストックの中心線までの長さのうちいずれか大きいものをいう。傾斜したキールを有するように設計された漁船については、この長さを測るための喫水線は、計画喫水線と平行なものとする。</p> | <p>1.20 「型深さ」とは、キール線から作業甲板ビームの船側における上面までを測つた垂直の距離をいう。</p> | <p>1.21 「STCW-Fコード」とは、決議MSC五六二(108)によつて採択された漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関するコード(機関による改正を含む。)をいう。</p> | <p>1.22 「所有者」とは、漁船の所有者又は管理人、代理人、運航者、会社、委任を受けた代表者、裸傭船者その他の当該所有者以外の団体若しくは個人であつて、当該所有者から漁船の運航に係る責任を引き受け、かつ、その引受けに際して、この条約に従つて漁船の所有者に課される義務及び責任を引き継ぐことに同意したものをいう。この場合において、別の団体又は個人が漁船の所有者の義務又は責任の一部を果たすか否かを問わない。</p> | <p>1.23 「漁船員」とは、漁船において、職務区分の</p> | <p>いかんにかかわらず雇入れられ、若しくは従業し、又は職務を遂行する全ての者(漁船において労働する者であつて漁獲量に応じ報酬を受けるものを含み、水先人、軍艦の乗組員、政府に永続的に勤務するその他の者、漁船において仕事をを行う陸上を拠点とする者及び漁業オプザバーを除く。)をいう。</p> | <p>1.24 「業務細目」とは、STCW-Fコードに定める一連の作業、任務及び責任であつて、漁船の運航、海上における人命の安全又は海洋環境の保護に必要なものをいう。</p> | <p>1.25 「漁業練習船」とは、魚類の採捕及び貯蔵のために設計された専用の練習船であつて、次章の規定により要求される能力の実証及び評価のための訓練の機会を提供するものをいう。</p> | <p>1.26 「GMDSS無線通信士」とは、第二一六規則に定めるところにより資格を有する者をいう。</p> | <p>1.27 「資格証明書」とは、次章に定めるところにより船長、職員及びGMDSS無線通信士に対して発給され、及び裏書された証明書であつて、その正当な受有者に対し、当該証明書に明記された責任の水準で、その職務区分において業務を行い、かつ、関係する業務細目を遂行する権利を与えるものをいう。</p> | <p>1.28 「技能証明書」とは、漁船員に対して発給される資格証明書以外の証明書であつて、この条約に基づく訓練、能力又は海上航行業務の関連する要件が満たされていることを明記しているものをいう。</p> | <p>2 この規則は、STCW-FコードA部の義務的な規定によつて補足され、次の要件に従う。<br/>2.1 いずれかの規則の要件というときは、STCW-FコードA部の対応する節を含めてい</p> | <p>う。<br/>2.2 この規則の適用に当たっては、この条約の一層統一的な実施を世界的に達成するため、STCW-FコードB部に定める関連の指針及び説明資料を、最大限可能な限り考慮すべきである。<br/>2.3 STCW-FコードA部の規定の改正は、附属書に適用される改正手続に関する第十条の規定に従つて採択され、効力を生じ、及び実施される。<br/>2.4 STCW-FコードB部は、海上安全委員会においてその手続規則に従つて改正される。</p> | <p>1 第一一二規則 適用<br/>締約国の主管庁は、専ら自国の港から運航し、かつ、限定水域内で漁獲を行う長さ四十五メートル未満の漁船において業務を行う乗組員に対して、第二一三規則に定める要件、第二一四規則に定める要件及び第二一五一一規則、第二一五一一二規則又は第二一五一一三規則に定める要件の全て並びに英語の使用に関する要件を適用することが合理的又は実際的ないと考える場合には、この条約に定める安全の原則から逸脱することなしに、これらの規則の全部又は一部を当該乗組員については適用しないことを決定することができる。この場合において、主管庁は、当該乗組員の訓練及び資格証明に関して自国がとつた措置の詳細を事務局長に報告する。</p> | <p>2 この条約の適用上、主管庁は、全ての章について、測定の基礎として、長さ(L)に代えて次の総トン数を使用することを決定することができる。<br/>2.1 長さ(L)二十四メートルに相当するものとみなされる総トン数三百トン</p> | <p>令和七年五月二十三日 参議院会議録第二十一号 千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締結について承認を求めるの件 三一</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2.2 長さ〔一〕四十五メートルに相当するものとみなされる総トン数九百五十トン</p> <p>第一―三規則 証明書及び裏書</p> <p>1 漁船員の資格証明書は、この規則に定めるところにより業務、年齢、身体適性、訓練、能力及び試験に関する要件を満たしている場合にのみ、主管庁が発給する。</p> <p>2 1の規定により締約国が発給する資格証明書には、当該資格証明書の発給を証明する当該締約国が、STCW―FコードA部第一章第三節に定める様式1又は2により裏書をする。</p> <p>3 証明書及び裏書は、発給する国の公用語で作成するものとし、使用される公用語が英語でない場合には、英語による訳文を付する。</p> <p>4 締約国は、無線通信用士のための証明書の発給については、次のいずれかの方法をとることができる。</p> <p>4.1 無線通信規則の定めるところにより証明書を発給するための試験に、第二―六規則の規定により要求される追加の知識を含めること。</p> <p>4.2 第二―六規則の規定により要求される追加の知識を有していることを示す別個の証明書を発給すること。</p> <p>5 第一―七規則の規定により、他の締約国又は他の締約国から権限を与えられた者が発給した証明書を承認した主管庁は、STCW―FコードA部第一章第三節に定める様式3によりその承認を証明する裏書をする。</p> <p>6 裏書は、裏書された証明書の有効期間が満了し、又は当該証明書を発給した締約国が当該証明書を撤回し、停止し、若しくは取り消した場合には、直ちに効力を失うものとし、かつ、いかなる場合においても裏書された日の後五年以内に効力を失う。</p> | <p>7 機関長、機関部職員又はGMDSS無線通信士として業務を行うために千九百七十八年のSTCW条約の規定に従ってその受有者に発給された適当な資格証明書は、1の規定の適用上、漁船についての相当する証明書とみなす。</p> <p>8 千九百七十八年のSTCW条約附属書第一―九規則に定めるところにより発給された健康証明書は、漁船の乗組員について効力を有する。</p> <p>9 主管庁は、STCW―FコードA部第一章第三節に定める様式1から3までに基いて当該様式の変形と認められる範囲内で、同節に定める様式と異なる様式を使用することができる。</p> <p>ただし、当該様式には、少なくとも要求された情報を記載するものとし、記入事項は、ローマ文字及びアラビア数字による。</p> <p>第一―四規則 監督手続</p> <p>1 正当に権限を与えられた監督官が第八条の規定に基いて行う監督は、次の事項に限る。</p> <p>1.1 漁船において業務を行う漁船員のうちこの条約により証明書を与えられることを要求されている全てのものが、当該証明書を与えられ、又は必要な臨時業務許可書を受有していることを確認すること。証明書は、不正に取得されたものであると認める明確な根拠がある場合及び証明書の所持者が当該証明書の発給を受けた者と異なる者であると認める明確な根拠がある場合を除くほか、認容される。</p> <p>1.2 漁船が次のいずれかの事態を引き起こしたことにより、当該漁船においてこの条約により要求される当直の基準が維持されていないと認める明確な根拠がある場合に、その漁船員が当該基準を維持する能力を有しているか評価すること。</p> <p>1.2.1 衝突し、座礁し、又は乗り揚げたこと。</p> <p>1.2.2 航行中、びよう泊中又は係留中に国際条約に違反して物質を排出したこと。</p> | <p>1.2.3 機関が採択した航路指定の措置又は安全な航行に係る方式及び手続に従わず、無謀な又は危険な操船を行ったこと。</p> <p>1.2.4 その他人命、財産又は環境に対する危険をもたらすような方法で運航されていること。</p> <p>2 締約国の監督官は、1の規定により漁船において要件の不備を発見した場合には、適当な措置がとられるようにするため、当該漁船の船長及び主管庁に対し、直ちに文書で通報する。通報には、発見した要件の不備に関する詳細及び当該要件の不備のために人命、財産又は環境に対する危険があると当該締約国が判断する理由を明記する。</p> <p>3 人命、財産又は環境に対する危険をもたらすと認められる要件の不備には、次のことを含む。</p> <p>3.1 証明書の受有を要求されている者が、適当な証明書又は臨時業務許可書を所持していないこと。</p> <p>3.2 甲板部又は機関部の当直体制が、主管庁の定める要件を満たしていないこと。</p> <p>3.3 安全な航行、安全に関する無線通信又は海洋汚染の防止のために不可欠な装置を操作する能力を有する者が当直を担当していないこと。</p> <p>3.4 航海を開始する際の最初の当直及びその後の当直に休養をとった者を充てることができること。</p> <p>第一―五規則 情報の送付</p> <p>1 事務局長は、締約国が要請する場合には、第四条の規定に基づいて送付を受けた情報を当該締約国に提供する。</p> <p>2 締約国は、自国についてこの条約が効力を生</p> | <p>じた日の後二十四箇月以内に第四条の規定により要求される情報を送付しないときは、事務局長が当該情報を受領するまでの間、この条約に基づく特権を主張することができない。</p> <p>第一―六規則 資格証明の制度の運用</p> <p>1 各締約国は、能力に係る基準を達成するために必要な教育及び実習訓練を含む計画がその有効性を確保するために定期的に監視されることを確保するための手段を設定し、及び維持することを約束する。</p> <p>2 各締約国は、実行可能な範囲内で、発給され、有効期間が満了し、若しくは更新され、滅失した旨が報告され、停止され、又は取り消された第一―三規則及び第二―一規則から第二―六規則までに定める全ての証明書及び裏書並びに発給された臨時業務許可書の登録簿を管理し、並びに他の締約国によって要請されたときは、当該証明書、裏書及び臨時業務許可書の状況に関する情報を提供することを約束する。</p> <p>第一―七規則 証明書の承認</p> <p>1 締約国の主管庁は、第一―三規則の規定に従って裏書することにより他の締約国又は他の締約国から権限を与えられた者が発給した証明書を承認するため、能力に係る基準の要件並びに当該他の締約国による証明書の発給及び裏書の要件が十分に満たされていることを確保する。</p> <p>2 締約国でない国又は締約国でない国から権限を与えられた者が発給した証明書については、承認してはならない。</p> <p>3 締約国の主管庁は、第一―三規則5及びこの第一―七規則1に定める要件にかかわらず、他の締約国が発給した適当かつ有効な証明書であつて第一―三規則5の規定により要求される裏書をしていないものを受有する者に対し、必</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                  |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>要がある場合には、当該締約国を旗国とする漁船において、三箇月を超えない期間業務を行うことを認めることができる。ただし、裏書の申請が当該主管庁に提出されたことを証明する文書を提示することができることを条件とする。</p> | <p>第一八規則 経過規定</p> | <p>1 この条約により証明書が必要とされる職務区分につき締約国が自国についてこの条約の効力が生ずる前に自国の法令により又は無線通信規則の定めるところにより発給した資格証明書及び従業証明書は、当該締約国についてこの条約の効力が生じた後、有効なものと認められる。</p> <p>2 締約国は、自国についてこの条約の効力が生じた後五年を超えない期間、従前の例により資格証明書を発給することができる。当該資格証明書は、この条約の適用上有効なものと認められる。この経過期間において、当該資格証明書の発給は、発給を行う締約国についてこの条約の効力が生ずる前に当該資格証明書に係る特定の部門において海上業務を開始した者に対してのみ行う。締約国は、資格証明書を得ようとする他の全ての者が、この条約の定めるところにより試験を受け、及び証明書を与えられることを確保する。</p> <p>3 締約国は、自国についてこの条約の効力が生じた後二年以内は、この条約の定める適当な証明書又は自国についてこの条約の効力が生ずる前に自国の法令により発給した資格証明書のいずれも受有していない漁船員であつて次の要件を満たすものに對し、従業証明書を発給することができる。</p> <p>3.1 当該締約国についてこの条約の効力が生ずる前七年以内に三年以上の期間、海上において、当該従業証明書に係る職務区分において業務を行ったことがあること。</p> <p>3.2 3.1に規定する職務区分において良好に業務</p> | <p>を行った証拠を提示したこと。</p> <p>3.3 締約国が、申請時における年齢を考慮して身体適性特に、視覚及び聴覚に関するものを有すると認めたこと。</p> <p>この条約の適用上、この3の規定に基づいて発給された従業証明書は、この条約の定めるところにより発給された証明書と同等のものとみなす。</p> <p>第一九規則 臨時業務許可書</p> <p>1 主管庁は、例外的に必要となる場合において人命、財産又は環境に危険が生ずるおそれがないと認めるときは、いずれかの職務区分（関連する無線通信規則に別段の定めがない限り、無線通信士を除く。）において業務を行うための適当な証明書を受有していない者に對し、特定の漁船において、六箇月を超えない特定の期間、当該職務区分において業務を行うことを許可する臨時業務許可書を発給することができる。この場合において、臨時業務許可書の発給を受ける者は、その就くこととなる職の職務を安全に遂行することのできる十分な能力を有していると主管庁の認める者でなければならぬ。</p> <p>2 いずれかの職についての臨時業務許可書は、当該職の直下の職に就くために正当に証明書を与えられた者に對してのみ与える。当該職よりも下位の職の資格証明についてこの条約が定めていない場合には、臨時業務許可書は、その能力及び経験が当該職に必要とされる要件と明らかに同等であると主管庁の認める者に對して発給することができる。ただし、当該者がいかなる適当な証明書も受有していない場合には、臨時業務許可書が発給されても安全が損なわれないことを明らかにするためのものとして当該者が主管庁の認める試験に合格することを条件とする。主管庁は、適当な証明書の受有者が可能な限り速やかに当該職に就くことを確保する。</p> | <p>3 各締約国は、証明書が必要とされる職務区分ごとの臨時業務許可書の数に係る情報発給実績がない場合を含む。）を、毎年一月一日後可能な限り速やかに、事務局長に報告する。</p> <p>第一一〇規則 同等と認められる教育及び訓練の制度</p> <p>1 この条約は、締約国が、特に、技術の進歩に応じた及び特殊な形態の漁船に適合した海上航行業務及び船内組織に係る教育及び訓練の制度その他のこの条約が定めるところと異なる教育及び訓練の制度を維持し、又は採用することを妨げるものではない。ただし、漁船の航行上及び技術的な操船に関する海上航行業務、知識及び技能の水準が、少なくともこの条約が定める要件と同程度に、海上における安全を確保し、かつ、海洋汚染の防止の効果を有するものであることを条件とする。</p> <p>2 1に規定する制度に関する細目は、第四条に定める報告に含める。</p> <p>第一一一規則 シミュレーターの使用</p> <p>1 STCW-FコードA部第一章第十一節に規定する性能の基準及び他の規定並びに関係する証明書に係るSTCW-FコードA部に定めるその他の要件は、次の事項について遵守されなければならない。</p> <p>1.1 全てのシミュレーター訓練</p> <p>1.2 シミュレーターによつて実施される能力の評価であつてSTCW-FコードA部の規定により要求されるもの</p> <p>1.3 STCW-FコードA部の規定により要求されるシミュレーターによる技能の維持の実証</p> <p>第一一二規則 医療上の基準</p> <p>1 各締約国は、この第一一二規則及びSTCW-FコードA部第一章第十二節の規定に従つて、漁船員の身体適性の基準及び健康証明書の発給のための手続を定める。</p> <p>2 各締約国は、STCW-FコードA部第一章第十二節の規定に従い、漁船員の身体適性の評価について責任を有する者が、漁船員の健康検査を行うことを目的として、当該締約国によつて認められた医師であることを確保する。</p> <p>3 この条約の規定に従つて発給された証明書を受有する乗組員であつて海上において業務を行っているものは、この第一一二規則及びSTCW-FコードA部第一章第十二節の規定に従つて発給される有効な健康証明書も受有していなければならない。</p> <p>4 健康証明書を得ようとする者は、次の4.1又は4.2並びに4.3及び4.4の要件を満たさなければならない。</p> <p>4.1 十六歳以上であること。</p> <p>4.2 十五歳以上であること（当該証明書を得ようとする者が、国内法令及び国内慣行に従つて権限のある機関によつて認められる場合に限る。）。</p> <p>4.3 身元関係事項について十分な証明を提出すること。</p> <p>4.4 締約国が定める適用される身体適性の基準を満たすこと。</p> <p>5 健康証明書は、最長二年の期間有効とする。ただし、十八歳未満の乗組員の場合には、有効期間は、最長一年とする。</p> <p>6 健康証明書は、その有効期間が航海中に満了した場合には、締約国によつて認められた医師がいる次の寄港地まで、なおその効力を有する。ただし、その期間は、三箇月を超えないものとする。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>7 主管庁は、緊急の場合には、締約国によって認められた医師がいる次の寄港地まで、乗組員が、有効な健康証明書なしに労働することを許可することができる。ただし、次のことを条件とする。</p> <p>7.1 許可の期間が三箇月を超えないこと。</p> <p>7.2 当該乗組員が有効期間が満了した最近の健康証明書を所持していること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>第二章 船長、甲板部の当直を担当する職員、機関部職員及び無線通信士の資格証明</p> <p>第二一規則 無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長の資格証明のための最小限の要件</p>                                                                                                                                                                              | <p>1 無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長は、資格証明書を受有していなければならない。</p> <p>2 資格証明書を得ようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための要件を満たしており、かつ、長さ十二メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員又は船長として十二箇月以上の期間承認された海上航行業務を行ったことがあること。ただし、当該期間のうち六箇月を超えない期間について、締約国は、当該海上航行業務を、千九百七十八年のSTCW条約が適用される海上航行船舶において甲板部の当直を担当する職員として行った承認された海上航行業務により代替することを認めることができる。</p> <p>2.2 STCW-FコードA部第二章第一節に定</p> | <p>3 資格証明書を有しているものは、STCW-FコードA部第二章第一節に定める能力に係る基準であつて、相当する千九百七十八年のSTCW条約の証明書の発給のために同等以上の水準が要求されたものについて、再評価されることを要しない。</p> <p>第二一二規則 無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための最小限の要件</p> <p>1 無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員は、資格証明書を受有していなければならない。</p> <p>2 資格証明書を有しようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 十八歳以上であること。</p> <p>2.2 次のいずれかの期間承認された海上航行業務を行ったことがあること。</p> <p>2.2.1 承認された訓練計画(STCW-FコードA部第二章第二節に定める要件を満たす船上訓練であつて、承認された訓練記録簿に記載されるものを含む。)の一部として、長さ十二メートル以上の漁船又は漁業練習船において十二箇月以上の期間</p>                                                                                                                                                                                                                       | <p>2.2.2 長さ十二メートル以上の漁船の甲板部において二年以上の期間。ただし、主管庁は、当該海上航行業務を、一年を超えない期間について特別の訓練(この場合において、当該特別の訓練の計画が、これにより</p> | <p>代替される、要求される海上航行業務と少なくとも同等のものであることを条件とする。)により、又は千九百七十八年のSTCW条約が適用される承認された記録簿によつて証明される承認された海上航行業務により、代替することを認めることができる。</p> <p>2.3 STCW-FコードA部第二章第二節に定める能力に係る基準を満たすこと。</p> <p>2.4 無線通信規則に基づき指定された無線通信の任務を遂行するために適当な、第二一六規則に定める関係要件を満たすこと。</p> <p>3 資格証明書を有しようとする者であつて、千九百七十八年のSTCW条約に従つて発給された有効な資格証明書を有しているものは、STCW-FコードA部第二章第二節に定める能力に係る基準であつて、相当する千九百七十八年のSTCW条約の証明書の発給のために同等以上の水準が要求されたものについて、再評価されることを要しない。</p> <p>第二一三規則 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長の資格証明のための最小限の要件</p> <p>1 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長は、第二一一規則の規定により発給された証明書を受有している場合を除くほか、少なくともこの第二一三規則の規定により発給される資格証明書を受有していなければならない。</p> <p>2 資格証明書を有しようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 限定水域又は無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための要件を満たしており、かつ、長さ十二メートル</p> | <p>1 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員は、第二一二規則の規定により発給された証明書又は少なくともこの第二一四規則の規定</p> |
| <p>ル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員又は船長として十二箇月以上の期間承認された海上航行業務を行ったことがあること。ただし、当該期間のうち六箇月を超えない期間について、締約国は、当該海上航行業務を、千九百七十八年のSTCW条約が適用される海上航行船舶において甲板部の当直を担当する職員として行った承認された海上航行業務により代替することを認めることができる。</p> <p>2.2 STCW-FコードA部第三章第三節に定める能力に係る基準を満たすこと。</p> <p>2.2.1 締約国は、同一の限定水域において運航する全ての漁船及び稼働する全ての構造物の安全に及ぼす影響に留意した上、第一一一規則に規定する定義に従つて自国が定める限定水域を考慮し、及び能力に係る基準に含めるべき追加の事項を決定すべきである。</p> <p>4 資格証明書を有しようとする者であつて、千九百七十八年のSTCW条約に従つて発給された有効な資格証明書を有しているものは、STCW-FコードA部第二章第三節に定める能力に係る基準であつて、相当する千九百七十八年のSTCW条約の証明書の発給のために同等以上の水準が要求されたものについて、再評価されることを要しない。</p> <p>第二一四規則 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための最小限の要件</p> | <p>1 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員は、資格証明書を有しようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 十八歳以上であること。</p> <p>2.2 次のいずれかの期間承認された海上航行業務を行ったことがあること。</p> <p>2.2.1 承認された訓練計画(STCW-FコードA部第二章第二節に定める要件を満たす船上訓練であつて、承認された訓練記録簿に記載されるものを含む。)の一部として、長さ十二メートル以上の漁船又は漁業練習船において十二箇月以上の期間</p> | <p>2.2.2 長さ十二メートル以上の漁船の甲板部において二年以上の期間。ただし、主管庁は、当該海上航行業務を、一年を超えない期間について特別の訓練(この場合において、当該特別の訓練の計画が、これにより</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>代替される、要求される海上航行業務と少なくとも同等のものであることを条件とする。)により、又は千九百七十八年のSTCW条約が適用される承認された記録簿によつて証明される承認された海上航行業務により、代替することを認めることができる。</p> <p>2.3 STCW-FコードA部第二章第二節に定める能力に係る基準を満たすこと。</p> <p>2.4 無線通信規則に基づき指定された無線通信の任務を遂行するために適当な、第二一六規則に定める関係要件を満たすこと。</p> <p>3 資格証明書を有しようとする者であつて、千九百七十八年のSTCW条約に従つて発給された有効な資格証明書を有しているものは、STCW-FコードA部第二章第二節に定める能力に係る基準であつて、相当する千九百七十八年のSTCW条約の証明書の発給のために同等以上の水準が要求されたものについて、再評価されることを要しない。</p> <p>第二一三規則 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長の資格証明のための最小限の要件</p> <p>1 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長は、第二一一規則の規定により発給された証明書を受有している場合を除くほか、少なくともこの第二一三規則の規定により発給される資格証明書を受有していなければならない。</p> <p>2 資格証明書を有しようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 限定水域又は無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための要件を満たしており、かつ、長さ十二メートル</p> | <p>2.2.1 長さ十二メートル以上の漁船の甲板部において二年以上の期間。ただし、主管庁は、当該海上航行業務を、一年を超えない期間について特別の訓練(この場合において、当該特別の訓練の計画が、これにより</p> | <p>代替される、要求される海上航行業務と少なくとも同等のものであることを条件とする。)により、又は千九百七十八年のSTCW条約が適用される承認された記録簿によつて証明される承認された海上航行業務により、代替することを認めることができる。</p> <p>2.3 STCW-FコードA部第二章第二節に定める能力に係る基準を満たすこと。</p> <p>2.4 無線通信規則に基づき指定された無線通信の任務を遂行するために適当な、第二一六規則に定める関係要件を満たすこと。</p> <p>3 資格証明書を有しようとする者であつて、千九百七十八年のSTCW条約に従つて発給された有効な資格証明書を有しているものは、STCW-FコードA部第二章第二節に定める能力に係る基準であつて、相当する千九百七十八年のSTCW条約の証明書の発給のために同等以上の水準が要求されたものについて、再評価されることを要しない。</p> <p>第二一三規則 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長の資格証明のための最小限の要件</p> <p>1 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船の船長は、第二一一規則の規定により発給された証明書を受有している場合を除くほか、少なくともこの第二一三規則の規定により発給される資格証明書を受有していなければならない。</p> <p>2 資格証明書を有しようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 限定水域又は無限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員の資格証明のための要件を満たしており、かつ、長さ十二メートル</p> | <p>1 限定水域において運航する長さ二十四メートル以上の漁船において甲板部の当直を担当する職員は、第二一二規則の規定により発給された証明書又は少なくともこの第二一四規則の規定</p> |

により発給された資格証明書のいずれかを受有  
していなければならない。

2 資格証明書を得ようとする者は、次の要件を  
満たさなければならない。

2.1 十八歳以上であること。

2.2 次のいずれかの期間承認された海上航行業  
務を行ったことがあること。

2.2.1 承認された訓練計画（STCW-Fコー  
ドA部第二章第四節に定める要件を満たす  
船上訓練であつて、承認された訓練記録簿  
に記載されるものを含む。）の一部として、  
長さ十二メートル以上の漁船又は漁業練習  
船において十二箇月以上の期間

2.2.2 長さ十二メートル以上の漁船の甲板部に  
おいて二年以上の期間。ただし、主管庁

は、当該海上航行業務を、一年を超えない  
期間について特別の訓練（この場合におい  
て、当該特別の訓練の計画が、これにより  
代替される、要求される海上航行業務と少  
なくとも同等のものであることを条件とす  
る。）により、又は千九百七十八年のSTC  
W条約が適用される承認された記録簿に  
よつて証明される承認された海上航行業務  
により、代替することを認めることができ  
る。

2.3 STCW-FコードA部第二章第四節に定  
める能力に係る基準を満たすこと。

2.4 無線通信規則に基づき指定された無線通信  
の任務を遂行するため、適当な要件を満たす  
こと。

3 資格証明書を得ようとする者であつて、千九  
百七十八年のSTCW条約に従つて発給された  
有効な資格証明書を受有しているものは、ST  
C W-FコードA部第二章第四節に定める能力

に係る基準であつて、相当する千九百七十八年  
のSTCW条約の証明書の発給のために同等以  
上の水準が要求されたものについて、再評価さ  
れることを要しない。

第二一五——一規則 三千キロワット

以上の推進出力  
の主推進機関を  
備えた漁船の機  
関長及び一等機  
関士の資格証明  
のための最小限  
の要件

1 三千キロワット以上の推進出力の主推進機関  
を備えた海上航行漁船の機関長及び一等機関士  
は、資格証明書を受有していなければならない  
い。

2 資格証明書を得ようとする者は、次の要件を  
満たさなければならない。

2.1 七百五十キロワット以上の推進出力の主推  
進機関を備えた漁船において機関部の当直を  
担当する職員の資格証明のための要件を満た  
しており、かつ、当該職員の職務区分におい  
て、次の期間承認された海上航行業務を行つ  
たことがあること。

2.1.1 一等機関士の資格証明の場合には、資格  
を有する機関部職員として十二箇月以上の  
期間

2.1.2 機関長の資格証明の場合には、三十六箇  
月以上の期間。ただし、資格証明書を得よ  
うとする者が一等機関士として十二箇月以  
上の期間承認された海上航行業務を行つた  
ことがある場合には、この三十六箇月以上  
の期間を二十四箇月以上の期間に短縮する  
ことができる。

2.2 承認された教育及び訓練を修了し、かつ、  
STCW-FコードA部第二章第五——一  
節に定める能力に係る基準を満たすこと。

第二一五——二規則 七百五十キロ

ワット以上三千  
キロワット未満  
の推進出力の主  
推進機関を備え  
た漁船の機関長  
及び一等機関士  
の資格証明のた  
めの最小限の要  
件

1 七百五十キロワット以上三千キロワット未満  
の推進出力の主推進機関を備えた海上航行漁船  
の機関長及び一等機関士は、資格証明書を受有  
していなければならない。

2 資格証明書を得ようとする者は、次の要件を  
満たさなければならない。

2.1 七百五十キロワット以上の推進出力の主推  
進機関を備えた漁船において機関部の当直を  
担当する職員の資格証明のための要件及び次  
の要件を満たしていること。

2.1.1 一等機関士の資格証明の場合には、機関  
士補又は機関部職員として十二箇月以上の  
期間承認された海上航行業務を行つたこと  
があること。

2.1.2 機関長の資格証明の場合には、二十四箇  
月以上の期間承認された海上航行業務を  
行つたことがあること。ただし、当該期間  
のうち十二箇月以上の期間については、一  
等機関士として業務を行う資格を有し、か  
つ、機関部職員として業務を行つたもので  
なければならない。

2.2 承認された教育及び訓練を修了し、かつ、  
STCW-FコードA部第二章第五——二  
節に定める能力に係る基準を満たすこと。  
3 三千キロワット以上の推進出力の主推進機関  
を備えた漁船の一等機関士として業務を行う資  
格を有する機関部職員は、三千キロワット未満

の推進出力の主推進機関を備えた漁船の機関長  
として業務を行うことができる旨が証明書に裏  
書されている場合には、当該業務を行うことが  
できる。

第二一五——二規則 七百五十キロワット

以上の推進出力の主  
推進機関を備えた漁  
船において人員の配  
置がされる機関区域  
の機関部の当直を担  
当する職員又は定期  
的に無人の状態に置  
かれる機関区域の当  
番に指名される機関  
部職員の資格証明の  
ための最小限の要件

1 七百五十キロワット以上の推進出力の主推進  
機関を備えた海上航行漁船において、人員の配  
置がされる機関区域の機関部の当直を担当する  
職員又は定期的に無人の状態に置かれる機関区  
域の当番に指名される機関部職員は、資格証明  
書を受有していなければならない。

2 資格証明書を得ようとする者は、次の2.1及び  
2.5並びに2.4までのいずれかの要件を満た  
さなければならない。

2.2.1 十八歳以上であること。  
2.2.2 工作技能訓練と承認された海上航行業務と  
を合わせて十二箇月の期間行つたことがある  
こと。ただし、当該期間のうち六箇月以上の  
期間については、承認された訓練計画（STC  
W-FコードA部第二章第五——二節に定め  
る要件を満たす船上訓練であつて、承認され  
た訓練記録簿に記載されるものを含む。）の一  
部として、漁船又は漁業練習船において行つ  
たものでなければならない。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2.3 工作技能訓練と承認された海上航行業務とを合わせて十二箇月の期間行ったことがあること。ただし、当該期間のうち六箇月以上の期間については、承認された訓練計画（STCW—FコードA部第二章第五―二節に定める要件を満たす船上訓練であつて、承認された訓練記録簿に記載されるものを含む。）の一部として、千九百七十八年のSTCW条約に従つて運転する船舶又は練習船において行ったものでなければならぬ。</p> <p>2.4 機関室において、十二箇月以上の期間承認された海上航行業務を行ったことがあること。ただし、当該期間のうち六箇月を超えない期間について、主管庁は、必要と認める場合には、当該海上航行業務を工作技能訓練等の特別の訓練により代替することを認めることができる。この場合において、当該特別の訓練の計画が、これにより代替される、要求される海上航行業務と同等のものであることを条件とする。</p> <p>2.5 STCW—FコードA部第二章第五―二節に定める能力に係る基準を満たすこと。</p> <p>3 締約国は、推進機関の出力及び同一の限定水域において運転する全ての漁船の安全に及ぼす影響に留意した上、限定水域における航海に従事する漁船の機関部職員に対する能力に係る基準の要件及び海上航行業務の要件を変更することができる。</p> <p>4 必要な理論的知識及び実際の経験を与えるための訓練は、関連のある国際的な規則及び勧告を考慮して行わなければならない。</p> <p>第二―六規則 漁船におけるGMDSS無線通信士の資格証明のための最小限の要件</p> <p>注釈<br/>無線部の当直に関しては、無線通信規則及び二</p> | <p>千十二年のケープタウン協定に遵守すべき規定がある。無線設備の保守に関しては、千十二年のケープタウン協定に規定がある。これらの規定は、無線通信規則において義務的なものとされており、千十二年のケープタウン協定が効力を生ずる日から、同協定において義務的なものとされる。</p> <p>適用</p> <p>1 この第二―六規則の規定は、2に規定する場合を除くほか、国際条約に定めるところに従い、海上における遭難及び安全に関する世界的な制度（GMDSS）の下で運転する漁船の無線通信士について適用する。</p> <p>2 GMDSSの規定に従うことを要求されない漁船の無線通信士は、この第二―六規則の規定に従うことを要しないが、無線通信規則に従うことを要求される。主管庁は、当該無線通信士について、無線通信規則に定める適当な証明書が発給され、又は承認されることを確保する。</p> <p>GMDSS無線通信士の資格証明のための最小限の要件</p> <p>1 GMDSSの下で運転する漁船において無線通信の任務を担当し、又は遂行する者は、無線通信規則の定めるところにより主管庁が発給し、又は承認するGMDSSに係る適当な証明書を受有していなければならない。</p> <p>2 さらに、千十二年のケープタウン協定が効力を生じたときに、千九百九十三年のトレモリノス議定書又は同協定により無線設備を設置することが要求される漁船における業務に関する資格証明書であつて、この第二―六規則の規定に基づくものを得ようとする者は、次の要件を満たさなければならない。</p> <p>2.1 十八歳以上であること。</p> <p>2.2 承認された教育及び訓練を修了し、かつ、</p> | <p>STCW—FコードA部第二章第六節に定める能力に係る基準を満たすこと。</p> <p>3 無線通信規則の定めるところにより発給される全ての種類の証明書について、この条約の要件を満たしている旨が裏書されるために要求される知識、理解及び技能は、STCW—FコードA部第二章第六節に定める。締約国は、知識及び訓練の適当な水準の決定に当たっては、STCW—FコードB部第二章第六節の関連する勧告についても考慮する。</p> <p>第二―七規則 船長及び職員の証明書の更新</p> <p>1 この章の規定により発給され、又は承認された証明書を受有している船長及び職員であつて、海上において業務を行つていゝもの及び海上における業務に復帰する意思を有するものは、海上航行業務に対する適性を維持するため、五年を超えない期間ごとに、次のことを要求される。</p> <p>1.1 第一―十二規則に規定する身体適性の基準を満たすこと。</p> <p>1.2 STCW—FコードA部第二章第七節の規定に従つて専門的能力の維持を確立すること。</p> <p>2 各締約国は、二千三十一年一月一日前に発給される証明書を得ようとする者に要求した能力に係る基準をSTCW—FコードA部に規定する適当な証明書のための能力に係る基準と比較して、これらの証明書の受有者に対し、再教育のための及び最新の知識の習得のための適当な訓練又は評価を受けるよう要求する必要性を判断する。</p> <p>3 締約国は、関係者と協議の上、STCW—FコードA部第二章第七節に規定する再教育のための及び最新の知識の習得のための課程を制度</p> | <p>化し、又はその制度化を促進する。</p> <p>4 各主管庁は、船長及び職員が最新の知識を習得するため、自国を旗国とする漁船が海上における人命の安全及び海洋環境の保護に関する国内法令及び国際規則の最新の改正文書入手することができるようにする。</p> <p>第二―八規則 GMDSS無線通信士の証明書の更新</p> <p>1 この章の規定により発給され、又は承認された証明書を受有しているGMDSS無線通信士であつて、海上において業務を行つていゝもの及び海上における業務に復帰する意思を有するものは、海上航行業務に対する適性を維持するため、五年を超えない期間ごとに、次のことを要求される。</p> <p>1.1 第一―十二規則に規定する身体適性の基準を満たすこと。</p> <p>1.2 STCW—FコードA部第二章第八節の規定に従つて専門的能力の維持を確立すること。</p> <p>2 各締約国は、二千三十一年一月一日前に発給される証明書を得ようとする者に要求した能力に係る基準をSTCW—FコードA部に規定する適当な証明書のための能力に係る基準と比較して、これらの証明書の受有者に対し、再教育のための及び最新の知識の習得のための適当な訓練又は評価を受けるよう要求する必要性を判断する。</p> <p>3 締約国は、関係者と協議の上、STCW—FコードA部第二章第八節に規定する再教育のための及び最新の知識の習得のための課程を制度化し、又はその制度化を促進する。</p> <p>4 各主管庁は、GMDSS無線通信士が最新の知識を習得するため、自国を旗国とする漁船が無線通信及び海上における人命の安全に関する</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

国内法令及び国際規則の最新の改正文書を入力することができるようにする。

第三章 全ての漁船員に対する基本的な訓練及び船上の安全について精通するための訓練

第三―一規則 全ての漁船員に対する基本的な訓練及び船上の安全について精通するための訓練に関する最小限の要件

1 漁船員は、船内におけるいずれかの任務を割り当てられる前に、STCW―FコードA部第三章第一節の規定に従って次の要件を満たさなければならない。

1.1 主管庁により承認された基本的な訓練及び船上の安全について精通するための訓練を受けること。

1.2 適当な能力に係る基準を満たすこと。

2 証明書が発給されるために必要な資格に基本的な訓練が含まれない場合には、当該証明書の受取者が基本的な訓練の課程を良好に修了したことを示す技能証明書が発給される。

3 証明書を得ようとする者であって、千九百七十八年のSTCW条約に従って発給された有効な技能証明書を受有しているものは、STCW―FコードA部第三章第一節の表A―三―一―一から表A―三―一―四までに定める能力に係る基準であって、相当する千九百七十八年のSTCW条約の証明書の発給のために同等以上の水準が要求されたものについて、再評価されることを要しない。

第四章 当直

第四―一規則 任務への適合

当直体制は、当直を担当する乗組員の能力が疲労によって損なわれることのないようなものである

なければならない。当直体制は、航海を開始する際の最初の当直を担当する者及びその後当直を担当する者が十分な休養をとっており、及びその任務の遂行に適している状態にあるように編成する。

第四―二規則 漁船において遵守すべき基本的な当直の原則

1 主管庁は、安全な当直が常に維持されることを確保するために遵守すべきSTCW―Fコードに定める要件、原則及び指針につき、漁船の所有者及び運航者、船長、機関長並びに全ての当直を担当する乗組員の注意を喚起する。

2 全ての漁船の船長は、その時の状況を考慮して、当直体制が安全な当直の維持に十分なものであること及び船長の全般的な指揮の下に次のことを確保する。

2.1 甲板部の当直を担当する職員が、任務の遂行中、漁船を安全に航行させる責任を有し、かつ、いかなる時にも船橋又は海図室若しくは船橋制御室のような任務に直接関連する場所を離れないこと。

2.2 無線通信士が、任務の遂行中、適当な周波数で継続的な無線部の当直を維持する責任を有すること。

2.3 機関部の当直を担当する職員が、STCW―Fコードに定めるところに従って、機関長の指揮の下に、警報があり次第機関区域に行くことのできるようにしておくものとし、要求されるときは、当直の責任を有している期間、機関区域を離れないこと。

2.4 漁船の安全のために適切かつ効果的な当直が常に維持されること。

3 いかなる漁船も、少なくともSTCW―Fコードに定める基本的な当直の原則を考慮するものとする。ただし、締約国は、限定水域において運航する極めて小さい漁船については、基本的な原則の完全な遵守を免除することができる。

いて運航する極めて小さい漁船については、基本的な原則の完全な遵守を免除することができる。

む林業経営体の確保と森林の集積・集約化を進めることが重要である。また、林地開発許可制度においても森林の公益的機能の確保が不可欠であることから、太陽光発電設備の設置等に係る不適正な林地開発に対しては厳正に対処する必要がある。

審査報告書

森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律案

右は多数をもって可決すべきものと議決した。よって要領書を添えて報告する。

令和七年五月二十日

農林水産委員長 舞立 昇治

参議院議長 関口 昌一殿

要領書

一、委員会の決定の理由

本法律案は、最近における森林の経営管理をめぐる状況に鑑み、森林の循環利用を促進するため、市町村等が経営管理の集約化に関する目標等を定める構想を定めた場合に、市町村はその実現のため経営管理権及び経営管理実施権を一括で設定することを可能とするともに、施設実施協定に加え、施設整備等の共同化に関する協定を追加する等の措置を講じようとするものであり、おおむね妥当な措置と認める。なお、別紙の附帯決議を行った。

一、費用

本法施行のため、別に費用を要しない。

附帯決議

我が国の森林・林業は、木材価格の低迷、森林所有者の世代交代等により、森林所有者の経営意欲の低下や所有者不明森林が増加するなど、依然として厳しい状況にある。

こうした中、人工林の六割超が利用可能な段階を迎えるとともに、二〇五〇年ネット・ゼロの実現等に向け、森林資源の循環利用を進める必要性が高まっており、再造林等に責任を持って取り組む

よって政府は、本法の施行に当たり、次の事項の実現に万全を期すべきである。

一 集約化構想及び権利集積配分一括計画を内容とする新たな仕組みが現場に浸透し、林業経営の効率化及び森林管理の適正化の一体的促進が円滑に進むよう、市町村及び都道府県と協力して、森林所有者、森林組合、民間事業者など、地域の森林・林業関係者に新たな仕組みの周知を徹底すること。

二 集約化構想の前提となる協議の場の設置に当たっては、川上から川下までの事業者などの幅広い地域の関係者の参加を求めるとともに、デジタル技術を活用した森林資源情報の共有等を通じ、集約化構想の策定に向け、市町村や都道府県とこれらの地域の関係者が効果的に連携できるよう支援すること。

三 新たな仕組みを含む森林経営管理制度により経営管理実施権又は所有権を取得した林業経営体による適切な森林の経営管理を確保するため、これらの林業経営体の経営管理の実施状況について、市町村と都道府県が的確に把握し必要な対応を行うことができるよう、適切な助言等を行うこと。

四 市町村が、集約化構想や権利集積配分一括計画の作成等の新たな業務を円滑に実施することができるよう、市町村の林業部門担当職員の確保・育成を図る仕組みの確立、林業技術者等の活用に必要な支援の実施及び体制の整備を図ること。

五 再造林等に責任を持って取り組む林業経営体を確保するためには、林業労働力の育成を図る

ことが不可欠である。中小事業者を含む地域の林業経営体の事業量の拡大や立木価格の適正化等による林業就業者の所得の向上、労働安全対策をはじめとする就業条件改善に向けた対策の強化を図ること。林業分野における外国人材の受け入れについては、労働災害発生率が国内他産業に比して非常に高い現状に鑑み、労働安全確保に向け、万全を期すよう、対策の強化を図ること。

六 集約化構想を通じた集積・集約化に必要な条件整備が効果的に進むよう、デジタル技術を活用した境界明確化等の取組に対する支援を一層強化すること。

七 路網は、主伐等による木材の安定供給や、森林の有する多面的機能の持続的な発揮に必要な造林、保育、間伐等の施策を効率的に行うために不可欠な生産基盤であり、災害時の代替路など地域のインフラとしても活用できることから、路網整備に対する支援を一層強化すること。

八 我が国の住宅市場が縮小する中、森林資源の循環利用を図るため、住宅分野において輸入材の割合が高い横架材等の国産材への転換や、中高層建築分野における木材需要の創出など、国産材需要の拡大を図るとともに、これらの需要に対応した川上から川下までの安定的・効率的な供給体制を構築すること。

九 木材の安定供給体制の確立に向けては、中継拠点としての中間土場等の整備、安全かつ円滑に運搬できる林道整備の推進を通じて、原木輸送の効率化を図るとともに、トラック運転手の育成や丸太を運搬する事業者への支援を一層強化すること。

十 新たな仕組みを含む森林経営管理制度において中心的な役割を果たす市町村の負担軽減を図るべく、都道府県に対し市町村と積極的に連携し、集約化構想等の策定等に取り組むよう促すとともに、新設する経営管理支援法人制度によ

る市町村事務のアウトソーシング、地域林政アドバイザー制度の活用などに対する支援を一層強化すること。

十一 地域の実情に即した林業経営の低コスト化等に向けた先駆的な技術の開発・普及と民有林との連携の更なる推進のため、森林管理局等の地方組織の職員の人材育成、適正配置など、国有林野事業の実施体制を強化すること。

十二 林地開発に係る命令違反者の公表制度の運用に当たっては、命令違反に係る情報を容易に把握できるよう、各都道府県において情報を収集・共有する仕組みを設けるなど、必要な措置を講ずること。

十三 森林環境税及び森林環境譲与税について、集約化構想等の新たな仕組みへの活用を含め、市町村及び都道府県における一層の有効活用を促すとともに、地方公共団体の取組状況や制度創設の趣旨等を踏まえ、必要がある場合には、森林環境譲与税の使途や譲与基準を始め、適時適切に所要の対応を検討すること。

右決議する。

森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律案  
右の内閣提出案は本院においてこれを可決した。

よつて国会法第八十三条により送付する。

令和七年四月十一日

衆議院議長 額賀福志郎  
参議院議長 関口 昌一殿

森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律案  
森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律

(森林経営管理法の一部改正)  
第一条 森林経営管理法(平成三十年法律第三十

五号)の一部を次のように改正する。

目次中第五章 災害等防止措置命令等(第四章  
「第五章 経営管理の第一節 定義(第四  
十二条・第四十三条)」を  
第二章 地域林政  
第三節 権利集積  
第六章 経営管理支  
第七章 災害等防止

集約化の推進  
第十二条  
管理集約化構想の作成等(第四十三条―第五十  
配分一括計画の作成等(第五十一条―第五十六  
援法人(第五十七条―第六十一条  
措置命令等(第六十二条・第六十三条

条)に、「第六章」を「第八章」に、「第四十四  
―  
条―第四十六条」を「第六十四条―第六十六条」  
に、「第七章」を「第九章」に、「第四十七条―第  
五十一条」を「第六十七条―第七十一条」に、「第  
八章」を「第十章」に、「第五十二条・第五十三  
条」を「第七十二条・第七十三条」に改める。

第一条中「経営管理権集積計画を定め」を削  
る。  
第二条第三項中「第五章」を「第七章」に改め  
る。  
第四条第三項中「実施されることにより経営  
管理が行われるよう」を「実施されるよう」に改  
め、同条第四項中「いうの下に」を「第四十三  
条第五項第一号及び第五十一条第五項第二号に  
いて同じ」を加え、同条第五項に次のただし書  
を加える。

ただし、数人の共有に属する集積計画対象  
森林について経営管理権(その存続期間が五  
十年を超えないものであって、当該経営管理  
権に基づいて行われる経営管理の内容が間伐  
(これに係る木材の販売を含む)及び保育の  
みであるものに限る。第十条及び第五十一条  
第五項第三号ただし書において「間伐等経営

管理権」という。)を設定する場合における当  
該集積計画対象森林について所有権を有する  
者の同意については、当該集積計画対象森林  
の立木竹及び土地のそれぞれについて二分の  
一を超える共有持分を有する者の同意が得ら  
れていれば足りるものとする。

第五条の見出しを「意向調査」に改め、同条  
中「(第四十八条第一項第一号において「経営管  
理意向調査」という。))」を削り、同条に次のた  
だしを加える。

ただし、当該集積計画対象森林について、  
既に第四十五条第二項の規定による調査を  
行っている場合は、当該調査の実施をもつ  
て、この条の規定による調査の実施に代える  
ことができるものとする。

第十条中「全部」を「うちいずれかの者」に改  
め、「とき」の下に「(当該共有者不明森林につ  
いて間伐等経営管理権を設定する場合において、  
当該共有者不明森林の立木竹及び土地のそれぞ  
れについて二分の一を超える共有持分を有する  
者が当該経営管理権集積計画に同意している  
ことを除く。))」を加える。

第十一条第六号及び第二十五条第三号中「六  
月」を「二月」に改める。  
第四十条第一項中「第十五条第二項」を「又  
は第十五条第二項」に、「又は」を「若しくは」  
に改め、「第三十二条第二項」の下に「これらの規  
定を第五十三条において準用する場合を含む。  
」を加える。

第五十三条を第七十三条とする。  
第五十二条中「第四十二条第一項」を「第六  
十二条第一項」に改め、同条を第七十二条とす  
る。  
第八章を第十章とする。  
第七章中第五十一条を第七十一条とし、第五  
十条を第七十条とし、第四十九条を第六十九条  
とする。

第四十八条第一項第一号中「経営管理意向調査」を「第五条又は第四十五条第二項の規定による調査の実施」に改め、同項に次の二号を加える。

五 集約化構想の作成に関する事務

六 権利集積配分一括計画の作成に関する事務

第四十八条を第六十八条とする。

第四十七条中「第二十五条」の下に「これらの規定を第五十三条において準用する場合を含む。」を加え、同条を第六十七条とする。

第七章を第九章とする。

第六章中第四十六条を第六十六条とし、第四十五条を第六十五条とし、第四十四条を第六十四条とする。

第六章を第八章とする。

第四十三条第四項を削り、第五章中同条を第六十三条とし、第四十二条を第六十二条とする。

第五章を第七章とし、第四章の次に次の二章を加える。

第五章 経営管理の集約化の推進

第一節 定義

第四十二条 この章において「経営管理の集約化」とは、一体経営管理森林(自然的経済的社会的諸条件、その周辺の地域における土地の利用の動向その他の事情を勘案して、一体として経営管理を行うことが適当と認められる森林をいう。次条第一項及び第二項第一号並びに第四十五条第一項において同じ。)の区域において、必要な作業路網の整備その他の措置を講じつつ、当該区域内の森林ごとに必要な経営管理実施権の設定その他の措置を講ずることにより、一体的かつ効率的な経営管理の実施を実現することをいう。

2 この章において「適合事業者」とは、第四十四条第二項の規定により、経営管理を効率的

かつ安定的に行う能力を有し、かつ、経営管理を確実に行うに足りる経理的な基礎を有すると都道府県が認めて公表している民間事業者をいう。

第二節 地域経営管理集約化構想の作成等

(地域経営管理集約化構想の作成)

第四十三条 市町村は、単独で又は他の市町村若しくは都道府県(当該市町村又は当該他の市町村の区域をその区域に含む都道府県に限る。第三項において同じ。)と共同して、政令で定めるところにより、第四十五条第一項の協議の結果を踏まえ、一以上の一体経営管理森林が存する地域ごとに、当該地域における経営管理の集約化に関する構想(以下「集約化構想」という。)を定めることができる。

2 集約化構想においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

一 一体経営管理森林の区域

二 前号に掲げる区域における経営管理の方針

三 前号に掲げる方針を踏まえた経営管理の集約化に関する目標

四 前号に掲げる目標を達成するために必要な作業路網の整備その他の措置に関する方針

3 市町村(当該市町村が他の市町村又は都道府県と共同して集約化構想を定める場合にあっては、当該市町村及び当該他の市町村又は当該都道府県。以下「市町村等」という。)は、集約化構想において、前項第三号に掲げる目標として次に掲げる事項を定めるとともに、これらの事項を記載した地図を作成するものとする。

一 前項第一号に掲げる区域において経営管理が円滑に行われるよう経営管理実施権の設定その他の措置を講ずべき森林

令和七年五月二十三日 参議院会議録第二十一号

森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律案

二 適合事業者(次条第一項の規定による公募において、集約化構想が定められる場合に前項第一号に掲げる区域を含む同条第一項に規定する公募区域において経営管理を行うことを希望した適合事業者に限る。第七項及び第四十五条第一項において同じ。)の中から選定された前号に掲げる森林において経営管理を行うべき適合事業者

4 集約化構想においては、第二項各号に掲げる事項のほか、同項第一号に掲げる区域における経営管理の集約化に関する次に掲げる事項を定めることができる。

一 林道の開設及び改良に関する事項

二 前項第二号に掲げる適合事業者が同項第一号に掲げる森林の森林所有者等(森林法第十条の七に規定する森林所有者等)をいう。第四十九条において同じ。)となった場合における施業実施協定(同法第十条の十一第一項に規定する施業実施協定であつて、同項に規定する森林施業の共同化及びそのために必要な施設の整備に関する措置を内容とするものをいう。第四十九条において同じ。)又は施業施設協定(同法第十条の十一の九第一項に規定する施業施設協定をいう。第四十九条において同じ。)の締結に関する事項

5 集約化構想は、次に掲げる要件に該当するものでなければならない。

一 集約化構想を定める市町村が森林法第十条の五第二項の規定によりたてた市町村森林整備計画(第四十五条第一項において単に「市町村森林整備計画」という。)、当該市町村の区域をその区域に含む都道府県の治山事業の実施に関する計画その他地方公共団体の森林の整備及び保全に関する計画との調和が保たれたものであること。

二 経営管理の集約化を図るため必要なものとして農林水産省令で定める基準に適合するものであること。

6 集約化構想を定めた市町村等は、情勢の推移により必要が生じたときは、当該集約化構想を変更するものとする。

7 市町村等は、集約化構想を定め、又はこれを変更する場合には、あらかじめ、適合事業者及び第四十五条第一項の地域の関係者の意見を聴くものとする。ただし、農林水産省令で定める軽微な変更については、この限りでない。

8 市町村等は、集約化構想を定め、又はこれを変更する場合(前項ただし書の農林水産省令で定める軽微な変更をする場合を除く。)には、農林水産省令で定めるところにより、その旨を公告し、当該集約化構想の案を当該公告の日から二週間公衆の縦覧に供するものとする。この場合において、利害関係人は、当該縦覧期間満了の日までに、当該集約化構想の案について、当該市町村等に意見書を提出することができる。

9 市町村等は、集約化構想を定め、又はこれを変更したときは、農林水産省令で定めるところにより、遅滞なく、その旨を公告するものとする。

(民間事業者の公募及び公表)

第四十四条 都道府県は、農林水産省令で定めるところにより、定期的に、都道府県が定める区域(第五十条第一項において「公募区域」という。)ごとに、集約化構想が定められる場合に当該集約化構想において定められる前条第二項第一号に掲げる区域内の森林について経営管理を行うことを希望する民間事業者を公募するものとする。

2 都道府県は、農林水産省令で定めるところにより、前項の規定による公募に応募した民間事業者のうち次に掲げる要件に適合するも

の及びその応募の内容に関する情報を整理し、これを公表するものとする。

一 経営管理を効率的かつ安定的に行う能力を有すると認められること。

二 経営管理を確実に行うに足る経理的な基礎を有すると認められること。

(協議の場の設置等)

第四十五条 市町村等は、集約化構想を定める場合には、市町村森林整備計画を勘案して一以上の一体経営管理森林が存すると見込まれる地域ごとに、農林水産省令で定めるところにより、当該地域における一体経営管理森林の区域及び当該区域における経営管理の方針その他経営管理の集約化を図るために必要な事項について、適合事業者及び当該地域内の森林の森林所有者、木材関連事業者(木材の製造、加工、輸入、輸出又は販売をする事業、木材を使用して建築物その他の工作物の建築又は建設をする事業その他木材を利用する事業を行う者をいう。)その他の当該地域の関係者による協議の場を設け、その協議の結果を取りまとめるものとする。

2 集約化構想を定める市町村は、前項の協議を行う場合には、農林水産省令で定めるところにより、同項の地域(当該市町村の区域内のものに限る。)内の森林の森林所有者(第六条第一項の規定による申出に係るものを除く。)に対し、当該森林についての経営管理の意向に関する調査を行うものとする。ただし、当該森林について、既に第五条の規定による調査を行っている場合は、当該調査の実施をもって、この項の規定による調査の実施に代えることができるものとする。

3 市町村等は、第一項の協議を行う場合には、同項の地域の関係者の理解と協力を得るため、当該地域内の森林に関する地図を活用し、当該森林の森林所有者の当該森林につい

ての経営管理の意向、当該森林に係る森林資源の状況その他の経営管理の集約化に資する情報を提供することその他の必要な措置を講ずるものとする。

(関係権利者に関する情報の提供)

第四十六条 市町村等は、集約化構想を定めた場合には、農林水産省令で定めるところにより、構想森林(第四十三条第三項の規定により当該集約化構想において定められた同項第一号に掲げる森林をいう。以下同じ。)ごとに、構想適合事業者(同項の規定により当該集約化構想において定められた同項第二号に掲げる適合事業者をいう。以下同じ。)の求めに応じ、当該集約化構想の実現のために必要な限度において、当該構想適合事業者に対し、当該構想森林について所有権、地上権、質権、使用貸借による権利、賃借権又はその他の使用及び収益を目的とする権利を有する者(以下この条において「関係権利者」という。)の氏名その他の関係権利者に関する情報を提供することができる。

(不動産登記法の特例)

第四十七条 市町村等は、集約化構想を定めた場合において、一筆の土地(当該集約化構想において定められた第四十三条第一号に掲げる区域内の森林の土地に限る。)及びこれに隣接する他の土地であつて、森林法第九十一条の四第一項に規定する林地台帳に同項第三号に掲げる事項として当該一筆の土地と当該他の土地との境界に関する測量が実施された旨が記載されており、かつ、当該境界が特定されていないものがあるときは、不動産登記法平成十六年法律第二百二十三号)第三百三十一条第二項の規定にかかわらず、これらの土地の所有権登記名義人等(同法第二百二十三条第五号に規定する所有権登記名義人等をいう。)のうちいずれかの者の同意を得たとき

は、同法第二百五条に規定する筆界特定登記官に対し、当該一筆の土地と当該他の土地との筆界(同法第二百三十三条第一号に規定する筆界をいい、同法第十四条第一項の地図が作成されていないものに限り。)について、同法第二百三十三条第二号に規定する筆界特定の申請をすることができる。

(林道の開設及び改良に係る地域森林計画の変更等の要請)

第四十八条 市町村(集約化構想を市町村と共同して定めた都道府県の区域内の市町村を除く。)は、集約化構想において第四十三条第四項第一号に掲げる事項を定めた場合には、当該市町村の区域をその区域を含む都道府県の知事に対し、農林水産省令で定めるところにより、当該集約化構想において定められた当該事項に関連して必要となる森林法第五十一条の地域森林計画(以下この項及び次項において単に「地域森林計画」という。)をたて、又はこれを変更することの要請をすることができる。この場合においては、当該要請に係る地域森林計画の素案を添えなければならない。

2 前項の規定による要請を受けた都道府県知事は、遅滞なく、当該要請を踏まえた地域森林計画(当該要請に係る地域森林計画の素案の内容の全部又は一部を実現することとなる地域森林計画をいう。次項において同じ。)をたて、又はこれを変更する必要があるかどうかを判断し、その必要があると認めるときは、その案を作成しなければならない。

3 第二項の規定による要請を受けた都道府県知事は、当該要請を踏まえた地域森林計画をたて、又はこれを変更する必要があると判断したときは、遅滞なく、その旨及びその理由を、当該要請をした市町村に通知しなければならない。

(森林法の特例)

第四十九条 構想適合事業者が構想森林の森林所有者等となった場合において、集約化構想(第四十三条第四項第二号に掲げる事項が定められているものに限り。)に従って当該構想適合事業者が締結する施業実施協定又は施業施設協定に関する森林法第十条の十一の第三項(同法第十条の十一の九第三項において読み替えて準用する場合を含む。以下この条において同じ。)の規定の適用については、第四十三条第九項の規定による公告があつたことをもつて、同法第十条の十一の第三項の規定による公告及び縦覧があり、かつ、同項の縦覧期間が満了したものとみなす。

(適合事業者による集約化構想の作成の申出)

第五十条 適合事業者は、農林水産省令で定めるところにより、第四十四条第一項の規定による公募において集約化構想が定められる場合に経営管理を行うことを希望した公募区域内の森林の区域について、当該森林の所在地の市町村に対し、集約化構想を定めるべきことを申し出ることができる。

2 前項の規定による申出を受けた市町村は、当該申出に係る森林の区域について集約化構想を定めなければならないときは、その旨及びその理由を、当該申出をした適合事業者に通知するよう努めるものとする。

第三節 権利集積配分一括計画の作成等

(権利集積配分一括計画の作成)

第五十一条 市町村は、集約化構想を定めた場合において、当該集約化構想の実現のため、当該集約化構想において定められた構想森林の全部又は一部について、当該市町村への当該構想森林の経営管理権の集積及び当該経営管理権に基づく構想適合事業者への経営管理実施権の設定を一括して行うことが必要かつ

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>適当であると認めるときは、権利集積配分一括計画を定めるものとする。</p> <p>2 権利集積配分一括計画においては、当該権利集積配分一括計画に従って行われる次の各号に掲げる行為の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める事項を定めるものとする。</p> <p>一 市町村への経営管理権の集積 次に掲げる事項</p> <p>イ 市町村が経営管理権の設定を受ける構想森林(以下「一括計画対象森林」という。)の所在、地番、地目及び面積</p> <p>ロ 一括計画対象森林の森林所有者の氏名又は名称及び住所</p> <p>ハ 市町村が設定を受ける経営管理権の始期及び存続期間</p> <p>ニ 市町村が設定を受ける経営管理権に基づいて行われる経営管理の内容</p> <p>ホ 販売収益から伐採等に要する経費を控除してなお利益がある場合において森林所有者に支払われるべき金銭の額の算定方法並びに当該金銭の支払の時期、相手方及び方法</p> <p>ヘ 一括計画対象森林について権利を設定し、又は移転する場合には、あらかじめ、市町村にその旨を通知しなければならない旨の条件</p> <p>ト ハに規定する存続期間の満了時及び第九条第二項又は第五十三条において準用する第十五条第二項、第二十三条第二項若しくは第三十二条第二項の規定によりこれらの規定に規定する委託が解除されたものとみなされた時における清算の方法</p> <p>チ その他農林水産省令で定める事項</p> <p>二 構想適合事業者への経営管理実施権の設定 次に掲げる事項</p> <p>イ 経営管理実施権の設定を受ける構想適</p> | <p>合事業者の氏名又は名称及び住所</p> <p>ロ 構想適合事業者が経営管理実施権の設定を受ける一括計画対象森林の所在、地番、地目及び面積</p> <p>ハ ロに規定する一括計画対象森林の森林所有者の氏名又は名称及び住所</p> <p>ニ 構想適合事業者が設定を受ける経営管理実施権の始期及び存続期間</p> <p>ホ 構想適合事業者が設定を受ける経営管理実施権に基づいて行われる経営管理の内容</p> <p>ヘ ロに規定する一括計画対象森林に係る前号ホに規定する金銭の額の算定方法並びに当該金銭の支払の時期、相手方及び方法</p> <p>ト 市町村に支払われるべき金銭がある場合(チに規定する清算の場合を除く。)における当該金銭の額の算定方法及び当該金銭の支払の時期</p> <p>チ ニに規定する存続期間の満了時及び第四十一条第二項の規定により同項に規定する委託が解除されたものとみなされた時における清算の方法</p> <p>リ その他農林水産省令で定める事項</p> <p>3 前項第一号ホに規定する算定方法を定めるに当たっては、計画的かつ確実に伐採後の造林及び保育が実施されるよう、伐採後の造林及び保育に要する経費が適切に算定されなければならない。</p> <p>4 市町村は、集約化構想を定めた場合において、当該集約化構想の実現のため、第二項各号に定める事項のほか、当該集約化構想において定められた構想森林(一括計画対象森林を除く。以下この項において同じ。)の立木竹及び土地を対象として、構想適合事業者への所有権の移転の促進を行おうとするときは、権利集積配分一括計画に次に掲げる事項を定</p> | <p>めることができる。</p> <p>一 所有権の移転を受ける構想適合事業者の氏名又は名称及び住所</p> <p>二 構想適合事業者が所有権の移転を受ける構想森林の立木竹及び土地の所在、地番、地目及び面積</p> <p>三 構想適合事業者に前号に規定する構想森林の立木竹及び土地について所有権の移転を行う者の氏名又は名称及び住所</p> <p>四 構想適合事業者が移転を受ける所有権の移転の後における森林の立木竹及び土地の利用目的並びに当該所有権の移転の時期並びに移転の対価及びその支払の方法</p> <p>五 その他農林水産省令で定める事項</p> <p>5 権利集積配分一括計画は、次に掲げる要件に該当するものでなければならない。</p> <p>一 権利集積配分一括計画の内容が集約化構想の実現に資するものであること。</p> <p>二 森林法第十条の五第一項の規定によりたてられた市町村森林整備計画、都道府県の治山事業の実施に関する計画その他地方公共団体の森林の整備及び保全に関する計画との調和が保たれたものであること。</p> <p>三 第二項第一号に定める事項について、一括計画対象森林ごとに、当該一括計画対象森林について所有権、地上権、質権、使用貸借による権利、賃借権又はその他の使用及び収益を目的とする権利を有する者の全部の同意が得られていること。ただし、数人の共有に属する一括計画対象森林について間伐等経営管理権を設定する場合における当該一括計画対象森林について所有権を有する者の同意については、当該一括計画対象森林の立木竹及び土地のそれぞれについて二分の一を超える共有持分を有する者の同意が得られていなければならない。</p> <p>四 第二項第二号に定める事項について、一</p> | <p>一括計画対象森林ごとに、同号イに規定する構想適合事業者の同意が得られていること。</p> <p>五 前項各号に掲げる事項を定める場合にあっては、次のいずれにも該当すること。</p> <p>イ 前項第二号に規定する構想森林の立木竹及び土地ごとに、同項第一号に規定する構想適合事業者並びに当該構想森林の立木竹及び土地について所有権、地上権、質権、使用貸借による権利、賃借権又はその他の使用及び収益を目的とする権利を有する者の全部の同意が得られていること。</p> <p>ロ 前項第一号に規定する構想適合事業者が、所有権の移転が行われた後において、同項第二号に規定する構想森林の立木竹及び土地を同項第四号に規定する森林の立木竹及び土地の利用目的に即して適正かつ確実に利用することができることと認められること。</p> <p>(権利集積配分一括計画の公告等)</p> <p>第五十二条 市町村は、権利集積配分一括計画を定めたときは、農林水産省令で定めるところにより、遅滞なく、その旨を公告するものとする。</p> <p>2 前項の規定による公告があつたときは、その公告があつた権利集積配分一括計画のうち、前条第二項第一号に定める事項に係る部分にあっては前項の市町村が経営管理権集積計画を定めて第七条第一項の規定により公告したものと、前条第二項第二号に定める事項に係る部分にあっては前項の市町村が経営管理実施権配分計画を定めて第三十七条第一項の規定により公告したものとそれぞれみなし、この法律の規定を適用する。この場合において、第三十五条第二項第六号中「第四条第二項第五号」とあるのは「第五十一条第二項</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第一号ホ」と、第四十条第二項第二号中「第三十六条第二項各号」とあるのは「第四十四条第二項各号」とする。

3 第一項の規定による公告(前条第四項各号に掲げる事項が定められた権利集積配分一括計画に係るものに限る。第五十四条から第五十六条までにおいて同じ。)があったときは、その公告があつた権利集積配分一括計画の定めるところにより所有権が移転する。

(権利集積配分一括計画の作成手続の特例)

第五十三条 第二章第二節の規定は、権利集積配分一括計画のうち第五十一条第二項第一号に定める事項に係る部分を定める場合において、当該部分に係る一括計画対象森林のうちに、共有者不明森林、確知所有者不同意森林又は所有者不明森林があるときについて準用する。この場合において、第二十一条第一項及び第三十条第一項中「第七条第一項」とあるのは、「第五十二条第一項」と読み替えるものとする。

(登記の特例)

第五十四条 第五十二条第一項の規定による公告があつた権利集積配分一括計画に係る土地の登記については、政令で、不動産登記法の特例を定めることができる。

(森林法の特例)

第五十五条 第五十二条第一項の規定による公告があつたときは、森林法第十条の七の二第二項本文の規定による届出があつたものとみなす。

(勧告)

第五十六条 市町村の長は、第五十二条第一項の規定による公告があつた権利集積配分一括計画の定めるところによる所有権の移転を受けた構想適合事業者が当該権利集積配分一括計画において定められた森林の立木竹及び土地の利用目的に従つて森林の立木竹及び土地

を利用していないと認めるときは、当該構想適合事業者に対し、相当の期限を定めて、当該利用目的に従つて森林の立木竹及び土地を利用すべきことを勧告することができる。

第六章 経営管理支援法人

(経営管理支援法人の指定)

第五十七条 市町村の長は、特定非営利活動促進法(平成十年法律第七号)第二条第二項に規定する特定非営利活動法人、一般社団法人若しくは一般財団法人又は経営管理の実施を支援する活動を行う法人であつて、次条各号に掲げる業務を適正かつ確実に行うことができると認められるものを、その申請により、経営管理支援法人(以下「支援法人」という。)として指定することができる。

2 市町村の長は、前項の規定による指定をしたときは、当該支援法人の名称又は商号、住所及び事務所又は営業所の所在地を公示するものとする。

3 支援法人は、その名称若しくは商号、住所又は事務所若しくは営業所の所在地を変更するときは、あらかじめ、その旨を市町村の長に届け出なければならない。

4 市町村の長は、前項の規定による届出があつたときは、当該届出に係る事項を公示するものとする。

(支援法人の業務)

第五十八条 支援法人は、次に掲げる業務を行うものとする。

- 一 森林所有者、民間事業者その他経営管理を行う者とする者に対し、経営管理の実施に関する情報の提供又は相談その他の経営管理の実施のために必要な支援を行うこと。
- 二 経営管理の実施に関する調査研究を行うこと。
- 三 経営管理の実施に関する普及啓発を行うこと。

四 委託に基づき、現に経営管理が行われていない森林の森林所有者(第六十条第二項において単に「森林所有者」という。)の探索を行うこと。

五 前各号に掲げるもののほか、経営管理の実施を支援するために必要な事業又は事業を行うこと。

(監督等)

第五十九条 市町村の長は、前条各号に掲げる業務の適正かつ確実な実施を確保するため必要があると認めるときは、支援法人に対し、その業務に関し報告をさせることができる。

2 市町村の長は、支援法人が前条各号に掲げる業務を適正かつ確実に実施していないと認めるときは、支援法人に対し、その業務の運営の改善に関し必要な措置を講ずべきことを命ずることができる。

3 市町村の長は、支援法人が前項の規定による命令に違反したときは、第五十七条第一項の規定による指定を取り消すことができる。

4 市町村の長は、前項の規定により指定を取り消したときは、その旨を公示するものとする。

(情報提供等)

第六十条 国及び地方公共団体は、支援法人に対し、その業務の実施に関し必要な情報の提供又は指導若しくは助言をするものとする。

2 市町村の長は、支援法人から第五十八条第四号に掲げる業務の遂行のため森林所有者を知る必要があるとして、森林所有者に関する情報(以下この項及び次項において「所有者関連情報」という。)の提供の求めがあつたときは、当該森林所有者の探索に必要な限度で、当該支援法人に対し、所有者関連情報を提供するものとする。

3 前項の場合において、市町村の長は、支援

法人に対し所有者関連情報を提供するときには、あらかじめ、当該所有者関連情報を提供することについて本人(当該所有者関連情報によつて識別される特定の個人をいう。)の同意を得なければならない。

4 前項の同意は、その所在が判明している者に対して求めれば足りる。

(支援法人による経営管理権集積計画等の作成の申出)

第六十一条 支援法人は、農林水産省令で定めるところにより、当該支援法人を指定した市町村に対し、当該市町村の区域内の森林について経営管理権集積計画を定め、又は当該区域内の森林の区域について集約化構想を定めるべきことを申し出ることができる。

(森林法の一部改正)

第二条 森林法(昭和二十六年法律第二百四十九号)の一部を次のように改正する。

第六条第五項第一号中「及び第三号」を「から第四号まで」に改め、同項第三号を同項第四号とし、同項第二号の次に次の一号を加える。

三 前条第二項第七号に掲げる事項のうち森林経営管理法(平成三十年法律第三十五号)第四十八条第一項の規定による同項に規定する市町村からの要請に係る部分 農林水産大臣及び当該市町村の長に協議すること。

第十条の二第一項中「こえる」を「超える」に改め、同項ただし書中「一」を「いずれかに」に改め、同項各号中「行なう」を「行う」に改め、同条第二項第二号中「かん養」を「涵養」に改め、同条第四項中「条件を附する」を「擁壁、排水施設その他の森林の有する公益的機能を維持するために必要な施設を設置し、又は維持管理すべきことその他の条件を付する」に改める。

第十条の三「附した」を「付した」に改め、同条に次の一項を加える。

2 都道府県知事は、前項の規定による命令を受けた者が、正当な理由がなくて当該命令に従わなかったときは、その旨及び当該命令に係る森林の土地の地番その他必要な事項を公表することができる。

第十条の八第一項中「森林所有者等は」を「森林所有者等(市町村がその区域内において伐採する場合の当該市町村を除く。以下この条において同じ。)」に改める。

第十条の十一第一項中「この項」の下に「及び第十条の十一の九第一項を加え、同条第三項第二号イ及びロ中「申請」を「認可の申請」に改める。

第十条の十一の四第一項中「全てに」を「いずれにも」に改め、同項に次の一号を加える。

四 第十条の十一第一項の認可の申請に係る施業実施協定にあつては、森林経営管理法第四十三条第一項に規定する集約化構想が定められている場合において、当該集約化構想において定められた同条第二項第一号に掲げる区域が施業実施協定の対象とする森林の区域の全部又は一部を含むものであるときは、施業実施協定の内容が当該集約化構想の実現に資すると認められるものであること。

第十条の十一の八の次に次の一条を加える。

(施業施設協定)

第十条の十一の九 対象森林の森林所有者等及び当該対象森林の施業を実施するために必要な作業路網その他の施設(以下この条において「施業施設」という。)の施設所有者等当該施業施設の所有者、その敷地である土地の所有者又は当該土地の使用及び収益を目的とする権利(臨時設備その他一時的に使用する施設のため設定されたことが明らかなものを除く。)を有する者をいう。は、当該市町村の長の認可を受けて、当該対象森林について一定

の区域を定め、その区域内の森林の施業を実施するために必要な施業施設の設置又は維持運営に関する協定(以下この条において「施業施設協定」という。)を締結することができる。

2 施業施設協定においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

一 施業施設協定の目的となる前項の森林の区域及びその面積並びに施業施設の位置

二 施業施設の設置又は維持運営に関する事項

三 施業施設協定の有効期間

四 施業施設協定に違反した場合の措置

3 第十条の十一(第四項及び第五項に限る。)から前条までの規定は、施業施設協定並びに当該施業施設協定の対象となる森林及び施業施設について準用する。この場合において、

第十条の十一第四項中「森林の土地の所有者」とあるのは「施業施設協定の対象となる施業施設の施設所有者等(第十条の十一の九第一項に規定する施設所有者等という。以下同じ。)」と、第十条の十一の三第一項及び第十条の十一の四第一項中「第十条の十一の九第一項又は第二項とあるのは」第十条の十一の九第一項と、同項第二号中「森林」とあるのは「森林及び施業施設協定の対象とする施業施設」と、同項第四号中「第十条の十一第一項の認可の申請に係る施業実施協定にあつては、森林経営管理法」とあるのは「森林経営管理法」と、同条第二項中「明示」とあるのは「明示し、かつ、施業施設協定の対象とする施業施設である旨を当該施業施設内の見やすい場所に、又は当該施業施設が存する旨をその敷地である土地の区域内の見やすい場所に明示し」と、第十条の十一の五第一項、第十条の十一の七第一項及び前条第二項中「森林の土地の所有者」とあるのは「施設所有者等」と、

第十条の十一の六中「森林の土地の所有者」とあるのは「施業施設協定の対象とする施業施設の施設所有者等」と、第十条の十一の七第一項中「第十条の十一第一項若しくは第二項」とあるのは「第十条の十一の九第一項と、前条第一項中「第十条の十一第一項若しくは第二項」とあるのは「次条第一項」と読み替えるものとする。

第十条の十二の三第四号中「六月」を「二月」に改める。

第二百六条中第四号を第五号とし、第三号を第四号とし、同条第二号中「第十条の三」を「第十条の三第一項」に改め、同号を同条第三号とし、同条第一号の次に次の一号を加える。

二 第十条の二第二項の許可に付した同条第四項の条件(擁壁、排水施設その他の森林の有する公益的機能を維持するために必要な施設を設置し、又は維持管理すべきことを内容とするものに限る。)に違反し、開発行為をした者

附 則  
(施行期日)  
第一条 この法律は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。  
(共有者不明森林及び所有者不明森林に係る特例に関する経過措置)  
第二条 第一条の規定による改正後の森林経営管理法第十一条及び第二十五条の規定は、この法律の施行の日(以下「施行日」という。)以後にされる公告について適用し、施行日前にされた公告については、なお従前の例による。  
(伐採及び伐採後の造林の届出に関する経過措置)  
第三条 第二条の規定による改正後の森林法(次条及び附則第五条において「新森林法」という。)第十条の八第一項の規定は、施行日以後にされる

る伐採について適用し、施行日前にされた伐採については、なお従前の例による。  
(施業実施協定に関する経過措置)  
第四条 新森林法第十条の十一の四第一項(第四号に係る部分に限る。)及び第十条の十一の八第一項(同号に掲げる要件に係る部分に限る。)の規定は、施行日以後に新森林法第十条の十一第一項の認可の申請のあつた同項に規定する施業実施協定について適用し、施行日前に第二条の規定による改正前の森林法第十条の十一第一項の認可の申請のあつた同項に規定する施業実施協定については、なお従前の例による。  
(共有者不確知森林の共有者による森林の施業の円滑化に関する経過措置)  
第五条 新森林法第十条の十二の三の規定は、施行日以後に森林法第十条の十二の二第一項の規定による公告の申請があつた場合における当該申請に係る公告について適用し、施行日前に同項の規定による公告の申請があつた場合における当該申請に係る公告については、なお従前の例による。

(検討)  
第六条 政府は、この法律の施行後五年を目途として、この法律による改正後の森林経営管理法及び森林法の規定の施行の状況等を勘案し、当該規定に基づく規制の在り方について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。  
(住民基本台帳法の一部改正)  
第七条 住民基本台帳法昭和四十二年法律第八十一号の一部を次のように改正する。  
別表第二の五の四十一の項及び別表第四の四の四十一の項中「経営管理意向調査の実施を」「調査」に改め、「第二十四条の下に」「これらの規定を同法第五十三条において準用する場合を含む。」を加え、「又は同法第四十二条第一項」を「、同法第四十五条第二項の調査、同法第五

十一 一条第一項の権利集積配分一括計画の作成又は同法第六十二条第一項に改める。

(木材の安定供給の確保に関する特別措置法の一部改正)

第八条 木材の安定供給の確保に関する特別措置法平成八年法律第四十七号の一部を次のように改正する。

第四条第一項中「民間事業者」の下に「、同法第四十二条第二項に規定する適合事業者」を加える。

(独立行政法人農林漁業信用基金法の一部改正) 第九条 独立行政法人農林漁業信用基金法(平成十四年法律第二百二十八号)の一部を次のように改正する。

第十二条第三項中「第四十六条」を「第六十六条」に改める。

(地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律の一部改正)

第十条 地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律(令和六年法律第十八号)の一部を次のように改正する。

第二十条第二項中「及び当該市町村」を削り、「認定連携市町村等」を「認定連携活動実施者」に改める。

審査報告書

民事裁判情報の活用に関する法律案  
右は全会一致をもって可決すべきものと議決した。よつて要領書を添えて報告する。

令和七年五月二十二日

法務委員長 若松 謙維  
参議院議長 関口 昌一殿

要領書

一、委員会の決定の理由  
本法律案は、民事裁判情報の適正かつ効果的な活用の促進を図るため、国の責務及び法務大

臣による基本方針の策定について定めるとともに、民事裁判情報を加工して第三者に提供する業務等を行う法人の指定に関する制度を創設する等の措置を講じようとするものであり、妥当な措置と認める。

なお、別紙の附帯決議を行った。  
一、費用  
本法施行のため、別に費用を要しない。

附帯決議

政府及び最高裁判所は、本法の施行に当たり、次の事項について格段の配慮をすべきである。

一 民事裁判情報管理提供業務を行う法人を指定する際には、民事裁判情報に含まれる個人情報に漏えい等を防止するために必要な安全管理措置を講じることができるとする技術的能力及び経理的基礎について、厳格かつ公平に審査すること。また、指定後においても、民事裁判情報は仮名処理後も個人を容易に特定し得る場合があり、広く社会に拡散しやすい性質を有することに鑑み、業務の委託先及び再委託先を含め、当事者や関係者のプライバシー保護の要請に十分に配慮した措置に加え、適切な安全管理措置を講じるとともに、保有民事裁判情報等の目的外使用を行わないよう、指定法人に対し必要かつ適切な監督を行うこと。

二 仮名加工民事裁判情報等の提供料金については、民事裁判情報管理提供業務の適正かつ確実な実施のために必要な経費を勘案しつつ、利用者にとつて過度な負担とならないよう配慮すること。

三 先例的価値及び社会的関心の高い判例情報を幅広く国民に提供することが本法の施行後も引き続き重要であることに鑑み、現在行われている裁判所ウェブサイトにおける判例情報の提供について、今後とも更に適切な運用に努めるこ

と。

四 附則第五条に基づく五年経過後の検討を行うに当たっては、諸外国における判例情報の公開に関する法制の動向等も勘案し、民事裁判情報の確実かつ安定的な公開のために必要な体制の在り方について検討を行うこと。  
右決議する。

民事裁判情報の活用に関する法律案

右の内閣提出案は本院においてこれを可決し、よつて国会法第八十三条により送付する。  
令和七年五月八日

衆議院議長 額賀福志郎  
参議院議長 関口 昌一殿

民事裁判情報の活用に関する法律案

民事裁判情報の活用に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、デジタル社会の進展に伴い民事裁判情報に対する需要が多様化していることに鑑み、民事裁判情報の活用に関する法律の責務、法務大臣による基本方針の策定、民事裁判情報を加工して第三者に提供する業務等を行う法人の指定等について定めることにより、民事裁判情報の適正かつ効果的な活用のための基盤の整備を図り、もつて創造的かつ活力ある社会の発展に資することを目的とする。

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一 民事裁判情報 民事訴訟手続及び行政事件訴訟手続において作成された次に掲げる電磁的記録(電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によつては認識することができない方式で作られる記録であつて、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。以下同

じ。)に記録されている事項に係る情報をいう。

イ 電子判決書(民事訴訟法(平成八年法律第百九号)第二百五十二条第一項に規定する電子判決書をいい、同法第二百五十三条第二項の規定により裁判所の使用に係る電子計算機(入出力装置を含む。)に備えられたファイル(以下この号において単に「ファイル」という。)に記録されたものに限る。)

ロ 民事訴訟法第二百五十四条第二項の電子調書(同法第六十条第二項の規定によりファイルに記録されたものに限る。)

ハ 電子決定書(民事訴訟法第二百二十二条において準用する同法第二百五十二条第一項の規定により作成された電磁的記録をいい、同法第二百五十二条において準用する同法第二百五十三条第二項の規定によりファイルに記録されたものに限る。)であつて、法令の解釈適用について参考となる裁判に係るものとして法務省令で定めるもの

二 保有民事裁判情報 第五条第二項に規定する指定法人が第七条第一項の規定により最高裁判所から提供を受けた電磁的記録に記録されている民事裁判情報であつて、当該指定法人が保有しているものをいう。

三 仮名加工民事裁判情報 保有民事裁判情報に含まれる特定の個人(当該保有民事裁判情報に係る裁判をした裁判官その他この号に規定する措置を講じなくてもその権利利益を害するおそれがないと認められる者として法務省令で定める者を除く。以下この号及び第十三条において同じ。)の氏名、生年月日その他の特定の個人を識別することができることとなる情報及び個人識別符号(個人情報保護に関する法律(平成十五年法律第五十七号)第二条第二項に規定する個人識別符号をいう。以下この号において同じ。)の全部又は一

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>部を削除する措置(当該情報及び個人識別符<br/>号を復元することのできる規則性を有しない<br/>方法により他の情報に置き換えることを含<br/>む。)を講じて他の情報と照合しない限り特定<br/>の個人を識別することができないように保有<br/>民事裁判情報を加工して得られる情報をい<br/>う。</p> <p>四 民事裁判関連情報 民事裁判情報に関連す<br/>る情報であつて、当該民事裁判情報に係る裁<br/>判について上訴があつた旨その他の民事裁判<br/>情報の活用促進に資するものとして法務省<br/>令で定めるものをいう。</p> <p>2 法務大臣は、前項第一号ハ又は第四号の法務<br/>省令を制定し、又は改廃する場合においては、<br/>あらかじめ、最高裁判所の意見を聴かなけれ<br/>ばならない。</p> <p>(国の責務)</p> <p>第三条 政府は、この法律の目的を達成するた<br/>め、民事裁判情報の活用促進のための施策を<br/>策定し、及び実施するとともに、最高裁判所そ<br/>の他の関係者と協力して、当該施策の適切な実<br/>施に必要な措置を講ずるよう努めるものとし<br/>る。</p> <p>2 最高裁判所は、民事裁判情報の活用促進を<br/>図るため、民事裁判情報を記録した電磁的記録<br/>の提供その他の必要な措置を講ずるものとす<br/>る。</p> <p>(基本方針)</p> <p>第四条 法務大臣は、民事裁判情報の活用促進<br/>に関する基本的な方針(以下この条及び第八条<br/>第一項において「基本方針」という。)を定めな<br/>ければならない。</p> <p>2 基本方針においては、次に掲げる事項を定め<br/>るものとする。</p> <p>一 民事裁判情報の活用促進の意義に関する<br/>事項</p> <p>二 民事裁判情報の活用促進のための施策に<br/>関する基本的な事項</p> | <p>三 保有民事裁判情報の管理及び提供に関する<br/>基本的な事項</p> <p>四 前三号に掲げるもののほか、民事裁判情報<br/>の活用促進に関する重要事項</p> <p>3 法務大臣は、基本方針を定めるときは、あら<br/>かじめ、最高裁判所の意見を聴かなければなら<br/>ない。</p> <p>4 法務大臣は、基本方針を定めたときは、遅滞<br/>なく、これを公表しなければならない。</p> <p>5 前二項の規定は、基本方針の変更について準<br/>用する。</p> <p>(指定等)</p> <p>第五条 法務大臣は、一般社団法人、一般財団法<br/>人その他営利を目的としない法人であつて、次<br/>に掲げる要件を備えるものを、その申請によ<br/>り、全国に一を限つて、次条第一項各号に掲げ<br/>る業務(以下「民事裁判情報管理提供業務」とい<br/>う。)を行う者として指定することができる。</p> <p>一 民事裁判情報管理提供業務を適正かつ確実<br/>に行うのに必要な経理的基礎及び技術的能力<br/>を有するものであること。</p> <p>二 役員又は職員の構成が民事裁判情報管理提<br/>供業務の公正な遂行に支障を及ぼすおそれ<br/>がないものであること。</p> <p>三 民事裁判情報管理提供業務以外の業務を<br/>行つている場合は、その業務を行うことに<br/>よつて民事裁判情報管理提供業務が不公正に<br/>なるおそれがないものであること。</p> <p>四 第十八条第一項の規定により指定を取り消<br/>され、その取消しの日から五年を経過しない<br/>者でないこと。</p> <p>五 役員のうちに次のいずれかに該当する者が<br/>ないこと。</p> <p>イ 拘禁刑以上の刑に処せられ、その刑の執<br/>行を終わり、又は執行を受けることがなく<br/>なつた日から五年を経過しない者</p> <p>ロ この法律の規定に違反したことにより罰<br/>金の刑に処せられ、その刑の執行を終わ</p> | <p>り、又は執行を受けることがなくなつた日<br/>から五年を経過しない者</p> <p>2 法務大臣は、前項の規定による指定をしたと<br/>きは、当該指定を受けた者(以下「指定法人」と<br/>いう。)の名称及び主たる事務所の所在地並びに<br/>当該指定をした日を公示するものとする。</p> <p>3 指定法人は、その名称又は主たる事務所の所<br/>在地を変更しようとするときは、変更しよう<br/>とする日の二週間前までに、その旨を法務大臣に<br/>届け出なければならない。</p> <p>4 法務大臣は、前項の規定による届出があつた<br/>ときは、その旨を公示するものとする。</p> <p>5 指定法人は、役員を選任し、又は解任したと<br/>きは、遅滞なく、その旨を法務大臣に届け出な<br/>ければならない。</p> <p>(業務)</p> <p>第六条 指定法人は、この法律及び第八条第一項<br/>に規定する業務規程の定めるところにより、次<br/>に掲げる業務を行うものとする。</p> <p>一 広く一般の需要に応ずるに足りる仮名加工<br/>民事裁判情報に係るデータベースを整備する<br/>ため、保有民事裁判情報を整理し、及び加工<br/>して仮名加工民事裁判情報を作成すること。</p> <p>二 仮名加工民事裁判情報を利用しようとする<br/>者に対し、仮名加工民事裁判情報を電磁的方<br/>法(電子情報処理組織を使用する方法その他<br/>の情報通信の技術を利用する方法であつて法<br/>務省令で定めるものをいう。)により提供する<br/>こと。</p> <p>三 保有民事裁判情報、第二條第一項第三号に<br/>規定する措置によつて保有民事裁判情報から<br/>削除した情報(第二十條において「削除情報」<br/>という。)、第十三條第一項の規定により行つ<br/>た加工の方法に関する情報、仮名加工民事裁<br/>判情報及び次条第二項に規定する収集整理し<br/>た民事裁判関連情報(以下「保有民事裁判情報<br/>等」という。)を管理すること。</p> | <p>四 前三号に掲げる業務に附帯する業務を行う<br/>こと。</p> <p>2 指定法人は、民事裁判情報管理提供業務のほ<br/>か、仮名加工民事裁判情報及び次条第二項に規<br/>定する収集整理した民事裁判関連情報(第十二<br/>条において「仮名加工民事裁判情報等」という。)<br/>を利用して司法制度の充実に資する調査及び研<br/>究の業務を行うことができる。</p> <p>(情報提供の求め等)</p> <p>第七条 指定法人は、民事裁判情報管理提供業務<br/>を行うため、最高裁判所に対し、最高裁判所規<br/>則で定めるところにより、第二條第一項第一号<br/>イからハまでに掲げる電磁的記録(民事訴訟法<br/>第九十二條第一項その他の法令の規定により同<br/>法第四十五條第五項第二号に規定する電磁的訴<br/>訟記録の閲覧等の請求が制限される部分を除<br/>く。)に記録されている事項を記録した電磁的記<br/>録の提供を求めることができる。</p> <p>2 指定法人は、民事裁判情報管理提供業務を行<br/>うため、民事裁判関連情報を収集整理し、及び<br/>仮名加工民事裁判情報を利用しようとする者に<br/>対して、当該収集整理した民事裁判関連情報を<br/>提供しよう努めるものとする。</p> <p>(業務規程)</p> <p>第八条 指定法人は、基本方針に従つて、民事裁<br/>判情報管理提供業務に関する規程(以下この条<br/>及び第十八條第一項第四号において「業務規程」<br/>という。)を定め、法務大臣の認可を受けなけれ<br/>ばならない。これを変更しようとするときも、<br/>同様とする。</p> <p>2 業務規程には、次に掲げる事項を定めておか<br/>なければならない。</p> <p>一 保有民事裁判情報の加工の方法に関する事<br/>項</p> <p>二 仮名加工民事裁判情報の提供を内容とする<br/>契約(第十條及び第十二條において「情報提供<br/>契約」という。)の締結に関する事項</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>三 保有民事裁判情報等の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の保有民事裁判情報等の安全管理に関する事項</p> <p>四 料金に関する事項</p> <p>五 苦情の処理に関する事項</p> <p>六 前各号に掲げるもののほか、民事裁判情報管理提供業務の実施に必要な事項として法務省令で定める事項</p> <p>3 法務大臣は、第一項の認可をした業務規程が民事裁判情報管理提供業務の適正かつ確実な実施上不適當となつたと認めるときは、指定法人に対し、その業務規程を変更すべきことを命ずることができる。</p> <p>(事業計画等)</p> <p>第九条 指定法人は、毎事業年度、事業計画及び収支予算を作成し、当該事業年度の開始前に(第五条第一項の規定による指定を受けた日の属する事業年度にあつては、その指定を受けた日後遅滞なく)、法務大臣の認可を受けなければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。</p> <p>2 指定法人は、毎事業年度、事業報告書及び収支決算書を作成し、当該事業年度の終了後三月以内に、法務大臣に提出しなければならない。</p> <p>(契約の締結及び解除)</p> <p>第十条 指定法人は、情報提供契約の申込者がその申込みに関し偽りその他不正の行為を行ったとき、その他法務省令で定める正当な理由があるときを除き、情報提供契約の締結を拒絶してはならない。</p> <p>2 指定法人は、情報提供契約を締結した者の契約上の義務違反により契約関係を継続し難い重大な事由があると認められるとき、その他法務省令で定める正当な理由があるときを除き、情報提供契約を解除してはならない。</p> <p>(業務の休廃止)</p> <p>第十一条 指定法人は、法務大臣の許可を受けな</p> | <p>ければ、民事裁判情報管理提供業務の全部又は一部を休止し、又は廃止してはならない。</p> <p>2 法務大臣が前項の規定により民事裁判情報管理提供業務の全部の廃止を許可したときは、当該許可に係る指定は、その効力を失う。</p> <p>3 法務大臣は、第一項の許可をしたときは、その旨を公示しなければならない。</p> <p>(保有民事裁判情報等の目的外使用の禁止)</p> <p>第十二条 指定法人の役員若しくは職員その他の従業者又はこれらの者であつた者は、保有民事裁判情報等を、民事裁判情報管理提供業務の用に供する目的以外に使用してはならない。ただし、第六条第二項に規定する業務を行うために仮名加工民事裁判情報等を使用するとき及び情報提供契約を締結した者に対して民事裁判関連情報の提供を行うときは、この限りでない。</p> <p>(仮名加工民事裁判情報の作成等)</p> <p>第十三条 指定法人は、仮名加工民事裁判情報を作成するときは、他の情報と照合しない限り特定の個人を識別することができないようにするために必要なものとして法務省令で定める基準に従い、保有民事裁判情報を加工しなければならない。</p> <p>2 指定法人は、仮名加工民事裁判情報を取り扱うに当たっては、法令に基づく場合を除き、当該仮名加工民事裁判情報の作成に用いられた保有民事裁判情報に係る特定の個人を識別するために、当該仮名加工民事裁判情報を他の情報と照合してはならない。</p> <p>(委託)</p> <p>第十四条 指定法人は、法務省令で定めるところにより、民事裁判情報管理提供業務の一部を、法務大臣の承認を受けて、他の者に委託することができる。</p> <p>2 前項の規定による委託を受けた者は、当該委託を受けた民事裁判情報管理提供業務の一部を、指定法人の同意を得て、他の者に再委託す</p> | <p>ることができる。この場合において、指定法人は、あらかじめ、当該再委託について法務大臣の承認を受けなければならない。</p> <p>3 第十二条の規定は、前二項の規定により委託若しくは再委託を受けて行う民事裁判情報管理提供業務に従事する者又はこれらの者であつた者について準用する。</p> <p>(帳簿の備付け等)</p> <p>第十五条 指定法人は、法務省令で定めるところにより、帳簿その作成に代えて電磁的記録の作成がされている場合における当該電磁的記録を含む。第十七条第一項及び第二十一条第一項第二号において同じ。)を備え付け、民事裁判情報管理提供業務に関する事項で法務省令で定めるものを記載し、又は記録し、及びこれを保存しなければならない。</p> <p>(監督命令)</p> <p>第十六条 法務大臣は、民事裁判情報管理提供業務の適正な実施を確保するため必要があると認めるときは、指定法人に対し、その業務に関し監督上必要な命令をすることができる。</p> <p>(報告及び検査)</p> <p>第十七条 法務大臣は、民事裁判情報管理提供業務の適正な実施を確保するため必要があると認めるときは、指定法人に対し、その業務の状況に関し必要な報告を求め、又はその職員に、指定法人の事務所に立ち入り、業務の状況若しくは設備、帳簿、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。</p> <p>2 前項の規定により立入検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者にこれを提示しなければならない。</p> <p>3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。</p> <p>(指定の取消し等)</p> <p>第十八条 法務大臣は、指定法人が次の各号のい</p> | <p>ずれかに該当するときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて民事裁判情報管理提供業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。</p> <p>一 民事裁判情報管理提供業務を適正かつ確実に実施することができないと認められるとき。</p> <p>二 この法律の規定又は当該規定に基づく省令若しくは処分に違反したとき。</p> <p>三 第五条第一項第五号に掲げる要件に該当しないこととなつたとき。</p> <p>四 第八条第一項の規定により認可を受けた業務規程によらないで民事裁判情報管理提供業務を行ったとき。</p> <p>2 法務大臣は、前項の規定による処分をしたときは、その旨を公示しなければならない。</p> <p>3 第一項の規定による指定の取消しが行われた場合において、当該指定の取消しに係る法人は、法務省令で定めるところにより、その管理に係る保有民事裁判情報等を法務大臣が第五条第一項の規定により新たに指定する指定法人に速やかに引き継がなければならない。</p> <p>4 前項に定めるもののほか、第一項の規定による指定の取消しが行われた場合における民事裁判情報管理提供業務の引継ぎその他の必要な事項は、法務省令で定める。</p> <p>(法務省令への委任)</p> <p>第十九条 この法律に定めるもののほか、民事裁判情報管理提供業務に関し必要な事項は、法務省令で定める。</p> <p>(罰則)</p> <p>第二十条 次に掲げる者が、その業務に関して知り得た保有民事裁判情報(第二条第一項第三号に規定する措置によつて削除し、又は他の情報に置き換えることが予定されている情報に限る。)、削除情報又は第十三条第一項の規定により行つた加工の方法に関する情報(その情報を</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

用いて削除情報を復元することができるものに限る。を自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で提供し、又は盗用したときは、一年以下の拘禁刑若しくは五十万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

一 指定法人の役員若しくは職員その他の従業員又はこれらの者であった者

二 第十四条第一項若しくは第二項の規定により委託若しくは再委託を受けて行う民事裁判情報管理提供業務に従事する者又はこれらの者であった者

第二十一条 次の各号のいずれかに該当する場合には、当該違反行為をした者は、三十万円以下の罰金に処する。

一 第十一条第一項の許可を受けないで民事裁判情報管理提供業務の全部を廃止したとき。

二 第十五条の規定に違反して、帳簿を備え付けず、帳簿に記載せず、若しくは記録せず、若しくは虚偽の記載若しくは記録をし、又は帳簿を保存しなかったとき。

三 第十七条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくは同項の規定による質問に対して陳述をせず、若しくは虚偽の陳述をしたとき。

2 法人（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものを含む。以下この項において同じ。）の代表者若しくは管理人又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務に関し、前項の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対しても、同項の刑を科する。

3 法人でない団体について前項の規定の適用がある場合には、その代表者又は管理人がその訴訟行為について法人でない団体を代表するほか、法人を被告人又は被疑者とする場合の刑事訴訟に関する法律の規定を準用する。

附 則

（施行期日）

第一条 この法律は、公布の日から起算して九月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第六条、第七条、第八条第三項、第九条第二項、第十条から第十八条まで、第二十条及び第二十一条の規定は、公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

（民事裁判情報管理提供業務の準備行為）

第二条 指定法人は、前条ただし書に規定する規定の施行の日前においても、民事裁判情報管理提供業務の実施に必要な準備行為をすることができる。

（調整規定）

第三条 この法律の施行の日が民事訴訟法等の一部を改正する法律（令和四年法律第四十八号）の施行の日前である場合には、同法の施行の日の前日までの間は、第二条第一項第一号中「民事訴訟法」とあるのは、「民事訴訟法等の一部を改正する法律（令和四年法律第四十八号）第二条の規定による改正後の民事訴訟法」とする。

（法務省設置法の一部改正）

第四条 法務省設置法（平成十一年法律第九十三号）の一部を次のように改正する。

第四条第一項第二十五号の二の次に次の一号を加える。

二十五の三 民事裁判情報の活用促進に関する法律（令和七年法律第 号）の規定による民事裁判情報管理提供業務を行う法人の監督に関すること。

（検討）

第五条 政府は、附則第一条ただし書に規定する規定の施行後五年を経過した場合において、この法律の施行の状況について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

審査報告書

老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案

右は多数をもって可決すべきものと議決した。よって要領書を添えて報告する。

令和七年五月二十二日

国土交通委員長 小西 洋之

参議院議長 関口 昌一殿

要領書

一、委員会の決定の理由

本法律案は、老朽化したマンションの増加等の社会経済情勢の変化に鑑み、マンションその他の区分所有建物の管理及び再生の円滑化等を図るため、区分所有建物の再生等の実施の円滑化、集会の決議要件の合理化、所有者不明専有部分管理命令の制度の創設、敷地共有者等集会制度の対象範囲の拡大、マンション管理適正化支援法人の登録制度の創設等の措置を講じようとするものであり、おおむね妥当な措置と認め

る。なお、別紙の附帯決議を行った。

一、費用

本法律案施行のため、別に費用を要しない。

附帯決議

政府は、本法の施行に当たり、次の諸点について適切な措置を講じ、その運用に万全を期すべきである。

一 管理者による共用部分に関する損害賠償請求権の代理行使に当たり、旧区分所有者の取り分も含む損害賠償金を確実に修繕費用に充当することができるよう、損害賠償金の使途を定めることを内容とするマンション標準管理規約の改正を早期に行い、各管理組合においてこれを踏まえた管理規約の変更が速やかに行われるよう

関連団体等を通じて働きかけや支援を行うこと。また、管理組合自体がないような管理不全マンションの区分所有者に対しても必要な措置を講ずること。

二 標準管理規約の改正を踏まえ、各管理組合の管理規約における共用部分について生じた損害賠償金の使途に係る規定の制定状況の把握に努めること。また、管理規約に同規定が置かれていないこと等により、旧区分所有者による別段の意思表示が行われた結果、損害賠償金の一部が修繕費用に充当できなかった事例などの継続的な実態把握に努め、必要に応じ、制度の見直しも含めた所要の措置を講ずること。

三 マンションの管理及び再生が円滑に行われるよう、区分所有権の処分を伴わない決議が集会への出席者による多数決で可能となることやマンション再生等に活用可能な事業手法の拡充といった本法による措置について、地方公共団体、管理組合、区分所有者等に対し周知徹底を図ること。

四 管理不全マンションの増加を防ぐため、マンションの管理水準向上に資する管理計画認定制度が新築時から積極的に活用されるよう、分譲事業者に対し、管理計画の作成を積極的に促すこと。また、管理水準の高いマンションの資産価値が適正に評価されるよう、市場環境の整備に努めること。

五 管理組合自体がないような既存の管理不全マンションについては、管理組合の設立から、管理計画の作成及び実施に至るまで、地方公共団体が伴走支援を行うよう働きかけを行うこと。

六 マンション管理業者が管理事務及び管理者事務の双方の委託を受けている場合、管理業者による利益相反行為により区分所有者が不利益を被ることのないよう、本法に規定された事前説明の確実な実施に加え、マンションにおける外部管理者方式等に関するガイドラインを踏まえ

た対応を行うことについて、関連団体等を通じて周知徹底を図ること。

マンション再生事業等により、借家権者や高齢の区分所有者など住宅の確保に特に配慮を要する者が新たに住まいを確保する必要がある場合には、それらの者の居住の安定の確保を十分に図ること。また、公営住宅等の公的賃貸住宅の活用が図られるよう、地方公共団体への的確な支援に努めること。

マンシヨンの管理及び再生に当たつての助言、指導や勧告、再生事業等の認可等、地方公共団体が担うマンシヨン関連事務の増加に鑑み、マニュアルの整備やマンシヨン政策の担当者の育成支援など、その負担軽減のために必要な措置を講ずること。

マンシヨンの管理及び再生に当たつては、知識や経験を有する民間団体を積極的に活用するため、十分な数のマンシヨン管理適正化支援法人が確保されるよう、関連団体に對し、登録の人の働きかけを行うこと。また、管理組合等に對し、マンシヨン管理適正化支援法人の活用方法等について分かりやすい情報発信を行うこと。

長期修繕計画に対し修繕積立金が不足しているマンションの管理組合等に対して、将来の修繕費用を確保できるよう支援を行うこと。また、修繕積立金の積立方式として段階増額積立方式が増えている実態を踏まえ、着実な修繕費用の確保に向けて対策を講ずること。

「一 寿命を迎えたマンシヨンのいわゆる『終活』に対応するため、地方公共団体が解体費用を安易に負担することなく計画的な解体が進むよう、解体費用の確保に係る対策を講ずること。」

二 マンションの大規模修繕工事をめぐり談合が疑われる事案が発生したことを踏まえ、関係機関が連携し、同様の事案の再発防止に徹底して取り組むこと。

右決議する。

老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案

右の内閣提出案は本院においてこれを修正議決した。

よつて国会法第八十三条により送付する。

令和七年五月十五日

衆議院議長 額賀福志郎

参議院議長 関口 昌一殿

(小字は衆議院修正)

老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案

老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律

(建物の区分所有等に関する法律の一部改正)

第一条 建物の区分所有等に関する法律（昭和三十一年法律第六十九号）の一部を次のように改正する。

目次中  
第六節 管理組合法人(第四十七條)  
第七節 義務違反者に対する措置(第  
八節 復旧及び建替え(第六十一

第五十六條の七）  
第五十七條（第六十條）を  
条（第六十四條）を

「第六節  
第七節  
第八節  
第九節

所有者不明  
管理不全  
管理組合  
違法反者  
義務違反者

第十節 復旧及び建  
専有部分管理命令(第四十六条の二―第四十六  
有部分管理命令及び管理不全共用部分管理命令  
人(第四十七条―第五十六条の七)  
に対する措置(第五十七条―第六十条)  
替え等(第六十一条―第六十四条の八)

条の七)  
(第四十六條の八―第四十六條の十四)

七十条」を「第七十一条」に、「第三章 罰則（第

「第三章 建築物有滅失、毀損、滅失の危険がある土地の所有権者等（第九節 団地の所有権者等）を第七十一条・第七十二条」を

失した場合における措置  
分のある建築物が滅失した場合における措置（第七十八  
の建物）が滅失した場合における措置（第七十八  
明区分所有者等の除外等に関する裁判手続（第八  
十一条・第九十二条）

七十二條―第七十七條)  
條(第八十五條)  
八十六條―第九十條)  
に改める。

第五条の次に次の一条を加える。

(区分所有者の責務)

第五条の二 区分所有者は、第三条に規定する

団体の構成員として、建物並びにその敷地及び附属施設(同条後段の場合にあつては、一部共用部分)の管理が適正かつ円滑に行われるよう、相互に協力しなければならない。

第六條第二項中「又は自己」を「若しくは自己」に、「の使用」を「を使用し、又は自らこれらを保存すること」に改める。

第六條の次に次の一條を加える。  
(国内管理人)

第六条の二 区分所有者は、国内に住所又は居

所（法人にあつては、本店又は主たる事務所。以下この項及び第三項において同じ。）を有せず、又は有しないこととなる場合には、

その専有部分及び共用部分の管理に関する事務を行わせるため、国内に住所又は居所を有する者のうちから管理人を選任することができ

2 前項の規定により選任された管理人(次項及び第四項において「国内管理人」という。)は、次に掲げる行為をする権限を有する。

一 保存行為

二 専有部分の性質を変えない範囲内において、その利用又は改良を目的とする行為

- 三 集会の招集の通知の受領
- 四 集会における議決権の行使
- 五 共用部分、建物の敷地若し  
以外の建物の附属施設につき

以外の建物に附属施設にすべき他の区分所有者に対して負う債務又は規約若しくは集会の決議に基づき他の区分所有者に対して負う債務の弁済

3 区分所有者は、第一項の規定により国内管理人を選任した場合において、管理者があるとき、又は管理組合法人が存立するときは、遅滞なく、管理者又は管理組合法人に対し、国内管理人を選任した旨並びに国内管理人の氏名又は名称及び住所又は居所を通知しなければならない。

4 区分所有者と国内管理人との関係は、第二項に定めるもののほか、委任に関する規定に従う。

第十条第一項中「除く」の下に「第五項において同じ」を、「は」の下に「集会において」を加え、「及び」を「議決権を有しないものを除く。以下この項及び第三項において同じ。」の過

半數（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその」に改め、「四分の三の下に（これを下回る割合（二分の一を超える割合に限る。）を規約で定めた場合にあっては、その割合）を加え、「集會の」を削り、同項ただし書を削り、同条に次の三項を加える。

3 第一項の決議により共用部分の変更をする場合には、規約に特別の定めがあるときは、当該共用部分の変更に伴い必要となる専有部分の保存行為又は専有部分の性質を要しない範囲内においてその利用若しくは改良を目的とする行為（次項及び次条第四項におい

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>て「専有部分の保存行為等」という。）は、集会において、区分所有者の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその議決権の各四分の三（これを下回る割合（二分の一を超える割合に限る。）を規約で定めた場合にあっては、その割合以上の多数による決議で決することができ。）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>する場合において、規約に特別の定めがあるときは、当該共用部分の管理に伴い必要となる専有部分の保存行為等は、集会の決議で決することができる。</p> <p>5 前条第四項の規定は、前項の決議について準用する。</p> <p>第二十六条第一項中「及び第四十七条第六項」を削り、同条第二項を次のように改める。</p> <p>2 管理者は、その職務（第十八条第六項（第二十一条において準用する場合を含む。）の規定による損害保険契約に基づく保険金並びに共用部分等について生じた損害賠償金及び不当利得による返還金（以下この条及び第四十七条において「保険金等」という。）の請求及び受領を含む。第四項において同じ。）に関し、区分所有者（保険金等の請求及び受領にあつては、保険金等の請求権を有する者（区分所有者又は区分所有者であつた者（書面又は電磁的方法（電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて法務省令で定めるものをいう。以下同じ。）による別段の意思表示をした区分所有者であつた者を除く。）に限る。以下この条及び第四十七条において同じ。）に限り、同項において同じ。）を代理する。</p> <p>第二十六条第四項中「第二項後段に規定する事項を含む。」を削り、同条第五項を次のように改める。</p> <p>5 管理者は、次の各号に掲げるときは、遅滞なく、それぞれ当該各号に定める者にその旨を通知しなければならない。この場合における区分所有者に対する通知については、第三十五条第二項から第四項までの規定を準用する。</p> <p>一 前項の規約によりその職務に関し原告又は被告となつたとき 区分所有者</p> <p>二 前項の規約により保険金等の請求及び受</p> | <p>領に関し原告又は被告となつたとき 保険金等の請求権を有する者</p> <p>三 前項の集会の決議により保険金等の請求及び受領に関し原告又は被告となつたとき 保険金等の請求権を有する者（区分所有者を除く。）</p> <p>第三十一条第一項中「廃止は」の下に「、集会において」を加え、「及び」を「（議決権を有しないものを除く。以下この項前段において同じ。）の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するもの）が出席し、出席した区分所有者及びその」に改め、「集会の」を削り、同条第二項中「共用すべき区分所有者」の下に「（議決権を有しないものを除く。）」を加える。</p> <p>第三十三条中第三項を第四項とし、第二項の次に次の一項を加える。</p> <p>3 規約が電磁的記録で作成されているときは、第一項の規定により規約を保管する者は、前項の規定による当該電磁的記録に記録された情報の内容を法務省令で定める方法により表示したものの閲覧に代えて、法務省令で定めるところにより、同項の請求をした利害関係人の承諾を得て、当該電磁的記録に記録された情報を電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該規約を保管する者は、同項の規定による閲覧をさせたものとみなす。</p> <p>第三十四条第三項中「区分所有者」の下に「（議決権を有しないものを除く。第五項において同じ。）」を加え、「以上で」を「以上の者であつて」に改め、同条第五項中「以上で」を「以上の者であつて」に改める。</p> <p>第三十五条第一項中「事項」の下に「及び議案の要領」を、「区分所有者」の下に「（議決権を有しないものを除く。）」を加え、同項ただし書中「伸縮する」を「伸長する」に改め、同条第五項を削る。</p> <p>第三十六条中「区分所有者」の下に「（議決権を有しないものを除く。）」を加える。</p> <p>第三十八条の次に次の一条を加える。</p> <p>（所在等不明区分所有者の除外）</p> <p>第三十八条の二 裁判所は、区分所有者を知ることができず、又はその所在を知ることができなるときは、当該区分所有者（次項において「所在等不明区分所有者」という。）以外の区分所有者（以下この項及び第三項において「一般区分所有者」という。）又は管理者の請求により、一般区分所有者による集会の決議をすることができ旨の裁判をすることができ</p> |  |
| <p>4 前項の決議をする場合において、専有部分の保存行為等の態様又は費用の分担に関する事項を定めるときは、決議の対象となる専有部分の区分所有者の利用状況、当該専有部分の保存行為等について区分所有者が支払つた対価その他の事情を考慮して、区分所有者間の利害の衡平が図られるようにしなければならない。</p> <p>5 共用部分の設置若しくは保存に瑕疵があることによつて他人の権利若しくは法律上保護される利益が侵害され、若しくは侵害されるおそれがある場合におけるその瑕疵の除去に関し必要となる共用部分の変更又は高齢者、障害者等（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成十八年法律第九十一号）第二条第一号に規定する高齢者、障害者等をいう。）の移動若しくは施設の利用に係る身体負担を軽減することにより、その移動上若しくは施設の利用上の利便性及び安全性を向上させるために必要となる共用部分の変更についての第一項及び第三項の規定の適用については、これらの規定中「四分の三」とあるのは、「三分の二」とする。</p> <p>第十八条中第四項を第六項とし、第三項の次に次の二項を加える。</p> <p>4 第一項本文の決議により共用部分の管理を</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |  |

議決権の数は出席した区分所有者の議決権の数に、それぞれ算入する。

第三十九条第三項中「(電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて法務省令で定めるものをいう。以下同じ。)」を削り、同項に後段として次のように加える。

この場合においては、電磁的方法による議決権の行使を書面による議決権の行使とみなして、同項後段の規定を適用する。

第四十条中「共有者は」の下に「、各共有者の持分の価格に従い、その過半数をもつて」を加える。

第四十四条第二項中「及び会議を」、「会議」に改め、「事項」の下に「及び議案の要領」を加える。

第四十五条第一項中「、区分所有者」の下に「議決権を有しないものを除く。次項において同じ。」を加える。

第一章第八節の節名中「建替え」を「建替え等」に改める。

第六十一条第一項ただし書中「又は第七十条第一項を」、「第六十四条の五第一項、第六十四条の六第一項、第六十四条の七第一項、第六十四条の八第一項、第七十条第一項、第七十一条第一項又は第八十四条第一項」に改め、同条第五項中「及び」を「議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。」の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上)の者であつて議決権の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその」に、「四分の三」を「三分の二」に改め、同条第十四項中「又は第七十条第一項を」、「第六十四条の五第一項、第六十四条の六第一項、第六十四条の七第一項、第六十四条の八第一項、第七十条第一項、第七十

一条第一項又は第八十四条第一項」に改める。

第六十二条第一項中「区分所有者」の下に「議決権を有しないものを除く。」を加え、同条第八項を同条第十項とし、同条第七項中「第三十五条第一項から第四項まで」を「第三十五条に改め、同項後段を削り、同項を同条第九項とし、同条第六項中「第四項」を「第六項」に改め、同項を同条第八項とし、同条第五項中「同条第五項に規定する」を「会議の目的たる事項及び」に改め、同項第一号中「建替え」を「建物の建替え」に改め、同項を同条第七項とし、同条第四項中「第一項に規定する決議事項」を「建替え決議」に改め、同項を同条第六項とし、同条中第三項を第五項とし、第二項を第四項とし、第一項の次に次の二項を加える。

2 建物が次の各号のいずれかに該当する場合における前項の規定の適用については、同項中「五分の四」とあるのは、「四分の三」とする。

一 地震に対する安全性に係る建築基準法(昭和二十五年法律第二百一号)又はこれに基づき命令若しくは条例の規定に準ずるものとして法務大臣が定める基準に適合していないとき。

二 火災に対する安全性に係る建築基準法又はこれに基づき命令若しくは条例の規定に準ずるものとして法務大臣が定める基準に適合していないとき。

三 外壁、外装材その他これらに類する建物の部分が剝離し、落下することにより周辺に危害を生ずるおそれがあるものとして法務大臣が定める基準に該当するとき。

四 給水、排水その他の配管設備その改修に関する工事を行うことが著しく困難なものとして法務省令で定めるものに限る。の損傷、腐食その他の劣化により著しく衛生上有害となるおそれがあるものとして法務

大臣が定める基準に該当するとき。

五 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第十四条第五項に規定する建築物移動等円滑化基準に準ずるものとして法務大臣が定める基準に適合していないとき。

3 法務大臣は、前項各号の基準を定め、又はこれを変更するときは、あらかじめ、国土交通大臣と協議するものとする。

第一章第八節に次の七条を加える。

第六十四条の二 建替え決議があつたときは、建替え決議に賛成した各区分所有者若しくは建替え決議の内容により建替えに参加する旨を回答した各区分所有者(これらの者の承継人を含む。若しくはこれらの者の全員の合意により賃貸借の終了を請求することができる者として指定された者又は賃貸されている専有部分の区分所有者は、当該専有部分の賃借人に対し、賃貸借の終了を請求することができる。

2 前項の規定による請求があつたときは、当該専有部分の賃貸借は、その請求があつた日から六月を経過することによつて終了する。

3 第一項の規定による請求があつたときは、当該専有部分の区分所有者は、当該専有部分の賃借人(転借人を含む。第五項において同じ。)に対し、賃貸借の終了により通常生ずる損失の補償金を支払わなければならない。

4 第一項の規定による請求をした者当該専有部分の区分所有者を除く。は、当該専有部分の区分所有者と連帯して前項の債務を弁済する責任を負う。

5 専有部分の賃借人は、第二項の規定により当該専有部分の賃貸借が終了したときであっても、前二項の規定による補償金の提供を受けるまでは、当該専有部分の明渡しを拒むこ

とができる。

(使用貸借の終了請求)  
第六十四条の三 前条第一項及び第二項の規定は、専有部分が使用貸借の目的物とされている場合(民法第五百九十八条第一項又は第二項に規定する場合を除く。)について準用する。

(配偶者居住権の消滅請求)  
第六十四条の四 第六十四条の二の規定は、専有部分に配偶者居住権が設定されている場合(民法第三千三百五十五条第一項ただし書に規定する場合を除く。)について準用する。

(建物更新決議)  
第六十四条の五 集会においては、区分所有者(議決権を有しないものを除く。)及び議決権の各五分の四以上の多数で、建物の更新(建物の構造上主要な部分の効用の維持又は回復(通常有すべき効用の確保を含む。)のために共用部分の形状の変更をし、かつ、これに伴い全ての専有部分の形状、面積又は位置関係の変更をすることをいう。次項において同じ。)をする旨の決議(同項及び第三項において「建物更新決議」という。)をすることができる。

2 建物更新決議においては、次の事項を定めなければならない。

一 建物の更新がされた後の建物の設計の概要  
二 建物の更新に要する費用の概算額  
三 前号に規定する費用の分担に関する事項  
四 建物の更新がされた後の建物の区分所有権の帰属に関する事項

3 第六十二条(第一項及び第四項を除く。)及び第六十三条から前条までの規定は、建物更新決議について準用する。この場合において、第六十二条第二項中「前項」とあるのは「第六十四条の五第一項」と、同条第五項中

「前項第三号及び第四号」とあるのは「第六十四条の五第二項第三号及び第四号」と、同条第七項第一号中「建物の建替え」とあるのは「建物の更新第六十四条の五第一項に規定する建物の更新をいう。以下同じ。」と、同項第二号中「建物の建替え」とあるのは「建物の更新」と、第六十三条第一項、第二項及び第四項から第六項まで、第六十四条並びに第六十四条の二第二項中「建替えに」とあるのは「建物の更新に」と、第六十三条第七項及び第八項中「建物の取壊しの工事」とあるのは「建物の更新の工事」と、第六十四条中「建替え」とあるのは「建物の更新を」と読み替えるものとする。

（建物敷地売却決議）

第六十四条の六 敷地利用権が数人で有する所有権その他の権利であるときは、集会において、区分所有者（議決権を有しないものを除く。）、議決権及び当該敷地利用権の持分（議決権を有しない区分所有者が有するものを除く。）の価格の各五分の四以上の多数で、建物及びその敷地（これに関する権利を含む。）を売却する旨の決議（次項及び第三項において「建物敷地売却決議」という。）をすることができ、

2 建物敷地売却決議においては、次の事項を定めなければならない。

一 売却の相手方となるべき者の氏名又は名称

二 売却による代金の見込額

三 売却によつて各区分所有者が取得することのできる金銭の額の算定方法に関する事項

3 第六十二条（第一項及び第四項を除く。）及び第六十三条から第六十四条の四までの規定は、建物敷地売却決議について準用する。この場合において、第六十二条第二項中「前項」

とあるのは「第六十四条の六第一項」と、同条第五項中「前項第三号及び第四号」とあるのは「第六十四条の六第二項第三号」と、同条第七項第一号及び第二号中「の建替え」とあるのは「及びその敷地（これに関する権利を含む。）の売却」と、第六十三条第一項、第二項及び第四項から第六項まで、第六十四条並びに第六十四条の二第二項中「建替えに」とあるのは「売却に」と、第六十三条第七項中「建物の取壊しの工事に着手しない」とあるのは「売買契約による建物及びその敷地（これに関する権利を含む。）についての権利の移転（以下この項及び次項において「建物等の権利の移転」という。）がない」と、同項ただし書中「建物の取壊しの工事に着手しなかつた」とあるのは「建物等の権利の移転がなかつた」と、同条第八項中「建物の取壊しの工事の着手」とあるのは「建物等の権利の移転」と、「その着手をしない」とあるのは「建物等の権利の移転がない」と、第六十四条中「建替え」とあるのは「売却」と読み替えるものとする。

（建物取壊し敷地売却決議）

第六十四条の七 敷地利用権が数人で有する所有権その他の権利であるときは、集会において、区分所有者（議決権を有しないものを除く。）、議決権及び当該敷地利用権の持分（議決権を有しない区分所有者が有するものを除く。）の価格の各五分の四以上の多数で、建物を取り壊し、かつ、建物の敷地（これに関する権利を含む。次項において同じ。）を売却する旨の決議（同項及び第三項において「建物取壊し敷地売却決議」という。）をすることができ、

2 建物取壊し敷地売却決議においては、次の事項を定めなければならない。

一 建物の取壊しに要する費用の概算額

二 前号に規定する費用の分担に関する事項

三 建物の敷地の売却の相手方となるべき者の氏名又は名称

四 建物の敷地の売却による代金の見込額  
五 建物の敷地の売却によつて各区分所有者が取得することができる金銭の額の算定方法に関する事項

3 第六十二条（第一項及び第四項を除く。）及び第六十三条から第六十四条の四までの規定は、建物取壊し敷地売却決議について準用する。この場合において、第六十二条第二項中「前項」とあるのは「第六十四条の七第一項」と、同条第五項中「前項第三号及び第四号」とあるのは「第六十四条の七第二項第二号及び第五号」と、同条第七項第一号及び第二号中「建替え」とあるのは「取壊し及び建物の敷地（これに関する権利を含む。）の売却」と、第六十三条第一項、第二項及び第四項から第六項まで、第六十四条並びに第六十四条の二第二項中「建替えに」とあるのは「建物の取壊し及び建物の敷地（これに関する権利を含む。）の売却に」と、第六十四条中「及び」とあるのは「並びに」と、「建替え」とあるのは「建物の取壊し及び建物の敷地（これに関する権利を含む。）の売却」と読み替えるものとする。

第六十四条の八 集会においては、区分所有者（議決権を有しないものを除く。）及び議決権の各五分の四以上の多数で、建物を取り壊す旨の決議（以下この条及び第七十七条において「取壊し決議」という。）をすることができ、

2 取壊し決議においては、次の事項を定めなければならない。

一 建物の取壊しに要する費用の概算額

二 前号に規定する費用の分担に関する事項

3 第六十二条（第一項及び第四項を除く。）及び第六十三条から第六十四条の四までの規定は、建物取壊し敷地売却決議について準用する。この場合において、第六十二条第二項中「前項」とあるのは「第六十四条の八第一項」と、同条第五項中「前項第三号及び第四号」とあるのは「第六十四条の八第二項第二号」と、同条第七項第一号及び第二号中「建替え」とあるのは「取壊し」と、第六十三条第一項、第二項及び第四項から第六項まで、第六十四条並びに第六十四条の二第二項中「建替えに」とあるのは「取壊し」と、第六十四条中「及び」とあるのは「並びに」と、「建替え」とあるのは「取壊し及び建物の敷地（これに関する権利を含む。）の売却」と読み替えるものとする。

は、取壊し決議について準用する。この場合において、第六十二条第二項中「前項」とあるのは「第六十四条の八第一項」と、同条第五項中「前項第三号及び第四号」とあるのは「第六十四条の八第二項第二号」と、同条第七項第一号及び第二号中「建替え」とあるのは「取壊し」と、第六十三条第一項、第二項及び第四項から第六項まで、第六十四条並びに第六十四条の二第二項中「建替えに」とあるのは「取壊し」と、第六十四条中「建替え」とあるのは「取壊し」と読み替えるものとする。

第一章中第八節を第十節とする。

第五十八条第二項中「決議は」の下に「、集会において」を加え、「及び」を「議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。」の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその」に改める。

第一章中第七節を第九節とする。

第四十七条第一項中「区分所有者及び」を「集会において、区分所有者（議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。）の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその」に改め、

「集会の」を削り、同条第六項中「事務」の下に「（保険金等の請求及び受領を含む。第八項において同じ。）」を、「区分所有者」の下に「（保険金等の請求及び受領にあっては、保険金等の請求権を有する者。同項において同じ。）」を加え、同項後段を削り、同条第八項中「第六項後段に規定する事項を含む。」を削り、同条第九項を次のように改める。

9 管理組合法人は、次の各号に掲げるときは、遅滞なく、それぞれ当該各号に定める者にその旨を通知しなければならない。この場合における区分所有者に対する通知については、第三十五条第二項から第四項までの規定を準用する。

一 前項の規約によりその事務に関し原告又は被告となつたとき 区分所有者

二 前項の規約により保険金等の請求及び受領に関し原告又は被告となつたとき 保険金等の請求権を有する者

三 前項の集会の決議により保険金等の請求及び受領に関し原告又は被告となつたとき 保険金等の請求権を有する者(区分所有者を除く。)

第四十七条第十二項中「について」を「が存立する場合における」に改め、「の規定を適用する場合」は第三十三条第一項本文中「管理者が」とあるのは、理事が管理組合法人の事務所において「と」を削り、「第三十五条第三項」の下に「第三十八条の二第一項及び第三項」を加え、「を適用する場合」はこれらの規定を「の適用については、これらの規定第三十三条第一項本文及び第三十八条の二第一項を除く。」に改め、「理事」と「の」の下に「第三十三条第一項本文中「管理者が」とあるのは「理事が管理組合法人の事務所において」と、第三十八条の二第一項中「管理者」とあるのは「管理組合法人」とを加える。

第五十二条の次に次の一条を加える。

(区分所有権等の取得)

第五十二条の二 管理組合法人は、建物並びにその敷地及び附属施設の管理を行うために必要な場合には、集会において、区分所有者(議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。)の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以

上)の者であつて議決権の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその議決権の各四分の三以上の多数による決議をすることによつて、当該建物の区分所有権又は当該建物及び当該建物が存在する土地と一体として管理若しくは使用をすべき土地を取得することができる。

2 管理組合法人は、前項の規定により区分所有権を取得した場合であつても、第三十八条の規定にかかわらず、当該管理組合法人の集会における議決権を有しない。

第五十五条第二項中「決議は」の下に「集会において」を加え、「及び」を「議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。」の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上)の者であつて議決権の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその下に改める。

第一章第六節を第八節とし、第五節の次に次の二節を加える。

第六節 所有者不明専有部分管理命令

(所有者不明専有部分管理命令)  
第四十六条の二 裁判所は、区分所有者を知ることができず、又はその所在を知ることができない専有部分(専有部分が数人の共有に属する場合にあつては、共有者を知ることができず、又はその所在を知ることができない専有部分の共有持分)について、必要があると認めるときは、利害関係人の請求により、その請求に係る専有部分又は共有持分を対象として、所有者不明専有部分管理人(第四項に規定する所有者不明専有部分管理人をいう。第三項において同じ。)による管理を命ずる処分(以下「所有者不明専有部分管理命令」とい

う。)をすることができる。

2 所有者不明専有部分管理命令の効力は、当該所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分(共有持分を対象として所有者不明専有部分管理命令が発せられた場合にあつては、共有物である専有部分)又は共用部分、附属施設若しくは建物の敷地にある動産(当該所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者又は共有持分を有する者が所有するものに限り。並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権(いずれも当該所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者又は共有持分を有する者が有するものに限り。)に及ぶ。

3 所有者不明専有部分管理命令は、所有者不明専有部分管理命令が発せられた後に当該所有者不明専有部分管理命令が取り消された場合において、当該所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分又は共有持分並びに当該所有者不明専有部分管理命令の効力が及ぶ動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権の管理、処分その他の事由により所有者不明専有部分管理人が得た財産について、必要があると認めるときも、することができる。

4 裁判所は、所有者不明専有部分管理命令をする場合には、当該所有者不明専有部分管理命令において、所有者不明専有部分管理人を選任しなければならない。

(所有者不明専有部分管理人の権限)

第四十六条の三 前条第四項の規定により所有者不明専有部分管理人が選任された場合には、所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分又は共有持分並びに所有者不明専有部分管理命令の効力が及ぶ動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地

利用権並びにこれらの管理、処分その他の事由により所有者不明専有部分管理人が得た財産(以下「所有者不明専有部分等」という。)の管理及び処分をする権利は、所有者不明専有部分管理人に専属する。

2 所有者不明専有部分管理人が次に掲げる行為の範囲を超える行為をするには、裁判所の許可を得なければならない。ただし、この許可がないことをもつて善意の第三者に対抗することはできない。

一 保存行為

二 所有者不明専有部分等の性質を変えない範囲内において、その利用又は改良を目的とする行為

(所有者不明専有部分等に関する訴えの取扱い)

第四十六条の四 所有者不明専有部分管理命令が発せられた場合には、所有者不明専有部分等に関する訴えについては、所有者不明専有部分管理人を原告又は被告とする。

2 所有者不明専有部分管理命令が発せられた場合には、所有者不明専有部分等に関する訴訟手続で当該所有者不明専有部分等の所有者(その共有持分を有する者を含む。第五項において同じ。)を当事者とするものは、中断する。

3 前項の規定により中断した訴訟手続は、所有者不明専有部分管理人においてこれを受け継ぐことができる。この場合においては、受継の申立ては、相手方もすることができる。

4 所有者不明専有部分管理命令が取り消されたときは、所有者不明専有部分管理人を当事者とする所有者不明専有部分等に関する訴訟手続は、中断する。

5 所有者不明専有部分等の所有者は、前項の規定により中断した訴訟手続を受け継がなければならない。この場合においては、受継の申立ては、相手方もすることができる。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(所有者不明専有部分管理人の義務)</p> <p>第四十六条の五 所有者不明専有部分管理人は、所有者不明専有部分等の所有者(その共有持分を有する者を含む。)のために、善良な管理者の注意をもつて、その権限を行使しなければならない。</p> <p>2 数人の者の共有持分を対象として所有者不明専有部分管理命令が発せられたときは、所有者不明専有部分管理人は、当該所有者不明専有部分管理命令の対象とされた共有持分を有する者全員のために、誠実かつ公平にその権限を行使しなければならない。</p> <p>(所有者不明専有部分管理人の解任及び辞任)</p> <p>第四十六条の六 所有者不明専有部分管理人がその任務に違反して所有者不明専有部分等に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、裁判所は、利害関係人の請求により、所有者不明専有部分管理人を解任することができる。</p> <p>2 所有者不明専有部分管理人は、正当な事由があるときは、裁判所の許可を得て、辞任することができる。</p> <p>(所有者不明専有部分管理人の報酬等)</p> <p>第四十六条の七 所有者不明専有部分管理人は、所有者不明専有部分等から裁判所が定める額の費用の前払及び報酬を受けることができる。</p> <p>2 所有者不明専有部分管理人による所有者不明専有部分等の管理に必要な費用及び報酬は、所有者不明専有部分等の所有者(その共有持分を有する者を含む。)の負担とする。</p> <p>第七節 管理不全専有部分管理命令及び管理不全共用部分管理命令</p> <p>(管理不全専有部分管理命令)</p> <p>第四十六条の八 裁判所は、区分所有者による専有部分の管理が不適当であることによつて他人の権利又は法律上保護される利益が侵害</p> | <p>され、又は侵害されるおそれがある場合において、必要があると認めるときは、利害関係人の請求により、当該専有部分を対象として、第三項に規定する管理不全専有部分管理人による管理を命ずる処分(以下「管理不全専有部分管理命令」という。)をすることができる。</p> <p>2 管理不全専有部分管理命令の効力は、当該管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分又は共用部分、附属施設若しくは建物の敷地にある動産(当該管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者又はその共有持分を有する者が所有するものに限る。)並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権(いずれも当該管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者又はその共有持分を有する者が有するものに限る。)に及ぶ。</p> <p>3 裁判所は、管理不全専有部分管理命令をする場合には、当該管理不全専有部分管理命令において、管理不全専有部分管理人を選任しなければならない。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の権限)</p> <p>第四十六条の九 管理不全専有部分管理人は、管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分並びに管理不全専有部分管理命令の効力が及ぶ動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権並びにこれらの管理、処分その他の事由により管理不全専有部分管理人が得た財産(以下「管理不全専有部分等」という。)の管理及び処分をする権限を有する。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、管理不全専有部分管理人は、集会において議決権を行使することができない。</p> <p>3 管理不全専有部分管理人が次に掲げる行為の範囲を超える行為をするには、裁判所の許可を得なければならない。ただし、この許可がないことをもつて善意でかつ過失がない第三者に対抗することはできない。</p> <p>一 保存行為</p> <p>二 管理不全専有部分等の性質を変えない範囲内において、その利用又は改良を目的とする行為</p> <p>4 管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の処分についての前項の許可をするには、その区分所有者の同意がなければならない。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の義務)</p> <p>第四十六条の十 管理不全専有部分管理人は、管理不全専有部分等の所有者のために、善良な管理者の注意をもつて、その権限を行使しなければならない。</p> <p>2 管理不全専有部分等が数人の共有に属する場合においては、管理不全専有部分管理人は、その共有持分を有する者全員のために、誠実かつ公平にその権限を行使しなければならない。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の解任及び辞任)</p> <p>第四十六条の十一 管理不全専有部分管理人がその任務に違反して管理不全専有部分等に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、裁判所は、利害関係人の請求により、管理不全専有部分管理人を解任することができる。</p> <p>2 管理不全専有部分管理人は、正当な事由があるときは、裁判所の許可を得て、辞任することができる。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の報酬等)</p> <p>第四十六条の十二 管理不全専有部分管理人は、管理不全専有部分等から裁判所が定める額の費用の前払及び報酬を受けることができる。</p> <p>2 管理不全専有部分管理人による管理不全専有部分等の管理に必要な費用及び報酬は、管理不全専有部分等の所有者の負担とする。</p> | <p>可を得なければならない。ただし、この許可がないことをもつて善意でかつ過失がない第三者に対抗することはできない。</p> <p>一 保存行為</p> <p>二 管理不全専有部分等の性質を変えない範囲内において、その利用又は改良を目的とする行為</p> <p>4 管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の処分についての前項の許可をするには、その区分所有者の同意がなければならない。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の義務)</p> <p>第四十六条の十 管理不全専有部分管理人は、管理不全専有部分等の所有者のために、善良な管理者の注意をもつて、その権限を行使しなければならない。</p> <p>2 管理不全専有部分等が数人の共有に属する場合においては、管理不全専有部分管理人は、その共有持分を有する者全員のために、誠実かつ公平にその権限を行使しなければならない。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の解任及び辞任)</p> <p>第四十六条の十一 管理不全専有部分管理人がその任務に違反して管理不全専有部分等に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、裁判所は、利害関係人の請求により、管理不全専有部分管理人を解任することができる。</p> <p>2 管理不全専有部分管理人は、正当な事由があるときは、裁判所の許可を得て、辞任することができる。</p> <p>(管理不全専有部分管理人の報酬等)</p> <p>第四十六条の十二 管理不全専有部分管理人は、管理不全専有部分等から裁判所が定める額の費用の前払及び報酬を受けることができる。</p> <p>2 管理不全専有部分管理人による管理不全専有部分等の管理に必要な費用及び報酬は、管理不全専有部分等の所有者の負担とする。</p> | <p>(管理不全共用部分管理命令)</p> <p>第四十六条の十三 裁判所は、区分所有者による共用部分の管理が不適当であることによつて他人の権利又は法律上保護される利益が侵害され、又は侵害されるおそれがある場合において、必要があると認めるときは、利害関係人の請求により、当該共用部分を対象として、第三項に規定する管理不全共用部分管理人による管理を命ずる処分(以下「管理不全共用部分管理命令」という。)をすることができる。</p> <p>2 管理不全共用部分管理命令の効力は、当該管理不全共用部分管理命令の対象とされた共用部分にある動産(当該管理不全共用部分管理命令の対象とされた共用部分の所有者又はその共有持分を有する者が所有するものに限る。)に及ぶ。</p> <p>3 裁判所は、管理不全共用部分管理命令をする場合には、当該管理不全共用部分管理命令において、管理不全共用部分管理人を選任しなければならない。</p> <p>(管理不全共用部分管理人の権限等)</p> <p>第四十六条の十四 第四十六条の九から第四十六条の十二までの規定は、管理不全共用部分管理命令及び管理不全共用部分管理人について準用する。この場合において、これらの規定中「管理不全専有部分等」とあるのは「管理不全共用部分等」と、第四十六条の九第一項中「専有部分並びに」とあるのは「共用部分及び」と、「動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権」とあるのは「動産」と、同条第四項中「専有部分の」とあるのは「共用部分の」と、「区分所有者」とあるのは「所有者」と、第四十六条の十二第二項中「の所有者の負担とする」とあるのは「を共有する者が連帯して負担する」と読み替えるものとする。</p> <p>第六十六条を次のように改める。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

令和七年五月二十三日 参議院会議録第二十一号

老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案

令和七年五月二十三日 参議院會議録第二十一号 老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案 五四

(建物の区分所有に関する規定の準用)  
第六十六条 第七條、第八條、第十七條から第十九條まで並びに前章第四節(第二十七條を除く。)、第五節(第三十條第二項、第三十一條第二項及び第三十二條を除く。及び第八節の規定は、前條の場合について準用する。こ

の場合において、これらの規定(第五十五條第一項第一号を除く。中「管理組合法人」とあるのは、「団地管理組合法人」と読み替えるほか、次の表の上欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句に読み替えるものとする。

|                              |  |                                        |                                                                                             |
|------------------------------|--|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第七條第二項                       |  | 区分所有者は                                 | 団地建物所有者（第六十五條に規定する団地建物所有者をいう。以下同じ。）は                                                        |
| 共用部分、建物の敷地若しくは共用部分以外の建物の附属施設 |  | 同条に規定する場合における当該土地若しくは附属施設（以下「土地等」という。） | 団地建物所有者に                                                                                    |
| 区分所有者に                       |  | 土地等に関する権利、建物又は区分所有権                    | 団地建物所有者                                                                                     |
| 第八條                          |  | 区分所有者                                  | 団地建物所有者                                                                                     |
| 第十七條第一項                      |  | 共用部分                                   | 土地等並びに第六十八條の規定による規約により管理すべきものと定められた同条第一項第一号に掲げる土地及び附属施設並びに同項第二号に掲げる建物の共用部分（以下「団地管理対象物」という。） |
|                              |  | 区分所有者                                  | 団地建物所有者                                                                                     |
| 第十七條第二項                      |  | 共用部分                                   | 団地管理対象物                                                                                     |
|                              |  | 共用部分                                   | 建物又は専有部分                                                                                    |
| 第十七條第三項                      |  | 共用部分                                   | 団地管理対象物                                                                                     |
|                              |  | 専有部分の保存行為又は専有部分の性質                     | 建物若しくは専有部分の保存行為又は建物若しくは専有部分の性質                                                              |
|                              |  | 専有部分の保存行為等                             | 建物又は専有部分の保存行為等                                                                              |
|                              |  | 区分所有者                                  | 団地建物所有者                                                                                     |

|               |  |                                                         |                           |
|---------------|--|---------------------------------------------------------|---------------------------|
| 第十八條第四項       |  | 共用部分                                                    | 団地管理対象物                   |
|               |  | 専有部分                                                    | 建物又は専有部分                  |
| 第十八條第六項及び第十九條 |  | 共用部分                                                    | 団地管理対象物                   |
| 第二十五條         |  | 区分所有者                                                   | 団地建物所有者                   |
| 第二十六條第一項      |  | 共用部分並びに第二十一条に規定する場合における当該建物の敷地及び附属施設（次項において「共用部分等」という。） | 団地管理対象物                   |
| 第二十六條第二項      |  | 共用部分等                                                   | 団地管理対象物                   |
|               |  | 区分所有者                                                   | 団地建物所有者                   |
| 第二十六條第四項及び第五項 |  | 区分所有者                                                   | 団地建物所有者                   |
| 第二十九條第一項      |  | 区分所有者                                                   | 団地建物所有者                   |
|               |  | 第十四條に定める                                                | 土地等（これらに関する権利を含む。）の持分の価格の |
| 第二十九條第一項ただし書  |  | 建物並びにその敷地及び附属施設                                         | 団地管理対象物                   |
| 第二十九條第二項      |  | 区分所有者                                                   | 団地建物所有者                   |
| 第三十條第一項       |  | 建物又はその敷地若しくは附属施設                                        | 土地等又は第六十八條第一項各号に掲げる物      |
|               |  | 区分所有者                                                   | 団地建物所有者                   |

|            |                                                      |                                                      |                                                                                                                        |
|------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第三十条第三項    | 専有部分若しくは共用部分又は建物の敷地若しくは附属施設(建物の敷地又は附属施設に関する権利を含む。)   |                                                      | 建物若しくは専有部分若しくは土地等(土地等に関する権利を含む。又は第六十八条の規定による規約により管理すべきものと定められた同条第一項第一号に掲げる土地若しくは附属施設(これらに関する権利を含む。若しくは同項第二号に掲げる建物の共用部分 |
|            | 区分所有者                                                | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第三十条第四項、第三十一条第一項及び第三十三条第一項ただし書                       | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第三十三条第四項                                             | 建物内                                                  | 団地内                                                                                                                    |
|            | 第三十四条第三項から第五項まで及び第三十五条第一項                            | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第三十五条第二項                                             | 専有部分                                                 | 建物又は専有部分                                                                                                               |
|            | 第三十五条第三項                                             | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第三十五条第四項                                             | 専有部分                                                 | 建物又は専有部分                                                                                                               |
|            | 第三十六条                                                | 建物内                                                  | 団地内                                                                                                                    |
|            | 第三十六条                                                | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
| 第三十八條の二第二項 | 第三十八條の二第二項                                           | 区分所有者                                                | 土地等(これらに関する権利を含む。の持分の価格の                                                                                               |
|            | 区分所有者を                                               | 区分所有者を                                               | 団地建物所有者を                                                                                                               |
|            | 当該区分所有者                                              | 当該区分所有者                                              | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 所在等不明区分所有者                                           | 所在等不明区分所有者                                           | 団地建物所有者                                                                                                                |
| 第三十八條の二第二項 | 一般区分所有者                                              | 一般区分所有者                                              | 一般区分所有者                                                                                                                |
|            | 所在等不明区分所有者                                           | 所在等不明区分所有者                                           | 所在等不明区分所有者                                                                                                             |
|            | 建物                                                   | 建物                                                   | 土地又は附属施設(これらに関する権利を含む。以下この項において同じ。の共有者である団地建物所有者の所有に係る団地内の建物                                                           |
|            | 建物に係る敷地利用権を有する者又は当該建物の附属施設(これに関する権利を含む。の共有持分を有する者が開く | 建物に係る敷地利用権を有する者又は当該建物の附属施設(これに関する権利を含む。の共有持分を有する者が開く | 土地又は附属施設について開かれる                                                                                                       |
|            | 第三十八條の二第三項                                           | 一般区分所有者                                              | 一般区分所有者                                                                                                                |
|            | 第三十八條の二第三項ただし書                                       | 建物内                                                  | 団地内                                                                                                                    |
|            | 第三十九条                                                | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第四十条                                                 | 専有部分                                                 | 建物又は専有部分                                                                                                               |
|            | 第四十一条並びに第四十二条第三項及び第四項                                | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第四十四条第一項                                             | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
| 第四十四條第二項   | 第四十四條第二項                                             | 専有部分                                                 | 建物又は専有部分                                                                                                               |
|            | 第四十四條第二項                                             | 建物内                                                  | 団地内                                                                                                                    |
|            | 第四十五條第一項及び第二項並びに第四十六條第一項                             | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |
|            | 第四十六條第二項                                             | 占有者                                                  | 建物又は専有部分を占有する者で団地建物所有者でないもの                                                                                            |
| 第四十六條第二項   | 第四十六條第二項                                             | 占有者                                                  | 建物又は専有部分を占有する者で団地建物所有者でないもの                                                                                            |
|            | 占有者                                                  | 占有者                                                  | 土地等又は第六十八條第一項各号に掲げる物                                                                                                   |
|            | 建物又はその敷地若しくは附属施設                                     | 建物又はその敷地若しくは附属施設                                     | 土地等又は第六十八條第一項各号に掲げる物                                                                                                   |
|            | 区分所有者                                                | 区分所有者                                                | 団地建物所有者                                                                                                                |

|                                |                                             |                                |
|--------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------|
| 第四十七条第一項                       | 第三條                                         | 第六十五條                          |
|                                | 区分所有者                                       | 団地建物所有者                        |
| 第四十七條第六項、第八項及び第九項並びに第四十八條の二第二項 | 区分所有者                                       | 団地建物所有者                        |
| 第五十二條の二第二項                     | 建物並びにその敷地及び附属施設区分所有者                        | 団地管理対象物<br>団地建物所有者             |
| 第五十二條の二第二項                     | 当該建物の区分所有権又は当該建物及び当該建物が所在する土地               | その団地内の建物若しくはその区分所有権又はその団地内の土地等 |
| 第五十二條の二第二項                     | 区分所有権                                       | 建物又は区分所有権                      |
| 第五十三條第一項                       | 区分所有者                                       | 団地建物所有者                        |
| 第五十三條第三項及び第五十四條                | 第十四條に定める                                    | 土地等（これらに関する権利を含む。）の持分の価格の      |
| 第五十五條第一項第一号                    | 建物（一部共用部分を共用すべき区分所有者で構成する管理組合）人にあつては、その共用部分 | 土地等（これらに関する権利を含む。）             |
| 第五十五條第一項第二号                    | 建物に専有部分が                                    | 土地等（これらに関する権利を含む。）が団地建物所有者の共有で |
| 第五十五條第二項                       | 区分所有者                                       | 団地建物所有者                        |
| 第五十六條                          | 第十四條に定める                                    | 土地等（これらに関する権利を含む。）の持分の価格の      |
| 第五十六條                          | 区分所有者                                       | 団地建物所有者                        |

第六十八條第一項中「四分の三以上で」を「四分の三以上の者であつて」に、「区分所有者及び」を「出席した区分所有者（議決権を有しないものを除く。以下この項（第一号を除く。）において同じ。）及びその」に改め、「決議」の下に

「（区分所有者の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上）を有するものが出席してされたものに限る。」を加える。

第六十九條第一項中「この条及び次条において」、「第六十五條に規定する」及び「（以下この条において単に「団地建物所有者」という。）」を削り、「掲げる」の下に「場合の」を加え、「同条」を「第六十五條」に改め、「集会において」の下に「議決権の過半数（これを上回る割合を第六十六條において準用する第三十條第一項の規約で定めた場合にあつては、その割合以上）を有する団地建物所有者が出席し、出席した団地建物所有者の」を、「決議（以下）の下に「この条において」を加え、同条第二項中「持分の」の下に「価格の」を加え、同条第四項中「同条第五項に規定する」を「会議の目的たる事項及び」に改め、同条第五項中「掲げる」の下に「場合の」を加え、同条第二号中「所有者」の下に「議決権を有しないものを除く。」を加え、同条第七項中「の区分所有者」の下に「（議決権を有しないものを除く。）」を、「五分の四」の下に「（当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三）」を加え、同条に次の一項を加える。

8 建替え承認決議に係る建替えの対象となる特定建物（第六項の場合にあつては、建替え承認決議に係る建替えの対象となる全ての特定建物）が第六十二條第二項各号のいずれかに該当する場合における第一項の規定の適用については、同項中「四分の三」とあるのは、「三分の二」とする。

第七十條第一項中「次項」を「次条第一項」に、「及び議決権」を「議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。」及び「議決権」に、「第三項第一号」を「第四項第一号」に改め、同項ただし書中「各団地内建物ごと」に、それぞれを「団地内建物のうちいずれか一以上の建物につき、」に、「三分の二以上の」を「三分の一を超え」に、「であつて」を「又は」に、「もの」を「者」に、「賛成した場合でなければならない」を「反対した場合は、この限りでない」に改め、同条第四項中「第六十二條第三項から第八項まで」を「第六十二條第五項から第十項まで及び」に、「及び第六十四條」を「から第六十四條の四まで」に、「第六十二條第三項中」を「第六十二條第五項中」に、「第七十條第三項第四号」を「第七十條第四項第四号」に、「同条第四項中「第一項に規定する」とあるのは「第七十條第一項に規定する」と、」を「同条第六項及び第七項中」に、「（規約）」を「同条第六項ただし書中「規約」に」、「同条第五項中「第三十五條第一項」とあるのは「第六十六條において準用する第三十五條第一項」と、同条第七項を「同条第九項」に、「第三十五條第一項から第四項まで」を「第三十五條」に改め、「第三十五條第一項ただし書」とあるのは「第六十六條において準用する第三十五條第一項ただし書と、同条第八項中「前条第六項」とあるのは「第六十一條第六項」とを削り、同項を同条第五項とし、同条第三項を同条第四項とし、同条第二項中「前項本文」を「第一項本文」に、「前条第二項中」を「同条第二項中」に改め、「敷地」の下に「（団地内建物が所在する土地及び第五條第一項の規定により団地内建物の敷地とされた土地をいい、これに関する権利を含む。）」を加え、同項を同条第三項とし、同条第一項の次に次の一項を加える。

2 団地内建物の全部が第六十二條第二項各号のいずれかに該当する場合における前項本文の規定の適用については、同項中「五分の四」とあるのは、「四分の三」とする。

第七十二條を第九十二條とする。

第七十一條第一号中「第六十六條」の下に「第七十三條及び第七十九條」を加え、「並びに第六十六條」を「第六十六條、第七十三條並びに第七十九條」に改め、「以下この号において同じ」を削り、「の規定に」を「（第四十二條第

五項及び第四十五条第四項（これらの規定を第六十六条において準用する場合を含む。）並びに第六十六条において準用する場合を含む。）の規定に改め、「第四十五条第四項（第六十六条の下に、「第七十三条及び第七十九条を加え、同条第二号中「を第六十六条の下に」、「第七十三条及び第七十九条を加え、並びに第六十六条を」、「第六十六条、第七十三条並びに第七十九条に改め、同条第三号中「第六十六条の下に」、「第七十三条及び第七十九条を加え、同条第九十一条とする。

第三章を第五章とする。

第二章に次の一条を加える。

（団地内建物敷地売却決議）

第七十一条 前条第一項本文に規定する場合には、第六十四条の六の規定にかかわらず、当該団地内建物の敷地の共有者である当該団地内建物の区分所有者で構成される第六十五条に規定する団体又は団地管理組合法人の集会において、当該団地内建物の区分所有者（議決権を有しないものを除く。以下この項において同じ。）及び議決権の各五分の四以上の多数で、当該団地内建物及びその敷地につき一括して、その全部を売却する旨の決議（以下この条において「団地内建物敷地売却決議」という。）をすることができる。ただし、当該集会において、当該団地内建物のうちいずれか一以上の建物につき、その区分所有者の三分の一を超える者又は第三十八条に規定する議決権の合計の三分の一を超える議決権を有する者がその団地内建物敷地売却決議に反対した場合、この限りでない。

2 団地内建物の全部が第六十二条第二項各号のいずれかに該当する場合における前項本文の規定の適用については、同項中「五分の四」とあるのは、「四分の三」とする。

3 第六十九条第二項の規定は、第一項本文の

各区分所有者の議決権について準用する。この場合において、同条第二項中「当該特定建物の所在する土地（これに関する権利を含む。）」とあるのは、「当該団地内建物の敷地（団地内建物が所在する土地及び第五条第一項の規定により団地内建物の敷地とされた土地をいい、これに関する権利を含む。）」と読み替えるものとする。

4 団地内建物敷地売却決議においては、次の事項を定めなければならない。

一 売却の相手方となるべき者の氏名又は名称

二 売却による代金の見込額

三 売却によつて各団地内建物所有者が取得することができる金銭の額の算定方法に関する事項

5 第六十二条第五項から第十項まで及び第六十三条から第六十四条の四までの規定は、団地内建物敷地売却決議について準用する。この場合において、第六十二条第五項中「前項第三号及び第四号」とあるのは「第七十一条第四項第三号」と、同条第六項及び第七項中「第三十五条第一項」とあるのは「第六十六条において準用する第三十五条第一項」と、同条第六項ただし書中「規約」とあるのは「第六十六条において準用する第三十条第一項の規約」と、同条第七項第一号及び第二号中「の建替え」とあるのは「及びその敷地（これに関する権利を含む。）」の売却」と、同条第九項中「第三十五条及び第三十六条」とあるのは「第六十六条において準用する第三十五条及び第三十六条」と、第六十三条第一項、第二項及び第四項から第六項まで、第六十四条並びに第六十四条の二第一項中「建替えに」とあるのは「売却に」と、第六十三条第七項中「建物の取壊しの工事に着手しない」とあるのは「売買契約による建物及びその敷地（これに関する権利を含む。）」についての権利の移転（以下この項及

び次項において「建物等の権利の移転」という。）がない」と、同項ただし書中「建物の取壊しの工事に着手しなかつた」とあるのは「建物等の権利の移転がなかつた」と、同条第八項中「建物の取壊しの工事の着手」とあるのは「建物等の権利の移転」と、「その着手をしない」とあるのは「建物等の権利の移転がない」と、第六十四条中「建替えを」とあるのは「売却を」と読み替えるものとする。

つき数人が共有持分を有していたときは、これらの権利（以下「敷地共有持分等」という。）を有する者以下「敷地共有者等」という。）は、その滅失の日から起算して五年を経過する日までの間は、この法律の定めるところにより、集会を開き、規約を定め、及び管理者を置くことができる。

（集会等に関する規定の準用）

第七十二条 専有部分のある建物が滅失した場合において、当該専有部分のある建物に係る敷地利用権が数人で有する所有権その他の権利であつたとき、又は当該専有部分のある建物の附属施設（これに関する権利を含む。）に

第七十三条 第十七条第一項及び第五項、第十八条第一項、第二項及び第六項、第十九条並びに第一章第四節（第二十七条を除く。）及び第五節（第三十条第二項、第三十一条第二項、第三十二条、第三十三条第四項、第三十四条第二項、第三十五条第四項、第四十三条、第四十四条及び第四十六条第二項を除く。）の規定は、前条の場合について準用する。この場合において、次の表の上欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句に読み替えるものとする。

| 第十七条第一項                                                                                                                     |                                          |                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 共用部分                                                                                                                        | 集会                                       |                                                                             |
| 区分所有者（議決権を有しないものを除く。以下この項及び第三項において同じ。）の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するもの | 敷地共有者等集会（第七十四条第一項に規定する敷地共有者等集会をいう。以下同じ。） | 議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有する敷地共有者等（第七十二条に規定する敷地共有者等をいう。以下同じ。） |

|               |                                                         |                      |
|---------------|---------------------------------------------------------|----------------------|
| 第二十九条第五項      | 区分所有者及びその議決権の各                                          | 敷地共有者等の議決権の          |
| 第十八条第一項       | 共用部分                                                    | 敷地共有持分等に係る土地若しくは附属施設 |
| 第十八条第一項ただし書   | 共用部分                                                    | 敷地共有持分等に係る土地又は附属施設   |
| 第十八条第六項       | 共有者                                                     | 敷地共有者等               |
| 第十九条          | 共有者                                                     | 敷地共有者等               |
| 第二十五条第一項      | 共用部分                                                    | 敷地共有持分等に係る土地又は附属施設   |
| 第二十五条第二項      | 区分所有者                                                   | 敷地共有者等               |
| 第二十六条第一項      | 共用部分並びに第二十一条に規定する場合における当該建物の敷地及び附属施設(次項において「共用部分等」という。) | 敷地共有持分等に係る土地又は附属施設   |
| 第二十六条第二項      | 集会                                                      | 敷地共有者等集会             |
| 第二十六条第四項及び第五項 | 区分所有者                                                   | 敷地共有者等               |
| 第二十九条第一項      | 区分所有者                                                   | 敷地共有者等               |
| 第二十九条第一項      | 第十四条に定める                                                | 敷地共有持分等の価格の          |
| 第二十九条第一項ただし書  | 建物並びにその敷地及び附属施設                                         | 敷地共有持分等に係る土地又は附属施設   |

  

|              |                                 |                      |
|--------------|---------------------------------|----------------------|
| 第二十九条第二項     | 区分所有者                           | 敷地共有者等               |
| 第三十条第一項      | 建物又はその敷地若しくは附属施設                | 敷地共有持分等に係る土地又は附属施設   |
| 第三十条第三項      | 区分所有者                           | 敷地共有者等               |
| 第三十条第四項      | 区分所有者                           | 敷地共有者等               |
| 第三十一条第一項     | 集会                              | 敷地共有者等集会             |
| 第三十三条第一項ただし書 | 建物を使用している区分所有者                  | 敷地共有者等               |
| 第三十四条第一項     | 集会                              | 敷地共有者等集会             |
| 第三十四条第三項     | 区分所有者(議決権を有しないものを除く。第五項において同じ。) | 議決権の五分の一以上を有する敷地共有者等 |
| 第三十四条第四項     | 集会                              | 敷地共有者等集会             |
| 第三十四条第四項     | 区分所有者                           | 敷地共有者等               |

|            |                                               |                                                    |
|------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第三十四条第五項   | 区分所有者の五分の一以上の者であつて議決権の五分の一以上を有するもの            | 議決権の五分の一以上を有する敷地共有者等                               |
|            | 集会                                            | 敷地共有者等集会                                           |
| 第三十五条第一項   | 集会                                            | 敷地共有者等集会                                           |
|            | 区分所有者                                         | 敷地共有者等                                             |
| 第三十五条第二項   | 専有部分が数人の共有に属するとき                              | 一の専有部分を所有するための敷地利用権又は附属施設に関する権利に係る敷地共有持分等を数人で有するとき |
|            | 区分所有者                                         | 敷地共有者等                                             |
| 第三十五条第三項   | 区分所有者                                         | 敷地共有者等                                             |
|            | その場所に、これを通知しなかつたときは区分所有者の所有する専有部分が所在する場合      | 、その場所                                              |
| 第三十六条      | 集会                                            | 敷地共有者等集会                                           |
|            | 区分所有者                                         | 敷地共有者等                                             |
| 第三十七条      | 集会                                            | 敷地共有者等集会                                           |
|            | 区分所有者                                         | 敷地共有者等                                             |
| 第三十八条      | 第十四条に定める                                      | 敷地共有持分等の価格の                                        |
|            | 区分所有者を                                        | 敷地共有者等を                                            |
| 第三十八条の二第一項 | 当該区分所有者                                       | 当該敷地共有者等                                           |
|            | 所在等不明区分所有者                                    | 所在等不明敷地共有者等                                        |
| 第三十八条の二第二項 | の区分所有者                                        | の敷地共有者等                                            |
|            | 一般区分所有者                                       | 一般敷地共有者等                                           |
| 第三十八条の二第二項 | 集会                                            | 敷地共有者等集会                                           |
|            | 所在等不明区分所有者                                    | 所在等不明敷地共有者等                                        |
| 第三十八条の二第二項 | 集会                                            | 敷地共有者等集会                                           |
|            | 議決権(当該裁判に係る建物が滅失したときは、当該建物に係る敷地利用権を有する者又は当該建物 | 議決権                                                |

|                               |                                        |                                                    |
|-------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第三十八条の二第三項                    | 一般区分所有者                                | 一般敷地共有者等                                           |
|                               | 建物内                                    | 滅失した建物に係る建物の敷地内                                    |
| 第三十八条の二第三項ただし書                | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
|                               | 区分所有者(議決権を有しないものを除く。)及びその議決権の各有者の数に、当該 | 敷地共有者等の議決権の                                        |
| 第三十九条第二項                      | 区分所有者の数は出席した区分所有者の数に、当該                | 敷地共有者等の                                            |
|                               | 区分所有者の議決権                              | 敷地共有者等の議決権                                         |
| 第三十九条第三項                      | 、それぞれ算入する                              | 算入する                                               |
|                               | 区分所有者                                  | 敷地共有者等                                             |
| 第四十条                          | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
|                               | 専有部分が数人の共有に属するとき                       | 一の専有部分を所有するための敷地利用権又は附属施設に関する権利に係る敷地共有持分等を数人で有するとき |
| 第四十一条                         | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
|                               | 区分所有者                                  | 敷地共有者等                                             |
| 第四十二条第一項                      | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
|                               | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
| 第四十二条第三項及び第四項並びに第四十五条第一項及び第二項 | 区分所有者                                  | 敷地共有者等                                             |
|                               | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
| 第四十五条第三項及び第五項                 | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |
|                               | 集会                                     | 敷地共有者等                                             |
| 第四十六条第一項                      | 区分所有者                                  | 敷地共有者等                                             |
|                               | 集会                                     | 敷地共有者等集会                                           |

(招集の通知に関する特例)

第七十四条 敷地共有者等が開く集会(以下「敷地共有者等集会」という。)を招集する者が敷地共有者等(前条において準用する第三十五条第三項の規定により通知を受けるべき場所を通知したものを除く。)の所在を知ることができないときは、前条において準用する第三十五条第一項の通知は、滅失した専有部分のある建物に係る建物の敷地内の見やすい場所に掲示してすることができる。

2 前項の場合には、当該通知は、同項の規定による掲示をした時に到達したものとみなす。ただし、敷地共有者等集會を招集する者が当該敷地共有者等の所在を知らないことについて過失があつたときは、到達の効力を生じない。

(再建決議)

第七十五条 専有部分のある建物が滅失した場合において、当該専有部分のある建物に係る敷地利用権が数人で有する所有権その他の権利であつたときは、敷地共有者等集会において、敷地共有者等の議決権の五分の四以上の多数で、当該専有部分のある建物に係る建物の敷地若しくはその一部の土地又は当該建物の敷地の全部若しくは一部を含む土地に建物を建築する旨の決議(以下「再建決議」という。)をすることができる。

2 再建決議においては、次の事項を定めなければならない。

- 一 新たに建築する建物(以下この項において「再建建物」という。)の設計の概要
  - 二 再建建物の建築に要する費用の概算額
  - 三 前号に規定する費用の分担に関する事項
  - 四 再建建物の区分所有権の帰属に関する事項
- 3 前項第三号及び第四号の事項は、各敷地共有者等の衡平を害しないように定めなければならない。

ならない。

4 再建決議を會議の目的とする敷地共有者等集會を招集するときは、第七十三条において準用する第三十五条第一項の通知は、同項の規定にかかわらず、当該敷地共有者等集會の会日より少なくとも二月前に発しなければならない。ただし、この期間は、第七十三条において準用する第三十条第一項の規約で伸長することができる。

5 前項に規定する場合において、第七十三条において準用する第三十五条第一項の通知をするときは、會議の目的たる事項及び議案の要領のほか、再建を必要とする理由をも通知しなければならない。

6 第四項の敷地共有者等集會を招集した者は、当該敷地共有者等集會の会日より少なくとも一月前までに、当該招集の際に通知すべき事項について敷地共有者等に対し説明を行うための説明會を開催しなければならない。

7 第七十三条において準用する第三十五条第一項から第三項まで及び第三十六条並びに前条の規定は、前項の説明會の開催について準用する。

8 再建決議をした敷地共有者等集會の議事録には、その決議についての各敷地共有者等の賛否をも記載し、又は記録しなければならない。

9 第六十三条(第五項後段及び第六項を除く。)及び第六十四条の規定は、再建決議について準用する。この場合において、第六十三条第一項中「集会」とあるのは「敷地共有者等集会(第七十四条第一項に規定する敷地共有者等集会をいう。次項において同じ。)」と、「区分所有者」とあるのは「敷地共有者等(第七十二条に規定する敷地共有者等をいう。以下同じ。)」と、同項、同条第二項、第四項及び第五項前段並びに第六十四条中「建替え」と

あるのは「再建」と、第六十三条第二項中「集会」とあるのは「敷地共有者等集会」と、同項から同条第四項まで、同条第五項前段及び第六十四条中「区分所有者」とあるのは「敷地共有者等」と、同項前段中「区分所有権及び敷地利用権を買受ける」とあるのは「敷地共有持分等(第七十二条に規定する敷地共有持分等をいう。以下同じ。)」を買受ける」と、「区分所有権及び敷地利用権を時価」とあるのは「敷地共有持分等を時価」と、第六十三条第七項及び第八項中「建物の取壊しの工事」とあるのは「建物の再建の工事」と、同条第七項及び第六十四条中「区分所有権又は敷地利用権」とあるのは「敷地共有持分等」と、同条中「建替え」とあるのは「再建」と読み替えるものとする。

(敷地売却決議)

第七十六条 専有部分のある建物が滅失した場合において、当該専有部分のある建物に係る敷地利用権が数人で有する所有権その他の権利であつたときは、敷地共有者等集会において、敷地共有者等の議決権の五分の四以上の多数で、敷地共有持分等に係る土地(これに關する権利を含む。)を売却する旨の決議(以下この条及び次条第一項において「敷地売却決議」という。)をすることができる。

2 敷地売却決議においては、次の事項を定めなければならない。

- 一 売却の相手方となるべき者の氏名又は名称
- 二 売却による代金の見込額
- 三 第六十三条(第五項後段及び第六項を除く。)、第六十四条及び前条第四項から第八項までの規定は、敷地売却決議について準用する。この場合において、第六十三条第一項中「集会」とあるのは「敷地共有者等集会(第七十条第一項に規定する敷地共有者等集會をい

う。次項において同じ。)」と、「区分所有者」とあるのは「敷地共有者等(第七十二条に規定する敷地共有者等をいう。以下この条及び次条において同じ。)」と、同項、同条第二項、第四項及び第五項前段並びに第六十四条中「建替え」とあるのは「売却」と、第六十三条第二項中「集会」とあるのは「敷地共有者等集会」と、同項から同条第四項まで、同条第五項前段及び第六十四条中「区分所有者」とあるのは「敷地共有者等」と、同項前段中「区分所有権及び敷地利用権を買受ける」とあるのは「敷地共有持分等(第七十二条に規定する敷地共有持分等をいう。以下この条及び次条において同じ。)」を買受ける」と、「区分所有権及び敷地利用権を時価」とあるのは「敷地共有持分等を時価」と、第六十三条第七項中「建物の取壊しの工事に着手しない」とあるのは「売買契約による敷地共有持分等に係る土地(これに關する権利を含む。))についての権利の移転(以下この項及び次項において「土地等の権利の移転」という。がない」と、同項及び第六十四条中「区分所有権又は敷地利用権」とあるのは「敷地共有持分等」と、同項ただし書中「建物の取壊しの工事に着手しなかつた」とあるのは「土地等の権利の移転がなかつた」と、第六十三条第八項中「建物の取壊しの工事に着手しない」とあるのは「土地等の権利の移転」と、「その着手をしない」とあるのは「土地等の権利の移転がない」と、第六十四条中「建替え」とあるのは「売却」と、前条第五項中「再建」とあるのは「売却」と読み替えるものとする。

(敷地共有持分等に係る土地等の分割請求に関する特例)

第七十七条 滅失した専有部分のある建物(取壊し決議又は区分所有者全員の同意に基づき取り壊されたものを除く。)に係る敷地共有者

|                                         |                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                 |
|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 第十七条第一項                                 |                                                         | 等は、民法第二百五十六条第一項本文(同法第二百六十四条において準用する場合を含む。)の規定にかかわらず、その滅失の日から起算して一月を経過する日の翌日以後当該滅失の日から起算して五年を経過する日までの間は、敷地共有持分等に係る土地又はこれに関する権利について、分割の請求をすることができない。ただし、五分の一を超える議決権を有する敷地共有者等が分割の請求をする場合その他再建決議、敷地売却決議、第八十四条第一項の決議又は第八十五条第一項の決議をすることができないと認められる顕著な事由がある場合は、この限りでない。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                 |
| 共用部分                                    |                                                         | 2 専有部分のある建物が取壊し決議又は区分所有者全員の同意に基づき取り壊されたときは、当該専有部分のある建物に係る敷地共有者等は、民法第二百五十六条第一項本文(同法第二百六十四条において準用する場合を含む。)の規定にかかわらず、その取壊しによる滅失の日から起算して五年を経過する日までの間は、敷地共有持分等に係る土地又はこれに関する権利について、分割の請求をすることができない。この場合においては、前項ただし書の規定を準用する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                 |
| 集会                                      |                                                         | 第二節 団地内の建物が滅失した場合における措置<br>第七十八條 団地内建物の全部又は一部が専有(団地建物所有者等の集会等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                 |
| 第七十八條に規定する場合における当該土地又は附属施設(以下「土地等」という。) |                                                         | 部分のある建物であり、かつ、その団地内の土地又は附属施設(これらに関する権利を含む。)が当該団地内建物の所有者(専有部分のある建物にあつては、区分所有者)の共有に属する場合において、その団地内の全部又は一部の建物が滅失したときは、当該団地内建物の団地建物所有者、敷地共有者等及び専有部分のある建物以外の建物であつて滅失したものとの所有に係る建物の敷地又は附属施設に関する権利を有する者(以下「団地建物所有者等」という。)は、その滅失の日から起算して五年を経過する日までの間は、この法律の定めるところにより、集会を開き、規約を定め、及び管理者を置くことができる。<br>(集会等に関する規定の準用)<br>第七十九條 第十七條第一項、第二項及び第五項、第十八條第一項から第三項まで及び第六項、第十九條、第一章第四節(第二十七條を除く。)及び第五節(第三十條第二項、第三十一条第二項、第三十二条、第三十三条第四項、第三十四条第二項、第三十五条第四項及び第四十三条を除く。)並びに第六十八條第一項の規定は、前条の場合について準用する。<br>この場合において、次の表の上欄に掲げる規定中同表の中欄に掲げる字句は、それぞれ同表の下欄に掲げる字句に読み替えるものとする。 |                                                                                 |
| 第二十六條第二項                                | 区分所有者                                                   | 区分所有者及びその議決権の各もの                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 区分所有者(議決権を有しないものを除く。以下この項及び第三項において同じ。)                                          |
|                                         | 共用部分等                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 議決権の過半数(これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有する団地建物所有者等(第七十八條に規定する団地建物所有者等をいう。以下同じ。) |
| 第二十五條第二項                                | 集会                                                      | 集会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 団地建物所有者等の議決権の                                                                   |
|                                         | 区分所有者                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第二十五條第二項                                | 共用部分並びに第二十一条に規定する場合における当該建物の敷地及び附属施設(次項において「共用部分等」という。) | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 建物又は専有部分                                                                        |
|                                         | 土地等                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第二十五條第二項                                | 区分所有者                                                   | 区分所有者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 団地建物所有者等                                                                        |
|                                         | 集会                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第二十五條第二項                                | 共用部分                                                    | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 団地建物所有者等                                                                        |
|                                         | 共有者                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第十九條                                    | 共用部分                                                    | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 団地建物所有者等                                                                        |
|                                         | 共有者                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第十八條第六項                                 | 共用部分                                                    | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 団地建物所有者等                                                                        |
|                                         | 共有者                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第十八條第一項ただし書                             | 共有者                                                     | 共有者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 団地建物所有者等                                                                        |
|                                         | 集会                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第十八條第一項                                 | 共用部分                                                    | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 団地建物所有者等                                                                        |
|                                         | 集会                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第十七條第五項                                 | 共用部分                                                    | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 土地等                                                                             |
|                                         | 専有部分                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |
| 第十七條第二項                                 | 共用部分                                                    | 共用部分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 土地等                                                                             |
|                                         | 区分所有者及びその議決権の各もの                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 土地等                                                                             |

|               |                                                                                                                                         |                                                    |                                                    |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第二十六条第四項及び第五項 | 集会                                                                                                                                      | 区分所有者                                              | 団地建物所有者等集会                                         |
| 第二十九条第一項      | 区分所有者                                                                                                                                   | 団地建物所有者等                                           | 団地建物所有者等                                           |
| 第十四条に定める      | 土地等（これらに関する権利を含む。）の持分の価格の                                                                                                               | 土地等                                                | 土地等（これらに関する権利を含む。）                                 |
| 第二十九条第一項ただし書  | 建物並びにその敷地及び附属施設                                                                                                                         | 土地等                                                | 土地等                                                |
| 第二十九条第二項      | 区分所有者                                                                                                                                   | 団地建物所有者等                                           | 団地建物所有者等                                           |
| 第三十条第一項       | 建物又はその敷地若しくは附属施設                                                                                                                        | 土地等                                                | 土地等                                                |
| 第三十条第三項       | 区分所有者                                                                                                                                   | 団地建物所有者等                                           | 団地建物所有者等                                           |
|               | 専有部分若しくは共用部分又は建物の敷地若しくは附属施設（建物の敷地又は附属施設に関する権利を含む。）                                                                                      | 土地等（これらに関する権利を含む。）                                 | 土地等（これらに関する権利を含む。）                                 |
| 第三十条第四項       | 区分所有者                                                                                                                                   | 団地建物所有者等                                           | 団地建物所有者等                                           |
| 第三十一条第一項      | 集会                                                                                                                                      | 団地建物所有者等集会                                         | 団地建物所有者等集会                                         |
|               | 区分所有者（議決権を有しないものを除く。以下この項前段において同じ。）の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上）を有するものは、その割合以上）を有するもの | 議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上）を有する団地建物所有者等 | 議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあつては、その割合以上）を有する団地建物所有者等 |
| 第三十三条第一項ただし書  | 一部の区分所有者                                                                                                                                | 一部の団地建物所有者等                                        | 一部の団地建物所有者等                                        |
| 第三十三条第一項      | 建物を使用している区分所有者                                                                                                                          | 団地建物所有者等                                           | 団地建物所有者等                                           |
| 第三十四条第一項      | 集会                                                                                                                                      | 団地建物所有者等集会                                         | 団地建物所有者等集会                                         |

  

|          |                                                              |                                                                                                                                                            |
|----------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第三十四条第三項 | 区分所有者（議決権を有しないものを除く。第五項において同じ。）の五分の一以上の者であつて議決権の五分の一以上を有するもの | 議決権の五分の一以上を有する団地建物所有者等                                                                                                                                     |
| 第三十四条第四項 | 集会                                                           | 団地建物所有者等集会                                                                                                                                                 |
| 第三十四条第五項 | 区分所有者                                                        | 団地建物所有者等                                                                                                                                                   |
|          | 区分所有者の五分の一以上の者であつて議決権の五分の一以上を有するもの                           | 議決権の五分の一以上を有する団地建物所有者等                                                                                                                                     |
| 第三十五条第一項 | 集会                                                           | 団地建物所有者等集会                                                                                                                                                 |
|          | 区分所有者                                                        | 団地建物所有者等                                                                                                                                                   |
| 第三十五条第二項 | 専有部分が数人の共有に属するとき                                             | 建物若しくは専有部分が数人の共有に属するとき、又は一の建物であつて滅失したものの所有に係る建物の敷地若しくは附属施設に関する権利若しくは一の専有部分を所有するための敷地利用権若しくは附属施設に関する権利に係る敷地共有持分等（第七十二条に規定する敷地共有持分等をいう。第四十条において同じ。）を数人で有するとき |
| 第三十五条第三項 | 第四十条                                                         | 同条                                                                                                                                                         |
|          | 区分所有者                                                        | 団地建物所有者等                                                                                                                                                   |
|          | その場所に、これを通知しなかつたときは区分所有者の所有する専有部分が所在する場所                     | 、その場所                                                                                                                                                      |
| 第三十六条    | 集会                                                           | 団地建物所有者等集会                                                                                                                                                 |
|          | 区分所有者                                                        | 団地建物所有者等                                                                                                                                                   |
| 第三十七条    | 集会                                                           | 団地建物所有者等集会                                                                                                                                                 |

|            |                                                                                         |                           |               |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|---------------|
| 第三十八條      | 区分所有者                                                                                   | 第十四条に定める                  | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第一項 | 区分所有者を                                                                                  | 土地等（これらに関する権利を含む。）の持分の価格の | 団地建物所有者等を     |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 当該区分所有者                                                                                 | 当該団地建物所有者等                | 所在等不明団地建物所有者等 |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 所在等不明区分所有者                                                                              | の区分所有者                    | 所在等不明団地建物所有者等 |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 一般区分所有者                                                                                 | 一般団地建物所有者等                | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 所在等不明区分所有者                                                                              | 所在等不明団地建物所有者等             | 所在等不明団地建物所有者等 |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 集会                                                                                      | 団地建物所有者等                  | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 議決権（当該裁判に係る建物が滅失したときは、当該建物に係る敷地利用権を有する者又は当該建物の附屬施設（これに関する権利を含む。）の共有持分を有する者が開く集会における議決権） | 議決権                       | 一般団地建物所有者等    |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 一般区分所有者                                                                                 | 一般団地建物所有者等                | 団地内           |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 建物内                                                                                     | 団地内                       | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 集会                                                                                      | 団地建物所有者等                  | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 区分所有者（議決権を有しないものを除く。）及びその議決権の各有者の数に、当該                                                  | 団地建物所有者等の                 | 団地建物所有者等の     |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 区分所有者の議決権                                                                               | 団地建物所有者等の議決権              | 団地建物所有者等の     |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 、それぞれ算入する                                                                               | 算入する                      | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 区分所有者                                                                                   | 団地建物所有者等                  | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |
| 第三十八條の二第二項 | 集会                                                                                      | 団地建物所有者等                  | 団地建物所有者等      |
|            |                                                                                         |                           |               |

|               |                  |                                                                                                                          |
|---------------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第四十條          | 専有部分が数人の共有に属するとき | 建物若しくは専有部分が数人の共有に属するとき、又は一の建物であつて滅失したものの所有に係る建物の敷地若しくは附屬施設に関する権利若しくは一の専有部分を所有するための敷地利用権若しくは附屬施設に関する権利に係る敷地共有持分等を数人で有するとき |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十一條         | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十二條第一項      | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十二條第三項及び第四項 | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十四條第一項      | 区分所有者            | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十四條第二項      | 専有部分             | 建物又は専有部分                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十五條第二項      | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十五條第三項及び第五項 | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十六條第二項      | 区分所有者            | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第四十六條第二項      | 占有者              | 建物又はその敷地若しくは附屬施設                                                                                                         |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第六十八條第二項      | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第六十六條         | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |
| 第七十九條         | 集会               | 団地建物所有者等                                                                                                                 |
|               |                  |                                                                                                                          |

(招集の通知に関する特例)

第八十条 団地建物所有者等が開く集会(以下「団地建物所有者等集会」という。)を招集する者が団地建物所有者等(前条において準用する第三十五条第三項の規定により通知を受けべき場所を通知したものを除く。)の所在を知ることができないときは、前条において準用する第三十五条第一項の通知は、団地内の見やすい場所に掲示してすることができる。

2 前項の場合には、当該通知は、同項の規定による掲示をした時に到達したものとみなす。ただし、団地建物所有者等集会を招集する者が当該団地建物所有者等の所在を知らないことについて過失があつたときは、到達の効力を生じない。

(団地内の建物が滅失した場合における再建承認決議)

第八十一条 第七十八条に規定する場合において、滅失した建物のうち特定の建物(以下この条及び第八十三条において「特定滅失建物」という。)が所在していた土地(これに関する権利を含む。)が当該団地内建物(滅失した建物を含む。以下同じ。)の団地建物所有者等の共有に属し、かつ、次の各号に掲げる場合の区分に応じてそれぞれ当該各号に定める要件に該当する場合に当該土地(これに関する権利を含む。)の共有者である当該団地内建物の団地建物所有者等で構成される団地建物所有者等集会において議決権の過半数(これを上回る割合を第七十九条において準用する第三十条第一項の規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有する団地建物所有者等が出席し、出席した団地建物所有者等の議決権の四分の三以上の多数による承認の決議(以下この条において「再建承認決議」という。)を得たときは、当該特定滅失建物の団地建物所有者等は、当該土地又はこれと一体として管

理若しくは使用をする団地内の土地(当該団地内建物の団地建物所有者等の共有に属するものに限り。)に新たに建物を建築することができる。

一 当該特定滅失建物が専有部分のある建物であつた場合 その再建決議又はその敷地共有者等の全員の同意があること。

二 当該特定滅失建物が専有部分のある建物以外の建物であつた場合 当該特定滅失建物の所有に係る建物の敷地に関する権利を有する者の同意があること。

2 前項の団地建物所有者等集会における各団地建物所有者等の議決権は、第七十九条において準用する第三十八条の規定にかかわらず、第七十九条において準用する第三十条第一項の規約に別段の定めがある場合であつても、当該特定滅失建物が所在していた土地(これに関する権利を含む。)の持分の価格の割合によるものとする。

3 第一項各号に定める要件に該当する場合における当該特定滅失建物の団地建物所有者等は、再建承認決議においては、いずれもこれに賛成する旨の議決権を行使したものとみなす。ただし、同項第一号に掲げる場合において、当該特定滅失建物に係る敷地共有者等が団地内建物のうち当該特定滅失建物以外の建物の敷地利用権又は敷地共有持分等に基づいて有する議決権の行使については、この限りでない。

4 第一項の団地建物所有者等集会を招集するときは、第七十九条において準用する第三十五条第一項の通知は、同項の規定にかかわらず、当該団地建物所有者等集会の会日より少なくとも二个月前に、会議の目的たる事項及び議案の要領のほか、新たに建築する建物の設計の概要(当該建物の当該団地内における位置を含む。)をも示して発しなければならない

い。

5 第一項の場合において、再建承認決議に係る再建が当該特定滅失建物以外の建物(滅失した建物を含む。以下この項において「当該他の建物」という。)の建替え又は再建に特別の影響を及ぼすべきときは、次の各号に掲げる場合の区分に応じてそれぞれ当該各号に定める者が当該再建承認決議に賛成しているときに限り、当該特定滅失建物の再建をすることができない。

一 当該他の建物が専有部分のある建物である場合 第一項の団地建物所有者等集会において当該他の建物の区分所有者全員の議決権の四分の三以上の議決権を有する区分所有者

二 当該他の建物が滅失した建物であつて滅失した当時において専有部分のある建物であつた場合 第一項の団地建物所有者等集会において当該他の建物に係る敷地共有者等全員の議決権の四分の三以上の議決権を有する敷地共有者等

三 当該他の建物が専有部分のある建物以外の建物である場合 当該他の建物の所有者(議決権を有しないものを除く。)

四 当該他の建物が滅失した建物であつて滅失した当時において専有部分のある建物以外の建物であつた場合 当該他の建物の所有に係る建物の敷地に関する権利を有する者(議決権を有しないものを除く。)

6 第一項の場合において、当該特定滅失建物が二以上あるときは、当該二以上の特定滅失建物の団地建物所有者等は、各特定滅失建物の団地建物所有者等の合意により、当該二以上の特定滅失建物の再建について一括して再建承認決議に付することができる。

7 前項の場合において、当該特定滅失建物が専有部分のある建物であつたときは、当該特

定滅失建物の再建を会議の目的とする敷地共有者等集会において、当該特定滅失建物に係る敷地共有者等の議決権の五分の四以上の多数で、当該二以上の特定滅失建物の再建について一括して再建承認決議に付する旨の決議をすることができる。この場合において、その決議があつたときは、当該特定滅失建物の団地建物所有者等(敷地共有者等に限り。)の同項に規定する合意があつたものとみなす。

(団地内の建物が滅失した場合における建替え承認決議)

第八十二条 第七十八条に規定する場合において、滅失した建物以外の特定の建物(以下この条及び次条において「特定建物」という。)が所在する土地(これに関する権利を含む。)が当該団地内建物の団地建物所有者等の共有に属し、かつ、次の各号に掲げる場合の区分に応じてそれぞれ当該各号に定める要件に該当する場合に当該土地(これに関する権利を含む。)の共有者である当該団地内建物の団地建物所有者等で構成される団地建物所有者等集会において議決権の過半数(これを上回る割合を第七十九条において準用する第三十条第一項の規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有する団地建物所有者等が出席し、出席した団地建物所有者等の議決権の四分の三以上の多数による承認の決議(次項及び第三項において「建替え承認決議」という。)を得たときは、当該特定建物の団地建物所有者等は、当該特定建物を取り壊し、かつ、当該土地又はこれと一体として管理若しくは使用をする団地内の土地(当該団地内建物の団地建物所有者等の共有に属するものに限り。)に新たに建物を建築することができる。

一 当該特定建物が専有部分のある建物である場合 その建替え決議又はその区分所有者の全員の同意があること。

二 当該特定建物が専有部分のある建物以外の建物である場合、その所有者の同意があること。

2 前条第二項から第七項までの規定は、建替え承認決議について準用する。この場合において、これらの規定(同条第二項を除く。)中「特定滅失建物」とあるのは「特定建物」と、同条第二項中「前項」とあり、並びに同条第五項及び第六項中「第一項」とあるのは「次条第一項」と、同条第二項中「特定滅失建物」とあるのは「特定建物(次条第一項に規定する特定建物をいう。以下同じ。)」と、「所在していた」とあるのは「所在する」と、同条第三項中「第一項各号」とあるのは「次条第一項各号」と、同項ただし書中「に係る敷地共有者等」とあるのは「の区分所有者」と、同条第四項中「第一項の団地建物所有者等集会」とあるのは「次条第一項の団地建物所有者等集会」と、同条第五項中「再建が」とあるのは「建替えが」と、同項及び同条第七項中「再建を」とあるのは「建替えを」と、同条第六項及び第七項中「再建に」とあるのは「建替えに」と、同項中「専有部分のある建物であつた」とあるのは「専有部分のある建物である」と、「敷地共有者等集会」とあるのは「第六十二条第一項の集会」と、「敷地共有者等の議決権の五分の四」とあるのは「区分所有者(議決権を有しないものを除く。及び議決権の各五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三)と、「敷地共有者等に」とあるのは「区分所有者に」と、「同項」とあるのは「前項」と読み替えるものとする。

3 建替え承認決議に係る建替えの対象となる特定建物(前項において準用する前条第六項の場合にあつては、建替え承認決議に係る建替えの対象となる全ての特定建物が第六十二条第二項各号のいずれかに該当する場合に

おける第一項の規定の適用については、同項中「四分の三」とあるのは、「三分の二」とする。

(団地内の建物が滅失した場合における建替え再建承認決議)

第八十三条 第七十八条に規定する場合において、特定建物が所在する土地(これに関する権利を含む。)及び特定滅失建物が所在していた土地(これに関する権利を含む。)がいずれも当該団地内建物の団地建物所有者等の共有に属し、かつ、当該特定建物及び当該特定滅失建物(以下この項及び次項において「当該特定建物等」という。)につき次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める要件に該当する場合にこれらの土地(これらに関する権利を含む。)の共有者である当該団地内建物の団地建物所有者等で構成される団地建物所有者等集会において議決権の過半数(これを上回る割合を第七十九条において準用する第三十条第一項の規約で定めた場合にあつては、その割合以上)を有する団地建物所有者等が出席し、出席した団地建物所有者等の議決権の四分の三以上の多数により当該特定建物の建替え及び当該特定滅失建物の再建について一括して承認する旨の決議(以下この条において「建替え再建承認決議」という。)を得たときは、当該特定建物等の団地建物所有者等は、当該特定建物を取り壊し、かつ、これらの土地又はこれらと一体として管理若しくは使用をする団地内の土地(当該団地内建物の団地建物所有者等の共有に属するものに限り。)に新たに建物を建築することができる。ただし、当該特定建物等の団地建物所有者等がそれぞれ当該特定建物の建替え及び当該特定滅失建物の再建について建替え再建承認決議に付する旨の合意をした場合でなければならぬ。

一 当該特定建物が専有部分のある建物である場合、その建替え決議又はその区分所有者の全員の同意があること。

二 当該特定滅失建物が専有部分のある建物であつた場合、その再建決議又はその敷地共有者等の全員の同意があること。

三 当該特定建物が専有部分のある建物以外の建物である場合、その所有者の同意があること。

四 当該特定滅失建物が専有部分のある建物以外の建物であつた場合、当該特定滅失建物の所有に係る建物の敷地に関する権利を有する者の同意があること。

2 前項本文の場合において、当該特定建物等が専有部分のある建物(滅失した専有部分のある建物を含む。)であり、かつ、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ当該各号に定める要件に該当するときは、当該各号に規定する集会において、当該特定建物の建替え及び当該特定滅失建物の再建について建替え再建承認決議に付する旨の決議をすることができる。この場合において、その決議があつたときは、当該特定建物等の団地建物所有者等(特定建物にあつては区分所有者に限り、特定滅失建物にあつては敷地共有者等に限り。)の前項ただし書に規定する合意があつたものとみなす。

一 特定建物である場合、当該特定建物の建替えを会議の目的とする第六十二条第一項の集会において、当該特定建物の区分所有者(議決権を有しないものを除く。)及び議決権の各五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三)以上の賛成があること。

二 特定滅失建物である場合、当該特定滅失建物の再建を会議の目的とする敷地共有者等集会において、当該特定滅失建物に係る

敷地共有者等の議決権の五分の四以上の賛成があること。

3 第八十一条第二項から第五項までの規定は、建替え再建承認決議について準用する。この場合において、同条第二項中「前項」とあり、及び同条第五項中「第一項」とあるのは「第八十三条第一項」と、同条第二項中「特定滅失建物」とあるのは「特定建物(次条第一項に規定する特定建物をいう。次項及び第五項において同じ。)」が所在する土地(これに関する権利を含む。)及び当該特定滅失建物」と、同条第三項中「第一項各号」とあるのは「第八十三条第一項各号」と、「当該特定滅失建物の」とあるのは「当該特定建物等(同項に規定する当該特定建物等をいう。以下この項及び第五項において同じ。)」の」と、同項ただし書中「同項第一号」とあるのは「同条第一項第一号及び第二号」と、「特定滅失建物」とあるのは「特定建物の区分所有者又は当該特定滅失建物に」と、同項ただし書及び同条第五項中「当該特定滅失建物以外」とあるのは「当該特定建物等以外」と、同条第四項中「第一項の団地建物所有者等集会」とあるのは「第八十三条第一項の団地建物所有者等集会」と、同条第五項中「再建が」とあるのは「建替え及び再建が」と、「特定滅失建物の」とあるのは「特定建物の建替え及び当該特定滅失建物の」と読み替えるものとする。

(団地内の建物が滅失した場合における一括建替え等決議)

第八十四条 第七十条第一項本文に規定する場合において、団地内の全部又は一部の建物が滅失したときは、第六十二条第一項及び第七十五条第一項の規定にかかわらず、団地内建物の敷地等(団地内建物が所在し、又は所在していた土地及び第五条第一項の規定により団地内建物の敷地とされ、又は団地内建物が

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2 前項の団地建物所有者等集会における同項本文の各団地建物所有者等の議決権は、第七十九条において準用する第三十八条の規定にかかわらず、第七十九条において準用する第三十条第一項の規約に別段の定めがある場合であつても、当該団地内建物の敷地等（これに関する権利を含む。）の持分の価格の割合に</p>                                                                                                                                                        | <p>滅失した当時において団地内建物の敷地とされていた土地をいう。以下この項及び次項において同じ。）又はこれに関する権利の共有者である当該団地内建物の団地建物所有者等で構成される団地建物所有者等集会において、当該団地内建物の団地建物所有者等（議決権を有しないものを除く。）及び議決権の各五分の四以上の多数で、当該団地内建物につき一括して、その全部を取り壊し、かつ、当該団地内建物の敷地等若しくはその一部の土地又は当該団地内建物の敷地等の全部若しくは一部を含む土地（第三項第一号においてこれらの土地を「再建団地内敷地」という。）に新たに建物を建築する旨の決議（以下この条において「一括建替え等決議」という。）をすることができ。ただし、当該団地建物所有者等集会において、当該団地内建物のうちいずれか一以上の建物につき、次の各号に掲げる場合の区分に応じそれぞれ当該各号に定める者がその一括建替え等決議に反対したときは、この限りでない。</p> <p>一 当該建物が滅失した建物である場合 第七十三条において準用する第三十八条に規定する議決権の三分の一を超える議決権を有する者</p> <p>二 前号に掲げる場合以外の場合 区分所有者（議決権を有しないものを除く。）の三分の一を超える者又は第三十八条に規定する議決権の合計の三分の一を超える議決権を有する者</p>                                                                                                                                                                                              |
| <p>2 前項の団地建物所有者等集会における同項本文の各団地建物所有者等の議決権は、第七十九条において準用する第三十八条の規定にかかわらず、第七十九条において準用する第三十条第一項の規約に別段の定めがある場合であつても、当該団地内建物の敷地等（これに関する権利を含む。）の持分の価格の割合に</p>                                                                                                                                                        | <p>よるものとする。</p> <p>3 一括建替え等決議においては、次の事項を定めなければならない。</p> <p>一 再建団地内敷地の一体的な利用についての計画の概要</p> <p>二 新たに建築する建物（以下この項において「再建団地内建物」という。）の設計の概要</p> <p>三 団地内建物の全部の取壊し及び再建団地内建物の建築に要する費用の概算額</p> <p>四 前号に規定する費用の分担に関する事項</p> <p>五 再建団地内建物の区分所有権の帰属に関する事項</p> <p>4 第六十二条第五項から第十項まで及び第六十三条から第六十四条の四までの規定は、一括建替え等決議について準用する。この場合において、これらの規定（第六十二条第五項を除く。）中「区分所有者」とあるのは「団地建物所有者等」と、第六十二条第五項中「前項第三号及び第四号」とあるのは「第八十四条第三項第四号及び第五号」と、「区分所有者」とあるのは「団地建物所有者等（第七十八条に規定する団地建物所有者等をいう。以下同じ。）」と、同条第六項中「集会を」とあるのは「団地建物所有者等集会（第八十条第一項に規定する団地建物所有者等集会をいう。以下この条及び次条において同じ。）」を」と、同項及び同条第七項中「第三十五条第一項」とあるのは「第七十九条において準用する第三十五条第一項」と、同条第六項中「集会の」とあるのは「団地建物所有者等集会の」と、同条第七項第一号中「建替え」とあるのは「建替え又は再建」と、同条第八項及び第十項並びに第六十三条第一項及び第二項中「集会」とあるのは「団地建物所有者等集会」と、第六十二条第九項中「第三十五条及び第三十六条」とあるのは「第七十九条において準用する第三十五条第一項から第三項まで及び第三十六条並びに第八十</p> |
| <p>（団地内の全部の建物が滅失した場合における一括敷地売却決議）</p> <p>第八十五条 第七十条第一項本文に規定する場合において、団地内の全部の建物が滅失したときは、第七十六条第一項の規定にかかわらず、団地内建物の敷地等（団地内建物が所在していた土地及び団地内建物が滅失した当時において第五条第一項の規定により団地内建物の敷地とされていた土地をいう。以下この項及び次項において同じ。）又はこれに関する権利の共有者である当該団地内建物の団地建物所有者等で構成される団地建物所有者等集会において、当該団地内建物の団地建物所有者等（議決権を有しないものを除く。）及び議</p>             | <p>条」と、第六十三条第一項、第二項、第四項及び第六項並びに第六十四条中「建替え」とあるのは「建替え又は再建」と、第六十三条第五項中「建替えに参加する」とあるのは「建替え若しくは再建に参加する」と、「敷地利用権を買い受ける」とあるのは「敷地利用権（滅失した建物にあつては、敷地共有持分等（第七十二条に規定する敷地共有持分等をいう。以下この条及び次条において同じ。）」を買い受ける」と、「同項」とあるのは「第三項」と、「建替えに参加しない」とあるのは「建替え又は再建に参加しない」と、「敷地利用権を時価」とあるのは「敷地利用権（滅失した建物にあつては、敷地共有持分等）を時価」と、同条第七項及び第八項中「建物の取壊しの工事」とあるのは「建物の取壊し又は再建の工事」と、同条第七項及び第六十四条中「敷地利用権」とあるのは「敷地利用権（滅失した建物にあつては、敷地共有持分等）」と、同条中「建替え」とあるのは「建替え又は再建を」と、第六十四条の二第一項中「建替え」とあるのは「建替え若しくは再建」と読み替えるものとする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>4 第六十二条第六項、第七項（各号列記以外の部分に限る。）及び第八項から第十項まで、第六十三条（第五項後段及び第六項を除く。）並びに第六十四条の規定は、一括敷地売却決議について準用する。この場合において、これらの規定（第六十二条第八項を除く。）中「区分所有者」とあるのは「団地建物所有者等」と、第六十二条第六項中「集会を」とあるのは「団地建物所有者等集会（第八十条第一項に規定する団地建物所有者等集会をいう。以下この条及び次条において同じ。）」を」と、同項及び同条第七項中「第三十五条第一項」とあるのは「第七十九条において準用する第三十五条第一項から第三項まで及び第三十六条並びに第八十</p> | <p>2 前項の団地建物所有者等集会における同項本文の各団地建物所有者等の議決権は、第七十九条において準用する第三十八条の規定にかかわらず、第七十九条において準用する第三十条第一項の規約に別段の定めがある場合であつても、当該団地内建物の敷地等（これに関する権利を含む。）の持分の価格の割合によるものとする。</p> <p>3 一括敷地売却決議においては、次の事項を定めなければならない。</p> <p>一 売却の相手方となるべき者の氏名又は名称</p> <p>二 売却による代金の見込額</p> <p>4 第六十二条第六項、第七項（各号列記以外の部分に限る。）及び第八項から第十項まで、第六十三条（第五項後段及び第六項を除く。）並びに第六十四条の規定は、一括敷地売却決議について準用する。この場合において、これらの規定（第六十二条第八項を除く。）中「区分所有者」とあるのは「団地建物所有者等」と、第六十二条第六項中「集会を」とあるのは「団地建物所有者等集会（第八十条第一項に規定する団地建物所有者等集会をいう。以下この条及び次条において同じ。）」を」と、同項及び同条第七項中「第三十五条第一項」とあるのは「第七十九条において準用する第三十五条第一項から第三項まで及び第三十六条並びに第八十</p>                                                                                                                                                                                                                            |

は「第七十九条において準用する第三十五条第一項」と、同条第六項中「集会の」とあるのは「団地建物所有者等集会の」と、同条第七項中「次の事項」とあるのは「売却を必要とする理由」と、同条第八項及び第十項並びに第六十三条第一項及び第二項中「集」とあるのは「団地建物所有者等集会」と、第六十二条第八項中「区分所有者」とあるのは「団地建物所有者等(第七十八条に規定する団地建物所有者等をいう。次条及び第六十四条において同じ。)」と、同条第九項中「第三十五条及び第三十六条」とあるのは「第七十九条において準用する第三十五条第一項から第三項まで及び第三十六条並びに第八十条」と、第六十三条第一項、第二項、第四項及び第五項前段並びに第六十四条中「建替えに」とあるのは「売却に」と、同項前段中「区分所有権及び敷地利用権を買い受ける」とあるのは「敷地共有持分等(第七十二条に規定する敷地共有持分等をいう。以下同じ。)」を買い受ける」と、「区分所有権及び敷地利用権を時価」とあるのは「敷地共有持分等を時価」と、第六十三条第七項中「建物の取壊しの工事に着手しない」とあるのは「売買契約による敷地共有持分等に係る土地(これに関する権利を含む。)」についての権利の移転(以下この項及び次項において「土地等の権利の移転」という。がない」と、同項及び第六十四条中「区分所有権又は敷地利用権」とあるのは「敷地共有持分等」と、同項ただし書中「建物の取壊しの工事に着手しなかつた」とあるのは「土地等の権利の移転がなかつた」と、第六十三条第八項中「建物の取壊しの工事に着手」とあるのは「土地等の権利の移転」と、「その着手をしない」とあるのは「土地等の権利の移転がない」と、第六十四条中「建替え」とあるのは「売却」と読み替えるものとする。

第四章 所在等不明区分所有者等の除外等に関する裁判手続

(所在等不明区分所有者等の除外に関する裁判)

第八十六条 次の各号に掲げる裁判に係る事件は、それぞれ当該各号に定める物の所在地を管轄する地方裁判所の管轄に属する。

一 第三十八条の二第一項の規定による裁判 当該裁判に係る建物

二 第六十六条及び第七十九条において準用する第三十八条の二第一項の規定による裁判 当該裁判に係る土地又は附属施設

三 第七十三条において準用する第三十八条の二第一項の規定による裁判 当該裁判に係る建物の敷地又は附属施設

2 前項の裁判は、裁判所が次に掲げる事項を公告し、かつ、第二号の期間を経過した後でなければ、することができない。この場合において、同号の期間は、一月を下つてはならない。

一 前項各号に定める物について同項の裁判の申立てがあつたこと。

二 裁判所が前項の裁判をすることについて異議があるときは、次に掲げる者は一定の期間内にその旨の届出をすべきこと。

イ 第三十八条の二第一項に規定する所在等不明区分所有者

ロ 第六十六条又は第七十九条において読み替えて準用する第三十八条の二第一項に規定する所在等不明団地建物所有者又は所在等不明団地建物所有者等

ハ 第七十三条において読み替えて準用する第三十八条の二第一項に規定する所在等不明敷地共有者等

三 前号の届出がないときは、前項の裁判がされること。

3 第一項の裁判は、確定しなければその効力を生じない。

4 第一項の裁判は、第二項第二号イからハまでに掲げる者に告知することを要しない。

5 裁判所は、第一項各号に定める物の所有者(その共有持分を有する者を含む。)及びその所在が判明したときは、利害関係人の申立てにより、同項の裁判を取り消さなければならぬ。

6 第一項の裁判及び前項の規定による取消しの裁判に対しては、利害関係人に限り、即時抗告をすることができる。

(所有者不明専有部分管理命令)

第八十七条 第一章第六節の規定による非訟事件は、裁判を求める事項に係る専有部分の所在地を管轄する地方裁判所の管轄に属する。

2 裁判所は、次に掲げる事項を公告し、かつ、第二号の期間を経過した後でなければ、所有者不明専有部分管理命令をすることができない。この場合において、同号の期間は、一月を下つてはならない。

一 所有者不明専有部分管理命令の申立てがその対象となるべき専有部分又は共有持分についてあつたこと。

二 所有者不明専有部分管理命令をすることについて異議があるときは、所有者不明専有部分管理命令の対象となるべき専有部分又は共有持分を有する者は一定の期間内にその旨の届出をすべきこと。

三 前号の届出がないときは、所有者不明専有部分管理命令がされること。

3 第四十六条の三第二項又は第四十六条の六第二項の許可の申立てをする場合には、その許可を求める理由を疎明しなければならない。

4 裁判所は、第四十六条の六第一項の規定による解任の裁判又は第四十六条の七第一項の規定による費用若しくは報酬の額を定める裁判をする場合には、所有者不明専有部分管理人の陳述を聴かなければならない。

5 次に掲げる裁判には、理由を付さなければならない。

一 所有者不明専有部分管理命令の申立てを却下する裁判

二 第四十六条の三第二項又は第四十六条の六第二項の許可の申立てを却下する裁判

三 第四十六条の六第一項の規定による解任の申立てについての裁判

6 所有者不明専有部分管理命令があつた場合には、裁判所書記官は、職権で、遅滞なく、所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分又は共有持分について、所有者不明専有部分管理命令の登記を嘱託しなければならない。

7 所有者不明専有部分管理命令を取り消す裁判があつたときは、裁判所書記官は、職権で、遅滞なく、所有者不明専有部分管理命令の登記の抹消を嘱託しなければならない。

8 所有者不明専有部分管理人は、所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分又は共有持分並びに所有者不明専有部分管理命令の効力が及ぶ動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権の管理、処分その他の事由により金銭が生じたときは、その専有部分の区分所有者又はその共有持分を有する者のために、当該金銭を所有者不明専有部分管理命令の対象とされた専有部分(共有持分を対象として所有者不明専有部分管理命令が発せられた場合にあつては、共有物である専有部分)の所在地の供託所に供託することができる。この場合において、供託をしたときは、法務省令で定めるところにより、その旨その他法務省令で定める事項を公告しなければならない。

9 裁判所は、所有者不明専有部分管理命令を変更し、又は取り消すことができる。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>10 裁判所は、管理すべき財産がなくなつたとき(管理すべき財産の全部が供託されたときを含む。)その他財産の管理を継続することが相当でなくなつたときは、所有者不明専有部分管理人若しくは利害関係人の申立てにより又は職権で、所有者不明専有部分管理命令を取り消さなければならない。</p> <p>11 所有者不明専有部分等の所有者(その共有持分を有する者を含む。以下この条において同じ。)が所有者不明専有部分等の所有権(その共有持分を含む。)が自己に帰属することを証明したときは、裁判所は、当該所有者の申立てにより、所有者不明専有部分管理命令を取り消さなければならない。この場合において、所有者不明専有部分管理命令が取り消されたときは、所有者不明専有部分管理人は、当該所有者に対し、その事務の経過及び結果を報告し、当該所有者に帰属することが証明された財産を引き渡さなければならない。</p> <p>12 所有者不明専有部分管理命令及びその変更の裁判は、所有者不明専有部分等の所有者に告知することを要しない。</p> <p>13 所有者不明専有部分管理命令の取消しの裁判は、事件の記録上所有者不明専有部分等の所有者及びその所在が判明している場合に限る。その所有者に告知すれば足りる。</p> <p>14 次の各号に掲げる裁判に対しては、それぞれ当該各号に定める者に限り、即時抗告をすることができる。</p> <p>一 所有者不明専有部分管理命令 利害関係人</p> <p>二 第四十六条の六第一項の規定による解任の裁判 利害関係人</p> <p>三 第四十六条の七第一項の規定による費用又は報酬の額を定める裁判 所有者不明専有部分管理人</p> <p>四 第九項から第十一項までの規定による変更又は取消しの裁判 利害関係人</p> | <p>15 次に掲げる裁判に対しては、不服を申し立てることができない。</p> <p>一 第四十六条の二第四項の規定による所有者不明専有部分管理人の選任の裁判</p> <p>二 第四十六条の三第二項又は第四十六条の六第二項の許可の裁判</p> <p>(管理不全専有部分管理命令及び管理不全共用部分管理命令)</p> <p>第八十八条 第一章第七節の規定による非訟事件は、裁判を求める事項に係る専有部分又は共用部分の所在地を管轄する地方裁判所の管轄に属する。</p> <p>2 第四十六条の九第三項又は第四十六条の十一第二項の許可の申立てをする場合には、その許可を求める理由を疎明しなければならない。</p> <p>3 裁判所は、次の各号に掲げる裁判をする場合には、それぞれ当該各号に定める者の陳述を聴かなければならない。ただし、第一号に掲げる裁判をする場合において、その陳述を聴く手続を経ることにより当該裁判の申立ての目的を達することができない事情があるときは、この限りでない。</p> <p>一 管理不全専有部分管理命令 管理不全専有部分管理命令の対象となるべき専有部分の区分所有者</p> <p>二 第四十六条の九第三項の許可の裁判 管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者</p> <p>三 第四十六条の十一第一項の規定による解任の裁判 管理不全専有部分管理人</p> <p>四 第四十六条の十二第一項の規定による費用の額を定める裁判 管理不全専有部分管理人</p> <p>五 第四十六条の十二第二項の規定による報酬の額を定める裁判 管理不全専有部分管理人</p> | <p>理人及び管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者</p> <p>4 次に掲げる裁判には、理由を付さなければならない。</p> <p>一 管理不全専有部分管理命令の申立てについての裁判</p> <p>二 第四十六条の九第三項の許可の申立てについての裁判</p> <p>三 第四十六条の十一第一項の規定による解任の申立てについての裁判</p> <p>四 第四十六条の十一第二項の許可の申立てを却下する裁判</p> <p>5 管理不全専有部分管理人は、管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分並びに管理不全専有部分管理命令の効力が及ぶ動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権の管理、処分その他の事由により金銭が生じたときは、その専有部分の区分所有者(その共有持分を有する者を含む。)のために、当該金銭を管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の所在地の供託所に供託することができる。この場合において、供託をしたときは、法務省令で定めるところにより、その旨その他法務省令で定める事項を公告しなければならない。</p> <p>6 裁判所は、管理不全専有部分管理命令を変更し、又は取り消すことができる。</p> <p>7 裁判所は、管理すべき財産がなくなつたとき(管理すべき財産の全部が供託されたときを含む。)その他財産の管理を継続することが相当でなくなつたときは、管理不全専有部分管理人若しくは利害関係人の申立てにより又は職権で、管理不全専有部分管理命令を取り消さなければならない。</p> <p>8 次の各号に掲げる裁判に対しては、それぞれ当該各号に定める者に限り、即時抗告をすることができる。</p> | <p>一 管理不全専有部分管理命令 利害関係人</p> <p>二 第四十六条の九第三項の許可の裁判 管理不全専有部分管理命令の対象とされた専有部分の区分所有者</p> <p>三 第四十六条の十一第一項の規定による解任の裁判 利害関係人</p> <p>四 第四十六条の十二第一項の規定による費用の額を定める裁判 管理不全専有部分管理人</p> <p>五 第四十六条の十二第二項の規定による報酬の額を定める裁判 管理不全専有部分管理人</p> <p>六 前二項の規定による変更又は取消しの裁判 利害関係人</p> <p>9 次に掲げる裁判に対しては、不服を申し立てることができない。</p> <p>一 第四十六条の八第三項の規定による管理不全専有部分管理人の選任の裁判</p> <p>二 第四十六条の十一第二項の許可の裁判</p> <p>10 第二項から前項までの規定は、管理不全共用部分管理命令及び管理不全共用部分管理人について準用する。この場合において、第二項、第三項第二号、第四項第二号及び第八項第二号中「第四十六条の九第三項」とあるのは「第四十六条の十四において準用する第四十六条の九第三項」と、第三項第一号、第二号及び第五号、第五項並びに第八項第二号及び第五号中「専有部分」とあるのは「共用部分」と、「区分所有者」とあるのは「所有者」と、第三項第三号、第四項第三号及び第八項第三号中「第四十六条の十一第一項」とあるのは「第四十六条の十四において準用する第四十六条の十一第一項」と、第三項第四号及び第五号並びに第八項第四号及び第五号中「第四十六条の十二第一項」とあるのは「第四十六条の十四において準用する第四十六条の十二</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第一項」と、第四項第四号及び前項第二号中「第四十六条の十一第二項」とあるのは「第四十六条の十四において準用する第四十六条の十一第二項」と、第五項中「専有部分並びに」とあるのは「共用部分及び」と、「動産並びに共用部分及び附属施設に関する権利並びに敷地利用権」とあるのは「動産」と、前項第一号中「第四十六条の八第三項」とあるのは「第四十六条の十三第三項」と読み替えるものとする。

(非訟事件手続法の適用除外)

第八十九条 第三十八条の二第一項(第六十六条、第七十三条及び第七十九条において準用する場合を含む。)の規定による裁判に係る事件については、非訟事件手続法(平成二十三年法律第五十一号)第四十条の規定は、適用しない。

2 第一章第六節及び第七節の規定による非訟事件については、非訟事件手続法第四十条及び第五十七条第二項第二号の規定は、適用しない。

(最高裁判所規則)

第九十条 この章に定めるもののほか、第三十八条の二第一項(第六十六条、第七十三条及び第七十九条において準用する場合を含む。)の規定による裁判に係る事件並びに第一章第六節及び第七節の規定による非訟事件に関する裁判手続に関し必要な事項は、最高裁判所規則で定める。

(被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法の一部改正)

第二条 被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)の一部を次のように改正する。

目次中「の全部」を削り、「一第六条」を「第三条」に、「の一部が滅失した」を「が大規模一部滅失をした」に、「第七条―第十二条」を「第四

条・第五条」に、「第四章 団地内の建物が滅失した場合における措置(第十三条―第十八条)

を「第四章 団地内の建物が大規模一部滅失をした場合における措置(第六条―第八条)」に改める。

第一条中「その全部が滅失した」を「滅失し、又は大規模一部滅失(建物の価格の過半に相当する部分の滅失をいう。以下同じ。)をした」に改め、「再建の下に」又は「建替え等」を加え、「その一部が滅失した区分所有建物及びその敷地の売却並びに当該区分所有建物の取壊し等」を削る。

第二章の章名中「の全部」を削る。

第二条及び第三条を次のように改める。

(区分所有建物が滅失した場合における再建等に関する特例)

第二条 大規模な火災、震災その他の災害で政令で定めるものにより建物の区分所有等に関する法律(昭和三十七年法律第六十九号。以下「区分所有法」という。)第二条第三項に規定する専有部分が属する一棟の建物(以下「区分所有建物」という。)が滅失した場合(大規模一部滅失をした場合において区分所有法第六十四条の八第一項の決議(第九条第一項及び第十一條において「取壊し決議」という。)又は区分所有者(区分所有法第二条第二項に規定する区分所有者をいう。以下同じ。)全員の同意に基づき取り壊されたときを含む。第十条において同じ。)には、当該政令の施行の日から起算して六年を超えない範囲内において当該政令で定める期間に限り、区分所有法第七十五条から第七十七条までの規定の適用については、区分所有法第七十五条第一項及び第七十六条第一項中「五分の四」とあるのは「三分

の二」と、区分所有法第七十七条第一項ただし書(同条第二項において準用する場合を含む。)中「五分の一」とあるのは「三分の一」とする。

(敷地共有者等集会等に関する特例)

第三条 前条に規定する場合には、同条の政令で定める期間に限り、区分所有法第七十二条及び第七十七条の規定の適用については、これらの規定中「五年を経過する日まで」とあるのは、「五年を経過する日又は被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める期間の末日のいずれか遅い日まで」とする。

第四条から第六条までを削る。

第三章の章名中「の一部が滅失した」を「が大規模一部滅失をした」に改める。

第七条を削る。

第八条の見出し中「の一部が滅失した」を「が大規模一部滅失をした」に改め、同条第一項中「前条に規定する」を「第二条の政令で定める災害により区分所有建物が大規模一部滅失をした」に、「第二条の政令の施行の日から起算して一年以内を」当該政令で定める期間内に、「区分所有者集会」を「区分所有法第三十四条の規定による集会(第三項及び第四項において「区分所有者集会」という。)」に改め、同条第五項を削り、第三章中同条を第四条とし、同条の次に次の一条を加える。

(区分所有建物が大規模一部滅失をした場合における復旧等に関する特例)

第五条 第二条の政令で定める災害により区分所有建物が大規模一部滅失をした場合には、当該政令で定める期間に限り、区分所有法第六十一条第十四項の規定の適用については、同項中「建物の一部が滅失した日から六月以内」とあるのは、「その滅失に係る災害を定める被災区分所有建物の再建等に関する特別

措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める期間内」とする。

2 前項に規定する場合には、第二条の政令で定める期間に限り、区分所有法第六十二条、第六十三条及び第六十四条の五から第六十四条の八までの規定の適用については、区分所有法第六十二条第一項、第六十四条の五第一項、第六十四条の六第一項、第六十四条の七第一項及び第六十四条の八第一項中「五分の四」とあるのは、「三分の二」とし、区分所有法第六十二条第二項及び第三項並びに第六十三条第六項(これらの規定を区分所有法第六十四条の五第三項、第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項及び第六十四条の八第三項において準用する場合を含む。)の規定は、適用しない。

第九条から第十二条までを削る。

第四章及び第五章を次のように改める。

第四章 団地内の建物が大規模一部滅失をした場合における措置

(団地内の建物が大規模一部滅失をした場合における団地建物所有者集会の招集の通知に関する特例)

第六条 一団地内にある数棟の建物の全部又は一部が区分所有建物であり、かつ、第二条の政令で定める災害によりその団地内の全部又は一部の建物が大規模一部滅失をした場合において、当該政令で定める期間内の日を会日とする区分所有法第六十六条において準用する区分所有法第三十四条の規定による集会(第三項及び第四項において「団地建物所有者集会」という。)を招集するときは、区分所有法第六十六条において準用する区分所有法第三十五条第一項の通知については、区分所有法第六十六条において準用する区分所有法第三十五条第三項及び第四項の規定は、適用しない。

2 前項の通知は、団地建物所有者(区分所有法第六十五条に規定する団地建物所有者をいう。次項及び第四項において同じ。)が第二条の政令で定める災害が発生した時以後に管理者に対して通知を受けるべき場所を通知したときは、その場所に宛ててすれば足りる。この場合には、前項の通知は、通常それが到達すべき時に到達したものとみなす。

3 団地建物所有者集会を招集する者が団地建物所有者(前項の規定により通知を受けるべき場所を通知したものを除く。)の所在を知ることができないときは、第一項の通知は、当該団地内の見やすい場所に掲示してすることができる。

4 前項の場合には、当該通知は、同項の規定による掲示をした時に到達したものとみなす。ただし、団地建物所有者集会を招集する者が当該団地建物所有者の所在を知らないことについて過失があったときは、到達の効力を生じない。

(団地内の建物が大規模一部滅失をした場合における建替え承認に関する特例)

第七条 第二条の政令で定める災害により団地内の特定建物(区分所有法第六十九条第一項に規定する特定建物をいう。)が大規模一部滅失をした場合には、当該政令で定める期間に限り、区分所有法第六十九条の規定の適用については、同条第七項中「五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三)」とあるのは「五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三、当該特定建物が被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める災害によりその価格の過半に相当する部分が滅失したものである場合にあつては三分の二)」と、同条第八項中

「第六十二条第二項各号のいずれかに該当する場合」とあるのは「第六十二条第二項各号のいずれかに該当し、又は被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法第二条の政令で定める災害によりその価格の過半に相当する部分が滅失したものである場合」とする。

(団地内の全部の区分所有建物が大規模一部滅失をした場合における一括建替え等に関する特例)

第八条 第二条の政令で定める災害により団地内の全部の区分所有建物が大規模一部滅失をした場合には、当該政令で定める期間に限り、区分所有法第七十条及び第七十一条の規定の適用については、区分所有法第七十条第一項及び第七十一条第一項中「五分の四」とあるのは、「三分の二」とし、区分所有法第七十条第二項及び第七十一条第二項の規定は、適用しない。

第五章 団地内の建物が滅失した場合等における措置

(団地内の建物が滅失した場合における再建承認等に関する特例)

第九条 団地内の特定滅失建物(区分所有法第八十一条第一項に規定する特定滅失建物をいう。第三項において同じ。)が第二条の政令で定める災害により滅失したものの(区分所有建物にあつては大規模一部滅失をした場合において取壊し決議又は区分所有者全員の同意に基づき取り壊されたものを含む、区分所有建物以外の建物にあつては大規模一部滅失をした場合において所有者により取り壊されたものを含む。同項において同じ。)である場合には、当該政令で定める期間に限り、区分所有法第八十一条の規定の適用については、同条第一項中「四分の三」とあるのは「四分の三(当該特定滅失建物(第六項の場合にあつては、当該二以上の全ての特定滅失建物)が被災区

区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める災害により滅失したものの(専有部分のある建物にあつてはその価格の過半に相当する部分が滅失した場合において第六十四条の八第一項の決議又は区分所有者全員の同意に基づき取り壊されたものを含む、専有部分のある建物以外の建物にあつてはその価格の過半に相当する部分が滅失した場合において所有権により取り壊されたものを含む。))である場合にあつては、三分の二」と、同条第七項中「五分の四」とあるのは「五分の四(当該特定滅失建物が被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法第二条の政令で定める災害により滅失したものの(その価格の過半に相当する部分が滅失した場合において第六十四条の八第一項の決議又は区分所有者全員の同意に基づき取り壊されたものを含む。))である場合にあつては、三分の二」と、「同項」とあるのは「前項」とする。

2 第二条の政令で定める災害により団地内の特定建物(区分所有法第八十二条第一項に規定する特定建物をいう。次項において同じ。)が大規模一部滅失をした場合には、当該政令で定める期間に限り、区分所有法第八十二条の規定の適用については、同条第二項中「五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三)」とあるのは「五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三、当該特定建物が被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める災害によりその価格の過半に相当する部分が滅失したものである場合にあつては三分の二)」と、同条第三項中「第六十二条第二項各号のいずれかに該当する場合」とあるのは、第六十

二条第二項各号のいずれかに該当し、又は被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める災害によりその価格の過半に相当する部分が滅失したものである場合」とする。

3 団地内の特定滅失建物が第二条の政令で定める災害により滅失したものであり、かつ、その災害によりその団地内の特定建物が大規模一部滅失をした場合には、当該政令で定める期間に限り、区分所有法第八十三条の規定の適用については、同条第一項中「四分の三」とあるのは「四分の三(当該特定滅失建物(当該特定滅失建物が二以上ある場合にあつては、当該二以上の全ての特定滅失建物)が被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号)第二条の政令で定める災害により滅失したものの(専有部分のある建物にあつてはその価格の過半に相当する部分が滅失した場合において第六十四条の八第一項の決議又は区分所有者全員の同意に基づき取り壊されたものを含む、専有部分のある建物以外の建物にあつてはその価格の過半に相当する部分が滅失した場合において所有権により取り壊されたものを含む。))であり、かつ、当該特定建物(当該特定建物が二以上ある場合にあつては、当該二以上の全ての特定建物)がその災害によりその価格の過半に相当する部分が滅失したものである場合にあつては、三分の二)」と、同条第二項第一号中「五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三)」とあるのは「五分の四(当該特定建物が同条第二項各号のいずれかに該当する場合にあつては、四分の三、当該特定建物が被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法第二条の政令で定める災害によりその価格の過半に相当する部分が滅失したものである場合にあつ



の「」に改め、同号を同項第二十一号とし、同号の次に次の五号を加える。

二十二 除却敷地売却マンション 現に存するマンションであつて、マンション除却敷地売却事業を実施するものをいう。

二十三 売却敷地 滅失したマンションに係るマンションの敷地であつた土地であつて、敷地売却事業を実施するものをいう。

二十四 マンションの除却 現に存するマンションを除却することをいう。

二十五 マンション除却事業 この法律で定めるところに従つて行われるマンションの除却に関する事業をいう。

二十六 除却マンション 現に存するマンションであつて、マンション除却事業を実施するものをいう。

第二条第一項第九号を第十八号とし、同号の次に次の二号を加える。

十九 マンション除却敷地売却事業 この法律で定めるところに従つて行われるマンション除却敷地売却に関する事業をいう。

二十 敷地売却事業 この法律で定めるところに従つて行われる敷地売却に関する事業をいう。

第二条第一項第八号中「存する」の下に「又は二以上の」を加え、同号を同項第十五号とし、同号の次に次の二号を加える。

十六 マンション除却敷地売却 現に存する一又は二以上のマンションを除却するとともに、当該マンションの敷地（マンションの敷地利用権が借地権であるときは、その借地権）を売却することをいう。

十七 敷地売却 一又は二以上のマンションが滅失した場合において、当該マンションの敷地であつた土地（マンションの敷地利用権が借地権であつたときは、その借地権）を売却することをいう。

第二条第一項第七号中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、「マンション建替事業の下に」、マンション再建事業若しくはマンション一括建替等事業を加え、「再建マンション」を「再生マンション又はマンション更新事業の施行によりマンションの更新がされた後の再生マンション」に改め、同号を同項第十四号とし、同項第六号を削り、同項第五号中「マンション建替事業」の下に、「マンション更新事業、マンション再建事業又はマンション一括建替等事業（以下「マンション再生事業」と総称する。）」を加え、同号を同項第十号とし、同号の次に次の三号を加える。

十一 建替前マンション 現に存するマンションであつて、マンション建替事業又はマンション一括建替等事業（マンションの再建のみを行うものを除く。）を施行するものをいう。

十二 更新前マンション 現に存するマンションであつて、マンション更新事業を施行するものをいう。

十三 再建敷地 滅失したマンションに係るマンションの敷地であつた土地であつて、マンション再建事業又はマンション一括建替等事業を施行するものをいう。

第二条第一項第四号中（第三章を除く。）を削り、同号を同項第六号とし、同号の次に次の三号を加える。

七 マンション更新事業 この法律で定めるところに従つて行われるマンションの更新に関する事業及びこれに附帯する事業をいう。

八 マンション再建事業 この法律で定めるところに従つて行われるマンションの再建に関する事業及びこれに附帯する事業（マンション一括建替等事業を除く。）をいう。

九 マンション一括建替等事業 この法律で

定めるところに従つて団地内建物（区分所有法第六十九条第一項に規定する団地内建物をいい、その全部又は一部がマンションであるものに限る。以下同じ。）の全部について行われる次に掲げる事業及びこれらに附帯する事業をいう。

イ 団地内建物の一部が滅失した場合におけるマンションの建替え及びマンションの再建に関する事業

ロ 団地内建物の全部が滅失した場合におけるマンションの再建に関する事業

第二条第一項第三号の次に次の二号を加える。

四 マンションの再建 一又は二以上のマンションが滅失した場合において、当該マンションの敷地であつた土地（これに隣接する土地を含む。）にマンションを新たに建築することをいう。

五 再生マンション マンションの建替え若しくはマンションの再建により新たに建築されたマンション又はマンションの更新がされた後のマンションをいう。

第二条第二項を次のように改める。

2 次の各号に掲げる場合には、当該各号に定める建物については、マンションとみなして、この法律を適用する。

一 区分所有法第七十条第一項に規定する一括建替え決議（以下単に「一括建替え決議」という。）の内容により、団地内建物の全部を除却するとともに、同項に規定する再建団地内敷地に同条第四項第二号に規定する再建団地内建物（その全部又は一部がマンションであるものに限る。以下この号において「再建団地内建物」という。）を新たに建築する場合 現に存する団地内建物（マンションを除く。）及び新たに建築された再建団地内建物（マンションを除く。）

二 区分所有法第七十一条第一項に規定する団地内建物敷地売却決議（以下単に「団地内建物敷地売却決議」という。）の内容により、団地内建物及びその敷地（当該団地内建物が所在する土地及び区分所有法第五条第一項の規定により当該団地内建物の敷地とされていた土地をいう。）又はこれに関する権利につき一括して、その全部を売却する場合 滅失した団地内建物（マンションを除く。）

第三条中、「マンションの建替え」の下に「マンションの更新、マンションの再建、マンション敷地売却、マンション除却敷地売却、敷地売却若しくはマンションの除却」を加え、

「マンションの更新、マンションの再建、マンション敷地売却、マンション除却敷地売却、敷地売却若しくはマンションの除却」を加え、

「マンションの更新、マンションの再建、マンション敷地売却、マンション除却敷地売却、敷地売却若しくはマンションの除却」を加え、

「マンション敷地売却若しくは」を削り、「マンションの建替え等」を「マンションの再生等」に改める。

第四条第一項並びに第二項第一号及び第二号中「マンションの建替え等」を「マンションの再生等」に改め、同項第三号中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改め、「マンションの建替えの下に」「マンションの更新又はマンションの再建を加え、同項第四号中「再建マンション」を「再生マンション」に改め、同項第五号中「マンションの建替え」の下に「又はマンションの更新」を加え、「再建マンション」を「再生マンション」に改め、同項第六号を削り、同項第七号中「その他の除却する必要があるマンションに係るマンション敷地売却」を、「マンション除却敷地売却事業又は敷地売却事業（以下「マンション等売却事業」と総称する。）その他のマンション敷地売却、マンション除却敷地売却又は敷地売却」に改め、同号を同項第六号とし、同項第八号中「売却マンション」の下に「又は除却敷地売却マンション（以下「売却等マンション」と総称する。）」を加え、同号を同項第七号とし、同号の次に次の三号を加える。

八 マンション除却事業その他のマンションの除却の円滑な実施に関する事項

八の二 除却マンションに居住していた区分所有者及び借家権者の居住の安定の確保に関する事項

八の三 除却等（第百六十三条の五十六第一項に規定する除却等をいう。第三章第一節において同じ。）をする必要のあるマンションに係る特別の措置に関する事項

第四条第二項第九号の次に次の一号を加える。

九の二 マンションの建替えその他の措置の実施の円滑化に関する基本的な指針（以下

「マンション建替等円滑化指針」という。）に関する事項

第四条第二項第十号中「マンションの建替え等」を「マンションの再生等」に改める。

第一章に次の一条を加える。

（助言、指導等）

第四条の二 都道府県（市の区域内にあつては、当該市）は、マンション建替等円滑化指針に即し、マンションの区分所有者に対し、マンションの建替えその他の措置の実施の円滑化を図るために必要な助言及び指導をすることができ。

2 都道府県知事（市の区域内にあつては、当該市の長。以下「都道府県知事等」という。）は、マンションが著しく保安上危険となり、又は著しく衛生上有害となるおそれがあると認めるときは、マンション建替等円滑化指針に即し、当該マンションの区分所有者に対し、マンションの建替えその他の措置を実施すべきことを勧告することができる。

3 都道府県知事等は、前項の規定による勧告をした場合において、必要があると認めるときは、その勧告を受けたマンションの区分所有者に対し、マンションの建替えその他の措置の実施について特別の知識経験を有する者のあつせんその他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

4 都道府県知事等は、第二項の規定による勧告を受けたマンションの区分所有者が、正当な理由がなく、その勧告に従わなかったときは、その旨を公表することができる。

5 都道府県知事等は、第一項又は第二項の規定の施行に必要な限度で、その保有するマンションの区分所有者の氏名又は名称、住所その他のマンションの区分所有者に関する情報を、その保有に当たって特定された利用目的以外の目的のために内部で利用することが

できる。

6 都道府県知事等は、第一項又は第二項の規定の施行のため必要があると認めるときは、関係地方公共団体の長に対して、マンションの区分所有者の氏名又は名称、住所その他のマンションの区分所有者に関する情報の提供を求めることができる。

7 都道府県知事等は、第一項又は第二項の規定の施行に必要な限度において、マンションの区分所有者に対し、当該マンションの状況について報告を求め、又はその職員に、当該マンション若しくはその敷地に立ち入り、当該マンション、その敷地、建築設備、建築材料、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。ただし、当該マンションの人の居住の用に供する専有部分に立ち入る場合においては、あらかじめ、当該専有部分に居住している者の承諾を得なければならない。

8 前項の規定により立ち入る検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人に提示しなければならない。

9 第七項の規定による立ち入る検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

第二章の章名を次のように改める。

## 第二章 マンション再生事業

第二章第一節第一款の款名中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第五条第一項中「マンション建替組合」を「マンション再生組合」に、「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改め、同条第二項を次のように改める。

2 次の各号に掲げる者は、一人で、又は数人共同して、当該各号に定めるマンション又は土地についてマンション再生事業を施行することができる。

一 マンションの区分所有者又はその同意を得た者 当該マンション

二 滅失したマンションに係るマンションの敷地であつた土地の敷地共有持分等（区分所有法第七十二条に規定する敷地共有持分等）をいい、マンションの一の専有部分を所有するための敷地利用権に係るものに限る。以下同じ。）を有する者又はその同意を得た者 当該マンションの敷地であつた土地

## 第二款 マンション再生組合

第七条第二号中「施行マンション」を「建替前マンション若しくは更新前マンション（以下「再生前マンション」と総称する。）」に改め、「所在地」の下に「又は再建敷地の所在地」を加え、同条第三号中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第八条中「マンション建替組合」を「マンション再生組合」に改める。

第九条第一項中「区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第六十二条第一項に規定する建替え決議（以下単に「建替え決議」という。）の内容によりマンションの建替えを行う旨の合意をしたものとみなされた者（マンションの区分所有権又は敷地利用権を有する者であつてその後に当該建替え決議の内容により当該マンションの建替えを行う旨の同意をしたものを含む。以下「建替え合意者」という。）は「次に掲げる者（以下「再生合意者」という。）は、再生決議マンション等（次項各号に掲げるマンション又は土地をいう。第五項において同じ。）ごとに、」都道府県知事（市の区域内にあつては、当該市の長。以下「都道府県知事等」という。）を「都道府県知事等」に改め、同項に次の各号を加える。

一 区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第六十二条第一項に規定する建替え決議(以下単に「建替え決議」という。)の内容によりマンションの建替えを行う旨の合意をしたものとみなされた者(「マンションの区分所有権又は敷地利権を有する者であつてその後に当該建替え決議の内容により当該マンションの建替えを行う旨の同意をしたものを含む。」)

二 区分所有法第六十四条の五第三項において準用する区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第六十四条の五第一項に規定する建物更新決議(以下単に「建物更新決議」という。)の内容によりマンションの更新を行う旨の合意をしたものとみなされた者(「マンションの区分所有権又は敷地利権を有する者であつてその後に当該建物更新決議の内容により当該マンションの更新を行う旨の同意をしたものを含む。」)

三 区分所有法第七十条第五項において準用する区分所有法第六十四条の規定により一括建替え決議の内容によりマンションの建替えを行う旨の合意をしたものとみなされた者(「マンションの区分所有権又は敷地利権を有する者であつてその後に当該一括建替え決議の内容により当該マンションの建替えを行う旨の同意をしたものを含む。第三十条第一項第一号ロにおいて「一括建替え合意者」という。)

四 区分所有法第七十五条第九項において準用する区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第七十五条第一項に規定する再建決議(以下単に「再建決議」という。)の内容によりマンションの再建を行う旨の合意をしたものとみなされた者(「敷地共有持分等を有する者であつてその後に当該再建決議の内容により当該マンションの再建を行

う旨の同意をしたものを含む。)

五 区分所有法第八十四条第四項において準用する区分所有法第六十四条の規定により一括建替え等決議の内容によりマンションの建替え又はマンションの再建を行う旨の合意をしたものとみなされた者(「マンションの区分所有権若しくは敷地利権又は敷地共有持分等を有する者であつてその後に当該一括建替え等決議の内容により当該マンションの建替え又はマンションの再建を行う旨の同意をしたものを含む。」)

九 第九条第二項及び第三項を次のように改める。

2 前項の規定による認可を申請しようとする再生合意者は、次の各号に掲げるマンション又は土地の区分ごとに、次条から第九条の五までの規定により、集会を開き、当該集会において、再生合意者の過半数の者であつて当該各号に定めるものが出席し、出席した再生合意者及びその議決権の各四分の三以上の多数で、組合を設立する旨の決議をしなければならない。

一 建替え決議に係るマンション 区分所有法第三十八条の議決権の過半数を有する者

二 建物更新決議に係るマンション 区分所有法第三十八条の議決権の過半数を有する者

三 一括建替え決議に係る団地内の二以上のマンション 区分所有法第七十条第三項において準用する区分所有法第六十九条第二項の議決権の過半数を有する者

四 再建決議に係る滅失したマンションに係るマンションの敷地であつた土地 区分所有法第七十三条において準用する区分所有法第三十八条の議決権の過半数を有する者

五 一括建替え等決議に係る団地内の二以上のマンション(滅失したマンションを含む。)

む。)

九 第九条第二項の議決権の過半数を有する者

3 次の各号に掲げる者は、当該各号に定める場合には、前項の規定による集会の決議をすることができない。

一 前項第三号に掲げるマンションに係る再生合意者 同項の集会において、当該二以上のマンションを構成するいずれか一以上のマンションにつき、その区分所有権を有する再生合意者の三分の一を超える者又は区分所有法第三十八条の議決権の合計の三分の一を超える議決権を有する者が同項の決議に反対した場合

二 前項第五号に掲げるマンションに係る再生合意者 同項の集会において、当該二以上のマンションを構成するいずれか一以上のマンションにつき、その区分所有権若しくは敷地共有持分等を有する再生合意者の三分の一を超える者又は区分所有法第三十八条(区分所有法第七十三条において準用する場合を含む。)の議決権の合計の三分の一を超える議決権を有する者が同項の決議に反対した場合

九 第九条第四項を削り、同条第五項中「前各項」を「前三項」に改め、「とき」の下に「、又は敷地共有持分等を数人で有するとき」を加え、「建替え合意者又は一括建替え合意者(以下「建替え合意者等」という。))を「再生合意者」に改め、同項を同条第四項とし、同条第六項中「建替え決議マンション(建替え決議に係るマンションであつて一括建替え決議マンション群に属さないものをいう。以下同じ。))若しくは一括建替え決議マンション群又は一以上の建替え決議マンション及び一括建替え決議マンション群に係る建替え合意者等」を「再生決議マンション等に係る再生合意者」に改め、同項後段を次のように改める。

この場合において、同項中「次に掲げる者(以下「再生合意者」という。))は」とあるのは「二以上の」と、「ことに」とあるのは「に係る次に掲げる者(以下「再生合意者」という。))は」とする。

九 第九条第六項を同条第五項とし、同条第七項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「の所在地」を「又は再建敷地となるべき土地の所在地」に改め、同項を同条第六項とする。

九 第九条の次に次の四条を加える。

(集会の招集)

九 第九条の二 再生合意者の五分の一以上の者であつて議決権(前条第二項各号に規定する議決権をいう。第九条の四において同じ。)の五分の一以上を有するものは、集会を招集することができる。

2 集会を招集するには、少なくとも会議を開く日の五日前までに、会議の日時、場所及び目的である事項を再生合意者に通知しなければならぬ。ただし、緊急を要するときは、二日前までにこれらの事項を再生合意者に通知して、集会を招集することができる。

(招集手続の省略)

九 第九条の三 集会は、再生合意者全員の同意があるときは、招集の手続を経ないで開くことができる。

(議決権の行使の方法等)

九 第九条の四 集会に出席しない再生合意者は、書面又は代理人をもつて、議決権を行使することができる。

2 集会に出席しない再生合意者は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、前項の規定による書面をもつてする議決権の行使に代えて、電磁的方法(電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて国土交通省令で定めるものをいう。以下同じ。)により議決権を行使することができる。

3 前二項の規定により議決権を行使する者は、第九条第二項の規定の適用については、出席者とみなす。

4 代理人は、同時に五人以上の再生合意者を代理することができない。

5 代理人は、代理権を証する書面を集会を招集した者に提出しなければならない。

6 前項の場合において、代理人は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、当該書面の提出に代えて、当該書面において証すべき事項を電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該代理人は、当該書面を提出したものとみなす。

(集会の決議の効力)

第九条の五 第九条第二項の規定による集会の決議は、再生合意者の特定承継人及び集会の決議後に再生合意者となった者に対しても、その効力を生ずる。

第十条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「又は再建敷地の区域、再生後マンション」に改め、同条第二項中「又は」を「建物更新決議」に、「以下「建替え決議等」という」を「再建決議又は一括建替え等決議(以下「再生決議」と総称する)」に改める。

第十一条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「これを」又は「再建敷地となるべき土地(これら)」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「当該マンションの敷地」を「当該再生前マンションとなるべきマンションの敷地又は当該再建敷地となるべき土地」に改め、同項ただし書中「次条各号」を「次条第一項各号」に改め、同条第二項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又は」を「若しくは」に改め、「含む。」の下に「又は再建敷地となるべき土地(隣接施行敷地を含む。)」を加

え、同項に次のただし書を加える。

ただし、更新前マンションとなるべきマンションの敷地について敷地利用権以外の権利を有する者については、この限りでない。

第十一条第四項中「マンションの建替え等の円滑化に関する法律第九条第一項」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律第四条の第二項」に改める。

第十二条の見出し中「基準」を「基準等」に改め、同条第十号を同条第十一号とし、同条第九号中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改め、同号を同条第十号とし、同条第八号を同条第九号とし、同条第七号中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同号を同条第八号とし、同条第六号中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同号を同条第七号とし、同条第五号中「施行マンション」を「再生前マンションがある場合にあつては、当該再生前マンション」に、「かんがみ」を「鑑み」に、「建替え」を「マンションの建替え又はマンションの更新」に改め、同号を同条第六号とし、同条第四号中「施行マンションの住戸」を「再生前マンションがある場合にあつては当該再生前マンションの住戸の数、再建敷地がある場合にあつては当該再建敷地の敷地共有持分等を有する者」に改め、同号を同条第五号とし、同条第三号中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同号を同条第四号とし、同条第二号を第三号とし、第一号の次に次の一号を加える。

二 再生決議が、当該再生決議の要件を満たしてされたものであること。

第十二条に次の一項を加える。

2 都道府県知事等「建築基準法(昭和二十五年法律第二百一十号)第二十三条第五号に規定する特定行政庁(以下単に「特定行政庁」という。)(である都道府県知事等を除く。))は、次に

掲げる事業を行う組合の設立についての第九条第一項の規定による認可の申請があつた場合において、当該認可をしようとするときは、当該申請が前項第二号に該当することに於いて、特定行政庁に協議しなければならない。

一 区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される同条第一項の規定によりされた建替え決議に係るマンション(第百六十三条の五十六第一項に規定する要除却等認定(以下この条から第百六十三条の十一までにおいて単に「要除却等認定」という。))を受けたものを除く。に係るマンション建替事業

二 区分所有法第六十四条の五第三項において読み替えて適用する区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の五第一項の規定によりされた建物更新決議に係るマンション(要除却等認定を受けたものを除く。))に係るマンション更新事業

三 区分所有法第七十条第二項の規定により読み替えて適用される同条第一項の規定によりされた一括建替え決議に係る団地内の二以上のマンション(要除却等認定を受けたものを除く。))に係るマンション建替事業

第十四条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「又は再建敷地の区域、再生後マンション」に改める。

四条の五第三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項において読み替えて適用する場合を含む。又は区分所有法第七十五条第九項において読み替えて適用する区分所有法第六十三条第五項前段に、「建替え」を「建替え、建物の更新又は再建」に、「区分所有者(その)」を「区分所有者又は敷地共有持分等を有する者(それら)」に、「建替え合意者等」を「再生合意者」に、「を時価」を「又は敷地共有持分等を時価」に、「建替え決議等」を「建替え決議、建物更新決議、一括建替え決議又は一括建替え等決議」に改め、同条第二項中「建替え決議等」を「再生決議」に改め、同条第三項中「から第八項まで(区分所有法第七十条第四項)」を「(区分所有法第六十四条の五第三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項において適用する場合を含む。))の規定は第一項の規定による請求(次に掲げる決議に係るものを除く。))があつた場合について、区分所有法第六十三条第七項及び第八項(区分所有法第六十四条の五第三項、第七十条第五項、第七十五条第九項又は第八十四条第四項)」に、「規定は、」を「規定は」に、「ついで」を「ついで、それぞれ」に、「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律」に改め、同項に次の各号を加える。

一 被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(平成七年法律第四十三号。以下「被災区分所有法」という。))第五条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十二条第一項の規定によりされた建替え決議

二 被災区分所有法第五条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の五第一項の規定によりされた建物更新決議

第二章第一節第二款第二目に次の三条を加える。

(賃貸借の終了請求)

第十五条の二 組合(マンション)の再生のみを行うものを除く。は、専有部分の賃借人に対し、賃貸借の終了を請求することができる。

2 前項の規定による請求があったときは、当該専有部分の賃貸借は、その請求があった日から六月を経過することによって終了する。

3 区分所有法第六十四条の二第三項から第五項までの規定は、第一項の規定による請求があった場合について準用する。この場合において、同条第四項中「第一項の規定による請求をした者(当該専有部分の区分所有者を除く。）」とあるのは「組合(マンション)の再生等の円滑化に関する法律第五条第一項に規定する組合をいう。」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第五条第一項に規定する組合をいう。」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第十五条の二第二項」と読み替えるものとする。

(使用貸借の終了請求)

第十五条の三 前条第一項及び第二項の規定は、専有部分が使用貸借の目的物とされている場合(民法(明治二十九年法律第八十九号)第五百九十八条第一項又は第二項に規定する場合を除く。))について準用する。

(配偶者居住権の消滅請求)

第十五条の四 第十五条の二第一項及び第二項の規定は、専有部分に配偶者居住権が設定されている場合(民法第三十五条第一項ただし書に規定する場合を除く。))について準用する。

2 区分所有法第六十四条の二第三項から第五項までの規定は、前項において準用する第十五条の二第一項の規定による請求があった場合について準用する。この場合において、区分所有法第六十四条の二第四項中「第一項の

規定による請求をした者(当該専有部分の区分所有者を除く。))とあるのは「組合(マンション)の再生等の円滑化に関する法律第五条第一項に規定する組合をいう。」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第十五条の四第一項において準用する同法第十五条の二第二項」と読み替えるものとする。

第十六条第一項中「施行マンションの建替え合意者等」を「再生前マンション又は再建敷地の再生合意者」に、「すべて」を「全て」に改め、同条第二項中「とき」の下に、「又は敷地共有持分等を数人で有するとき」を加える。

第十七条中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第十八条第一項中「建替え合意者等」を「再生合意者」に改める。

第十九条中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「有する区分所有権又は敷地利用権」を「有する区分所有権若しくは敷地利用権又は再建敷地について組合員の有する敷地共有持分等」に、「その区分所有権又は敷地利用権を」に「その区分所有権若しくは敷地利用権又は敷地共有持分等」に改める。

第二十五条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に改める。

第二十八条第四項中「電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて国土交通省令で定めるものをいう。以下同じ。」を削る。

第三十条第一項を次のように改める。

第二十七条第一号及び第二号に掲げる事項のうち政令で定める重要な事項並びに同条第八号及び第九号に掲げる事項は、総会において、組合員の議決権の過半数を有する者であつて次の各号に掲げる組合の区分に応じ当該各号に定める割合(以下この条において「持

分割合」という。)の過半数を有するものが出席し、出席した組合員の議決権及びその持分割合の各四分の三以上で決しなければならぬ。

一 次号に掲げる組合以外の組合 次のイ及びロに掲げる組合の区分に応じ、当該イ及びロに定める割合

イ ロに掲げる組合以外の組合 組合の専有部分が存しないものとして算定した再生前マンションについての区分所有法第十四条に定める割合

ロ 一括建替え合意者のみにより設立された組合 組合の持分が存しないものとして算定した再生前マンションの敷地(これに関する権利を含む。)の持分の価格の割合

二 マンションの再建に関する事業を含むマンション再生事業を施行する組合 組合の持分が存しないものとして算定した再生前マンションの敷地又は再建敷地(これらに関する権利を含む。)の持分の価格の割合

第三十条第二項中「組合の」及び「参加組合員の」の下に「持分」を加え、「施行再建マンション」を「再生前マンション」と、同号イ中「組合の専有部分」とあるのは「組合及び参加組合員の専有部分」と、同項第二号中「再生前マンションの敷地又は再建敷地(これらとあるのは「再生後マンションの敷地(これ)に改め、同条第三項中「決する」を「決しなければならぬ」に改め、同条に次の二項を加える。

4 再生前マンション(組合が施行するマンション)再生事業に係る再生前マンションが二以上ある場合にあつては、その全ての再生前マンションについて、次の各号に掲げるいずれかの決議があつた場合における前項の規定の適用については、同項中「五分の四」とあ

るのは、「四分の三」とする。

一 区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される同条第一項の規定によりされた建替え決議

二 区分所有法第六十四条の五第三項において読み替えて準用する区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の五第一項の規定によりされた建物更新決議

三 区分所有法第七十条第二項の規定により読み替えて適用される同条第一項の規定によりされた一括建替え決議

5 再生前マンション又は再建敷地(組合が施行するマンション)再生事業に係る再生前マンションが二以上ある場合、組合が施行するマンション)再生事業に係る再生前マンションが一以上及び再建敷地が一以上ある場合又は組合が施行するマンション)再生事業に係る再建敷地が二以上ある場合にあつては、その全ての再生前マンション又は再建敷地)について、次の各号に掲げるいずれかの決議があつた場合における第三項の規定の適用については、同項中「五分の四」とあるのは、「三分の二」とする。

一 被災区分所有法第二条の規定により読み替えて適用される区分所有法第七十五条第一項の規定によりされた再建決議

二 被災区分所有法第五条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十二条第一項の規定によりされた建替え決議

三 被災区分所有法第五条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の五第一項の規定によりされた建物更新決議

四 被災区分所有法第八条の規定により読み替えて適用される区分所有法第七十条第一項の規定によりされた一括建替え決議

五 被災区分所有法第十条第一項の規定により読み替えて適用される区分所有法第八十四条第一項の規定によりされた一括建替え等決議

第三十四条第二項を次のように改める。

2 第九条第二項から第四項まで及び第九条の二から第九条の五までの規定は組合が定款及び事業計画を変更して新たに再生前マンション又は再建敷地に追加しようとするマンション又は土地がある場合について、第十一条の規定は事業計画の変更(国土交通省令で定める軽微な変更を除く。)の認可の申請があつた場合について、第九条第六項、第十二条及び第十四条の規定は前項の規定による認可について、それぞれ準用する。この場合において、第九条第二項中「前項の規定による認可を申請しようとする」とあるのは「組合が第三十四条第一項の規定による認可の申請をしうとするときは、新たに再生前マンション又は再建敷地となるべき次の各号に掲げるマンション又は土地に係る」と、「次の」とあるのは「当該」と、同条第六項中「再生前マンションとなるべきマンションの敷地又は再建敷地となるべき土地」とあり、及び「当該再生前マンションとなるべきマンションの敷地又は当該再建敷地となるべき土地」とあるのは「再生前マンション若しくは新たに再生前マンションとなるべきマンションの敷地又は再建敷地若しくは新たに再建敷地となるべき土地」と、同条第二項中「再生前マンション」とあるのは「再生前マンション若しくはその敷地」とあるのは「再生前マンション若しくは新たに再生前マンションとなるべきマンション若しくは新たに再建敷地となるべきマンション」と改める。

に再生前マンションとなるべきマンション若しくはそれらの敷地」と、「再建敷地となるべき土地」とあるのは「再建敷地若しくは新たに再建敷地となるべき土地」と、同項ただし書中「更新前マンションとなるべきマンション」とあるのは「更新前マンション又は新たに更新前マンションとなるべきマンション」と、第十四条第二項中「組合の成立又は定款若しくは事業計画」とあるのは「定款又は事業計画の変更」と、「組合員その他の」とあるのは「その変更について第三十四条第一項の規定による認可があつた際に従前から組合員であつた者以外の」と読み替えるものとする。

第三十四条第三項中「施行マンション」を「再生前マンション、一以上の再生前マンション及び再建敷地若しくは二以上の再建敷地」に、「マンション建替事業を」を「マンション再生事業に改め、同条第四項中」の規定を「から第十五条の四までの規定に」、「施行マンションを」を「再生前マンション又は再建敷地を」に、「同条第一項」を「第十五条第一項」に改め、「区分所有者」の下に「又は敷地共有持分等」を加え、「施行マンションの区分所有者」を「再生前マンションの区分所有者又は新たに追加された再建敷地の敷地共有持分等」に改める。

第三十五条第二項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、「床面積等」の下に「又は組合員の有する再建敷地の敷地共有持分等の地積若しくはその割合等」を加える。

第三十六条第一項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第三十八条第五項中「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に改める。  
第四十四条第一項中「マンション建替組合」を「マンション再生組合」に改める。

第四十五条第一項中「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に改め、同条第二項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又はを」若しくは「に」改め、「含む。」の下に「又は再建敷地となるべき土地(隣接施行敷地を含む。)」を加え、同項ただし書中「その権利をもつて認可を申請しようとする者に対抗することできない」を「次に掲げる」に改め、同項に次の各号を加える。

一 更新前マンションとなるべきマンションの敷地について敷地利用権以外の権利を有する者

二 その権利をもつて認可を申請しようとする者に対抗することができない者

第四十五条第三項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又はその敷地を」若しくは「その敷地」に改め、「同じ。」の下に「又は再建敷地となるべき土地(隣接施行敷地を含む。以下この項において同じ。)」を加え、「敷地の」を「敷地共有持分等、敷地又は土地の」に改め、同条第四項中「第九条第七項」を「第九条第六項」に改める。

第四十六条第一号中「施行マンション」を「再生前マンション」に改め、「所在地」の下に「又は再建敷地の所在地」を加え、同条第二号中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第四十七条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「又は再建敷地の区域、再生後マンション」に改め、同条第二項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「に建替え決議等」を「又は再建敷地となるべき土地に再生決議に」、「建替え決議等」を「再生決議の」に改める。

第四十八条の見出し中「基準」を「基準等」に改め、同条第五号中「第十二条第三号から第十号までに掲げる基準に適合する」を「第十二条第一

項第四号から第十一号までに該当する」に改め、同号を同条第六号とし、同条第四号を第五号とし、第三号を第四号とし、第二号を第三号とし、第一号の次に次の一号を加える。

二 再生前マンションとなるべきマンション又は再建敷地となるべき土地に再生決議があるときは、当該再生決議が、当該再生決議の要件を満たしてされたものであること。

第四十八条に次の一項を加える。

2 都道府県知事等(特定行政庁である都道府県知事等を除く。)は、第十二条第二項各号に掲げる事業に関し第四十五条第一項の規定による認可の申請があつた場合において、当該認可をしうとするときは、当該申請が前項第二号に該当することについて、特定行政庁に協議しなければならない。

第四十九条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「又は再建敷地の区域、再生後マンション」に改める。

第五十条第二項中「第九条第七項」を「第九条第六項」に改め、同項後段を次のように改める。

この場合において、第九条第六項及び第四十八条第一項第二号中「再生前マンションとなるべきマンション又は再建敷地となるべき土地」とあるのは「再生前マンション若しくは新たに再生前マンションとなるべきマンション又は再建敷地若しくは新たに再建敷地となるべき土地」と、第四十五条第二項及び第三項中「再生前マンションとなるべきマンション若しくはその敷地」とあるのは「再生前マンション若しくは新たに再生前マンションとなるべきマンション若しくはそれらの敷地」と、「再建敷地となるべき土地」とあるのは「再建敷地若しくは新たに再建敷地となるべき

き土地」と、同条第二項第一号中「更新前マンションとなるべきマンション」とあるのは「更新前マンション又は新たに更新前マンションとなるべきマンション」と、前条第二項中「施行者として、又は規準若しくは規約若しくは事業計画をもって」とあるのは「規準若しくは規約又は事業計画の変更をもって」と読み替えるものとする。

第五十条第三項中「施行マンション」を「再生前マンション、一以上の再生前マンション及び再建敷地若しくは二以上の再建敷地」に改める。

第五十一条第二項中「施行マンションについて、」を「再生前マンションについて、」又は「敷地利用権を若しくは敷地利用権又は再建敷地について個人施行者の有する敷地共有持分等」に改め、同条第三項中「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に改め、同条第四項中「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地に改め、同条第五項中「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に、「又は敷地利用権を」若しくは「敷地利用権又は敷地共有持分等」に改め、同条第六項中「敷地利用権の下に」若しくは「敷地共有持分等」を加え、「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に改める。

第五十二条第一項中「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に改め、同条第二項中「又は敷地利用権を」若しくは「敷地利用権又は敷地共有持分等」に、「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に改める。

第五十四条の見出し並びに同条第一項及び第二項中「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に改め、同条第三項中「第九条第七項」を「第九条第六項」に、「施行マンションとなるべきマンション」を「再生前マンションとなるべきマンション又は再建敷地となるべき土地」

に、「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に、「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に改める。

第五十五条第一項中「次に掲げる公告を」第十四条第一項の公告又は新たな再生前マンション若しくは再建敷地の追加に係る事業計画の変更の認可の公告（個人施行者が施行するマンション再生事業にあつては、その施行についての認可の公告又は新たな再生前マンション若しくは再建敷地の追加に係る事業計画の変更の認可の公告）に、「施行マンションの区分所有権及び敷地利用権（既登記のものに限る。）並びに隣接施行敷地の所有権及び借地権（既登記のものに限る。）を」次に掲げる権利」に改め、同項各号を次のように改める。

一 再生前マンションの区分所有権及び敷地利用権（既登記のものに限る。）又は再建敷地の敷地共有持分等（既登記のものに限る。）

二 隣接施行敷地の所有権及び借地権（既登記のものに限る。）（以下「隣接施行敷地権」という。）

三 再生前マンションの敷地又は再建敷地の所有権（当該再生前マンションの敷地利用権又は再建敷地の敷地共有持分等を除く。）を権利変換計画の対象としようとする場合にあつては、当該所有権（以下「施行底地権」という。）

第五十五条第二項中「施行マンション」を「再生前マンション」に改め、「敷地利用権」の下に「若しくは再建敷地の敷地共有持分等」を加え、「マンション建替事業を」を「マンション再生事業」に、「又は当該登記に係る隣接施行敷地の所有権若しくは借地権」を、「当該登記に係る隣接施行敷地権を有する者又は当該登記に係る施行底地権」に改める。

第五十六条第一項中「施行マンション」を「再

生前マンション」に、「又は敷地利用権を」を「若しくは敷地利用権若しくは再建敷地の敷地共有持分等を有する者、隣接施行敷地権を有する者又は施行底地権を」に、「及び」を「及び第二項並びに」に、「又は敷地利用権を」を「若しくは敷地利用権若しくは敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」に改め、同条第二項中「又は敷地利用権を」若しくは「敷地利用権若しくは敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」を「若しくは敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」に改め、同条第三項中「施行マンション」を

「第十五条の二第二項（第十五条の四第一項において準用する場合を含む。）（これらの規定を第三十四条第四項において準用する場合を含む。）又は区分所有法第六十四条の二第一項（区分所有法第六十四条の四において準用する場合を含む。）（これらの規定を区分所有法第六十四条の五第三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項において準用する場合を含む。）の規定による請求を受けた者（以下「被請求借家権者」という。）以外の再生前マンション」に改め、同条第五項中「権利変換計画について次条第一項後段」を「次条第五項」に、「認可が行われない」を「公告がされない」に、「同条第一項後段を」同条第五項」に改め、同条第六項中「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に、「権利変換計画について次条第一項後段を」次条第五項」に、「認可が行われない」を「公告がされない」に改める。

第五十七条第二項中「施行マンション又は」を「再生前マンション若しくは」に、「その敷地に」を「その敷地又は再建敷地に」に、「含む」を「含む」又は「再建敷地（隣接施行敷地を含む。）」に改め、同項第一号中「施行マンション」を「建替前マンション」に改め、同項第二号を第七号とし、第一号の次に次の五号を加える。

二 区分所有法第八十一条の規定により同条第一項に規定する特定滅失建物であるマン

ション（以下この号及び第四号において「特定滅失マンション」という。）の所在していた土地におけるマンションの再建を行うことができるときは、当該特定滅失マンションの所在していた土地（これに関する権利を含む。）の共有者である団地内建物（滅失した建物を含む。次号及び第四号において同じ。）の団地建物所有者等（区分所有法第七十八条に規定する団地建物所有者等をいう。次号及び第四号において同じ。）

三 区分所有法第八十二条の規定により同条第一項に規定する特定建物である建替前マンション（以下この号及び次号において「特定マンション」という。）の建替えを行うことができるときは、当該特定マンションの所在する土地（これに関する権利を含む。）の共有者である団地内建物の団地建物所有者等

四 区分所有法第八十三条の規定により特定マンションの建替え及び特定滅失マンションの所在していた土地におけるマンションの再建を行うことができるときは、当該特定マンションの所在する土地（これに関する権利を含む。）及び当該特定滅失マンションの所在していた土地（これに関する権利を含む。）の共有者である団地内建物の団地建物所有者等

五 被請求借家権者又は第十五条の三（第三十四条第四項において準用する場合を含む。）において準用する第十五条の二第一項若しくは区分所有法第六十四条の三（区分所有法第六十四条の五第三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項において準用する場合を含む。）において準用する区分所有法第六十四条の二第一項の規定による請求を受けた者（次条第三項において「被請求借家権者等」という。）

六 更新前マンシヨンの敷地について敷地利  
用権以外の権利を有する者  
第五十七条に次の一項を加える。

5 第一項後段の規定による認可を申請したと  
きは、施行者は、遅滞なく、国土交通省令で  
定めるところにより、その旨を公告し、及び  
関係権利者に関係事項を書面で通知しなけれ  
ばならない。

第五十八条第一項第一号中「施行再建マン  
シヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改め、同項第  
二号中「施行マンシヨンの区分所有権又は敷地  
利用権を」を「再生前マンシヨンの区分所有権若し  
くは敷地利用権又は再建敷地の敷地共有持分  
等」に、「施行再建マンシヨンを」を「再生後マン  
シヨンを」に改め、同項第三号中「施行マンシヨ  
ンについて」を削り、「又は敷地利用権を」若しく  
は敷地利用権又は敷地共有持分等」に改め、同  
項第四号中「又は敷地利用権に」を「若しくは敷  
地利用権又は敷地共有持分等に」に、「施行再建  
マンシヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改め、同  
項第十九号を同項第二十六号とし、同項第十八  
号中「施行マンシヨンを」を「再生前マンシヨンを  
又は再建敷地」に改め、同号を同項第二十五号と  
し、同項第十七号を同項第二十四号とし、同項  
第十六号中「施行マンシヨンの敷地」を「再生前  
マンシヨンの敷地又は再建敷地」に、「施行再建  
マンシヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改め、同  
号を同項第二十三号とし、同項第十五号中「第  
四号の下に」、第七号、第十号を加え、「施行  
再建マンシヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改  
め、同号を同項第二十二号とし、同項第十四号  
中「施行再建マンシヨンを」を「再生後マンシヨ  
ン」に改め、同号を同項第二十一号とし、同項第  
十三号中「隣接施行敷地の所有権又は借地権を有  
する者で、この法律の規定により、権利変換期  
日において当該権利を失い、又は当該権利の上  
に敷地利用権が設定されることとなるもの」を

「隣接施行敷地権を有する者のうち、次に掲げ  
る者」に、「その権利を」を「その隣接施行敷地権」  
に改め、同号に次のように加える。

イ この法律の規定により、権利変換期日  
において当該隣接施行敷地権を失い、か  
つ、当該隣接施行敷地権に対応して、再  
生後マンシヨンの区分所有権及び敷地利  
用権を与えられない者

ロ この法律の規定により、権利変換期日  
において当該隣接施行敷地権の上に敷地  
利用権が設定され、かつ、当該隣接施行  
敷地権に対応して、再生後マンシヨンの  
区分所有権及び敷地利用権を与えられな  
い者

第五十八条第一項第十三号を同項第十九号と  
し、同号の次に次の一号を加える。

二十 施行底地権を有する者で、この法律の  
規定により、権利変換期日において当該施  
行底地権を失い、かつ、当該施行底地権に  
対応して、再生後マンシヨンの区分所有権  
及び敷地利用権を与えられないものの氏名  
又は名称及び住所、その施行底地権並びに  
その価額

第五十八条第一項第十二号中「施行マンシ  
ヨンに関する権利又はその敷地利用権を」を「再生前  
マンシヨンに関する権利若しくはその敷地利  
用権又は再建敷地の敷地共有持分等」に、「施行再  
建マンシヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改め、  
同号を同項第十八号とし、同項第十一号中「施  
行再建マンシヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改  
め、同号を同項第十七号とし、同項第十号中  
「施行再建マンシヨンを」を「再生後マンシヨ  
ン」に改め、同号を同項第十六号とし、同項第九号中  
「施行マンシヨンを」を「再生前マンシヨンを」に、  
「（そのを）（被請求借家権者を除く。）（その配偶  
者居住権を有する）」に、「施行再建マンシヨ  
ン」を「再生後マンシヨンを」に改め、同号を同項第十

五号とし、同項第八号中「施行再建マンシヨ  
ン」を「再生後マンシヨンを」に改め、同号を同項第十  
四号とし、同項第七号中「施行マンシヨンを」を  
「再生前マンシヨンを」に改め、「有する者の下に  
」（被請求借家権者を除く。）を加え、「その者」  
を「その賃借権を有する者」に、「施行再建マン  
シヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改め、同号を  
同項第十三号とし、同項第六号中「施行再建マン  
シヨンを」を「再生後マンシヨンを」に改め、同号  
を同項第十二号とし、同項第五号中「に掲げる  
区分所有権又は敷地利用権を」を「第六号及び第  
九号に掲げる権利」に改め、同号を同項第十一  
号とし、同項第四号の次に次の六号を加える。

五 隣接施行敷地権を有する者で、当該隣接  
施行敷地権に対応して、再生後マンシヨ  
ンの区分所有権及び敷地利用権を与えられる  
こととなるものの氏名又は名称及び住所  
及びその価額

六 前号に掲げる者が有する隣接施行敷地権  
及びその価額

七 第五号に掲げる者に前号に掲げる隣接施  
行敷地権に対応して与えられることとなる  
再生後マンシヨンの区分所有権及び敷地利  
用権の明細並びにその価額の概算額

八 施行底地権を有する者で、当該施行底地  
権に対応して、再生後マンシヨンの区分所  
有権及び敷地利用権を与えられることとな  
るものの氏名又は名称及び住所

九 前号に掲げる者が有する施行底地権及び  
その価額

十 第八号に掲げる者に前号に掲げる施行底  
地権に対応して与えられることとなる再生  
後マンシヨンの区分所有権及び敷地利用権  
の明細並びにその価額の概算額  
第五十八条第二項中「施行マンシヨンに関す  
る権利」を「再生前マンシヨン」に、「敷地利  
用権又は隣接施行敷地の所有権若しくは借地権」を  
「敷地に関する権利若しくは再建敷地の敷地共

有持分等又は隣接施行敷地権」に、「第七十条第  
四項」を「第六十四条の五第三項、第七十条第五  
項又は第八十四条第四項」に、「の規定を」若し  
くは区分所有法第七十五条第九項において準用  
する区分所有法第六十三条第五項前段の規定」  
に改め、同条第三項中「第十五条第三項（第三  
十四条第四項において準用する場合を含む。）に  
おいて準用する場合を含む。）又は区分所有法第  
七十条第四項において準用する区分所有法第六  
十三条第六項（を）区分所有法第六十四条の五第  
三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項に  
おいて準用する場合を含む。）（これらの規定を」  
に、「第一項第十八号の施行マンシヨンを」を「第  
一項第二十五号の再生前マンシヨンを」に改め、  
同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の  
一項を加える。

3 被請求借家権者等がいるときは、第一項第  
二十五号の権利変換期日は、被請求借家権者  
等に係る請求があった日から六月を経過した  
日以降となるように定めなければならない。

第六十条第一項中「施行マンシヨンを」を「再生  
前マンシヨンを」に、「又は敷地利用権を」を「若し  
くは敷地利用権若しくは再建敷地の敷地共有持  
分等を有する者、隣接施行敷地権を有する者又  
は施行底地権を」に、「施行再建マンシヨンを」を  
「再生後マンシヨンを」に改め、同条第二項中「施  
行再建マンシヨンを」を「再生後マンシヨンを」に、  
「それらの者が有する施行マンシヨンの専有部  
分の位置、床面積、環境、利用状況等又はその  
敷地利用権の地積若しくはその割合等」を「次に  
掲げる事項」に改め、同項に次の各号を加え  
る。

一 再生前マンシヨンの区分所有権又は敷地  
利用権を有する者が有する再生前マンシ  
ヨンの専有部分の位置、床面積、環境、利用  
状況等又はその敷地利用権の地積若しくは  
その割合等

二 再建敷地の敷地共有持分等を有する者が有する再建敷地の敷地共有持分等の地積又はその割合等

三 隣接施行敷地権を有する者が有する隣接施行敷地権に係る土地の地積等

四 施行底地権を有する者が有する施行底地権に係る再生前マンションの敷地又は再建敷地の地積等

第六十条第三項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条第四項本文中「した者」の下に「及び被請求借家権者」を加え、

「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同項ただし書中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条第五項本文中「した者」の下に「及び被請求借家権者」を加え、

「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同項ただし書及び同条第六項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第六十一条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又は敷地利権」を「若しくは敷地利権若しくは再建敷地の敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「又は敷地利権」を「若しくは敷地利権又はその敷地の所有権(敷地利権を除く。)」に改める。

第六十二条の見出し中「施行マンション」を「再生前マンション」に改め、同条中「第十二号又は第十三号」を「第六号、第九号又は第十八号から第二十号まで」に改める。

第六十三条の見出し中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条中「又は第十一号」を「第七号、第十号又は第十七号」

に、「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第六十四条第一項中「敷地利権」の下に「又は敷地共有持分等」を加え、同条第二項中「第七十条第四項」を「第六十四条の五第三項、第七十条第五項、第七十五条第九項又は第八十四条第四項」に、「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律」に改め、同条第三項中「敷地利権」の下に「又は敷地共有持分等」を加える。

第六十五条第二号中「施行マンション」を「再生前マンション」又は「再建敷地」に、「建替え決議等」を「再生決議」に改める。

第六十六条中「第四項」を「第五項」に改める。

第六十九条中「施行マンション」を「再生前マンション」又は「再建敷地」に改める。

第七十条第一項中「施行マンションの敷地利権」を「再生前マンションの敷地利権、再建敷地の敷地共有持分等及び施行底地権」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条第二項中「隣接施行敷地の所有権又は借地権」を「隣接施行敷地権」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条第三項中「当該保留敷地についての従前の施行マンションの敷地利権が所有権であるときはその借地権を」を「次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める権利を」に改め、同項に次の各号を加える。

一 当該保留敷地についての従前の再生前マンションの敷地利権又は再建敷地の敷地共有持分等が所有権である場合 当該保留敷地の所有権

二 当該保留敷地についての従前の再生前マンションの敷地利権又は再建敷地の敷地共有持分等が借地権である場合 次のイ及びロに掲げる場合の区分に応じ、当該イ及

びロに定める権利

イ 再生前マンションの敷地又は再建敷地の所有権(当該再生前マンションの敷地利権又は再建敷地の敷地共有持分等を除く。)を権利変換計画の対象としている場合 当該保留敷地の所有権

ロ イに掲げる場合以外の場合 当該保留敷地の借地権

第七十条第四項中「施行マンションの敷地」を「再生前マンションの敷地又は再建敷地」に改め、「敷地利権」の下に「若しくは敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」を加える。

第七十一条の見出し及び同条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に改め、同条第二項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、「建築工事の下に」又は「更新工事」を加え、同条第三項中「施行マンション」を「被請求借家権者以外の再生前マンション」に改め、「建築工事」の下に「又は更新工事」を加え、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第七十二条中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第七十三条中「施行マンションの区分所有権」又は「敷地利権」を「再生前マンションの区分所有権若しくは敷地利権若しくは再建敷地の敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「又は敷地利権」を「若しくは敷地利権又はその敷地の所有権(敷地利権を除く。)」に改める。

第七十四条中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第七十五条第一号中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又はその敷地利権を有する」を「若しくはその敷地利権又は再建敷地

の敷地共有持分等を有する」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条第二号を次のように改める。

二 隣接施行敷地権を有する者のうち、次に掲げるもの

イ この法律の規定により、権利変換期日において当該隣接施行敷地権を失い、かつ、当該隣接施行敷地権に対応して、再生後マンションの区分所有権及び敷地利権を与えられない者

ロ この法律の規定により、権利変換期日において当該隣接施行敷地権の上に敷地利権が設定され、かつ、当該隣接施行敷地権に対応して、再生後マンションの区分所有権及び敷地利権を与えられない者

第七十五条に次の一号を加える。

三 施行底地権を有する者で、この法律の規定により、権利変換期日において当該施行底地権を失い、かつ、当該施行底地権に対応して、再生後マンションの区分所有権及び敷地利権を与えられないもの

第七十六条第一項中「この款」の下に「(第八十条第四項第四号を除く。)」を加え、同条第四項中「施行マンション」を「再生前マンション」又は「再建敷地」に改める。

第二章第二節第一款第四目の目名中「施行マンション等」を「再生前マンション等」に改める。

第七十九条中「施行マンション」を「再生前マンション」に改める。

第八十条の見出しを「(再生前マンション等の明渡し)に改め、同条第一項中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に、「施行マンション又は」を「再生前マンション若しくは」に改め、「含む。」の下に「又は再建敷地隣接施行敷地を含む。」を加え、同条第三項中「第五十八

条第三項」を「第五十八条第四項」に改め、同条第四項ただし書を次のように改める。

ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。

一 第七十五条の補償金の支払を受けるべき者について同条の規定による支払又は第七十六条の規定による供託がない場合

二 第十五条第一項(第三十四条第四項において準用する場合を含む。)若しくは第六十四条第一項(第六十六条において準用する場合を含む。)又は区分所有法第六十三条第五項(区分所有法第六十四条の五第三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項において準用する場合を含む。)若しくは区分所有法第七十五条第九項において準用する区分所有法第六十三条第五項前段の規定による請求を受けた者について当該請求を行った者による代金の支払又は提供がない場合

三 第六十四条第三項(第六十六条において準用する場合を含む。)の規定による請求を行った者について当該請求を受けた者による代金の支払又は提供がない場合

四 次に掲げる規定に規定する補償金の提供を受けるべき者について当該規定による提供がない場合

イ 第十五条の二第三項又は第十五条の四第二項(これらの規定を第三十四条第四項において準用する場合を含む。)において準用する区分所有法第六十四条の二第三項

ロ 区分所有法第六十四条の二第三項(区分所有法第六十四条の四において準用する場合を含む。)(これらの規定を区分所有法第六十四条の五第三項、第七十条第五項又は第八十四条第四項において準用する場合を含む。)

第八十一条の見出し中「建築工事」を「建築工

事等」に改め、同条中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、「建築工事」の下に「又は更新工事(マンションの更新をするための工事をいう。次条第一項において同じ。)」を加える。

第八十二条の見出しを「(再生後マンションに関する登記)」に改め、同条第一項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、「建築工事」の下に「又は更新工事」を加え、同条第二項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第八十三条第一項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第八十四条の見出し中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改める。

第八十五条中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「施行マンションの区分所有権又は敷地利利用権の価額」を「再生前マンションの区分所有権若しくは敷地利利用権若しくは再建敷地の敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権の価額(第七十条第二項の規定により敷地利利用権が設定された隣接施行敷地権にあつては、その減価額)」に改める。

第八十六条第一項中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又は敷地利利用権」を「若しくは敷地利利用権若しくは再建敷地の敷地共有持分等、隣接施行敷地権又は施行底地権」に改める。

第八十八条第一項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に改め、同条第三項中「明治二十九年法律第八十九号」を削る。

第八十九条中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に、「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「施行マンション」を

「再生前マンション」に改め、「若しくは敷地利利用権」の下に若しくは再建敷地の敷地共有持分等を加え、「者又は」を「者、第七十条第二項の規定により敷地利利用権が設定された隣接施行敷地権を有する者若しくは隣接施行敷地権を有していた者、施行底地権を有していた者又は」に、「者の」を「者(被請求借家権者を除く。の)」に改める。

第九十条中「施行マンション」を「再生前マンション」に改める。

第九十一条中「施行マンション」を「再生前マンション」に、「又は施行再建マンション」を「若しくは再建敷地(隣接施行敷地を含む。又は再生後マンション」に改める。

第九十二条中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第九十三条中「施行マンション及び施行再建マンション並びにこれらの」を「再生前マンション及びその敷地又は再建敷地並びに再生後マンション及びその」に改める。

第九十四条第一項及び第三項中「施行再建マンション」を「再生後マンション」に、「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第九十五条第一項、第九十六条第一項及び第二章第三節の節名中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第九十七条第一項中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改め、「(次章を除く。以下この節において同じ。)」を削り、同条第二項中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改め、同条に次の一項を加える。

3 都道府県知事又は市町村長は、第一項の規定による援助をするため必要があると認めるときは、マンションの管理の適正化の推進に関する法律第五条の四第一項に規定するマンション管理適正化支援法人(以下「支援法人」という。)に必要な協力を要請することができる。

第九十八条第一項、第九十九条第一項、第二項及び第四項、第一百条並びに第一百一条第一項中「マンション建替事業」を「マンション再生事業」に改める。

第三章の章名及び同章第一節の節名を削る。

第一百二条及び第一百三十三条を次のように改める。

第一百二条及び第一百三十三条 削除

第一百四条から第一百五条の二まで及び第三章第二節から第五節までを削る。

第四章の章名中「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改める。

第四章第三節の節名中「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改める。

第一百六十条中「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改め、同条に次の一項を加える。

3 都道府県知事等は、第一項の規定による援助をするため必要があると認めるときは、支援法人に必要な協力を要請することができる。

第一百六十一条第一項、第一百六十二条及び第一百六十三条第一項中「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改める。

第四章第三節を同章第四節とする。

第一百四十条第一項中「第二百二十三条第一項の公告」を「第二百二十条第一項の公告又は第二百三十四条第二項において準用する第二百二十条第一項の公告(新たな売却等マンション又は売却敷地の追加に係る資金計画の変更の認可に係るものに限る。次条第一項において同じ。)」に、「売却マンション」を「売却等マンション」に改め、「(限る。)」の下に「又は売却敷地の敷地共有持分等(既登記のものに限る。)」を加え、同条第二項中「売却マンション」を「売却等マンション」に、「又は敷地利利用権」を「若しくは敷地利利用権又は売却敷地の敷地共有持分等」に改める。

第四百四十一条第一項中「第百二十三条第一項の公告」を「第百二十条第一項の公告又は第百三十四条第二項において準用する第百二十条第一項の公告に改め、同条第二項中「売却マンション」を「売却等マンション」に改め、「敷地利用権の下に」又は売却敷地の敷地共有持分等」を加え、「敷地の」を「敷地又は売却敷地の」に改める。

第四百四十二条第一項第二号中「売却マンション」を「売却等マンション」に、「又は敷地利用権」を「若しくは敷地利用権又は売却敷地について有する敷地共有持分等」に改め、同項第四号中「売却マンション又は」を「売却等マンション若しくは」に改め、「除く。」の下に「又は売却敷地に関する権利組合員の有する敷地共有持分等を除く。」を加え、「について」を「又は売却敷地について」に改め、同項第五号中「売却マンション又はその敷地」を「売却等マンション若しくはその敷地又は売却敷地」に改め、同条第二項中「売却マンションに関する権利又は」を「売却等マンションに関する権利若しくは」に改め、「敷地利用権」の下に「又は売却敷地の敷地共有持分等」を加え、「第百八条第十項」を「第百二十一条第一項(第百三十四条第四項において準用する場合を含む。)又は区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項若しくは第七十一条第五項」を「若しくは区分所有法第七十六条第三項若しくは第八十五条第四項において準用する区分所有法第六十三条第五項前段」に改める。

第百四十三条第一項中「第百八条第二項第三号」を「マンション敷地売却又はマンション除却敷地売却に係る分配金にあつては区分所有法第六十四条の六第二項第三号若しくは第七十一条第四項第三号又は第六十四条の七第二項第五号」に、「価額と」を「価額と、敷地売却に係る分配金にあつては敷地売却による代金に各組合員

の有する敷地共有持分等の価格の割合を乗じて得た価額と」に改め、同条第二項中「第百二十三条第一項」を「第百二十条第一項」に、「日」を「日(新たな売却等マンション又は売却敷地の追加に係る資金計画の変更の認可があつたときは、第百三十四条第二項において準用する第百二十条第一項の公告の日。第百五十三条において同じ。)」に改め、同条第三項中「売却マンション又はその敷地」を「売却等マンション若しくはその敷地又は売却敷地」に改める。

第四百四十四条第二号中「マンション敷地売却決議」を「売却決議」に改め、同条第三号中「売却マンション」を「売却等マンション」に、「又は敷地利用権」を「若しくは敷地利用権又は売却敷地の敷地共有持分等」に改め、同条第四号を第五号とし、第三号の次に次の一号を加える。

四 認定除却等計画に係る売却マンション又は除却敷地売却マンションにあつては、当該認定除却等計画に係る売却マンション又は除却敷地売却マンションの借家権及び使用貸借による権利が権利消滅期日までに消滅することが確実であること。

第百四十八条中「売却マンション」を「売却等マンション又は売却敷地」に改める。

第百四十九条第一項中「売却マンション」を「売却等マンション」に、「以外」を「並びに借家権及び使用貸借による権利以外」に改め、同条第二項中「売却マンションの敷地利用権」を「売却等マンションの敷地利用権又は売却敷地の敷地共有持分等」に改める。

第百五十条中「売却マンション」を「売却等マンション」に改め、「敷地」の下に「又は売却敷地」を加える。

第百五十二条中「又は敷地利用権を若しくは敷地利用権又は敷地共有持分等」に、「第百十六条」を「第百九条」に、「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に、「売却マン

ション」を「売却等マンション又は売却敷地」に改める。

第百五十三条中「売却マンション又は」を「売却等マンション若しくは」に改め、「除く。」の下に「又は売却敷地に関する権利組合員の有する敷地共有持分等を除く。」を加え、「その敷地を」を「その敷地又は売却敷地を」に、「第百二十三条第一項」を「第百二十条第一項」に改める。

第百五十四条中「この款を」を「この款(次条第五号を除く。)」に、「第百十六条」を「第百九条」に、「施行マンション」を「再生前マンション又は再建敷地」に、「売却マンション」を「売却等マンション又は売却敷地」に改める。

第四章第二節第一款第四目の目名中「売却マンション等」を「売却等マンション等」に改める。

第百五十五条中「売却マンション又はその敷地を売却等マンション若しくはその敷地又は売却敷地」に、「者は」を「者(売却等マンションの借家権を有する者及び使用貸借による権利を有する者を除く。)」に、「第百八条第十項及び第百二十四条第三項において準用する区分所有法第六十三条第六項」を「区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項又は第七十一条第五項において準用する区分所有法第六十三条第六項(これらの規定を第百二十一条第三項において準用する場合を含む。)」に改め、同条ただし書を次のように改める。

ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。

一 分配金取得計画公告の日の翌日から起算して三十日を経過していない場合

二 分配金の支払を受けるべき者について第百五十一条の規定による支払又は第百五十二条において準用する第七十六条の規定による供託がない場合

三 第百五十三条の補償金の支払を受けるべき者について同条の規定による支払又は前条において準用する第七十六条の規定による供託がない場合

き者について同条の規定による支払又は前条において準用する第七十六条の規定による供託がない場合

四 第百二十一条第一項(第百三十四条第四項において準用する場合を含む。)又は区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項若しくは第七十一条第五項において準用する区分所有法第六十三条第五項若しくは第八十五条第四項において準用する区分所有法第六十三

若しくは第八十五条第四項において準用する区分所有法第六十三条第五項若しくは第八十五条第四項において準用する区分所有法第六十三条第五項前段の規定による請求を受けた者について当該請求を行った者による代金の支払又は提供がない場合

五 次に掲げる規定に規定する補償金の提供を受けるべき者について当該規定による提供がない場合

イ 第百二十二条第三項又は第百二十四条第二項において準用する区分所有法第六十四条の二第三項

ロ 区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項又は第七十一条第五項において準用する次に掲げる規定

(1) 区分所有法第六十四条の二第三項(2) 区分所有法第六十四条の四において準用する区分所有法第六十四条の二第三項

第百五十六条中「売却マンション又はその敷地」を「売却等マンション若しくはその敷地又は売却敷地」に改める。

第百五十七条中「売却マンション及びその敷地」を「売却等マンション及びその敷地並びに売却敷地」に改める。

第百五十八条第一項及び第百五十九条第一項中「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改める。

第四章第二節第二款を第三款とし、第一款の次に次の一款を加える。

第二款 区分所有者等の居住の安定  
の確保に関する組合等の責務

第百五十五条の二 組合は、基本方針に従って、売却等マンションに居住していた区分所有者及び借家権者の居住の安定の確保に努めなければならない。

2 国及び地方公共団体は、基本方針に従って、売却等マンションに居住していた区分所有者及び借家権者の居住の安定の確保を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

第四章第二節を同章第三節とする。

第四章第一節の節名中「マンション敷地売却組合」を「マンション等売却組合」に改める。

第百十六条の見出しを「(マンション等売却事業の実施)」に改め、同条中「マンション敷地売却組合」を「マンション等売却組合」に、「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改め、第四章第一節第一款同条を第百九条とし、第百十七条を第百十条とする。

第百十八条第二号中「売却マンション」を「売却等マンション」に改め、「所在地」の下に「又は売却敷地の所在地」を加え、同条を第百十一条とする。

第百十九条中「マンション敷地売却組合」を「マンション等売却組合」に改め、同条を第百十二条とする。

第百二十条第一項及び第二項を次のように改める。

次に掲げる者(以下「売却合意者」という。)は、売却決議マンション等(次項各号に掲げるマンション又は土地をいう。第五項において同じ。)ごとに、五人以上共同して、定款及び資金計画を定め、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等の認可を受けて組合を設立することができる。

一 区分所有法第六十四条の六第三項において準用する区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第六十四条の六第一項に規定する建物敷地売却決議(以下単に「建物敷地売却決議」という。)の内容によりマンション敷地売却を行う旨の合意をしたものとみなされた者(マンションの区分所有権又は敷地利用権を有する者であつてその後当該建物敷地売却決議の内容により当該マンション敷地売却を行う旨の同意をしたものを含む。)

二 区分所有法第六十四条の七第三項において準用する区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第六十四条の七第一項に規定する建物取壊し敷地売却決議(以下単に「建物取壊し敷地売却決議」という。)の内容によりマンション除却敷地売却を行う旨の合意をしたものとみなされた者(マンションの区分所有権又は敷地利用権を有する者であつてその後当該建物取壊し敷地売却決議の内容により当該マンション敷地売却を行う旨の同意をしたものを含む。)

三 区分所有法第七十一条第五項において準用する区分所有法第六十四条の規定により団地内建物敷地売却決議の内容によりマンション敷地売却を行う旨の合意をしたものとみなされた者(マンションの区分所有権又は敷地利用権を有する者であつてその後当該建物取壊し敷地売却決議の内容により当該マンション除却敷地売却を行う旨の同意をしたものを含む。)

四 区分所有法第七十六条第三項において準用する区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第七十六条第一項に規定する敷地売却決議(以下単に「敷地売却決議」という。)の内容により敷地売却を行う旨の合意をしたものとみなされた者(敷地共有持分

等を有する者であつてその後当該敷地売却決議の内容により当該敷地売却を行う旨の同意をしたものを含む。)

五 区分所有法第八十五条第四項において準用する区分所有法第六十四条の規定により一括敷地売却決議の内容により敷地売却を行う旨の合意をしたものとみなされた者(敷地共有持分等を有する者であつてその後当該一括敷地売却決議の内容により当該敷地売却を行う旨の同意をしたものを含む。)

2 前項の規定による認可を申請しようとする売却合意者は、次の各号に掲げるマンション又は土地の区分ごとに、次条から第百十七条までの規定により、集会を開き、当該集会において、売却合意者の過半数の者であつて当該各号に定めるものが出席し、出席した売却合意者及びその議決権(第一号又は第二号に掲げるマンションに係る売却合意者にあつては、その議決権及び敷地利用権の持分の価格)の各四分の三以上の多数で、組合を設立する旨の決議をしなければならない。

一 建物敷地売却決議に係るマンション(以下「売却決議マンション」という。) 区分所有法第三十八条の議決権及び敷地利用権の持分の価格の過半数を有する者

二 建物取壊し敷地売却決議に係るマンション 区分所有法第三十八条の議決権及び敷地利用権の持分の価格の過半数を有する者

三 団地内建物敷地売却決議に係る団地内の二以上のマンション(以下「売却決議マンション群」という。) 区分所有法第七十一条第三項において準用する区分所有法第六十九条第二項の議決権の過半数を有する者  
四 敷地売却決議に係る滅失したマンションに係るマンションの敷地であつた土地 区分所有法第七十三条において準用する区分

所有法第三十八条の議決権の過半数を有する者

五 一括敷地売却決議に係る団地内の二以上の滅失したマンションに係るマンションの敷地であつた土地 区分所有法第八十五条第二項の議決権の過半数を有する者

第百二十条第三項中「前二項」を「前三項」に改め、「とき」の下に、「又は敷地共有持分等を数人で有するとき」を加え、「マンション敷地売却合意者」を「売却合意者」に改め、同項を同条第四項とし、同条第二項の次に次の一項を加える。

3 次の各号に掲げる者は、当該各号に定める場合には、前項の規定による集会の決議をすることができない。

一 売却決議マンション群に係る売却合意者 前項の集会において、売却決議マンション群を構成するいずれか一以上のマンションにつき、その区分所有権を有する売却合意者の三分の一を超える者又は区分所有法第三十八条の議決権の合計の三分の一を超える議決権を有する者が同項の決議に反対した場合

二 前項第五号に掲げる土地に係る売却合意者 同項の集会において、当該二以上の滅失したマンションを構成するいずれか一以上のマンションにつき、区分所有法第七十三条において準用する区分所有法第三十八条の議決権の合計の三分の一を超える議決権を有する者が同項の決議に反対した場合 第百二十条に次の一項を加える。

5 二以上の売却決議マンション等に係る売却合意者は、五人以上共同して、第一項の規定による認可を申請することができる。この場合において、同項中「次に掲げる者(以下「売却合意者」という。)」は、「とあるのは二以上の」と、「ことに」とあるのは「に係る次に掲げる者(以下「売却合意者」という。)」は」とする。

第四章第一節第二款中第二百二十条を第百十三条とし、同条の次に次の四条を加える。

(集会の招集)

第百十四条 売却合意者の五分の一以上の者であつて議決権〔前条第二項各号に規定する議決権をいう。第百十六条において同じ。〕の五分の一以上を有するものは、集会を招集することができる。

2 集会を招集するには、少なくとも会議を開く日の五日前までに、会議の日時、場所及び目的である事項を売却合意者に通知しなければならない。ただし、緊急を要するときは、二日前までにこれらの事項を売却合意者に通知して、集会を招集することができる。

(招集手続の省略)

第百十五条 集会は、売却合意者全員の同意があるときは、招集の手続を経ないで開くことができる。

(議決権の行使の方法等)

第百十六条 集会に出席しない売却合意者は、書面又は代理人をもつて、議決権を行使することができる。

2 集会に出席しない売却合意者は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、前項の規定による書面をもつてする議決権の行使に代えて、電磁的方法により議決権を行使することができる。

3 前二項の規定により議決権を行使する者は、第百十三条第二項の規定の適用については、出席者とみなす。

4 代理人は、同時に五人以上の売却合意者を代理することができる。

5 代理人は、代理権を証する書面を集会を招集した者に提出しなければならない。

6 前項の場合において、代理人は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、当該書面の提出に代えて、

当該書面において証すべき事項を電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該代理人は、当該書面を提出したものとみなす。

(集会の決議の効力)

第百十七条 第百十三条第二項の規定による集会の決議は、売却合意者の特定承継人及び集会の決議後に売却合意者となつた者に対して、その効力を生ずる。

第百二十一条の見出し中「基準」を「基準等」に改め、同条中「前条第一項」を「第百十三条第一項」に改め、同条第四号を同条第七号とし、同条第三号中「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改め、同号を同条第五号とし、同号の次に次の一号を加える。

六 マンション敷地売却事業に係る売却決議

マンション又は売却決議マンション群の全部（認定除却等計画に係るものその他の国土交通省令で定めるものを除く。）が第百六十三条の五十六第二項各号のいずれにも該当しないと認められること。

第百二十一条第二号を同条第三号とし、同号の次に次の一号を加える。

四 マンション敷地売却又はマンション除却

敷地売却を行う場合にあっては、当該マンション敷地売却又は当該マンション除却敷地売却を行うことが、売却等マンションの居住者の居住環境の改善のために必要であること。

第百二十一条第一号の次に次の一号を加える。

二 建物敷地売却決議、建物取壊し敷地売却

決議、団地内建物敷地売却決議、敷地売却決議又は一括敷地売却決議（以下「売却決議」と総称する。）が、当該売却決議の要件を満たしてされたものであること。

第百二十一条に次の一項を加える。

2 都道府県知事等（特定行政庁である都道府県知事等を除く。）は、次の各号に掲げる事業を行う組合の設立についての第百十三条第一項の規定による認可の申請があつた場合において、当該認可をしようとするときは、当該申請が当該各号に定める規定に該当することについて、特定行政庁に協議しなければならない。

一 次に掲げる事業 前項第二号

イ 区分所有法第六十四条の六第三項において読み替えて準用する区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の六第一項の規定によりされた建物敷地売却決議に係るマンション（要除却等認定を受けたものを除く。）に係るマンション敷地売却事業

ロ 区分所有法第六十四条の七第三項において読み替えて準用する区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の七第一項の規定によりされた建物取壊し敷地売却決議に係るマンション（要除却等認定を受けたものを除く。）に係るマンション除却敷地売却事業

ハ 区分所有法第七十一条第二項の規定により読み替えて適用される同条第一項の規定によりされた団地内建物敷地売却決議に係る団地内の二以上のマンション（要除却等認定を受けたものを除く。）に係るマンション敷地売却事業

二 売却決議マンション又は売却決議マンション群の全部（認定除却等計画に係るものその他の国土交通省令で定めるものを除く。）に係るマンション敷地売却事業 前項第六号

第百二十一条を第百十八条とする。

第百二十二条中「第百二十条第一項」を「第百十三条第一項」に改め、同条を第百十九条とする。

第百二十三条第一項中「第百二十条第一項を〔第百十三条第一項〕に、〔売却マンション〕を〔売却等マンション〕に改め、〔所在地〕の下に〔又は売却敷地の所在地〕を加え、同条を第百二十条とする。

第百二十四条の見出しを「区分所有権及び敷地利用権等の売渡し請求等」に改め、同条第一項中「が第百八条第十項」を「が区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項、第七十一条第五項、第七十六条第三項又は第八十五条第四項」に、「第百八条第十項」を「区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項若しくは第七十一条第五項」に、「に規定するマンション敷地売却」を「又は区分所有法第七十六条第三項若しくは第八十五条第四項において読み替えて準用する区分所有法第六十三条第五項前段に規定する売却又は取壊し」に、「区分所有者（その）」を「区分所有者又は敷地共有持分等を有する者（それら）」に、「マンション敷地売却合意者」を「売却合意者」に、「を時価」を「又は敷地共有持分等を時価」に、「マンション敷地売却決議」を「建物敷地売却決議、建物取壊し敷地売却決議又は団地内建物敷地売却決議」に改め、同条第二項中「マンション敷地売却決議」を「売却決議」に改め、同条第三項を次のように改める。

3 区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項又は第七十一条第五項において準用する区分所有法第六十三条第六項の規定は第一項の規定による請求（次に掲げる決議に係るものを除く。）があつた場合について、区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項、第七十一条第五項、第七十六条第三項又は第八十五条第四項において

準用する区分所有法第六十三条第七項及び第八項の規定は第一項の規定による請求があつた場合について、それぞれ準用する。この場合において、区分所有法第六十四条の六第三項、第六十四条の七第三項、第七十一条第五項、第七十六条第三項又は第八十五条第四項において準用する区分所有法第六十三条第七項中「第五項」とあるのは、「マシシヨンの再生等の円滑化に関する法律第二百一十一条第一項」と読み替えるものとする。

一 被災区分所有法第五條第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の六第一項の規定によりされた建物敷地売却決議

二 被災区分所有法第五條第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四條の七第一項の規定によりされた建物取壊し敷地売却決議

第二百二十四条を第二百一条とし、第四章第一節第二款中同条の次に次の三条を加える。  
(賃貸借の終了請求)

第二百二十二条 組合（敷地売却のみを行う組合を除く。）は、専有部分の賃借人に対し、賃貸借の終了を請求することができる。

2 前項の規定による請求があつたときは、当該専有部分の賃貸借は、その請求があつた日から六月を経過することによつて終了する。

区分所有法第六十四条の二第三項から第五項までの規定は、第一項の規定による請求があった場合について準用する。この場合において、同条第四項中「第一項の規定による請求をした者（当該専有部分の区分所有者を除く。）」とあるのは「組合（マンションの再生等）の円滑化に関する法律第九条に規定する組合をいう。」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第二百二十二条第二項」と読み替えるも

のとする。

(使用貸借の終了請求)

第二百二十三條 前條第一項及び第二項の規定は、専有部分が使用貸借の目的物とされている場合（民法第五百九十八条第一項又は第二項に規定する場合を除く。）について準用する。

(配偶者居住権の消滅請求)

第二百二十四条 第二百二十二条第一項及び第二項の規定は、専有部分に配偶者居住権が設定されている場合（民法第千三十五条第一項ただし書に規定する場合を除く。）について準用する。

2 区分所有法第六十四条の二第三項から第五項までの規定は、前項において準用する第二百二十二条第一項の規定による請求があつた場合について準用する。この場合において、区分所有法第六十四条の二第四項中「第一項の規定による請求をした者(当該専有部分の区分所有者を除く。）」とあるのは「組合(マンションの再生等の円滑化に関する法律第九十九条に規定する組合をいう。）」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第二百二十四条第一項において準用する同法第二百二十二条第二項」と読み替えるものとする。

第百二十五条第一項中「売却マンションのマンション敷地売却合意者」を「売却等マンション項中」の「とき」の下に、「又は敷地共有持分等を数人であるとき」を加え、同条第三項中「第百二十三条第一項を「第百十三條第一項」に、「第百二十三条第一項」を「第百二十條第一項」に、「建替え合意者等」を「再生合意者」に、「施行マンション」を「再生前マンション」に、「売却マンション」を「売却等マンション」と、「再建敷地」とあるのは「売却敷地」に改める。

第二百二十九条中「第二百二十条第一項」を「第二百二十条第一項」に改める。

第百三十条中「は」の下に「総会において、組合員の議決権の過半数を有する者であつて敷地利用権の持分又は敷地共有持分等の価格の過半数を有するものが出席し、出席した」を加え、「敷地利用権の持分」を「その敷地利用権の持分又は敷地共有持分等」に、「決する」を「決しなければならぬ」に改める。

第百三十四条第二項中「第百二十一条及び第百二十三条」を「第百十三條第二項から第四項まで及び第百十四條から第百十七條までの規定は」及び第百十四條から第百十七條までの規定は組合が定款及び資金計画を変更して新たに売却等マンション又は売却敷地に追加しようとするマンション又は土地がある場合について、第百十八條及び第百二十條に、「前項」を「前項」に改め、「認可について」の下に、「それぞれ」を

加え、「同条第二項」を「第百十三条第二項中「前項の規定による認可を申請しようとする」とあるのは、組合が第百三十四条第一項の規定による認可の申請をしようとするときは、新たに売却等マンション又は売却敷地となるべき次の各号に掲げるマンション又は土地に係る」と、「次の」とあるのは「当該」と、第百二十条第二項に「改め、同条第三項中「又は」を「若しくは」に改め、「場合」の下に「又は定款及び資金計画の対象」とされた二以上の売却等マンション、一以上の売却等マンション及び売却敷地若しくは二以上の売却敷地の数を縮減しようとする場合」を加え、「マンション敷地売却事業」を「マンション等売却事業」に改め、「その変更」の下に「又は縮減」を加え、同条に次の一項を加える。

4 第二百一十一条から第二百四十四条までの規定は、組合が定款及び資金計画を変更して新たに売却等マンション又は売却敷地を追加した場合について準用する。この場合において、第二百一十一条第一項中「前条第一項」とあるものを

は「第三百三十四条第二項において準用する前条第一項」と、「区分所有者又は敷地共有持分シヨンの区分所有者又は新たに追加された売却等マンシヨンの区分所有者又は新たに追加された売却敷地の敷地共有持分等」と、同条第三項中「第二百一十一条第一項」とあるのは「第三百三十四条第四項において準用する同法第二百一十一条第一項」と読み替えるものとする。

第三百三十五条第二項中「分配金」の下に「（マンシオン敷地売却、マンシオン除却敷地売却又は敷地売却によつて各区分所有者又は各敷地共有持分等を有する者が取得することができる金銭をいう。以下同じ。）」を加える。

第三百三十九条第一項中「マンシオン敷地売却組合」を「マンシオン等売却組合」に改める。

第四章中第一節を第二節とし、同節の前に次の一節を加える。

第一節 除却等計画  
等計画の認定)

第四百四條 第一百十三條第二項第一号に規定する売却決議マンシヨン又は同項第三号に規定する売却決議マンシヨン群（以下この節において「売却決議マンシヨン等」と総称する。）を買い受けようとする者は、当該売却決議マンシヨン等ごとに、国土交通省令で定めるところにより、当該売却決議マンシヨン等の売却等に関する計画（以下「除却等計画」という。）を作成し、都道府県知事等の認定を申請することができる。

除却等計画には、次に掲げる事項を記載しなければならない。

一 売却決議マンシヨン等を買ひ受けた日から売却決議マンシヨン等の除却等をする日までの間における当該売却決議マンシヨン等の管理に関する事項

二期 売却決議マシヨンの除却等の予定時

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>三 売却決議マンション等の除却等に関する資金計画</p> <p>四 売却決議マンション等の除却等をした後の土地の利用に関する事項</p> <p>五 その他国土交通省令で定める事項</p> <p>(除却等計画の認定基準)</p> <p>第百五条 都道府県知事等は、前条第一項の認定の申請があつた場合において、次の各号のいずれにも該当すると認めるときは、その認定をするものとする。</p> <p>一 売却決議マンション等を買収した日から売却決議マンション等の除却等がされる日までの間に、当該売却決議マンション等について新たな権利が設定されないことが確実であること。</p> <p>二 売却決議マンション等の除却等に関する資金計画が当該除却等を遂行するため適切なものであり、当該売却決議マンション等の除却等がされることが確実であること。</p> <p>(除却等計画の変更)</p> <p>第百六条 第百四条第一項の認定を受けた者(以下「認定買受人」という。)は、除却等計画の変更(国土交通省令で定める軽微な変更を除く。)をしようとするときは、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等の認定を受けなければならない。</p> <p>2 前条の規定は、前項の場合について準用する。</p> <p>(除却等の実施)</p> <p>第百七条 認定買受人は、第百四条第一項の認定を受けた除却等計画(前条第一項の変更の認定があつたときは、その変更後のもの。以下「認定除却等計画」という。)に従い、売却決議マンション等の除却等を実施しなければならない。</p> <p>(報告の徴収等)</p> <p>第百八条 都道府県知事等は、認定買受人に対</p> | <p>し、認定除却等計画に係る売却決議マンション等の除却等の状況について報告を求めることができる。</p> <p>2 都道府県知事等は、認定買受人が正当な理由がなく認定除却等計画に従つて売却決議マンション等の除却等を実施していないと認めるときは、当該認定買受人に対して、当該認定除却等計画に従つてこれらの措置を実施すべきことを勧告することができる。</p> <p>3 都道府県知事等は、前項の規定による勧告を受けた認定買受人がその勧告に従わなかつたときは、その旨を公表することができる。</p> <p>第四章 マンション除却事業</p> <p>第一節 マンション除却組合</p> <p>第一款 通則</p> <p>(マンション除却事業の実施)</p> <p>第百六十三条の二 マンション除却組合(以下この章において「組合」という。)は、マンション除却事業を実施することができる。</p> <p>(法人格)</p> <p>第百六十三条の三 組合は、法人とする。</p> <p>2 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第四条及び第七十八条の規定は、組合について準用する。</p> <p>(定款)</p> <p>第百六十三条の四 組合の定款には、次に掲げる事項を記載しなければならない。</p> <p>一 組合の名称</p> <p>二 除却マンションの名称及びその所在地</p> <p>三 事務所の所在地</p> <p>四 事業に要する経費の分担に関する事項</p> <p>五 役員の定数、任期、職務の分担並びに選挙及び選任の方法に関する事項</p> <p>六 総会に関する事項</p> <p>七 総代会を設けるときは、総代及び総代会</p> | <p>に関する事項</p> <p>八 事業年度</p> <p>九 公告の方法</p> <p>十 その他国土交通省令で定める事項</p> <p>(名称の使用制限)</p> <p>第百六十三条の五 組合は、その名称中にマンション除却組合という文字を用いなければならない。</p> <p>2 組合でない者は、その名称中にマンション除却組合という文字を用いてはならない。</p> <p>第二款 設立等</p> <p>(設立の認可)</p> <p>第百六十三条の六 区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十四条の規定により区分所有法第六十四条の八第一項に規定する取壊し決議(以下単に「取壊し決議」という。)の内容によりマンションの除却を行う旨の合意をしたものとみなされた者(「マンションの区分所有権又は敷地利用権を有する者であつてその後に当該取壊し決議の内容により当該マンションの除却を行う旨の同意をしたものを含む。以下「取壊し合意者」という。))は、五人以上共同して、定款及び資金計画を定め、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等の認可を受けて組合を設立することができる。</p> <p>2 前項の規定による認可を申請しようとする取壊し合意者は、次条から第百六十三条の十までの規定により、集会を開き、当該集会において、取壊し合意者の過半数の者であつて区分所有法第三十八条の議決権の過半数を有するものが出席し、出席した取壊し合意者及びその議決権の各四分の三以上の多数で、組合を設立する旨の決議をしなければならない。</p> <p>3 前二項の場合において、マンションの一の専有部分が数人の共有に属するときは、その</p> | <p>数人を一人の取壊し合意者とみなす。</p> <p>(集会の招集)</p> <p>第百六十三条の七 取壊し合意者の五分の一以上の者であつて議決権(前条第二項に規定する議決権をいう。第百六十三条の九において同じ。)の五分の一以上を有するものは、集会を招集することができる。</p> <p>2 集会を招集するには、少なくとも会議を開く日の五日前までに、会議の日時、場所及び目的である事項を取壊し合意者に通知しなければならない。ただし、緊急を要するときは、二日前までにこれらの事項を取壊し合意者に通知して、集会を招集することができる。</p> <p>(招集手続の省略)</p> <p>第百六十三条の八 集会は、取壊し合意者全員の同意があるときは、招集の手続を経ないで開くことができる。</p> <p>(議決権の行使の方法等)</p> <p>第百六十三条の九 集会に出席しない取壊し合意者は、書面又は代理人をもつて、議決権を行使することができる。</p> <p>2 集会に出席しない取壊し合意者は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、前項の規定による書面をもつてする議決権の行使に代えて、電磁的方法により議決権を行使することができる。</p> <p>3 前二項の規定により議決権を行使する者は、第百六十三条の六第二項の規定の適用については、出席者とみなす。</p> <p>4 代理人は、同時に五人以上の取壊し合意者を代理することができる。</p> <p>5 代理人は、代理権を証する書面を集会を招集した者に提出しなければならない。</p> <p>6 前項の場合において、代理人は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、当該書面の提出に代えて、</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

当該書面において証すべき事項を電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該代理人は、当該書面を提出したものとみなす。

(集会の決議の効力)

第百六十三条の十 第百六十三条の六第二項の規定による集会の決議は、取壊し合意者の特定承継人及び集会の決議後に取壊し合意者となった者に対しても、その効力を生ずる。

(認可の基準等)

第百六十三条の十一 都道府県知事等は、第百六十三条の六第一項の規定による認可の申請があつた場合において、次の各号のいずれにも該当すると認めるときは、その認可をしなければならない。

一 申請手続が法令に違反するものでないこと。

二 取壊し決議が、当該取壊し決議の要件を満たしてされたものであること。

三 定款又は資金計画の決定手続又は内容が法令に違反するものでないこと。

四 マンションの除却を行うことが、除却マンションの居住者の居住環境の改善のために必要であること。

五 当該マンション除却事業を遂行するために必要な経済的基礎及びこれを的確に遂行するために必要なその他の能力が十分であること。

六 その他基本方針に照らして適切なものであること。

2 都道府県知事等(特定行政庁である都道府県知事等を除く)は、区分所有法第六十四条の八第三項において読み替えて準用する区分所有法第六十二条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の八第一項の規定によりされた取壊し決議に係るマンション(要除却等認定を受けたものを除く)に係るマンション除却事業を行う組合の設立についての第百六十三条の六第一項の規定による認可の申請があつた場合において、当該認可をしようとするときは、当該申請が前項第二号に該当することについて、特定行政庁に協議しなければならない。

(組合の成立)

第百六十三条の十二 組合は、第百六十三条の六第一項の規定による認可により成立する。

(認可の公告等)

第百六十三条の十三 都道府県知事等は、第百六十三条の六第一項の規定による認可をしたときは、遅滞なく、国土交通省令で定めるところにより、組合の名称、除却マンションの名称及びその所在地その他国土交通省令で定める事項を公告しなければならない。

2 組合は、前項の公告があるまでは、組合の成立又は定款若しくは資金計画をもって、組合員その他の第三者に対抗することができない。

(区分所有権及び敷地利権の売渡し請求等) 第百六十三条の十四 組合は、前条第一項の公告の日(その日が区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第三項の期間の満了の日)の前であるときは、当該期間の満了の日)から二月以内に、区分所有法第六十四条の八第三項において読み替えて準用する区分所有法第六十三条第五項に規定する取壊しに参加しない旨を回答した区分所有者(その承継人を含み、その後取壊し合意者となったものを除く)に対し、区分所有権及び敷地利権を時価で売り渡すべきことを請求することができる。取壊し決議があつた後に当該区分所有者から敷地利権のみを取得した者(その承継人を含み、その後取壊し合意者となったものを除く)の敷地利権についても、同様とする。

2 前項の規定による請求は、取壊し決議の日から一年以内にしなければならない。ただし、この期間内に請求することができなかったことに正当な理由があるときは、この限りでない。

3 区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第六項の規定は第一項の規定による請求(被災区分所有法第五条第二項の規定により読み替えて適用される区分所有法第六十四条の八第一項の規定によりされた取壊し決議に係るものを除く)があつた場合について、区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第七項及び第八項の規定は第一項の規定による請求があつた場合について、それぞれ準用する。この場合において、区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第七項中「第五項」とあるのは、「マンションの再生等の円滑化に関する法律第百六十三条の十四第一項」と読み替えるものとする。

(賃貸借の終了請求)

第百六十三条の十五 組合は、専有部分の賃借人に対し、賃貸借の終了を請求することができる。

2 前項の規定による請求があつたときは、当該専有部分の賃貸借は、その請求があつた日から六月を経過することによって終了する。

3 区分所有法第六十四条の二第三項から第五項までの規定は、第一項の規定による請求があつた場合について準用する。この場合において、同条第四項中「第一項の規定による請求をした者」当該専有部分の区分所有者を除く。」「とあるのは「組合(マンションの再生等の円滑化に関する法律第百六十三条の二に規定する組合をいう。)」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第百六十三条の十五第二項」と読み替えるものとする。

に関する法律第百六十三条の十五第二項」と読み替えるものとする。

(使用貸借の終了請求)

第百六十三条の十六 前条第一項及び第二項の規定は、専有部分が使用貸借の目的物とされている場合(民法第五百九十八条第一項又は第二項に規定する場合を除く)について準用する。

(配偶者居住権の消滅請求)

第百六十三条の十七 第百六十三条の第十五第一項及び第二項の規定は、専有部分に配偶者居住権が設定されている場合(民法第三千三十五条第一項ただし書に規定する場合を除く)について準用する。

2 区分所有法第六十四条の二第三項から第五項までの規定は、前項において準用する第百六十三条の十五第一項の規定による請求があつた場合について準用する。この場合において、区分所有法第六十四条の二第四項中「第一項の規定による請求をした者(当該専有部分の区分所有者を除く。)」とあるのは「組合(マンションの再生等の円滑化に関する法律第百六十三条の二に規定する組合をいう。)」と、同条第五項中「第二項」とあるのは「マンションの再生等の円滑化に関する法律第百六十三条の十七第一項において準用する同法第百六十三条の十五第二項」と読み替えるものとする。

第三款 管理

(組合員)

第百六十三条の十八 除却マンションの取壊し合意者(その承継人(組合を除く。))を含む。))は、全て組合の組合員とする。

2 マンションの一の専有部分が数人の共有に属するときは、その数人を一人の組合員とみなす。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3 第十八条及び第十九条の規定は、組合の組合員について準用する。この場合において、第十八条第一項及び第二項中「第九条第一項」とあるのは「第六十三条の六第一項」と、同条第一項中「第十四条第一項」とあるのは「第六十三条の十三第一項」と、「並びに再生合意者である組合員又は参加組合員の別その他」とあるのは「その他」と、第十九条中「再生前マンション」とあるのは「除却マンション」と、「若しくは敷地利用権又は再建敷地について組合員の有する敷地共有持分等」とあり、及び「若しくは敷地利用権又は敷地共有持分等」とあるのは「又は敷地利用権」と読み替えるものとする。</p> <p>(役員)</p> <p>第六十三条の十九 組合に、役員として、理事三人以上及び監事二人以上を置く。</p> <p>2 組合に、役員として、理事長一人を置き、理事の互選によりこれを定める。</p> <p>3 第二十一条から第二十五条まで(同条第一項後段を除く。)の規定は、組合の役員について準用する。この場合において、第二十二条第一項中「三年」とあるのは、「二年」と読み替えるものとする。</p> <p>(総会の組織)</p> <p>第六十三条の二十 組合の総会は、総組合員で組織する。</p> <p>(総会の決議事項)</p> <p>第六十三条の二十一 次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一定款の変更</li> <li>資金計画の変更</li> <li>借入金の借入れ及びその方法並びに借入金の利率及び償還方法</li> <li>経費の収支予算</li> <li>予算をもって定めるものを除くほか、組合の負担となるべき契約</li> </ol> | <p>六 賦課金の額及び賦課徴収の方法</p> <p>七 補償金支払計画及びその変更</p> <p>八 組合の解散</p> <p>九 その他定款で定める事項</p> <p>(総会の招集及び議事についての規定の準用)</p> <p>第六十三条の二十二 第二十八条の規定は組合の総会の招集について、第二十九条の規定は組合の総会の議事について、それぞれ準用する。この場合において、第二十八条第七項中「第九条第一項」とあるのは「第六十三条の六第一項」と、第二十九条第三項中「次条」とあるのは「第六十三条の二十三」と読み替えるものとする。</p> <p>(特別の議決)</p> <p>第六十三条の二十三 第六十三条の二十一第一号に掲げる事項のうち政令で定める重要な事項及び同条第八号に掲げる事項は、総会において、組合員の議決権の過半数を有する者であつて持分割合(除却マンションについての区分所有法第十四条に定める割合をいう。以下この条において同じ。)の過半数を有するものが出席し、出席した組合員の議決権及びその持分割合の各四分の三以上で決しなければならぬ。</p> <p>(総代会)</p> <p>第六十三条の二十四 組合員数が五十人を超える組合は、総会に代わつてその権限を行わせるために総代会を設けることができる。</p> <p>2 総代会は、総代をもって組織するものとし、総代の定数は、組合員の総数の十分の一を下らない範囲内において定款で定める。ただし、組合員の総数が二百人を超える組合にあつては、二十人以上であることをもつて足りる。</p> <p>3 総代会が総会に代わつて行う権限は、次の各号のいずれかに該当する事項以外の事項に関する総会の権限とする。</p> | <p>一 理事及び監事の選挙又は選任</p> <p>二 前条の規定に従つて議決しなければならない事項</p> <p>4 第二十八条第一項から第六項まで及び第八項並びに第二十九条第三項ただし書を除く。の規定は組合の総代会について、第三十一条第五項の規定は総代会が設けられた組合について、それぞれ準用する。</p> <p>(総代)</p> <p>第六十三条の二十五 総代は、定款で定めるところにより、組合員が組合員(法人にあつては、その役員)のうちから選挙する。</p> <p>2 総代の任期は、一年を超えない範囲内において定款で定める。補欠の総代の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>3 第二十一条第二項及び第二十三条の規定は、組合の総代について準用する。この場合において、同項中「前項本文」とあるのは、「第六十三条の二十五第一項」と読み替えるものとする。</p> <p>(議決権及び選挙権)</p> <p>第六十三条の二十六 組合員及び総代は、定款に特別の定めがある場合を除き、各一個の議決権及び選挙権を有する。</p> <p>2 組合員は書面又は代理人をもって、総代は書面をもって、議決権及び選挙権を行使することができる。</p> <p>3 組合員及び総代は、定款で定めるところにより、前項の規定による書面をもってする議決権及び選挙権の行使に代えて、電磁的方法により議決権及び選挙権を行使することができる。</p> <p>4 組合と特定の組合員との関係について議決をする場合には、その組合員は、議決権を有しない。</p> <p>5 第二項又は第三項の規定により議決権及び選挙権を行使する者は、第六十三条の二十</p> | <p>二及び第六十三条の二十四第四項において準用する第二十九条第一項の規定の適用については、出席者とみなす。</p> <p>6 代理人は、同時に五人以上の組合員を代理することができない。</p> <p>7 代理人は、代理権を証する書面を組合に提出しなければならない。</p> <p>8 前項の場合において、電磁的方法により議決権及び選挙権を行使することが定款で定められているときは、代理人は、当該書面の提出に代えて、当該書面において証すべき事項を当該電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該代理人は、当該書面を提出したものとみなす。</p> <p>(定款又は資金計画の変更)</p> <p>第六十三条の二十七 組合は、定款又は資金計画を変更しようとするときは、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等の認可を受けなければならない。</p> <p>2 第六十三条の十一及び第六十三条の十三の規定は、前項の規定による認可について準用する。この場合において、同条第二項中「組合の成立又は定款若しくは資金計画」とあるのは「定款又は資金計画の変更」と、「組合員その他の」とあるのは「その変更について第六十三条の二十七第一項の規定による認可があつた際に従前から組合員であつた者以外の」と読み替えるものとする。</p> <p>3 組合は、事業に要する経費の分担に関し定款又は資金計画を変更しようとする場合において、マンション除却事業の実施のための借入金があるときは、その変更についてその債権者の同意を得なければならない。</p> <p>(経費の賦課徴収)</p> <p>第六十三条の二十八 組合は、その事業に要する経費に充てるため、賦課金として組合員に対して金銭を賦課徴収することができる。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2 賦課金の額は、組合員の有する除却マンションの専有部分の位置、床面積等を考慮して公平に定めなければならない。</p> <p>3 組合員は、賦課金の納付について、相殺をもって組合に対抗することができない。</p> <p>4 組合は、組合員が賦課金の納付を怠ったときは、定款で定めるところにより、その組合員に対して過怠金を課することができる。</p> <p>(審査委員)</p> <p>第百六十三条の二十九 組合に、この法律及び定款で定める権限を行わせるため、審査委員三人以上を置く。</p> <p>2 審査委員は、土地及び建物の権利関係又は評価について特別の知識経験を有し、かつ、公正な判断をすることができる者のうちから総会で選任する。</p> <p>3 前二項に規定するもののほか、審査委員に關し必要な事項は、政令で定める。</p> <p>第四款 解散</p> <p>(解散)</p> <p>第百六十三条の三十 組合は、次に掲げる理由により解散する。</p> <p>一 設立についての認可の取消し</p> <p>二 総会の議決</p> <p>三 事業の完了又はその完了の不能</p> <p>2 前項第二号の議決は、権利消滅期日前に行うことができるものとする。</p> <p>3 組合は、第一項第二号又は第三号に掲げる理由により解散しようとする場合において、借入金があるときは、解散について債権者の同意を得なければならない。</p> <p>4 組合は、第一項第二号又は第三号に掲げる理由により解散しようとするときは、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等の認可を受けなければならない。</p> <p>5 都道府県知事等は、組合の設立についての認可を取り消したとき、又は前項の規定による認可をしたときは、遅滞なく、その旨を公告しなければならない。</p> <p>6 組合は、前項の公告があるまでは、解散をもって組合員以外の第三者に対抗することができない。</p> <p>(組合の解散及び清算についての規定の準用)</p> <p>第百六十三条の三十一 第三十八条の二から第四十三条までの規定は、組合の解散及び清算について準用する。</p> <p>第五款 税法上の特例</p> <p>第百六十三条の三十二 組合は、法人税法その他法人税に関する法令の規定の適用については、同法第二条第六号に規定する公益法人等とみなす。この場合において、同法第三十七条の規定を適用する場合には同条第四項中「公益法人等」とあるのは「公益法人等(マンション除却組合並びに」と、同法第六十六条の規定を適用する場合には同条第一項中「普通法人」とあるのは「普通法人(マンション除却組合を含む。）」と、同条第二項中「除却」とあるのは「除くものとし、マンション除却組合を含む」と、同条第三項中「公益法人等」とあるのは「公益法人等(マンション除却組合及び」とする。</p> <p>2 組合は、消費税法その他消費税に関する法令の規定の適用については、同法別表第三に掲げる法人とみなす。</p> <p>第二節 補償金支払手続等</p> <p>第一款 補償金支払手続</p> <p>第一目 補償金支払手続開始の登記</p> <p>2 前項の登記があった後においては、組合員</p> | <p>は、当該登記に係る除却マンションの区分所有権を処分するときは、国土交通省令で定めるところにより、組合の承認を得なければならない。</p> <p>3 組合は、事業の遂行に重大な支障が生ずることその他正当な理由がなければ、前項の承認を拒むことができない。</p> <p>4 第二項の承認を得ないでした処分は、組合に対抗することができない。</p> <p>5 権利消滅期日前において第百六十三条の三十第五項の公告があったときは、組合の清算人は、遅滞なく、登記所に、補償金支払手続開始の登記の抹消を申請しなければならない。</p> <p>第二目 補償金支払計画</p> <p>(補償金支払計画の決定及び認可)</p> <p>第百六十三条の三十四 組合は、第百六十三条の十三第一項の公告後、遅滞なく、補償金支払計画を定めなければならない。この場合においては、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等の認可を受けなければならない。</p> <p>2 組合は、前項後段の規定による認可を申請しようとするときは、補償金支払計画について、あらかじめ、総会の議決を経なければならない。</p> <p>(補償金支払計画の内容)</p> <p>第百六十三条の三十五 補償金支払計画においては、国土交通省令で定めるところにより、次に掲げる事項を定めなければならない。</p> <p>一 組合員の氏名又は名称及び住所</p> <p>二 組合員が除却マンションについて有する区分所有権</p> <p>三 除却マンションに関する権利(組合員の有する区分所有権を除く。)を有する者で、この法律の規定により、権利消滅期日において当該権利を失うものの氏名又は名称及び住所、失われる除却マンションについて有する権利並びにその価額</p> <p>四 第百六十三条の四十六第一項の規定による除却マンションの明渡しにより前号に掲げる者(除却マンションを占有している者に限る。)が受ける損失の額</p> <p>五 補償金の支払に係る利子又はその決定方法</p> <p>六 権利消滅期日</p> <p>七 その他国土交通省令で定める事項</p> <p>2 除却マンションに関する権利に關して争いがある場合において、その権利の存否又は帰属が確定しないときは、当該権利が存するものとして、又は当該権利が現在の名義人(当該名義人に対して第百六十三条の十四第一項又は区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第五項の規定による請求があった場合においては、当該請求をした者)に属するものとして補償金支払計画を定めなければならない。</p> <p>(補償金の価額の算定基準)</p> <p>第百六十三条の三十六 前条第一項第三号の価額は、第百六十三条の十三第一項の公告の日における近傍類似の土地又は近傍同種の建築物に關する同種の権利の取引価格その他の当該価額の算定の基礎となる事項を考慮して定める相当の価額とする。</p> <p>2 前条第一項第四号の額は、第百六十三条の四十六第一項の規定による除却マンションの明渡しにより同号に掲げる者が通常受ける損失として政令で定める額とする。</p> <p>(認可の基準)</p> <p>第百六十三条の三十七 都道府県知事等は、第百六十三条の三十四第一項後段の規定による認可の申請があった場合において、次の各号のいずれにも該当すると認めるときは、その認可をしなければならない。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

一 申請手続又は補償金支払計画の決定手続若しくは内容が法令に違反するものでないこと。

二 取壊し決議の内容に適合していること。

三 除却マンションの区分所有権について先取特権等を有する者の権利を不当に害するものでないこと。

四 除却マンションの借家権及び使用貸借による権利が権利消滅期日までに消滅することが確実であること。

五 その他基本方針に照らして適切なものであること。

(補償金支払計画の変更)

第百六十三条の三十八 第百六十三条の三十四第一項後段及び第二項並びに前条の規定は、補償金支払計画を変更する場合(国土交通省令で定める軽微な変更をする場合を除く。)に準用する。

(審査委員の関与)

第百六十三条の三十九 組合は、補償金支払計画を定め、又は変更しようとするとき(国土交通省令で定める軽微な変更をしようとする場合を除く。)は、審査委員の過半数の同意を得なければならない。

第三目 補償金の支払等

(補償金支払計画に基づく組合の処分)

第百六十三条の四十 組合は、補償金支払計画若しくはその変更の認可を受けたとき、又は補償金支払計画について第百六十三条の三十八の国土交通省令で定める軽微な変更をしたときは、遅滞なく、国土交通省令で定めるところにより、その旨を公告し、及び関係権利者に関係事項を書面で通知しなければならない。

2 補償金支払計画に基づく組合の処分は、前項の通知をすることによって行う。

3 補償金支払計画に基づく組合の処分について

ては、行政手続法第三章の規定は、適用しない。

(権利消滅期日等の通知)

第百六十三条の四十一 組合は、補償金支払計画若しくはその変更(権利消滅期日に係るものに限る。以下この条において同じ。)の認可を受けたとき、又は第百六十三条の三十八の国土交通省令で定める軽微な変更をしたときは、遅滞なく、国土交通省令で定めるところにより、除却マンションの所在地の登記所に、権利消滅期日その他国土交通省令で定める事項を通知しなければならない。

(権利消滅期日における権利の帰属等)

第百六十三条の四十二 権利消滅期日において、除却マンションは、組合に帰属し、区分所有法第一条に規定する建物の各部分を所有権の目的としない建物となり、除却マンションを目的とする所有権並びに借家権及び使用貸借による権利以外の権利は、消滅する。

(権利消滅の登記)

第百六十三条の四十三 組合は、権利消滅期日後遅滞なく、除却マンションに関する権利について必要な登記を申請しなければならない。

2 権利消滅期日以後においては、除却マンションに関しては、前項の登記がされるまでの間は、他の登記をすることができない。

(補償金)

第百六十三条の四十四 組合は、除却マンションに関する権利(組合員の有する区分所有権を除く。)を有する者で、この法律の規定により、権利消滅期日において当該権利を失うものに對し、その補償として、権利消滅期日までに、第百六十三条の三十五第一項第三号の価額(除却マンションを占有している者にあつては、当該価額と同項第四号の額の合計額)に第百六十三条の十三第一項の公告の日

から第百六十三条の四十第一項の規定による補償金支払計画又はその変更に係る(公告(以下「補償金支払計画公告」という。))の日までの物価の変動に應ずる修正率を乗じて得た額に、当該補償金支払計画公告の日から補償金を支払う日までの期間につき補償金支払計画で定めるところによる利息を付したものを支払わなければならない。この場合において、その修正率は、国土交通省令で定める方法によって算定するものとする。

(補償金の供託等についての規定の準用)

第百六十三条の四十五 第七十六条の規定は前条に規定する補償金(利息を含む。以下この款(次条第一項第四号を除く。))において同じ。)の支払に代えて行う供託について、第七十七条の規定は供託された補償金について、第七十八条の規定は補償金の支払の対象となる権利について差押え又は仮差押えがある場合について、それぞれ準用する。この場合において、第七十六条第一項中「施行者」とあるのは「第百六十三条の二に規定する組合(以下単に「組合」という。))は」と、同項第三号及び第四号、同条第二項、第三項及び第五項並びに第七十八条第一項及び第五項中「施行者」とあるのは「組合」と、第七十六条第二項中「第五十八条第二項」とあるのは「第百六十三条の三十五第二項」と、「権利変換計画」とあるのは「補償金支払計画」と、同条第四項中「再生前マンション又は再建敷地」とあるのは「除却マンション」と、第七十八条第一項中「第七十五条」とあるのは「第百六十三条の四十四」と、「権利変換期日」とあるのは「権利消滅期日」と読み替えるものとする。

第四目 除却マンション等の明渡し

し

第百六十三条の四十六 除却マンションを占有している者(除却マンションの借家権を有す

る者及び使用貸借による権利を有する者を除く。)は、権利消滅期日(区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第六項(第百六十三条の十四第三項において準用する場合を含む。))の規定により、裁判所から建物の明渡しにつき相当の期限を許与された区分所有者にあつては、当該期限の日までに、組合に除却マンションを明け渡さなければならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。

一 補償金支払計画公告の日の翌日から起算して三十日を経過していない場合

二 第百六十三条の四十四の補償金の支払を受けるべき者について同条の規定による支払又は前条において準用する第七十六条の規定による供託がない場合

三 第百六十三条の十四第一項又は区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第五項の規定による請求を受けた者について当該請求を行った者による代金の支払又は提供がない場合

四 次に掲げる規定に規定する補償金の提供を受けるべき者について当該規定による提供がない場合

イ 第百六十三条の十五第三項又は第百六十三条の十七第二項において準用する区分所有法第六十四条の二第三項

ロ 区分所有法第六十四条の八第三項において準用する次に掲げる規定

(1) 区分所有法第六十四条の二第三項

(2) 区分所有法第六十四条の四において準用する区分所有法第六十四条の二第二項

三項

2 組合は、権利消滅期日後マンション除却事業に係る工事のため必要があるときは、除却マンションの敷地を占有している者に対し、期限を定めて、その明渡しを求めることができる。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3 前項の規定による明渡しの期限は、同項の請求をした日の翌日から起算して三十日を経過した後の日でなければならない。</p> <p>4 第二項の規定による明渡しの請求があつた者は、明渡しの際限までに、組合に明け渡さなければならない。ただし、第百六十三条の十四第一項又は区分所有法第六十四条の八第三項において準用する区分所有法第六十三条第五項の規定による請求を受けた者について当該請求を行った者による代金の支払又は提供がないときは、この限りでない。</p> <p>第二款 区分所有者等の居住の安定の確保に関する組合等の責務</p> <p>第百六十三条の四十七 組合は、基本方針に従つて、除却マンションに居住していた区分所有者及び借家権者の居住の安定の確保に努めなければならない。</p> <p>2 国及び地方公共団体は、基本方針に従つて、除却マンションに居住していた区分所有者及び借家権者の居住の安定の確保を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。</p> <p>第三款 雑則</p> <p>(処分、手続等の効力)</p> <p>第百六十三条の四十八 除却マンションについて権利を有する者の変更があつたときは、この法律又はこの法律に基づく定款の規定により従前のこの者がした手続その他の行為は、新たにこの者となつた者がしたものとみなし、従前のこの者に対してした処分、手続その他の行為は、新たにこの者となつた者に対してしたものとみなす。</p> <p>(不動産登記法の特例)</p> <p>第百六十三条の四十九 除却マンションの登記については、政令で、不動産登記法の特例を定めることができる。</p> | <p>(関係簿書の備付け)</p> <p>第百六十三条の五十 組合は、国土交通省令で定めるところにより、マンション除却事業に関する簿書(組合員名簿を含む。次項において同じ。)をその事務所に備え付けておかなければならない。</p> <p>2 利害関係者から前項の簿書の閲覧の請求があつたときは、組合は、正当な理由がない限り、これを拒んではならない。</p> <p>(書類の送付に代わる公告)</p> <p>第百六十三条の五十一 組合は、マンション除却事業の実施に関し書類を送付する場合において、送付を受けるべき者がその書類の受領を拒んだとき、又は過失がなくて、その者の住所、居所その他書類を送付すべき場所を確知することができないときは、政令で定めるところにより、その書類の内容を公告することをもつて書類の送付に代えることができる。</p> <p>2 前項の公告があつたときは、その公告の日の翌日から起算して十日を経過した日に当該書類が送付を受けるべき者に到達したものとみなす。</p> <p>第三節 マンション除却事業の監督等</p> <p>(組合に対する報告、勧告等)</p> <p>第百六十三条の五十二 都道府県知事等は、組合に対し、その実施するマンション除却事業に関し、この法律の施行のため必要の限度において、報告若しくは資料の提出を求め、又はその実施するマンション除却事業の円滑な実施を図るため必要な勧告、助言若しくは援助をすることができる。</p> <p>2 都道府県知事等は、組合に対し、マンション除却事業の促進を図るため必要な措置を命ずることができる。</p> <p>3 都道府県知事等は、第一項の規定による援助をするため必要があるときは、支援法人に必要な協力を要請することができる。</p> | <p>(組合に対する監督)</p> <p>第百六十三条の五十三 都道府県知事等は、組合の実施するマンション除却事業につき、その事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、資金計画若しくは補償金支払計画に違反すると認めるときその他監督上必要があるときは、その組合の事業又は会計の状況を検査することができる。</p> <p>2 都道府県知事等は、組合の組合員が総組合員の十分の一以上の同意を得て、その組合の事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、資金計画若しくは補償金支払計画に違反する疑いがあることを理由として組合の事業又は会計の状況の検査を請求したときは、その組合の事業又は会計の状況を検査しなければならない。</p> <p>3 都道府県知事等は、前二項の規定により検査を行った場合において、組合の事業又は会計がこの法律若しくはこれに基づく行政庁の処分又は定款、資金計画若しくは補償金支払計画に違反していると認めるときは、組合に対し、その違反を是正するため必要の限度において、組合のした処分の取消し、変更又は停止その他必要な措置を命ずることができる。</p> <p>4 都道府県知事等は、組合が前項の規定による命令に従わないとき、又は組合の設立についての認可を受けた者がその認可の公告があつた日から起算して三十日を経過してもなお総会を招集しないときは、権利消滅期日前に限り、その組合についての設立の認可を取り消すことができる。</p> <p>5 都道府県知事等は、第百六十三条の二十二において準用する第二十八条第三項の規定により組合員から総会の招集の請求があつた場合において、理事長及び監事が総会を招集しないとき、これらの組合員の申出に基づき、総会を招集しなければならない。第百六十三条の二十四第四項において準用する第二十八条第三項の規定により総代から総代会の招集の請求があつた場合において、理事長及び監事が総代会を招集しないときも、同様とする。</p> | <p>6 都道府県知事等は、第百六十三条の十九第三項において準用する第二十三条第一項の規定により組合員から理事又は監事の解任の請求があつた場合において、組合がこれを組合員の投票に付さないときは、これらの組合員の申出に基づき、これを組合員の投票に付さなければならない。第百六十三条の二十五第三項において準用する第二十三条第一項の規定により、組合員から総代の解任の請求があつた場合において、組合がこれを組合員の投票に付さないときも、同様とする。</p> <p>7 都道府県知事等は、組合の組合員が総組合員の十分の一以上の同意を得て、総会若しくは総代会の招集手続若しくは議決の方法又は役員若しくは総代の選挙若しくは解任の投票の方法が、この法律又は定款に違反することを理由として、その議決、選挙、当選又は解任の投票の取消しを請求した場合において、その違反の事実があると認めるときは、その議決、選挙、当選又は解任の投票を取り消すことができる。</p> <p>(資金の融通等)</p> <p>第百六十三条の五十四 国及び地方公共団体は、組合に対し、マンション除却事業に必要な資金の融通又はあつせんその他の援助に努めるものとする。</p> <p>(技術的援助の請求)</p> <p>第百六十三条の五十五 組合又は組合を設立しようとする者は、国土交通大臣及び都道府県</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

知事等に対し、マンション除却事業の実施の準備又は実施のために、マンション除却事業に関し専門的知識を有する職員の技術的援助を求めることができる。

2 都道府県知事等は、前項の規定による技術的援助を行うために必要があると認めるときは、セクターに必要な協力を要請することができる。

第四章の二 除却等をする必要のあるマンションに係る特別の措置

第一節 除却等の必要性に係る認定等  
(除却等の必要性に係る認定)  
第百六十三条の五十六 マンションの管理者等

(区分所有法第二十五条第一項の規定により選任された管理者(管理者がないときは、区分所有法第三十四条の規定による集会において指定された区分所有者)又は区分所有法第四十九条第一項の規定により置かれた理事をいう。第百六十三条の六十において同じ。)

は、国土交通省令で定めるところにより、特定行政庁に対し、当該マンションの除却又は当該マンションの構造上主要な部分の効用の維持若しくは回復(通常有すべき効用の確保を含む。)をするものとして国土交通省令で定める工事(以下「除却等」という。)をする必要がある旨の認定(以下「要除却等認定」という。)を申請することができる。

2 特定行政庁は、前項の規定による申請があった場合において、当該申請に係るマンションが次の各号のいずれかに該当するとき

は、その旨の認定をするものとする。  
一 当該申請に係るマンションが地震に対する安全性に係る建築基準法又はこれに基づく命令若しくは条例の規定に準ずるものとして国土交通大臣が定める基準に適合していないと認められるとき。

二 当該申請に係るマンションが火災に対する安全性に係る建築基準法又はこれに基づく命令若しくは条例の規定に準ずるものとして国土交通大臣が定める基準に適合していないと認められるとき。

三 当該申請に係るマンションが外壁、外装材その他これらに類する建物の部分が剥離し、落下することにより周辺に危害を生ずるおそれがあるものとして国土交通大臣が定める基準に該当すると認められるとき。

四 当該申請に係るマンションが給水、排水その他の配管設備(その改修に関する工事を行うことが著しく困難なものとして国土交通省令で定めるものに限る。)の損傷、腐食その他の劣化により著しく衛生上有害となるおそれがあるものとして国土交通大臣が定める基準に該当すると認められるとき。

五 当該申請に係るマンションが高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(平成十八年法律第九十一号)第十四条第五項に規定する建築物移動等円滑化基準に準ずるものとして国土交通大臣が定める基準に適合していないと認められるとき。

3 要除却等認定をした特定行政庁は、速やかに、国土交通省令で定めるところにより、都道府県知事等(当該特定行政庁である都道府県知事等を除く。)にその旨を通知しなければならない。

(要除却等認定マンションの区分所有者の除却等の努力)  
第百六十三条の五十七 要除却等認定を受けたマンション(以下「要除却等認定マンション」という。)の区分所有者は、当該要除却等認定マンションについて除却等を行うよう努めなければならない。

(要除却等認定マンションの除却等に係る指導及び助言並びに指示等)  
第百六十三条の五十八 都道府県知事等は、要除却等認定マンションの区分所有者に対し、要除却等認定マンションの除却等について必要な指導及び助言をすることができる。

2 都道府県知事等は、要除却等認定マンションの除却等がされていないと認めるときは、要除却等認定マンションの区分所有者に対し、必要な指示をすることができる。

3 都道府県知事等は、前項の規定による指示を受けた要除却等認定マンションの区分所有者が、正当な理由がなく、その指示に従わなかったときは、その旨を公表することができる。  
(容積率等の特例)  
第百六十三条の五十九 その敷地面積が政令で定める規模以上であるマンションのうち、要除却等認定マンションに係るマンションの建替えにより新たに建築されるマンション又は要除却等認定マンションに係るマンションの更新がされるマンションで、特定行政庁が交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がなく、かつ、その建蔽率(建築面積の敷地面積に対する割合をいう。)、容積率(延べ面積の敷地面積に対する割合をいう。以下この項において同じ。)及び各部分の高さについて総合的な配慮がなされていることにより市街地の環境の整備改善に資すると認めて許可したものの容積率又は各部分の高さは、その許可の範囲内において、建築基準法第五十二条第一項から第九項まで、第五十五条第一項、第五十六条又は第五十七条の二第六項の規定による限度を超えるものとすることができる。

2 建築基準法第四十四条第二項、第九十二条の二、第九十三条第一項及び第二項、第九十四条並びに第九十五条の規定は、前項の規定

による許可について準用する。  
(独立行政法人都市再生機構の行う調査等業務)  
第百六十三条の六十 独立行政法人都市再生機構は、独立行政法人都市再生機構法(平成十五年法律第百号)第十一条第一項に規定する業務のほか、要除却等認定を申請しようとする者又は要除却等認定マンションの管理者等からの委託に基づき、マンションの建替え、マンションの更新、マンション敷地売却、マンション除却敷地売却、マンションの除却又は敷地分割を行うために必要な調査、調整及び技術の提供の業務を行うことができる。

(独立行政法人住宅金融支援機構の行う要除却等認定マンションの除却等資金の融資)  
第百六十三条の六十一 独立行政法人住宅金融支援機構は、独立行政法人住宅金融支援機構法(平成十七年法律第八十二号)第十三条第一項に規定する業務のほか、要除却等認定マンションの除却等に必要な資金を貸し付けることができる。

第二節 敷地分割決議等  
(団地建物所有者集会の特例)  
第百六十三条の六十二 要除却等認定を受けた場合においては、団地内建物を構成する要除却等認定マンションの敷地(当該要除却等認定マンションの敷地利用権が借地権であるときは、その借地権)の共有者である当該団地内建物の団地建物所有者(以下「特定団地建物所有者」という。)は、この法律及び区分所有法の定めるところにより、団地建物所有者集会(区分所有法第六十六条において準用する区分所有法第三十四条の規定による集会であつて、当該特定団地建物所有者で構成される区分所有法第六十五条に規定する団体又は区分所有法第六十六条において読み替えて準用する区分所有法第四十七条第二項に規定す

る団地管理組合法人に係るものをいう。以下同じ。を開くことができる。

(敷地分割決議)

第百六十三条の六十三 要除却等認定を受けた場合においては、団地建物所有者集会において、特定団地建物所有者(議決権を有しないものを除く。)及び議決権の各四分の三以上の多数で、当該特定団地建物所有者の共有に属する団地内建物の敷地又はその借地権を分割する旨の決議(以下「敷地分割決議」という。)をすることができる。

2 団地内建物を構成するマンションが、被災区分所有法第二条の政令で定める災害により大規模一部滅失(被災区分所有法第一条に規定する大規模一部滅失をいう。)をし、かつ、要除却等認定を受けた場合において、当該マンションの除却の実施のために敷地分割決議をしようとするときは、当該政令で定める期間に限り、前項の規定の適用については、同項中「四分の三」とあるのは、三分の二とする。

3 第一項の団地建物所有者集会における各特定団地建物所有者の議決権は、区分所有法第三十六條において準用する区分所有法第三十八條の規定にかかわらず、区分所有法第三十六條において準用する区分所有法第三十條第一項の規約に別段の定めがある場合であつても、当該団地内建物の敷地又はその借地権の共有持分の割合によるものとする。

4 敷地分割決議においては、次に掲げる事項を定めなければならない。

一 除却マンション敷地(敷地分割後の要除却等認定マンション(敷地分割決議に係るものに限る。))の存する敷地をいう。以下同じ。となるべき土地の区域及び非除却マンション敷地(敷地分割後の除却マンション敷地以外の敷地をいう。以下同じ。))となる

べき土地の区域

二 敷地分割後の土地又はその借地権の帰属に関する事項

三 敷地分割後の団地共用部分の共有持分の帰属に関する事項

四 敷地分割に要する費用の概算額

五 前号に規定する費用の分担に関する事項

六 団地内の駐車場、集会所その他の生活に必要な共同利用施設の敷地分割後の管理及び使用に関する事項

5 前項各号(第四号を除く。)に掲げる事項は、各特定団地建物所有者の衡平を害しないように定めなければならない。

6 第一項に規定する決議事項を会議の目的とする団地建物所有者集会を招集するときは、区分所有法第六十六條において準用する区分所有法第三十五條第一項の通知は、同項の規定にかかわらず、当該団地建物所有者集会の会日より少なくとも二月前に発しなければならない。

7 前項に規定する場合において、区分所有法第六十六條において準用する区分所有法第三十五條第一項の通知をするときは、会議の目的たる事項及び議案の要領のほか、次に掲げる事項をも通知しなければならない。

一 要除却等認定マンションの除却の実施のために敷地分割を必要とする理由

二 敷地分割後の当該要除却等認定マンションの除却の実施方法

三 マンションの再生等その他の団地内建物における良好な居住環境を確保するための措置に関する中長期的な計画が定められているときは、当該計画の概要

8 第六項の団地建物所有者集会を招集した者は、当該団地建物所有者集会の会日より少なくとも一月前までに、当該招集の際に通知すべき事項について特定団地建物所有者に対し

説明を行うための説明会を開催しなければならない。

9 区分所有法第三十五條及び第三十六條の規定は、前項の説明会の開催について準用する。この場合において、区分所有法第三十五條第一項中「区分所有者」とあるのは「特定団地建物所有者(マンションの再生等の円滑化に関する法律第六十三條の六十二に規定する特定団地建物所有者をいう。以下同じ。)」と、同条第二項及び第三項中「専有部分」とあるのは「建物又は専有部分」と、同条第二項中「第四十條」とあるのは「区分所有法第六十六條において準用する区分所有法第四十條」と、同条第三項及び第四項並びに区分所有法第三十六條中「区分所有者」とあるのは「特定団地建物所有者」と、同項中「建物内」とあるのは「団地内」と読み替えるものとする。

10 敷地分割決議をした団地建物所有者集会の議事録には、その決議についての各特定団地建物所有者の賛否をも記載し、又は記録しなければならない。

11 敷地分割決議に賛成した各特定団地建物所有者(その承継人を含む。)は、敷地分割決議の内容により敷地分割を行う旨の合意をしたものとみなす。

第百六十八條第一項中「第百十五條の第四十項」を「第百六十三條の六十三第十一項」に改め、同条第二項を次のように改める。

2 前項の規定による認可を申請しようとする敷地分割合意者は、次条から第百六十八條の五までの規定により、集会を開き、当該集会において、敷地分割合意者の過半数の者であつて第百六十三條の六十三第三項の議決権の過半数を有するものが出席し、出席した敷地分割合意者及びその議決権の各四分の三以上の多数で、組合を設立する旨の決議をしなければならない。

第百六十八條の次に次の四條を加える。

(集会の招集)

第百六十八條の二 敷地分割合意者の五分の一以上の者であつて議決権(第百六十三條の六十三第三項の議決権をいう。第百六十八條の四において同じ。)の五分の一以上を有するものは、集会を招集することができる。

2 集会を招集するには、少なくとも会議を開く日の五日前までに、会議の日時、場所及び目的である事項を敷地分割合意者に通知しなければならない。ただし、緊急を要するときは、二日前までにこれらの事項を敷地分割合意者に通知して、集会を招集することができる。

(招集手続の省略)

第百六十八條の三 集会は、敷地分割合意者全員の同意があるときは、招集の手続を経ないで開くことができる。

(議決権の行使の方法等)

第百六十八條の四 集会に出席しない敷地分割合意者は、書面又は代理人をもつて、議決権を行使することができる。

2 集会に出席しない敷地分割合意者は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、前項の規定による書面をもつてする議決権の行使に代えて、電磁的方法により議決権を行使することができる。

3 前二項の規定により議決権を行使する者は、第百六十八條第二項の規定の適用については、出席者とみなす。

4 代理人は、同時に五人以上の敷地分割合意者を代理することができない。

5 代理人は、代理権を証する書面を集会を招集した者に提出しなければならない。

6 前項の場合において、代理人は、国土交通省令で定めるところにより、集会を招集した者の承諾を得て、当該書面の提出に代えて、

当該書面において証すべき事項を電磁的方法により提供することができる。この場合において、当該代理人は、当該書面を提出したものとみなす。

(集会の決議の効力)

第百六十八条の五 第百六十八条第二項の規定による集会の決議は、敷地分割合意者の特定承継人及び集会の決議後に敷地分割合意者となった者に対しても、その効力を生ずる。

第百七十条第四項中「マンションの建替え等の円滑化に関する法律第九条第一項」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律第四条の第二項」に改める。

第百七十一条中第七号を第八号とし、第四号から第六号までを一号ずつ繰り下げ、同条第三号中「特定要除却認定マンション」を「要除却等認定マンション」に改め、同号を同条第四号とし、同条中第二号を第三号とし、第一号の次に次の一号を加える。

二 敷地分割決議が、当該敷地分割決議の要件を満たしてされたものであること。

第百七十四条第三項中「建替え合意者等」を「再生合意者」に、「施行マンション」を「再生前マンション」に、「有する区分所有権又は敷地利権」を「有する区分所有権又は敷地利権又は再生敷地」について組合員の有する敷地共有持分等」に、「その区分所有権又は敷地利権」を「その区分所有権若しくは敷地利権又は敷地共有持分等」に改める。

第百七十九条中「組合員の議決権及び」を「総会において、組合員の議決権の過半数を有する者であつて」に改め、「同じ」の下に「の割合の過半数を有するものが出席し、出席した組合員の議決権及びその分割実施敷地持分」を加え、「決する」を「決しなければならぬ」に改める。

第百六十六条第二項中「施行マンション」を「再生前マンション又は再生敷地」に改める。

第百一十三条に次の一項を加える。

3 都道府県知事等は、第一項の規定による援助をする必要があると認めるときは、支援法人に必要な協力を要請することができる。

第百二十八条第二項中「マンション建替組合、マンション敷地売却組合」を「マンション再生組合、マンション等売却組合、マンション除却組合」に改める。

第百二十二条中「第九条第七項」を「第九条第六項」に改め、「第九十七条第一項」の下に「及び第三項」を加える。

第百二十五条第一号中「第百六十条第一項」の下に「第百六十三条の五十二第二項」を加え、同条第二号中「第百六十一条第三項」の下に「第百六十三条の五十二第二項、第百六十三条の五十三第三項」を加え、同条第三号中「第二項又は」を「第二項、第百六十三条の五十三第一項若しくは第二項又は」に改める。

第百二十七条中「第百十四条第一項」を「第百八条第一項」に改める。

第百二十九条第一号中「マンション建替組合がマンション建替事業を」を「マンション再生組合がその受けた第九条第一項又は第三十四条第一項の認可に係るマンション再生事業」に改め、同条第二号中「マンション敷地売却組合がマンション敷地売却事業を」を「マンション等売却組合がその受けた第百一十三条第一項又は第百三十四条第一項の認可に係るマンション等売却事業」に改め、同条中第十二号を第十三号とし、第十一号を第十二号とし、同条第十号中「第百五十八条第二項」の下に「第百六十三条の五十二第二項」を加え、同号を同条第十一号とし、同条第九号中「第百五十八条第一項」の下に「第百六十三条の五十一第一項」を加え、同号を同条第十号とし、同条第八号中「第百三十八条」の下に「第百六十三条の三十二」を加え、同号を同

条第九号とし、同条第七号中「第百三十八条」の下に「第百六十三条の三十一」を加え、同号を同条第八号とし、同条第六号中「第百三十七条第三項」の下に「第百六十三条の二十七第三項、第百六十三条の三十第三項」を加え、同号を同条第七号とし、同条第五号中「第百三十一条第四項」の下に「第百六十三条の二十二、第百六十三条の二十四第四項」を加え、同号を同条第六号とし、同条第四号中「第百二十六条第三項」の下に「第百六十三条の十九第三項」を加え、同号を同条第五号とし、同条中第三号を第四号とし、第二号の次に次の一号を加える。

三 マンション除却組合がマンション除却事業以外の事業を営んだとき。

第百三十条中「及び」を「第百六十三条の二十二及び」に改める。

第百三十一条の次に次の一条を加える。

第百三十一条の二 第四条の二第七項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくは同項の規定による質問に対して陳述をせず、若しくは虚偽の陳述をした者は、十万円以下の過料に処する。

第百三十二条中「第百十九条第二項」を「第百十二条第二項、第百六十三条の五十二項」に、「マンション建替組合、マンション敷地売却組合」を「マンション再生組合、マンション等売却組合、マンション除却組合」に改める。

(マンションの管理の適正化の推進に関する法律の一部改正)

第四条 マンションの管理の適正化の推進に関する法律(平成十二年法律第百四十九号)の一部を次のように改正する。

目次中第三章 管理計画の認定等(第五条の三―第五章の十二)を「第二章の二 マンション管理計画の認定等(第二章の二―第五章の十二)」に改める。

ン管理適正化支援法人(第五条の三―第五章の認定等(第五章の十三―第五章の二十二))に改める。

第五条の二第一項中「次項」を「以下この条」に改め、同条第二項中「運営」の下に「又はマンションの修繕の実施」を加え、同条に次の六項を加える。

3 都道府県知事等は、前項の規定による勧告をした場合において、必要があると認めるときは、その勧告を受けた管理組合の管理者等に対し、マンションの管理について特別の知識経験を有する者のあつせんその他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

4 都道府県知事等は、第一項又は第二項の規定の施行に必要な限度で、その保有するマンションの区分所有者等の氏名又は名称、住所その他のマンションの区分所有者等に関する情報を、その保有に当たって特定された利用の目的以外の目的のために内部で利用することができる。

5 都道府県知事等は、第一項又は第二項の規定の施行のために必要があると認めるときは、関係地方公共団体の長に対して、マンションの区分所有者等の氏名又は名称、住所その他のマンションの区分所有者等に関する情報の提供を求めることができる。

6 都道府県知事等は、第一項又は第二項の規定の施行に必要な限度において、管理組合の管理者等に対し、マンションの管理の状況について報告を求め、又はその職員に、当該マンション若しくはその敷地に立ち入り、当該マンション、その敷地、建築設備、建築材料、書類その他の物件を検査させ、若しくは関係者に質問させることができる。ただし、当該マンションの人の居住の用に供する専有部分に立ち入る場合においては、あらかじめ

め、当該専有部分に居住している者の承諾を得なければならぬ。

7 前項の規定により立入検査を行う職員は、その身分を示す証明書を携帯し、かつ、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。

8 第六項に規定する権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

第五條の十二第一項中「第五條の四」を「第五條の十四」に、「第五條の六第一項」を「第五條の十六第一項」に改め、第三章中同條を第五條の二十二とする。

第五條の十一第二項中「第五條の十一第一項」を「第五條の二十一第一項」に改め、同條を第五條の二十一とする。

第五條の十第一項中「第五條の四の認定」第五條の七第一項を「第五條の十四の認定」第五條の十七第一項に改め、同項第三号中「第五條の四」を「第五條の十四」に、「第五條の六第一項」を「第五條の十六第一項」に改め、同條第二項中「第五條の四」を「第五條の十四」に改め、同條を第五條の二十とし、第五條の九を第五條の十九とする。

第五條の八中「第五條の四」を「第五條の十四」に、「第五條の十」を「第五條の二十一」に改め、同條を第五條の十八とする。

第五條の七第一項中「第五條の四」を「第五條の十四」に改め、同條第二項中「第五條の四及び第五條の五」を「第五條の十四及び第五條の十五」に改め、同條を第五條の十七とする。

第五條の六第一項中「第五條の四」を「第五條の十四」に改め、同條を第五條の十六とし、第五條の五を第五條の十五とし、第五條の四を第五條の十四とし、第五條の三を第五條の十三とする。

第二章の次に次の一章を加える。

第二章の二 マンション管理適正化支援  
法人

(マンション管理適正化支援法人の登録)

第五條の三 都道府県知事等は、一般社団法人又は一般財団法人、特定非営利活動促進法(平成十年法律第七号)第二条第二項に規定する特定非営利活動法人その他国土交通省令で定める法人であつて、次条各号に掲げる業務(以下「管理支援業務」という。)に関し次に掲げる基準に適合すると認められるものを、その申請により、マンション管理適正化支援法人(以下「支援法人」という。)として登録することができる。

一 職員、業務の方法その他の事項についての管理支援業務の実施に関する計画が適正なものであり、かつ、その計画を確実に遂行するに足りる経理的及び技術的な基礎を有すると認められること。

二 個人に関する情報の適正な取扱いを確保するための措置その他管理支援業務を適正かつ確実に実施するために必要な措置として国土交通省令で定める措置が講じられていること。

三 前二号に定めるもののほか、管理支援業務を適正かつ確実に実施することができることと認められること。

2 都道府県知事等は、前項の申請をした者が、次の各号のいずれかに該当するときは、同項の規定による登録をしてはならない。

一 第五條の八第三項の規定により前項の規定による登録を取り消され、その取消しの日から二年を経過しない者であること。

二 その役員のうちに、この法律に規定する罪を犯して刑に処せられ、その執行を終わる、又はその執行を受けなくなった日から二年を経過しない者があること。

3 第一項の規定による登録は、支援法人登録簿に次に掲げる事項を記載してするものとする。

一 登録年月日及び登録番号

二 支援法人の名称、住所及び代表者の氏名

三 支援法人が管理支援業務を行う事務所の所在地

4 支援法人は、前項第二号又は第三号に掲げる事項を変更しようとするときは、国土交通省令で定めるところにより、その旨を都道府県知事等に届け出なければならない。

(支援法人の業務)

第五條の四 支援法人は、次に掲げる業務を行うものとする。

一 管理組合又はマンションの区分所有者等に対し、マンションの管理に関する情報の提供、相談若しくは提案又はマンションの管理に関する知識を有する者の派遣その他のマンションの管理の適正化の推進を図るために必要な援助を行うこと。

二 都道府県等がするマンション管理適正化推進計画の作成又は変更に関し、管理組合又はマンションの区分所有者等のマンションの管理に関する意向その他の事情の把握、マンション管理適正化推進計画の周知その他の協力を行うこと。

三 マンションの管理に関する調査及び研究を行うこと。

四 マンションの管理の適正化の推進に資する啓発活動及び広報活動を行うこと。

五 前各号に掲げるもののほか、マンションの管理の適正化の推進に資する業務を行うこと。

(支援法人の都道府県知事又は市町村長による援助への協力)

第五條の五 支援法人は、マンションの建替え等の円滑化に関する法律(平成十四年法律第

七十八号)第九十七条第三項、第六十条第三項又は第二百十三条第三項の規定により都道府県知事又は市町村長から協力を要請されたときは、当該要請に応じ、同法第九十七条第一項、第六十条第一項又は第二百十三条第一項に規定する援助に関し協力するものとする。

(秘密保持義務)

第五條の六 支援法人の役員若しくは職員又はこれらの職にあった者は、正当な理由なしに、第五條の四第一号又は第二号に掲げる業務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

(業務の休廃止)

第五條の七 支援法人は、管理支援業務を休止し、又は廃止したときは、国土交通省令で定めるところにより、その旨を都道府県知事等に届け出なければならない。

2 前項の規定により管理支援業務を廃止した旨の届出があつたときは、当該支援法人に係る第五條の三第一項の規定による登録は、その効力を失う。

(監督)

第五條の八 都道府県知事等は、管理支援業務の適正かつ確実な実施を確保するため必要があると認めるときは、支援法人に対し、その管理支援業務に関し報告をさせることができる。

2 都道府県知事等は、支援法人の管理支援業務の運営に関し改善が必要であると認めるときは、当該支援法人に対し、その改善に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

3 都道府県知事等は、支援法人が次の各号のいずれかに該当するときは、第五條の三第一項の規定による登録を取り消すことができる。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>一 管理支援業務を適正かつ確実に実施することができないと認められるとき。</p> <p>二 第五条の第三第二項第二号に該当するに至ったとき。</p> <p>三 第五条の第三第四項又は前条第一項の規定に違反したとき。</p> <p>四 第一項の規定による報告をせず、又は虚偽の報告をしたとき。</p> <p>五 前項の規定による命令に違反したとき。</p> <p>六 不正の手段により第五条の第三第一項の規定による登録を受けたとき。</p> <p>(公表)</p> <p>第五条の九 都道府県知事等は、次に掲げる場合には、その旨をインターネットの利用その他の方法により公表するものとする。</p> <p>一 第五条の第三第一項の規定による登録をしたとき。</p> <p>二 第五条の第三第四項の規定による届出があったとき。</p> <p>三 第五条の七第一項の規定による届出があったとき。</p> <p>四 前条第三項の規定により第五条の第三第一項の規定による登録を取り消したとき。</p> <p>(国土交通省令への委任)</p> <p>第五条の十 第五条の第三第一項の規定による登録の手続その他支援法人に関し必要な事項は、国土交通省令で定める。</p> <p>(情報の提供等)</p> <p>第五条の十一 国及び関係地方公共団体は、支援法人に対し、その業務の実施に関し必要な情報の提供又は指導若しくは助言をするものとする。</p> <p>(支援法人によるマンション管理適正化推進計画の作成等の提案)</p> <p>第五条の十二 支援法人は、都道府県等に対し、管理支援業務の実施を通じて得られた知</p> | <p>見に基づき、マンション管理適正化推進計画の作成又は変更をすることを提案することができる。この場合においては、当該提案に係るマンション管理適正化推進計画の素案を作成して、これを提示しなければならない。</p> <p>2 前項の規定による提案を受けた都道府県等は、当該提案に基づきマンション管理適正化推進計画の作成又は変更をするか否かについて、遅滞なく、当該提案をした支援法人に通知するものとする。この場合において、マンション管理適正化推進計画の作成又は変更をしないこととするときは、その理由を明らかにしなければならない。</p> <p>第九十二条の二中「平成十四年法律第七十八号」を削る。</p> <p>第一百四条の二第一項中「及び第三章」を「から第三章まで」に改める。</p> <p>第一百七条第一項第一号中「第五条の十二第二項」を「第五条の六、第五条の二十二第二項」に改める。</p> <p>第一百九条第一項第一号中「第五条の八」を「第五条の十八」に改める。</p> <p>第一百三十三条中第三号を第四号とし、第二号を第三号とし、第一号を第二号とし、同号の前に次の一号を加える。</p> <p>一 第五条の二第六項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同項の規定による検査を拒み、妨げ、若しくは忌避し、若しくは同項の規定による質問に対して陳述をせず、若しくは虚偽の陳述をした者</p> <p>第五条 マンションの管理の適正化の推進に関する法律の一部を次のように改正する。</p> <p>目次中「第五条の二」を「第五条の二の二」に、「第五条の十二」を「第五条の十二の二」に改める。</p> <p>第二章に次の一条を加える。</p> | <p>(マンション所有者不明専有部分等の管理に関する区分所有法の特例)</p> <p>第五条の二の二 都道府県知事等は、居住その他の使用がなされていないことが常態であるマンションの専有部分であつて、その区分所有者を知ることができず、又はその所在を知ることができないもの(マンションの専有部分が数人の共有に属する場合にあつては、共有者を知ることができず、又はその所在を知ることができないマンションの専有部分の共有持分。第五条の十二の二第一項において「マンション所有者不明専有部分」という。)につき、その適正な管理のため特に必要があると認めるときは、地方裁判所に対し、区分所有法第四十六条の二第一項の規定による命令の請求をすることができる。</p> <p>2 都道府県知事等は、マンションの専有部分が適正に管理されていないことにより、そのまま放置すれば、著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態その他マンションにおける居住環境の保全を図るために放置することが不適切である状態となると認められるマンションの専有部分(第五条の十二の二第一項において「マンション管理不全専有部分」という。)につき、その適正な管理のため特に必要があると認めるときは、地方裁判所に対し、区分所有法第四十六条の八第一項の規定による命令の請求をすることができる。</p> <p>3 都道府県知事等は、マンションの共用部分(区分所有法第二十四条に規定する共用部分をいう。以下この項において同じ。)が適正に管理されていないことにより、そのまま放置すれば、著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態その他マンションにおける居住環境の保全を図るために放置することが不適切</p> | <p>である状態となると認められるマンションの共用部分(第五条の十二の二第一項において「マンション管理不全共用部分」という。)につき、その適正な管理のため特に必要があると認めるときは、地方裁判所に対し、区分所有法第四十六条の十三第一項の規定による命令の請求をすることができる。</p> <p>第五条の五中「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律」に改め、「第六十条第三項」の下に、「第六十三条の五十二第三項」を、「第六十条第一項」の下に、「第六十三条の五十二第一項」を加える。</p> <p>第二章の二に次の一条を加える。</p> <p>(都道府県知事等への要請)</p> <p>第五条の十二の二 支援法人は、マンション所有者不明専有部分、マンション管理不全専有部分又はマンション管理不全共用部分につき、その適正な管理のため特に必要があると認めるときは、都道府県知事等に対し、第五条の二の二の規定による請求をするよう要請することができる。</p> <p>2 都道府県知事等は、前項の規定による要請があつた場合において、必要があると認めるときは、第五条の二の二の規定による請求をするものとする。</p> <p>3 都道府県知事等は、第一項の規定による要請があつた場合において、第五条の二の二の規定による請求をする必要がないと判断したときは、遅滞なく、その旨及びその理由を、当該要請をした支援法人に通知するものとする。</p> <p>第七十二条第一項中「除く。」の下に「又は当該管理受託契約を締結し、若しくは締結しようとする管理組合から管理者事務(当該管理組合の管理者等がマンションの管理のために当該管理組合を構成するマンションの区分所有者等を</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

代理してマンション(専有部分を除く。)を保存し、集会区分所有法第三十四条区分所有法第六十六条において準用する場合を含む。)の規定による集会をいう。)の決議を実行し、及び規約(区分所有法第三十条第一項(区分所有法第六十六条において準用する場合を含む。)の規約をいう。)で定めた行為をすることに関する事務をいう。次条において同じ。)の委託を受けることを内容とする契約(新たに建設されたマンションの分譲に通常要すると見込まれる期間その他の管理組合を構成するマンションの区分所有者等が変動することが見込まれる期間として国土交通省令で定める期間中に契約期間が満了するものを除く。以下「管理者受託契約」という。)を締結しようとするとき(次項に規定するものを除く。)を、「管理受託契約」の下に「又は管理者受託契約を加え、同条第二項中「管理受託契約」の下に「又は管理者受託契約を加える。」第七十三条第一項中「とす」の下に「契約又は当該契約を締結し、若しくは締結しようとする管理組合から管理者事務の委託を受けることを内容とする」を加え、同項第一号から第四号までの規定中「管理事務」の下に「又は管理者事務」を加える。

第七十七条第一項中「とき」の下に「(次項に規定するものを除く。)」を加え、同条第二項中「とき」の下に「又は当該マンション管理業者が当該管理組合の管理者等であるとき」を加え、同条の次に次の一条を加える。

(利益相反のおそれがある場合のマンションの区分所有者等への事前説明)

第七十七条の二 マンション管理業者(管理事務の委託を受けた管理組合の管理者等であるものに限る。)は、自己又は人的関係、資本関係その他の関係において当該マンション管理業者と密接な関係を有する者として国土交通省令で定める者との間における取引を行うと

き(管理受託契約又は管理者受託契約を締結しようとするものを除く。)は、あらかじめ、国土交通省令で定めるところにより説明会を開催し、当該管理組合を構成するマンションの区分所有者等に対し、当該取引につき重要な事実として国土交通省令で定める事項を説明しなければならない。ただし、災害その他やむを得ない事由により当該取引が速やかに行われることが必要であると認められる場合として国土交通省令で定める場合は、この限りでない。

第八十二条第二号中「第二項」の下に「第七十七条の二を加える。

第九十二条の二中「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律」に改め、「第六百六十三条第二項」の下に「第六百六十三条の五十五第二項」を、「第六百六十三条第一項」の下に「第六百六十三条の五十五第一項を加える。

第六条 マンションの管理の適正化の推進に関する法律の一部を次のように改正する。

目次中「第五条の二の二」を「第五条の三」に、「第五条の三―第五条の十二の二」を「第五条の四―第五条の十四」に、「第五条の十三―第五条の二十二」を「第五条の十五―第五条の二十八」に改める。

第五条の二十二第一項中「第五条の十四」を「第五条の十六」に、「第五条の十六第一項」を「第五条の十八第一項」に改め、同項第一号中「資金計画及び」を「資金計画」に、「状況を状況及び分譲事業者による管理組合の管理者等へのマンションの管理の適切かつ円滑な引継ぎに関する事項」に改め、第三章中同条を第五条の二十六とする。

第五条の二十一第二項中「第五条の二十一第一項」を「第五条の二十五第一項」に改め、同条を第五条の二十五とする。

第五条の二十第一項中「第五条の十四」を「第五条の十六」に改め、「(第五条の十七第一項の変更の認定を含む。以下同じ。)」を削り、同項第一号及び第二号中「認定管理者等」を「認定計画実施者」に改め、同項第三号中「認定管理者等」を「認定計画実施者」に、「第五条の十四」を「第五条の十六」に、「第五条の十六第一項」を「第五条の十八第一項」に改め、同号を同項第四号とし、同項第二号の次に次の一号を加える。

三 認定管理計画(第五条の十五第二項の規定による認定の申請に係るものに限る。以下この号において同じ。)に係るマンションの管理組合の管理者等が選任されるまでに通常必要と認められる期間として国土交通省令で定める期間内に認定管理計画に係るマンションの管理組合の管理者等が選任されないとき。

第五条の二十第二項中「第五条の十四」を「第五条の十六」に、「認定管理者等」を「認定計画実施者」に改め、同条を第五条の二十四とする。

第五条の十九中「認定管理者等」を「認定計画実施者」に改め、同条に次の一項を加える。

2 計画作成都道府県知事等は、第五条の十六の認定を受けた分譲事業者が、管理計画認定マンションに係る管理組合の管理者等が選任されたにもかかわらず、第五条の二十第一項の規定による第五条の十九第一項の変更の認定を申請していないと認めるときは、当該分譲事業者に対し、相当の期限を定めて、同項の変更の認定を申請すべきことその他の必要な措置を命ずることができる。

第五条の十九を第五条の二十三とする。

第五条の十八中「認定管理者等」第五条の十四の認定を受けた管理計画(前条第一項の変更の認定があったときは、その変更後のもの。以下「認定管理計画」という。)に係るマンション(以下「管理計画認定マンション」という。)を「第五

条の十六の認定を受けた者(管理計画認定マンション)に、「次条及び第五条の二十において同じ」を「次条第一項及び第五条の二十四において「認定計画実施者」という」に改め、同条を第五条の二十二とする。

第五条の十七第一項中「認定管理者等は、第五条の十四」を「第五条の十六の認定を受けた者は、当該に改め、同条第二項中「第五条の十四及び第五条の十五」を「第五条の十六及び第五条の十七」に、「認定」を「変更の認定」に改め、同条を第五条の十九とし、同条の次に次の二条を加える。

(管理組合の管理者等が選任された場合における認定を受けた管理計画の変更の認定の申請等)

第五条の二十 第五条の十六の認定を受けた分譲事業者は、同条の認定(前条第一項の変更の認定を含む。以下同じ。)を受けた管理計画(変更があったときは、その変更後のもの。以下「認定管理計画」という。)に係るマンション(以下「管理計画認定マンション」という。)の管理組合の管理者等が選任されたときは、当該認定管理計画に第五条の十五第三項第三号に掲げる事項その他国土交通省令で定める事項を記載し、国土交通省令で定めるところにより、速やかに、前条第一項の変更の認定を申請しなければならない。この場合において、当該分譲事業者は、当該管理者等において当該変更の認定の申請に係る認定管理計画に基づく管理計画認定マンションの管理を行うことについて、当該管理者等の同意を得なければならない。

2 前項の規定による前条第一項の変更の認定があったときは、当該管理計画認定マンションの管理組合の管理者等は、第五条の十六の認定を受けた者とみなす。

3 第一項の規定による前条第一項の変更の認定の申請があつた場合における同条第二項において準用する第五条の十六の規定の適用については、同条中「次に掲げる基準」とあるのは「次に掲げる基準(第四号に掲げる基準を除く。)」と、同条第三号中「前条第一項の規定による」とあるのは「第五条の二十第一項の規定による第五条の十九第一項の変更の」とする。

(管理計画認定マンションの表示等)

第五条の二十一 管理計画認定マンションに係るマンションの区分所有者等又は第五条の十六の認定を受けた者は、管理計画認定マンション、その敷地又はその利用に関する広告その他の国土交通省令で定めるもの(次項において「広告等」という。)に、国土交通省令で定めるところにより、当該管理計画認定マンションが同条の認定を受けている旨の表示を付することができる。

2 何人も、前項の規定による場合を除くほか、マンション、その敷地又はその利用に関する広告等に、同項の表示又はこれと紛らわしい表示を付してはならない。

第五条の十六第一項中「第五条の十四」を「第五条の十六」に改め、同条を第五条の十八とする。

第五条の十五中「(以下「認定管理者等」という。))を削り、同条を第五条の十七とする。

第五条の十四中「前条第一項」の下に「又は第二項」を加え、同条第三号中「管理組合」を「前条第一項の規定による認定の申請に係る管理計画にあつては、管理組合」に改め、同条中第四号を第五号とし、第三号の次に次の一号を加える。

四 前条第二項の規定による認定の申請に係る管理計画にあつては、分譲事業者による

管理組合の管理者等へのマンションの管理の引継ぎが適切かつ円滑に行われる見込みが確実であること。

第五条の十四を第五条の十六とする。

第五条の十三第二項第三号中「当該」を「管理組合の管理者等が作成する管理計画にあつては、当該」に改め、同項中第四号を第五号とし、第三号の次に次の一号を加える。

四 分譲事業者が作成する管理計画にあつては、当該マンションの管理組合の管理者等へのマンションの管理の適切かつ円滑な引継ぎに関する事項

第五条の十三中第二項を第三項とし、第一項の次に次の一項を加える。

2 建物を分譲してマンションとし、当該マンションの管理組合において当該マンションの管理を行うおとする場合における当該分譲をしようとする者(以下「分譲事業者」という。))は、国土交通省令で定めるところにより、管理計画を作成し、計画作成都道府県知事等の認定を申請することができる。

第五条の十三を第五条の十五とする。

第五条の十二の二中「第五条の二の二」を「第五条の三」に改め、第二章の二中同条を第五条の十四とし、第五条の十二を第五条の十三とし、第五条の十一を第五条の十二とする。

第五条の十中「第五条の三第一項」を「第五条の四第一項」に改め、同条を第五条の十一とする。

第五条の九第一号中「第五条の三第一項」を「第五条の四第一項」に改め、同条第二号中「第五条の三第四項」を「第五条の四第四項」に改め、同条第三号中「第五条の七第一項」を「第五条の八第一項」に改め、同条第四号中「第五条の三第一項」を「第五条の四第一項」に改め、同条を第五条の十とする。

第五条の八第三項中「第五条の三第一項」を

「第五条の四第一項」に改め、同項第二号中「第五条の三第二項第二号」を「第五条の四第二項第二号」に改め、同項第三号中「第五条の三第四項」を「第五条の四第四項」に改め、同項第六号中「第五条の三第一項」を「第五条の四第一項」に改め、同条を第五条の九とする。

第五条の七第二項中「第五条の三第一項」を「第五条の四第一項」に改め、同条を第五条の八とする。

第五条の六中「第五条の四第一項」を「第五条の五第一項」に改め、同条を第五条の七とし、第五条の五を第五条の六とし、第五条の四を第五条の五とする。

第五条の三第二項第一号中「第五条の八第三項」を「第五条の九第三項」に改め、同条を第五条の四とする。

第五条の二の二中「第五条の十二の二第一項」を「第五条の十四第一項」に改め、第二章中同条を第五条の三とする。

第七十二条第三項ただし書中「認定管理者等」を「第五条の十六の認定を受けた管理組合の管理者等」に、「認定管理者等」を「管理者等」に改める。

第一百七条第一項第一号中「第五条の六、第五条の二十二第二項」を「第五条の七、第五条の二十六第二項」に改める。

第一百九条第二項中「第十一号を第十二号とし、第二号から第十号までを一号ずつ繰り下げ、同項第一号中「第五条の十八」を「第五条の二十二」に改め、同号を同項第二号とし、同号の前に次の一号を加える。

一 第五条の二十一第二項の規定に違反して、表示を付したとき。

第一百九条第二項中「前項第八号」を「前項第九号」に改める。

第一百十一条中「第二号、第三号及び第八号」を「第三号、第四号及び第九号」に改める。

(独立行政法人住宅金融支援機構法の一部改正) 第七条 独立行政法人住宅金融支援機構法平成十七年法律第八十二号の一部を次のように改正する。

第十三条第一項第十二号を同項第十三号とし、同項第十一号中「第八号」を「第九号」に改め、同号を同項第十二号とし、同項中第十号を第十一号とし、第九号を第十号とし、第八号を第九号とし、第七号の次に次の一号を加える。

八 マンションの更新(マンションの再生等の円滑化に関する法律(平成十四年法律第七十八号)第二条第一項第三号に規定するマンションの更新をいう。以下この号において同じ。))又はマンションの更新がされた後のマンションで当該マンションの更新がされた後に人の居住の用その他その本来の用途に供したことのないものの購入に必要な資金(当該マンションの更新又はマンションの更新がされた後のマンションの購入に付随する行為で政令で定めるものに必要資金を含む。))の貸付けを行うこと。

第十三条第二項中第十号を第十一号とし、第六号から第九号までを一号ずつ繰り下げ、第五号の次に次の一号を加える。

六 マンションの再生等の円滑化に関する法律(第六十三号)の六十一の規定による貸付けを行うこと。

第十四条中「第十号」を「第十一号」に改める。

第十七条第二号中「同項第七号」を「同項第八号」に改め、同条第三号中「第十三条第二項第八号」を「第十三条第二項第九号」に改める。

第十九条第一項中「第十二号」を「第十三号」に、「第八号」を「第九号」に改め、同条第三項及び第六項中「第十三条第二項第八号」を「第十三条第二項第九号」に改める。

第二十二條中「第十号」を「第十一号」に、「若しくは第六号」を「から第七号まで」に改める。

第二十八条中「第十三条第二項第八号」を「第十三条第二項第九号」に改める。

附則第七条第六項中「第八号」を「第九号」に、「第六号」を「第七号まで」に改める。

附 則

(施行期日)

第一条 この法律は、令和八年四月一日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

一 附則第十八条の規定 公布の日

二 第三条の規定(マンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律の目次の改正規定(第四条を「第四条の二」に改める部分に限る。))、同法第四条第二項第九号の次に一号を加える改正規定、同法第一章に一号を加える改正規定、同法第九条第一項の改正規定(都道府県知事(市の区域内にあつては、当該市の長。以下「都道府県知事等」という。))を「都道府県知事等」に改める部分に限る。))、同法第十一条第四項の改正規定、同法第九十七条に一号を加える改正規定、同法第六十条に一号を加える改正規定、同法第七十条第四項の改正規定、同法第二百一十三条に一号を加える改正規定、同法第二百一十二条の改正規定(第九十七条第一項の下に「及び第三項」を加える部分に限る。))及び同法第二百三十一条の次に一号を加える改正規定に限る。))及び第四条の規定並びに附則第四条の規定、附則第九条の規定(地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)別表第二マンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律(平成十四年法律第七十八号)の項の改正規定中「第九十七条第一項」の下に「及び第三項」を加える部分に限る。))並びに附則第十条、第十一条、第十五条及び第十六条の規定 公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

三 第六条の規定 公布の日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日

(建物の区分所有等に関する法律の一部改正に伴う経過措置)

第二条 第一条の規定による改正後の建物の区分所有等に関する法律(以下この条及び附則第五条第七項において「新区分所有法」という。))の規定は、この附則に特別の定めがある場合を除き、この法律の施行前に生じた事項にも適用する。ただし、第一条の規定による改正前の建物の区分所有等に関する法律(以下この条において「旧区分所有法」という。))の規定により生じた効力を妨げない。

2 この法律の施行の日(以下「施行日」という。))前に旧区分所有法の規定により招集の手続が開始された集会については、なお従前の例による。

3 この法律の施行の際現に効力を有する旧区分所有法の規定による規約で定められた事項で新区分所有法に抵触するものは、施行日からその効力を失う。

4 施行日前に滅失した建物については、新区分所有法第三章の規定は、適用しない。ただし、施行日以後に第二条の規定による改正後の被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法第二条の政令が施行された場合におけるその政令で定める災害により滅失した建物については、この限りでない。

(被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法の一部改正に伴う経過措置)

第三条 第二条の規定による改正後の被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法の規定は、この附則に特別の定めがある場合を除き、この法律の施行前に生じた事項にも適用する。ただし、同条の規定による改正前の被災区分所有建物の再建等に関する特別措置法(次項において「旧被災区分所有法」という。))の規定により生じた効力を妨げない。

2 施行日前に旧被災区分所有法の規定により招集の手続が開始された集会については、なお従前の例による。

(マンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律の一部改正に伴う経過措置)

第四条 附則第一条第二号に掲げる規定の施行の日(以下「第二号施行日」という。))から施行日の前日までの間における第三条の規定(同号に掲げる改正規定に限る。))による改正後のマンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律(次項において「第二号改正後円滑化法」という。))第十一条第四項及び第七十条第四項の規定の適用については、これらの規定中「マンシヨンの再生等

集の手続が開始された集会については、なお従前の例による。

の円滑化に関する法律」とあるのは、「マンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律」とする。

2 第二号施行日から附則第一条第三号に掲げる規定の施行の日(以下「第三号施行日」という。))の前日までの間における第二号改正後円滑化法第九十七条第三項の規定の適用については、同項中「第五条の四第一項」とあるのは、「第五条の三第一項」とする。

第五条 次の表の上欄に掲げる者の名称については、この法律の施行後六月間は、同表の中欄に掲げる規定は適用せず、同表の下欄に掲げる規定は、なお効力を有する。

| 施行日前に第三条の規定(附則第一条第二号に掲げる改正規定を除く。以下この項において同じ。))による改正前のマンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律(以下この条において「旧円滑化法」という。))第九条第一項の規定による認可を受けた旧円滑化法第五条第一項に規定するマンシヨン建替組合 | 第三条の規定による改正後のマンシヨンの建替え等の円滑化に関する法律(以下この条において「新円滑化法」という。))第八条第一項 | 旧円滑化法第八條第一項   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------------|
| 施行日前に旧円滑化法第二百一十二条第一項の規定による認可を受けた旧円滑化法第六十六条に規定するマンシヨン敷地売却組合                                                                                  | 新円滑化法第二百一十二条第一項                                                | 旧円滑化法第六十九條第一項 |

2 前項の表の上欄に掲げる者は、同項に規定する期間内においても、新円滑化法第三十四条第一款(新円滑化法第七條第一号又は第六十一条第一号に掲げる組合の名称に係る部分に限る。))の変更に認可を申請し、都道府県知事等(新円滑化法第四条の二第二項に規定する都道府県知事等という。))の認可を受けることができる。この場合において、当該認可を受けた日以後は、前

項の規定は、適用しない。

3 この法律の施行の際現にその名称中にマンシヨン再生組合、マンシヨン等売却組合又はマンシヨン除却組合という文字を用いている者については、新円滑化法第八條第二項、第二百一十二条第二項又は第六十三條の五第二項の規定は、この法律の施行後六月間は、適用しない。

4 次に掲げる認可の申請であつて、この法律の施行の際、認可をすることがどうかの処分がされて

いないものについての認可又は不認可の処分については、なお従前の例による。

一 施行日前にされた旧円滑化法第九条第一項又は第三十四条第一項の規定による認可の申請

二 施行日前にされた旧円滑化法第二百二十条第一項の規定による認可の申請

三 施行日前にされた旧円滑化法第六十八條第一項の規定による認可の申請  
次の各号に掲げる組合については、当該各号に定める組合とみなす。

一 施行日前に旧円滑化法第九条第一項の規定による認可（施行日以後に前項の規定によりなお従前の例によりされた認可を含む。）を受けた旧円滑化法第五條第一項に規定するマンション建替組合、新円滑化法第九条第一項の規定による認可を受けた新円滑化法第五條第一項に規定するマンション再生組合

二 施行日前に旧円滑化法第二百二十條第一項の規定による認可（施行日以後に前項の規定によりなお従前の例によりされた認可を含む。）を受けた旧円滑化法第六十六條に規定するマンション敷地売却組合、新円滑化法第二百十三條第一項の規定による認可を受けた新円滑化法第二百九條に規定するマンション等売却組合  
施行日前に旧円滑化法第二百二條第二項の規定によりされた認定は、新円滑化法第二百六十三條の五十六第二項の規定によりされた認定とみなす。

七 施行日前に旧円滑化法第八條第一項の規定によりされた同項に規定するマンション敷地売却決議は、新区分所有法第六十四條の六第一項の規定によりされた同項に規定する建物敷地売却決議とみなす。

八 施行日前に旧円滑化法第九條第一項の規定による認定を受けた同項に規定する買受計画に関する当該買受計画の変更の認定、マンションの買受け及び除却並びに同項に規定する代替建

築物の提供等の実施、報告の徴収、勧告並びに公表については、なお従前の例による。  
（マンションの管理の適正化の推進に関する法律の一部改正に伴う経過措置）

第六條 第五條の規定による改正後のマンションの管理の適正化の推進に関する法律（以下この条において「新適正化法」という。）第七十二條第一項の規定は、管理組合から管理者事務（同項に規定する管理者事務をいう。）の委託を受けることを内容とする契約で施行日から起算して一月を経過する日前に締結されるものについては、適用しない。

二 新適正化法第七十七條の規定は、管理組合から管理者事務（マンションの管理の適正化の推進に関する法律第二條第六号に規定する管理者事務をいう。）以下この項において同じ。）の委託を受けることを内容とする契約で施行日以後に締結されたものに基づき行う管理事務について適用し、当該契約で施行日前に締結されたものに基づき行う管理事務については、なお従前の例による。

三 新適正化法第七十七條の二の規定は、施行日から起算して一月を経過する日前に行われる取引については、適用しない。  
（罰則に関する経過措置）

第七條 施行日前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

（検討）  
第八條 政府は、この法律の施行後五年を目途として、この法律による改正後の建物の区分所有等に関する法律第二十六條第二項の別段の意思表示等に係る規約の設定又は変更の状況並びに同項に規定する保険金等の請求及び受領の状況等を勘案し、管理者又は区分所有者（同法第二條第二項に規定する区分所有者をいう。以下この項において同じ。）若しくは区分所有者であつた者からの相談に的確に応じることができる体制の整備その他同法の規定の適用を受けるマンション等の共用部分の補修等に係る紛争の予防及び解決のための方策について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

二 政府は、この法律の施行後五年を目途として、この法律による改正後のマンションの建替え等の円滑化に関する法律、マンションの管理の適正化の推進に関する法律及び独立行政法人住宅金融支援機構法の規定について、その施行の状況等を勘案して検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

（地方自治法の一部改正）  
第九條 地方自治法の一部を次のように改正する。

別表第二マンションの建替え等の円滑化に関する法律（平成十四年法律第七十八号）の項中「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律」に、「第九條第七項」を「第九條第六項」に改め、「第九十七條第一項」の下に「及び第三項」を加える。

（地方税法の一部改正）  
第十條 地方税法（昭和二十五年法律第二百二十六号）の一部を次のように改正する。  
附則第十五條の九の三第一項中「第五條の八」を「第五條の二十第一項」に改める。

（地方税法の一部改正に伴う経過措置）  
第十一條 第二号施行日から第三号施行日の前日までの間における前条の規定による改正後の地方税法附則第十五條の九の三第一項の規定の適用については、同項中「第五條の二十第一項」とあるのは、「第五條の十八」とする。

（建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部改正）  
第十二條 建築物の耐震改修の促進に関する法律（平成七年法律第二百二十三号）の一部を次のように改正する。

第二十五條第三項中「同項の」を「同条の」に、「区分所有者及び議決権の各四分の三以上の多数による集会の決議とあるのは」を「集会にお

いて、区分所有者（議決権を有しないものを除く。以下この項及び第三項において同じ。）の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその議決権の各四分の三（これを下回る割合（二分の一を超えない割合に限る。）を規約で定めた場合にあっては、その割合以上の多数による決議」とあり、及び同条第三項中「集会において、区分所有者の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）の者であつて議決権の過半数（これを上回る割合を規約で定めた場合にあっては、その割合以上）を有するものが出席し、出席した区分所有者及びその議決権の各四分の三（これを下回る割合（二分の一を超えない割合に限る。）を規約で定めた場合にあっては、その割合以上の多数による決議」とあるのは、「に」、「同項ただし書を「同条第五項」に改める。

（密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律の一部改正）  
第十三條 密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（平成九年法律第四十九号）の一部を次のように改正する。

第十五條第二項中「建替え決議の下に」、同法第六十四條の七第一項の規定による建物取壊し敷地売却決議又は同法第六十四條の八第一項の規定による取壊し決議を、「第六十四條の下に（同法第六十四條の七第三項及び第六十四條の八第三項において準用する場合を含む。）」を、「より建替え」の下に「、建物の取壊し及び建物の敷地（これに関する権利を含む。）の売却又は取壊し」を加える。

（独立行政法人都市再生機構法の一部改正）  
第十四條 独立行政法人都市再生機構法（平成十

五年法律第百号)の一部を次のように改正する。

第十一条第二項第四号中「マンションの建替え等の円滑化に関する法律」を「マンションの再生等の円滑化に関する法律」に、「第百五条の二」を「第百六十三条の六十」に改める。  
(長期優良住宅の普及の促進に関する法律の一部改正)

第十五条 長期優良住宅の普及の促進に関する法律(平成二十年法律第八十七号)の一部を次のように改正する。

第六条第八項中「第五条の八」を「第五条の二十第一項」に改める。  
(長期優良住宅の普及の促進に関する法律の一部改正に伴う経過措置)

第十六条 第二号施行日から第三号施行日の前日までの間における前条の規定による改正後の長期優良住宅の普及の促進に関する法律第六条第八項の規定の適用については、同項中「第五条の二十第一項」とあるのは、「第五条の十八」とする。

(所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法の一部改正)  
第十七条 所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法(平成三十年法律第四十九号)の一部を次のように改正する。  
目次及び第三章第四節の節名中「民法」の下に「及び建物の区分所有等に関する法律」を加える。

第四十二条第五項中「又は」を「若しくは」に、「の規定による命令」を「又は建物の区分所有等に関する法律(昭和三十七年法律第六十九号)第四十六条の二第一項、第四十六条の八第一項若しくは第四十六条の十三第一項の規定による命令」に改める。  
(政令への委任)

第十八条 この附則に定めるもののほか、この法

律の施行に関し必要な経過措置(罰則に関する経過措置を含む)は、政令で定める。

投票者氏名

日程第一 海洋法に関する国際連合条約に基づくいづれの国の管轄にも属さない区域における海洋の生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する協定の締結について承認を求めるの件(衆議院送付)  
日程第二 職業上の安全及び健康並びに作業環境に関する条約(第百五十五号)の締結について承認を求めるの件(衆議院送付)  
日程第三 千九百九十五年の漁船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約の締結について承認を求めるの件(衆議院送付)

賛成者氏名

阿達 雅志君 青木 一彦君  
青山 繁晴君 赤池 誠章君  
赤松 健君 浅尾慶一郎君  
朝日健太郎君 有村 治子君  
井上 義行君 生稲 晃子君  
石井 準一君 石井 浩郎君  
石井 正弘君 石田 昌宏君  
磯崎 仁彦君 猪口 邦子君  
今井絵理子君 岩本 剛人君  
上野 通子君 白井 正一君  
江島 潔君 衛藤 晟一君  
小川 克巳君 小野田紀美君  
尾辻 秀久君 越智 俊之君  
大家 敏志君 岡田 直樹君  
加田 裕之君 加藤 明良君  
梶原 大介君 片山さつき君  
神谷 政幸君 北村 経夫君  
こやり隆史君 小林 一大君  
古賀友一郎君 古庄 玄知君  
上月 良祐君 佐藤 啓君  
佐藤 信秋君 佐藤 正久君

酒井 庸行君 櫻井 充君  
山東 昭子君 清水 真人君  
自見はなこ君 白坂 亜紀君  
進藤金日子君 末松 信介君  
田中 昌史君 高橋 克法君  
高橋はるみ君 滝沢 求君  
滝波 宏文君 武見 敬三君  
柘植 芳文君 鶴保 庸介君  
堂故 茂君 友納 理緒君  
豊田 俊郎君 中曽根弘文君  
中田 宏君 中西 祐介君  
永井 学君 長峯 誠君  
西田 昌司君 野上浩太郎君  
野村 哲郎君 羽生田 俊君  
長谷川 岳君 長谷川英晴君  
馬場 成志君 橋本 聖子君  
比嘉奈津美君 藤井 一博君  
藤川 政人君 藤木 眞也君  
船橋 利実君 古川 俊治君  
星 北斗君 堀井 巖君  
本田 顕子君 舞立 昇治君  
牧野たかお君 松川 るい君  
松下 新平君 松村 祥史君  
松山 政司君 三浦 靖君  
三原じゅん子君 三宅 伸吾君  
宮崎 雅夫君 宮沢 洋一君  
宮本 周司君 森 まさこ君  
森屋 宏君 山崎 正昭君  
山下 雄平君 山田 太郎君  
山田 俊男君 山田 宏君  
山谷えり子君 山本 啓介君  
山本佐知子君 山本 順三君  
吉井 章君 吉川ゆうみ君  
和田 政宗君 若林 洋平君  
渡辺 猛之君 青木 愛君  
石垣のりこ君 石川 大我君  
石橋 通宏君 打越さく良君  
小沢 雅仁君 小沼 巧君

大椿ゆうこ君 奥村 政佳君  
鬼木 誠君 勝部 賢志君  
川田 龍平君 木戸口英司君  
岸 真紀子君 熊谷 裕人君  
小西 洋之君 古賀 千景君  
古賀 之士君 斎藤 嘉隆君  
塩村あやか君 柴 慎一君  
杉尾 秀哉君 田島麻衣子君  
田名部匡代君 高木 真理君  
徳永 エリ君 野田 国義君  
羽田 次郎君 広田 一君  
福島みずほ君 福山 哲郎君  
牧山ひろえ君 三上 えり君  
水岡 俊一君 水野 素子君  
村田 享子君 森本 真治君  
森屋 隆君 横沢 高徳君  
吉川 沙織君 秋野 公造君  
伊藤 孝江君 石川 博崇君  
河野 義博君 窪田 哲也君  
佐々木さやか君 塩田 博昭君  
塩田 博昭君 下野 六太君  
杉 久武君 高橋 次郎君  
高橋 光男君 竹内 真二君  
竹谷とし子君 谷合 正明君  
新妻 秀規君 西田 実仁君  
平木 大作君 三浦 信祐君  
宮崎 勝君 矢倉 克夫君  
安江 伸夫君 山口那津男君  
山本 博司君 横山 信一君  
若松 謙維君 青島 健太君  
浅田 均君 石井 章君  
石井 苗子君 猪瀬 直樹君  
嘉田由紀子君 片山 大介君  
金子 道仁君 串田 誠一君  
柴田 巧君 高木かおり君  
中条きよし君 藤巻 健史君  
松野 明美君 柳ヶ瀬裕文君  
山口 和之君 伊藤 孝恵君

|       |        |        |        |        |         |        |        |  |  |
|-------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--|--|
| 賛成者氏名 | 磯崎 哲史君 | 上田 清司君 | 小川 克巳君 | 小野田紀美君 | 森屋 宏君   | 山崎 正昭君 | 平木 大作君 |  |  |
|       | 川合 孝典君 | 榛葉賀津也君 | 尾辻 秀久君 | 越智 俊之君 | 山下 雄平君  | 山田 太郎君 | 宮崎 勝君  |  |  |
| 反対者氏名 | 田村 まみ君 | 竹詰 仁君  | 大家 敏志君 | 岡田 直樹君 | 山田 俊男君  | 山田 宏君  | 安江 伸夫君 |  |  |
|       | 堂込麻紀子君 | 芳賀 道也君 | 加田 裕之君 | 加藤 明良君 | 山谷えり子君  | 山本 啓介君 | 山本 博司君 |  |  |
| 賛成者氏名 | 浜口 誠君  | 浜野 喜史君 | 梶原 大介君 | 片山さつき君 | 山本佐知子君  | 山本 順三君 | 若松 謙維君 |  |  |
|       | 舟山 康江君 | 井上 哲士君 | 神谷 政幸君 | 北村 経夫君 | 吉井 章君   | 吉川ゆうみ君 | 浅田 均君  |  |  |
| 賛成者氏名 | 伊藤 岳君  | 岩渕 友君  | こやり隆史君 | 小林 一大君 | 和田 政宗君  | 若林 洋平君 | 石井 苗子君 |  |  |
|       | 紙 智子君  | 吉良よし子君 | 古賀友一郎君 | 古庄 玄知君 | 渡辺 猛之君  | 青木 愛君  | 嘉田由紀子君 |  |  |
| 賛成者氏名 | 倉林 明子君 | 小池 晃君  | 上月 良祐君 | 佐藤 啓君  | 石垣のりこ君  | 石川 大我君 | 金子 道仁君 |  |  |
|       | 大門実紀史君 | 仁比 聡平君 | 佐藤 信秋君 | 佐藤 正久君 | 石橋 通宏君  | 打越さく良君 | 柴田 巧君  |  |  |
| 賛成者氏名 | 山下 芳生君 | 山添 拓君  | 酒井 庸行君 | 櫻井 充君  | 小沢 雅仁君  | 小沼 巧君  | 中条きよし君 |  |  |
|       | 大島九州男君 | 木村 英子君 | 山東 昭子君 | 清水 真人君 | 大椿ゆうこ君  | 奥村 政佳君 | 松沢 成文君 |  |  |
| 賛成者氏名 | 天島 大輔君 | 船後 靖彦君 | 自見はなこ君 | 白坂 亜紀君 | 鬼木 誠君   | 勝部 賢志君 | 柳ヶ瀬裕文君 |  |  |
|       | 山本 太郎君 | 伊波 洋一君 | 進藤金日子君 | 末松 信介君 | 川田 龍平君  | 木戸口英司君 | 伊藤 孝恵君 |  |  |
| 賛成者氏名 | 高良 鉄美君 | 齊藤健一郎君 | 田中 昌史君 | 高橋 克法君 | 岸 真紀子君  | 熊谷 裕人君 | 上田 清司君 |  |  |
|       | 浜田 聡君  | 梅村みずほ君 | 高橋はるみ君 | 滝沢 求君  | 小西 洋之君  | 古賀 千景君 | 榛葉賀津也君 |  |  |
| 賛成者氏名 | 大野 泰正君 | 神谷 宗幣君 | 滝波 宏文君 | 武見 敬三君 | 古賀 之士君  | 斎藤 嘉隆君 | 竹詰 仁君  |  |  |
|       | 鈴木 宗男君 | 寺田 静君  | 柘植 芳文君 | 鶴保 庸介君 | 塩村あやか君  | 柴 愼一君  | 芳賀 道也君 |  |  |
| 賛成者氏名 | ながえ孝子君 | 長浜 博行君 | 堂故 茂君  | 友納 理緒君 | 杉尾 秀哉君  | 田島麻衣子君 | 浜野 喜史君 |  |  |
|       | 平山佐知子君 | 宮口 治子君 | 豊田 俊郎君 | 中曽根弘文君 | 田名部匡代君  | 高木 真理君 | 伊波 洋一君 |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 辻元 清美君  | 徳永 エリ君 | 齊藤健一郎君 |  |  |
|       |        |        |        |        | 中西 祐介君  | 羽田 次郎君 | 大野 泰正君 |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 長峯 誠君   | 福島みずほ君 | 鈴木 宗男君 |  |  |
|       |        |        |        |        | 野上浩太郎君  | 牧山ひろえ君 | ながえ孝子君 |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 羽生田 俊君  | 水岡 俊一君 | 平山佐知子君 |  |  |
|       |        |        |        |        | 長谷川英晴君  | 村田 享子君 |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 橋本 聖子君  | 森屋 隆君  |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 藤井 一博君  | 吉川 沙織君 |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 藤木 眞也君  | 伊藤 孝江君 |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 古川 俊治君  | 上田 勇君  |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 堀井 巖君   | 窪田 哲也君 |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 舞立 昇治君  | 里見 隆治君 |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 松川 るい君  | 下野 六太君 |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 松村 祥史君  | 高橋 次郎君 |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 三浦 靖君   | 竹内 真二君 |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 三宅 伸吾君  | 谷合 正明君 |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 宮沢 洋一君  | 西田 実仁君 |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 森 まさこ君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 新妻 秀規君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 竹谷とし子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 高橋 光男君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 杉 久武君   |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 塩田 博昭君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 塩々木さやか君 |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 河野 義博君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石川 博崇君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 秋野 公造君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 横沢 高德君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 森本 眞治君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 水野 素子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 三上 えり君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 福山 哲郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 広田 一君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 野田 国義君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 羽田 次郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 徳永 エリ君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 高木 真理君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 田島麻衣子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 柴 愼一君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 斎藤 嘉隆君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 古賀 千景君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 熊谷 裕人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 岸 真紀子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 小西 洋之君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 古賀 之士君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 塩村あやか君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 鶴保 庸介君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 友納 理緒君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 堂故 茂君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 豊田 俊郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 中田 宏君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 永井 学君   |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 西田 昌司君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 野村 哲郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 長谷川 岳君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 馬場 成志君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 比嘉奈津美君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 藤川 政人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 船橋 利実君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 星 北斗君   |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 本田 顕子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 牧野たかお君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 松下 新平君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 松山 政司君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 三原しゅん子君 |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 宮崎 雅夫君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 宮本 周司君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 森 まさこ君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青山 繁晴君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 阿達 雅志君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 青木 一彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 青木 誠章君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 浅尾慶一郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 有村 治子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 生稲 晃子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 浩郎君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石田 昌宏君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 猪口 邦子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 岩本 剛人君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 白井 正一君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 衛藤 晟一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 江島 潔君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 上野 通子君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 今井絵理子君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 磯崎 仁彦君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 石井 正弘君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 石井 準一君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 井上 義行君  |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        | 朝日健太郎君  |        |        |  |  |
| 賛成者氏名 |        |        |        |        | 赤松 健君   |        |        |  |  |
|       |        |        |        |        |         |        |        |  |  |

日程第五 民事裁判情報の活用に関する法律案（内閣提出、衆議院送付）

贊成者氏名

二三六名

|    |     |    |     |        |    |        |    |     |    |     |    |     |    |     |    |      |    |     |    |     |     |     |    |     |    |     |    |     |        |     |     |     |     |     |        |    |     |    |     |    |     |    |     |        |        |    |     |        |     |     |    |     |     |    |     |     |     |     |     |    |     |     |    |        |
|----|-----|----|-----|--------|----|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|------|----|-----|----|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|--------|--------|----|-----|--------|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|----|--------|
| 阿達 | 雅志君 | 青山 | 繁晴君 | 赤松     | 健君 | 朝日健太郎君 | 井上 | 義行君 | 石井 | 準一君 | 石井 | 正弘君 | 磯崎 | 仁彦君 | 今井 | 絵理子君 | 上野 | 通子君 | 江島 | 潔君  | 小川  | 克巳君 | 尾辻 | 秀久君 | 大家 | 敏志君 | 加田 | 裕之君 | 梶原     | 大介君 | 神谷  | 政幸君 | こやり | 隆史君 | 古賀友一郎君 | 上月 | 良祐君 | 佐藤 | 信秋君 | 酒井 | 庸行君 | 山東 | 昭子君 | 自見はなこ君 | 進藤金日子君 | 田中 | 昌史君 | 高橋はるみ君 | 滝波  | 宏文君 | 柘植 | 芳文君 | 堂故  | 茂君 | 豊田  | 俊郎君 | 中田  | 宏君  | 永井  | 学君 | 西田  | 昌司君 |    |        |
| 青木 | 一彦君 | 赤池 | 誠章君 | 浅尾慶一郎君 | 有村 | 治子君    | 生稲 | 晃子君 | 石井 | 浩郎君 | 石田 | 昌宏君 | 猪口 | 邦子君 | 岩本 | 剛人君  | 白井 | 正一君 | 衛藤 | 晟一君 | 小野田 | 紀美君 | 越智 | 俊之君 | 岡田 | 直樹君 | 加藤 | 明良君 | 片山さつき君 | 北村  | 経夫君 | 小林  | 一大君 | 古庄  | 玄知君    | 佐藤 | 啓君  | 佐藤 | 正久君 | 櫻井 | 充君  | 清水 | 真人君 | 白坂     | 亜紀君    | 末松 | 信介君 | 高橋     | 克法君 | 滝沢  | 求君 | 武見  | 敬三君 | 鶴保 | 庸介君 | 友納  | 理緒君 | 中曽根 | 弘文君 | 中西 | 祐介君 | 長峯  | 誠君 | 野上浩太郎君 |

|        |        |        |        |        |        |       |        |        |        |        |         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 野村 哲郎君 | 長谷川 岳君 | 馬場 成志君 | 比嘉奈津美君 | 藤川 政人君 | 船橋 利実君 | 星 北斗君 | 本田 顕子君 | 牧野たかお君 | 松下 新平君 | 松山 政司君 | 三原じゅん子君 | 宮崎 雅夫君 | 宮本 周司君 | 森屋 宏君  | 山下 雄平君 | 山田 俊男君 | 山谷えり子君 | 山本佐知子君 | 吉井 章君  | 和田 政宗君 | 渡辺 猛之君 | 石垣のりこ君 | 石橋 通宏君 | 小沢 雅仁君 | 大椿ゆうこ君 | 鬼木 誠君  | 川田 龍平君 | 岸 真紀子君 | 小西 洋之君 | 古賀 之士君 | 塩村あやか君 | 杉尾 秀哉君 | 田名部匡代君 | 辻元 清美君 | 野田 国義君 | 阿田 一君  |
| 羽生田 俊君 | 長谷川英晴君 | 橋本 聖子君 | 藤井 一博君 | 藤木 眞也君 | 古川 俊治君 | 堀井 巖君 | 舞立 昇治君 | 松川 るい君 | 松村 祥史君 | 三浦 靖君  | 三宅 伸吾君  | 宮沢 洋一君 | 森 まさこ君 | 山崎 正昭君 | 山田 太郎君 | 山田 宏君  | 山本 啓介君 | 山本 順三君 | 吉川ゆうみ君 | 若林 洋平君 | 青木 愛君  | 石川 大我君 | 打越さく良君 | 小沼 巧君  | 奥村 政佳君 | 勝部 賢志君 | 木戸口英司君 | 熊谷 裕人君 | 古賀 千景君 | 斎藤 嘉隆君 | 柴 愼一君  | 田島麻衣子君 | 高木 真理君 | 徳永 エリ君 | 羽田 次郎君 | 福島みずほ君 |

|         |     |        |
|---------|-----|--------|
| 福山      | 哲郎君 | 牧山ひろえ  |
| 三上      | えり君 | 水岡 俊一君 |
| 水野      | 素子君 | 村田 享子君 |
| 森本      | 真治君 | 森屋 隆君  |
| 横沢      | 高德君 | 吉川 沙織君 |
| 秋野      | 公造君 | 伊藤 孝江君 |
| 石川      | 博崇君 | 上田 勇君  |
| 河野      | 義博君 | 窪田 哲也君 |
| 佐々木さやか君 |     | 里見 隆治君 |
| 塩田 博昭君  |     | 下野 六太君 |
| 杉 久武君   |     | 高橋 次郎君 |
| 高橋 光男君  |     | 竹内 真二君 |
| 竹谷とし子君  |     | 谷合 正明君 |
| 新妻 秀規君  |     | 西田 実仁君 |
| 平木 大作君  |     | 三浦 信祐君 |
| 宮崎 勝君   |     | 矢倉 克夫君 |
| 安江 伸夫君  |     | 山口那津男君 |
| 山本 博司君  |     | 横山 信一君 |
| 若松 謙維君  |     | 青島 健太君 |
| 浅田 均君   |     | 石井 章君  |
| 石井 苗子君  |     | 猪瀬 直樹君 |
| 嘉田由紀子君  |     | 片山 大介君 |
| 金子 道仁君  |     | 串田 誠一君 |
| 柴田 巧君   |     | 高木かおり君 |
| 中条きよし君  |     | 藤巻 健史君 |
| 松沢 成文君  |     | 松野 明美君 |
| 柳ヶ瀬裕文君  |     | 山口 和之君 |
| 伊藤 孝恵君  |     | 磯崎 哲史君 |
| 上田 清司君  |     | 川合 孝典君 |
| 榛葉賀津也君  |     | 田村 まみ君 |
| 竹詰 仁君   |     | 堂込麻紀子君 |
| 芳賀 道也君  |     | 浜口 誠君  |
| 浜野 喜史君  |     | 舟山 康江君 |
| 井上 哲士君  |     | 伊藤 岳君  |
| 岩渕 友君   |     | 紙 智子君  |
| 吉良よし子君  |     | 倉林 明子君 |
| 小池 晃君   |     | 大門実紀史君 |

反対者氏名

神谷 宗幣君

一名

日程第六 老朽化マンション等の管理及び再生の円滑化等を図るための建物の区分所有等に関する法律等の一部を改正する法律案(内閣提出、衆議院送付)

贊成者氏名

二二九名

|        |     |        |     |
|--------|-----|--------|-----|
| 阿達     | 雅志君 | 青木     | 一彦君 |
| 青山     | 繁晴君 | 赤池     | 誠章君 |
| 赤松     | 健君  | 浅尾慶一郎君 |     |
| 朝日健太郎君 |     | 有村     | 治子君 |
| 井上     | 義行君 | 生稻     | 晃子君 |
| 石井     | 準一君 | 石井     | 浩郎君 |
| 石井     | 正弘君 | 石田     | 昌宏君 |
| 磯崎     | 仁彦君 | 猪口     | 邦子君 |
| 今井絵理子君 |     | 岩本     | 剛人君 |
| 上野     | 通子君 | 白井     | 正一君 |
| 江島     | 潔君  | 衛藤     | 晟一君 |
| 小川     | 克巳君 | 小野田紀美君 |     |
| 尾辻     | 秀久君 | 越智     | 俊之君 |
| 大家     | 敏志君 | 岡田     | 直樹君 |
| 加田     | 裕之君 | 加藤     | 明良君 |
| 梶原     | 大介君 | 片山さつき君 |     |
| 神谷     | 政幸君 | 北村     | 経夫君 |
| こやり隆史君 |     | 小林     | 一大君 |

|         |        |         |        |        |        |
|---------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 古賀友一郎君  | 古庄 玄知君 | 渡辺 猛之君  | 青木 愛君  | 嘉田由紀子君 | 片山 大介君 |
| 上月 良祐君  | 佐藤 啓君  | 石垣のりこ君  | 石川 大我君 | 金子 道仁君 | 串田 誠一君 |
| 佐藤 信秋君  | 佐藤 正久君 | 石橋 通宏君  | 打越さく良君 | 柴田 巧君  | 高木かおり君 |
| 酒井 庸行君  | 櫻井 充君  | 小沢 雅仁君  | 小沼 巧君  | 中条きよし君 | 藤巻 健史君 |
| 山東 昭子君  | 清水 真人君 | 大椿ゆうこ君  | 奥村 政佳君 | 松沢 成文君 | 松野 明美君 |
| 自見はなこ君  | 白坂 亜紀君 | 鬼木 誠君   | 勝部 賢志君 | 柳ヶ瀬裕文君 | 山口 和之君 |
| 進藤金日子君  | 末松 信介君 | 川田 龍平君  | 木戸口英司君 | 伊藤 孝恵君 | 磯崎 哲史君 |
| 田中 昌史君  | 高橋 克法君 | 岸 真紀子君  | 熊谷 裕人君 | 上田 清司君 | 川合 孝典君 |
| 高橋はるみ君  | 滝沢 求君  | 小西 洋之君  | 古賀 千景君 | 榛葉賀津也君 | 田村 まみ君 |
| 滝波 宏文君  | 武見 敬三君 | 古賀 之士君  | 斎藤 嘉隆君 | 竹詰 仁君  | 堂込麻紀子君 |
| 柘植 芳文君  | 鶴保 庸介君 | 塩村あやか君  | 柴 慎一君  | 芳賀 道也君 | 浜口 誠君  |
| 堂故 茂君   | 友納 理緒君 | 杉尾 秀哉君  | 田島麻衣子君 | 浜野 喜史君 | 舟山 康江君 |
| 豊田 俊郎君  | 中曽根弘文君 | 田名部匡代君  | 高木 真理君 | 齊藤健一郎君 | 浜田 聡君  |
| 中田 宏君   | 中西 祐介君 | 辻元 清美君  | 徳永 エリ君 | 梅村みずほ君 | 大野 泰正君 |
| 永井 学君   | 長峯 誠君  | 野田 国義君  | 羽田 次郎君 | 神谷 宗幣君 | 鈴木 宗男君 |
| 西田 昌司君  | 野上浩太郎君 | 広田 一君   | 福島みずほ君 | 寺田 静君  | ながえ孝子君 |
| 野村 哲郎君  | 羽生田 俊君 | 福山 哲郎君  | 牧山ひろえ君 | 長浜 博行君 | 平山佐知子君 |
| 長谷川 岳君  | 長谷川英晴君 | 三上 えり君  | 水岡 俊一君 | 宮口 治子君 |        |
| 馬場 成志君  | 橋本 聖子君 | 水野 素子君  | 村田 享子君 |        |        |
| 比嘉奈津美君  | 藤井 一博君 | 森本 真治君  | 森屋 隆君  |        |        |
| 藤川 政人君  | 藤木 眞也君 | 横沢 高德君  | 吉川 沙織君 | 井上 哲士君 | 伊藤 岳君  |
| 船橋 利実君  | 古川 俊治君 | 秋野 公造君  | 伊藤 孝江君 | 岩渕 友君  | 紙 智子君  |
| 星 北斗君   | 堀井 巖君  | 石川 博崇君  | 上田 勇君  | 吉良よし子君 | 倉林 明子君 |
| 本田 顕子君  | 舞立 昇治君 | 河野 義博君  | 窪田 哲也君 | 小池 晃君  | 大門実紀史君 |
| 牧野たかお君  | 松川 るい君 | 佐々木さやか君 | 里見 隆治君 | 仁比 聡平君 | 山下 芳生君 |
| 松下 新平君  | 松村 祥史君 | 塩田 博昭君  | 下野 六太君 | 山添 拓君  | 大島九州男君 |
| 松山 政司君  | 三浦 靖君  | 杉 久武君   | 高橋 次郎君 | 木村 英子君 | 天畠 大輔君 |
| 三原じゅん子君 | 三宅 伸吾君 | 高橋 光男君  | 竹内 真二君 | 船後 靖彦君 | 山本 太郎君 |
| 宮崎 雅夫君  | 宮沢 洋一君 | 竹谷とし子君  | 谷合 正明君 | 伊波 洋一君 | 高良 鉄美君 |
| 宮本 周司君  | 森 まさこ君 | 新妻 秀規君  | 西田 実仁君 |        |        |
| 森屋 宏君   | 山崎 正昭君 | 平木 大作君  | 三浦 信祐君 |        |        |
| 山下 雄平君  | 山田 太郎君 | 宮崎 勝君   | 矢倉 克夫君 |        |        |
| 山田 俊男君  | 山田 宏君  | 安江 伸夫君  | 山口那津男君 |        |        |
| 山谷えり子君  | 山本 啓介君 | 山本 博司君  | 横山 信一君 |        |        |
| 山本佐知子君  | 山本 順三君 | 若松 謙維君  | 青島 健太君 |        |        |
| 吉井 章君   | 吉川ゆうみ君 | 浅田 均君   | 石井 章君  |        |        |
| 和田 政宗君  | 若林 洋平君 | 石井 苗子君  | 猪瀬 直樹君 |        |        |